令和２年度

生活インフラサービスへのアクセス状況実態調査

委託事業

報告書

令和３年３月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

目　次

1. はじめに 1
2. 調査地の選定 2

2.1. 概要 2
2.2. 全国旧市区町村別の生活インフラサービス数の集計 2

2.2.1. 候補地選定の考え方 2
2.2.2. 調査対象地の決定 3

3. アンケートの実施 6

3.1. 調査先と日程 6
3.2. アンケート票の作成 7
3.3. アンケートの進め方 8
3.4. アンケート回収結果 9

4. アンケート集計結果 10

4.1. 集計に際しての留意点 10
4.2. 食品・日用品小売サービス 10

4.2.1. 回答者の年代 10
4.2.2. 回答者の性別 13
4.2.3. 来場の方法 15
4.2.4. 所要時間 18
4.2.5. JA への加入状況 21
4.2.6. 利用頻度 24
4.2.7. JA 施設の利用意向 27
4.2.8. 今後も利用したい理由 33
4.2.9. JA 施設以外の利用 37
4.2.10. 農協施設と農協以外の施設の利用状況 44
4.2.11. 他のスーパーマーケットを利用する理由 45
4.2.12. 農協以外の施設の利用可能性 46

4.3. 金融サービス 48

4.3.1. 回答者の年代 48

4.3.2. 回答者の性別 50
4.3.3. 来場の方法 52
4.3.4. 所要時間 55
4.3.5. JA への加入状況 57
4.3.6. 利用頻度 60
4.3.7. JA 施設の利用意向 63
4.3.8. 今後も利用したい理由 66
4.3.9. JA 施設以外の利用 70
4.3.10. 農協施設と農協以外の施設の利用状況 78
4.3.11. 他の金融機関を利用する理由 79
4.3.12. 農協以外の施設の利用可能性 80

4.4. ガソリン小売サービス 82

4.4.1. 回答者の年代 82
4.4.2. 回答者の性別 84
4.4.3. 来場の方法 86
4.4.4. 所要時間 88
4.4.5. JA への加入状況 90
4.4.6. 利用頻度 92
4.4.7. JA 施設の利用意向 95
4.4.8. 今後も利用したい理由 98
4.4.9. JA 施設以外の利用 102
4.4.10. 農協施設と農協以外の施設の利用状況 109
4.4.11. 他のガソリンスタンドを利用する理由 110
4.4.12. 農協以外の施設の利用可能性 111

5. 令和元年、令和２年度の集計結果 113

5.1. 回収状況 113
5.2. 食品・日用品小売サービス 115

5.2.1. 回答者の年代 115
5.2.2. 回答者の性別 117
5.2.3. 来場の方法 119
5.2.4. 所要時間 121
5.2.5. JA への加入状況 123
5.2.6. 利用頻度 126

5.2.7. JA 施設の利用意向 129
5.2.8. 今後も利用したい理由 136
5.2.9. JA 施設以外の利用可能性 140

5.3. 金融サービス 148

5.3.1. 回答者の年代 148
5.3.2. 回答者の性別 150
5.3.3. 来場の方法 152
5.3.4. 所要時間 154
5.3.5. JA への加入状況 156
5.3.6. 利用頻度 159
5.3.7. JA 施設の利用意向 162
5.3.8. 今後も利用したい理由 166
5.3.9. JA 施設以外の利用可能性 169

5.4. ガソリン小売サービス 177

5.4.1. 回答者の年代 177
5.4.2. 回答者の性別 179
5.4.3. 来場の方法 180
5.4.4. 所要時間 182
5.4.5. JA への加入状況 184
5.4.6. 利用頻度 186
5.4.7. JA 施設の利用意向 190
5.4.8. 今後も利用したい理由 194
5.4.9. JA 施設以外の利用可能性 197

6. まとめ 205

1. はじめに

農業協同組合法等の一部を改正する等の法律（平成 27 年 9 月 4 日公布）において、政府は、准組合員の組合の事業の利用に関する規制の在り方について、施行日から 5 年を経過する日までの間、正組合員及び准組合員の組合の事業の利用の状況等についての調査を行い、検討を加えて、結論を得ることとされている。

本事業は、この調査の 5 年目として、生活インフラサービスへのアクセス状況の実態について、現地調査（事例調査）により明らかにすることを目的とする。調査の対象としては、農業協同組合が行う、食料品・日用品小売サービス、金融サービス、ガソリン小売サービスである。本年度事業では、これら 3 サービスを同地域に有する 12 カ所についてアンケート調査を実施し、各インフラサービスへのアクセスの状況等について明らかにした。

2. 調査地の選定

2.1. 概要

本章では、生活インフラサービスの店舗における現地アンケート調査の調査地の選定方法について記載する。

2.2. 全国旧市区町村別の生活インフラサービス数の集計

2.2.1. 候補地選定の考え方

調査対象地域は、地域的に偏りがないよう考慮し、東日本、西日本でそれぞれ、都市的地域、平地農業地域は 1 地域ずつ、中間農業地域、山間農業地域は 2 地域ずつ選定を行った。
昨年度事業では、「食料品・日用品小売サービス」、「金融サービス」、「ガソリン小売サービス」の各施設が同一の旧市区町村内に存在している地域を選定して、調査を実施した。本年度も基本的には同じ方針を採るが、一方で、中山間地域等においてこれらの施設が 1 カ所に集約されているのは当該地域における中心的な地区（中心地区と呼ぶ）であることが想像できる。そこで、本年度事業では「同一市町村内に 3 種類の拠点は存在するものの、小学校区内には 3 種類揃っていない地区」（非中心地区と呼ぶ）を含む市町村についても、中間農業地域、山間農業地域でそれぞれ 2 市町村ずつ（東日本と西日本で各 1 市町村）選定した。
具体的には、全国市区町村の「金融サービス」「食料品・日用品小売サービス」「ガソリン小売サービス」の住所情報を用いて、GIS 上にマッピングを行い、旧市区町村の境界情報と重ね合わせることで、（旧）市区町村内に所在する生活インフラサービスが上記の条件を満たす（旧）市区町村を抽出した。

図表 2.1 地域・農業地域類型別の調査実施数

	東日本	西日本
都市的地域	1	1
平地農業地域	1	1
中間農業地域	2 ※うち 1 地区は非中心地区	2 ※うち 1 地区は非中心地区
山間農業地域	2 ※うち 1 地区は非中心地区	2 ※うち 1 地区は非中心地区

2.2.2. 調査対象地の決定

前述の方法によって候補地を選定した後、調査対象地を決定した。選定にあたっては、ルールを設定したうえで候補を絞り込んだ。設定したルールは以下の通り。

- 比較的店舗数の多い地域を対象
- 昨年度調査を実施していない都道府県から選定
- 本年度調査対象についても都道府県が重複しないように選定
- 東日本、西日本別に地域ブロック（農政局別）でバランスをとって選定

上記に基づき、以下の地域を調査対象地として抽出した。

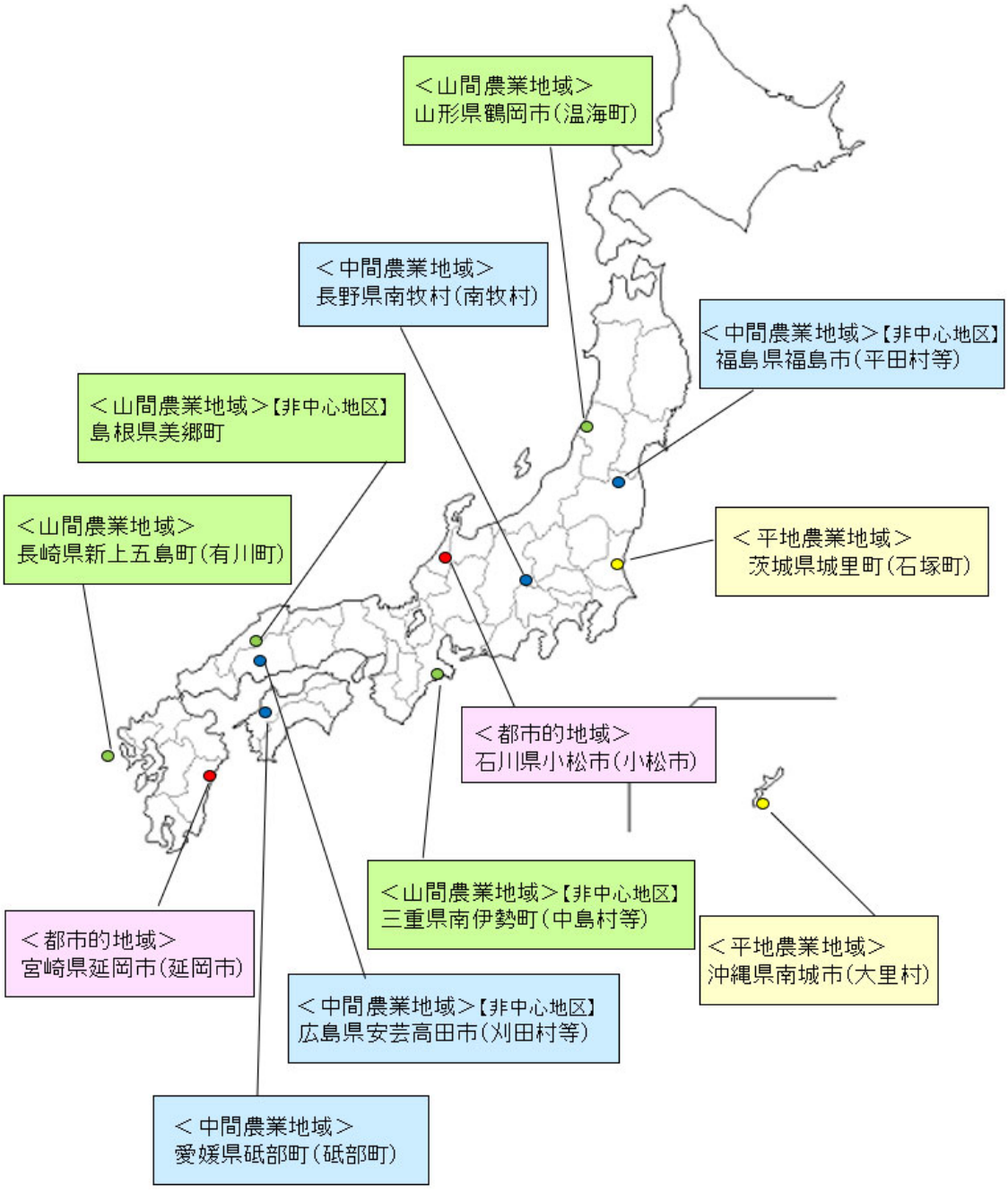
図表 2.2 調査対象地域（中心地区）の店舗数およびアクセス困難者率

					店舗数				アクセス困難者率		
類型	**地域**	**都道府県**	**市区町村**	**旧市区町村**	**ガソリン**	**金融**	**食料日用品**	**合計**	金融	食料日用品	SS
都市的	東日本	石川県	小松市	小松市	4	8	2	14	1.3	0.7	0.2
	西日本	宮崎県	延岡市	延岡市	2	6	3	11	5.4	5.8	0.5
平地	東日本	茨城県	城里町	石塚町	1	1	1	3	9.5	11.1	0.0
	西日本	沖縄県	南城市	大里村	2	1	1	4	4.4	3.4	0.0
中間	東日本	長野県	南牧村	南牧村	2	1	1	4	16.6	17.3	0.0
	西日本	愛媛県	砥部町	砥部町	1	1	2	4	6.8	6.3	0.0
山間	東日本	山形県	鶴岡市	温海町	1	1	1	3	8.5	4.6	0.1
	西日本	長崎県	新上五島町	有川町	1	1	1	3	20.9	15.6	3.3

図表 2.3 調査対象地域（非中心地区）の店舗数およびアクセス困難者率

					店舗数				アクセス困難者率		
類型	**地域**	**都道府県**	**市区町村**	**旧市区町村**	**ガソリン**	**金融**	**食料日用品**	**合計**	金融	食料日用品	SS
中間	東日本	福島県	福島市	平田村			1	1	2.6	2.0	0.0
				佐倉村		1		1	2.6	2.0	0.0
				水保村	1			1	2.6	2.0	0.0
				金谷川村	1			1	2.6	2.0	0.0
				湯野町	1	1	1	3	2.6	2.0	0.0
	西日本	広島県	安芸高田市	刈田村		1		1	14.3	14.0	0.0
				可愛村		3		3	14.3	14.0	0.0
				小田村		1	2	3	14.3	14.0	0.0
				来原村		1		1	14.3	14.0	0.0
				横田村	1			1	14.3	14.0	0.0
				船佐村２－１			1	1	14.3	14.0	0.0
山間	東日本	三重県	南伊勢町	中島村	1			1	18.9	14.9	0.0
				吉津村		1	1	2	18.9	14.9	0.0
	西日本	島根県	美郷町	布施村２－１	1			1	44.2	20.3	0.0
				粕渕町		1	1	2	44.2	20.3	0.0
				都賀村		1		1	44.2	20.3	0.0

図表 2.4 調査対象地域


＜山間農業地域＞
山形県鶴岡市(温海町)
＜中間農業地域＞
長野県南牧村(南牧村)
＜中間農業地域＞【非中心地区】
福島県福島市(平田村等)
＜山間農業地域＞【非中心地区】
島根県美郷町
＜山間農業地域＞
長崎県新上五島町(有川町)
＜平地農業地域＞
茨城県城里町(石塚町)
＜都市的地域＞
石川県小松市(小松市)
＜山間農業地域＞【非中心地区】
三重県南伊勢町(中島村等)
＜平地農業地域＞
沖縄県南城市(大里村)
＜都市的地域＞
宮崎県延岡市(延岡市)
＜中間農業地域＞【非中心地区】
広島県安芸高田市(刈田村等)
＜中間農業地域＞
愛媛県砥部町(砥部町)

3. アンケートの実施

3.1. 調査先と日程

各調査地域における調査対象店舗と、アンケート調査実施期間は以下に示す通りである。

図表 3.1 調査実施日・実施店舗

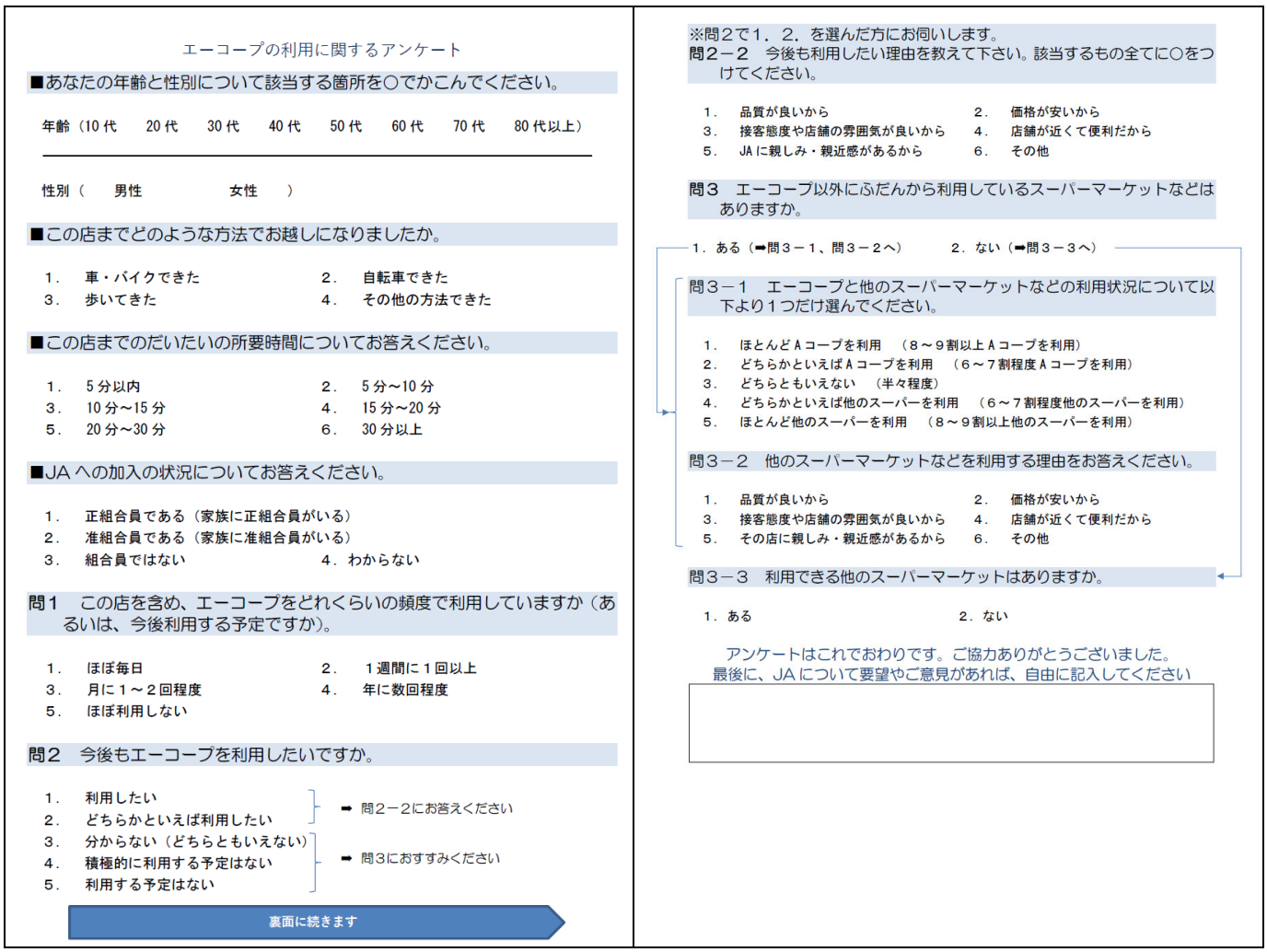
都道府県	市町村	旧村	調査実施方法	実施期間	店舗
山形県	鶴岡市	温海町	訪問調査	10 月 30 日	渥美支所
			訪問調査	10 月 28 日	新鮮館 A コープあつみ
			訪問調査	10 月 29 日	JASS 福栄スタンド
福島県	福島市	佐倉村	訪問調査	9 月 23 日	JA ふくしま未来　福島西支店
		湯野町	訪問調査	9 月 24 日	ファミリーマート A コープ湯野店
		金谷川村	訪問調査	9 月 25 日	松川給油所
茨城県	東茨城郡城里町	石塚町	店舗回収	10 月 14-19 日	JA 水戸　しろさと支店
			訪問調査	10 月 29 日	常北 SS/JA 茨城エネルギー㈱
			郵送回収＋訪問調査	10 月中旬～3 月 11 日（訪問）	A コープ常北/(有)ジェイエイ水戸グループサービス
長野県	南牧村	南牧村	訪問調査	11 月 11 日	南牧支所
			訪問調査	11 月 9 日	ななちゃんのお店
			訪問調査	11 月 10 日	八ヶ岳給油所
石川県	小松市	小松市	店舗回収	10 月 16-20 日	JA 小松市　粟津支店
			店舗回収	10 月 19-23 日	JA 小松市　みゆき給油所
			店舗回収	10 月 27 日	Aコープ　粟津店/㈱ジャコム石川
三重県	南伊勢町	吉津村	郵送回収	10 月～12 月	JA 伊勢　南島支店
		中島村	郵送回収		南島 SS
		吉津村	郵送回収		A コープ南島
島根県	美郷町	布施村 2-1	訪問調査	10 月 16 日	A コープおおち
		粕渕町	訪問調査	10 月 15 日	大和支店
		都賀村	訪問調査	10 月 19-21 日	Ｊ Aしまね　島根おおち地区本部
広島県	安芸高田市	来原村	訪問調査	10 月 20 日	JA 広島北部　高宮支店
		横田村	訪問調査	10 月 19 日	高田インターＳＳ
		船佐村 2-1	訪問調査	10 月 21 日	Aコープたかみや
愛媛県	伊予市	中山町	店舗回収	10 月 21-30 日	JA えひめ中央　中山支所
			店舗回収	11 月 11-29 日	JA えひめ中央　中山給油所
			店舗回収	10 月 23-28 日	A コープ なかやま店/A コープ西日本
長崎県	新上五島町	有川町	郵送回収	10 月～12 月	JA ごとう　有川支店
			郵送回収		有川 SS
			郵送回収		A コープ有川店
宮崎県	延岡市	延岡市	店舗回収	11 月 13 日	JA のべおか 東海(とうみ)支店
			店舗回収	10 月 16-19 日	JA のべおか 松山給油所
			店舗回収	11 月 19-25 日	A コープ一ヶ岡店
沖縄県	南城市	大里村	訪問調査	1 月 20 日	アトール
			訪問調査	1 月 22 日	JA おきなわ南城支店
			訪問調査	1 月 21 日	大里セルフ

3.2. アンケート票の作成

アンケートの作成にあたっては、回答者へ過度の負担がかからないシンプルなものとし、以下の通り設定した。これは購買店舗を対象としたものであるが、JA バンク、ガソリン販売サービスについてもほぼ同様のアンケート票とした。

なお、郵送で回収を行った地域についても同様の調査票を用いたが、調査員が調査趣旨を説明できないことから、説明文を追加した調査票を使用した。

図表 3.2 使用した調査票



エーコープの利用に関するアンケート

■あなたの年齢と性別について該当する箇所を○でかこんでください。

年齢（10 代　20 代　30 代　40 代　50 代　60 代　70 代　80 代以上）

性別（　男性　　女性　）

■この店までどのような方法でお越しになりましたか。

1．車・バイクできた　2．自転車できた
3．歩いてきた　4．その他の方法できた

■この店までのだいたいの所要時間についてお答えください。

1．5 分以内　2．5 分～10 分
3．10 分～15 分　4．15 分～20 分
5．20 分～30 分　6．30 分以上

■JA への加入の状況についてお答えください。

1．正組合員である（家族に正組合員がいる）
2．准組合員である（家族に准組合員がいる）
3．組合員ではない　4．わからない

問1　この店を含め、エーコープをどれくらいの頻度で利用していますか（あるいは、今後利用する予定ですか）。

1．ほぼ毎日　2．1 週間に 1 回以上
3．月に 1～2 回程度　4．年に数回程度
5．ほぼ利用しない

問2　今後もエーコープを利用したいですか。

1．利用したい
2．どちらかといえば利用したい　➡ 問2－2にお答えください
3．分からない（どちらともいえない）
4．積極的に利用する予定はない
5．利用する予定はない　➡ 問3におすすみください

裏面に続きます

※問2で1，2，を選んだ方にお伺いします。

問2－2　今後も利用したい理由を教えて下さい。該当するもの全てに○をつけてください。

1．品質が良いから　2．価格が安いから
3．接客態度や店舗の雰囲気が良いから　4．店舗が近くて便利だから
5．JA に親しみ・親近感があるから　6．その他

問3　エーコープ以外にふだんから利用しているスーパーマーケットなどはありますか。

1．ある（➡問3－1、問3－2へ）　2．ない（➡問3－3へ）

問3－1　エーコープと他のスーパーマーケットなどの利用状況について以下より1つだけ選んでください。

1．ほとんど A コープを利用　（8～9割以上 A コープを利用）
2．どちらかといえば A コープを利用　（6～7割程度 A コープを利用）
3．どちらともいえない　（半々程度）
4．どちらかといえば他のスーパーを利用　（6～7割程度他のスーパーを利用）
5．ほとんど他のスーパーを利用　（8～9割以上他のスーパーを利用）

問3－2　他のスーパーマーケットなどを利用する理由をお答えください。

1．品質が良いから　2．価格が安いから
3．接客態度や店舗の雰囲気が良いから　4．店舗が近くて便利だから
5．その店に親しみ・親近感があるから　6．その他

問3－3　利用できる他のスーパーマーケットはありますか。

1．ある　2．ない

アンケートはこれでおわりです。ご協力ありがとうございました。
最後に、JA について要望やご意見があれば、自由に記入してください

3.3. アンケートの進め方

アンケートの実施にあたっては、訪問調査を行った地域では 1 地域 3 日間を調査期間とし、各地域 1～3 名の調査員を派遣して実施した。購買店舗と JA バンクでは、机を設置し、利用者が適宜座って回答できるようにするのと併せて、調査員がボードを持って利用者に声がけをし、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮した上で、聞き取り形式で回答してもらう形も実施した。ガソリンスタンドでは、給油中の利用者に声がけをして、調査員が聞き取り形式で収集した。また、回答者にはお礼としてエコバックを配布した。

郵送回収を行った地域では、各対象店舗に調査票と返信用封筒を設置した上で、回答に協力いただけるお客様に記入・投函してもらうことで回収を行った。

図表 3.3 調査の様子（JA 広島北部Aコープたかみや）

3.4. アンケート回収結果

令和元年度調査では全て農協施設の店頭に置いてアンケート調査を行ったが、本年度調査は新型コロナウイルスの影響があったことから調整が難航し、いくつかの地区では調査員が同行せず、郵送にて調査を行った。従って改修の状況に差が生じている。

類型	都道府県	市町村	購買店舗		JA バンク		ガソリンスタンド	
			回収数	有効回答	回収数	有効回答	回収数	有効回答
山間農業地域	山形県	鶴岡市	52	51	37	35	35	33
中間農業地域	福島県	福島市	50	50	50	48	50	48
平地農業地域	茨城県	東茨城郡城里町	55	54	55	43	60	50
中間農業地域	長野県	南牧村	50	24	34	23	50	50
都市的地域	石川県	小松市	64	39	65	49	62	55
山間農業地域	三重県	南伊勢町	54	49	43	40	26	21
山間農業地域	島根県	美郷町	50	49	36	36	11	11
中間農業地域	広島県	安芸高田市	50	50	50	48	50	46
中間農業地域	愛媛県	伊予市	55	42	56	44	50	46
山間農業地域	長崎県	新上五島町	64	59	54	52	389	313
都市的地域	宮崎県	延岡市	51	37	64	55	50	48
平地農業地域	沖縄県	南城市	52	49	50	50	54	49

4. アンケート集計結果

4.1. 集計に際しての留意点

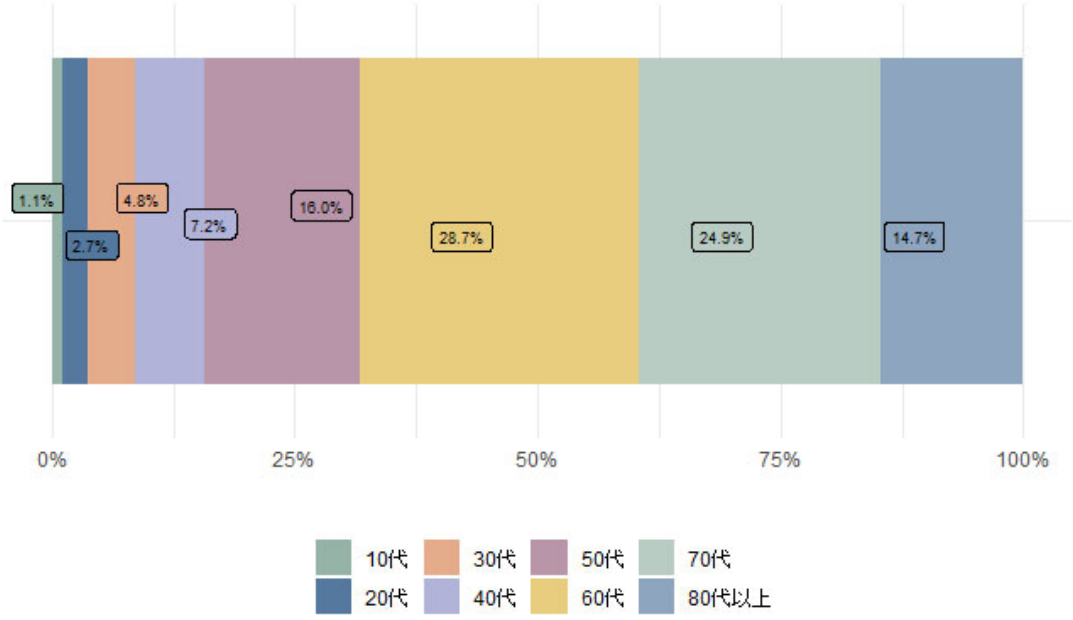
前頁に示したとおり、本調査での回収数は調査地区によって異なっており、一部には極端に多い地区や少ない地区がある。そこで、集計にあたっては、各地区のサンプルが等しくなる様に調整を行った。

4.2. 食品･日用品小売サービス

4.2.1. 回答者の年代

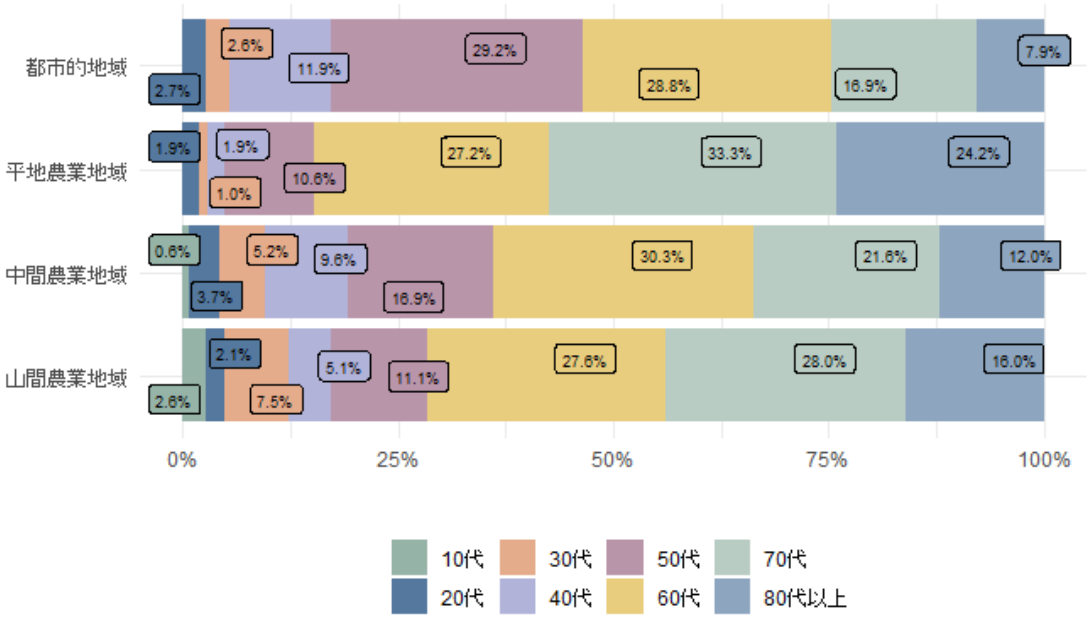
（1）全体

回答者の年代は、約７割が６０歳以上である。



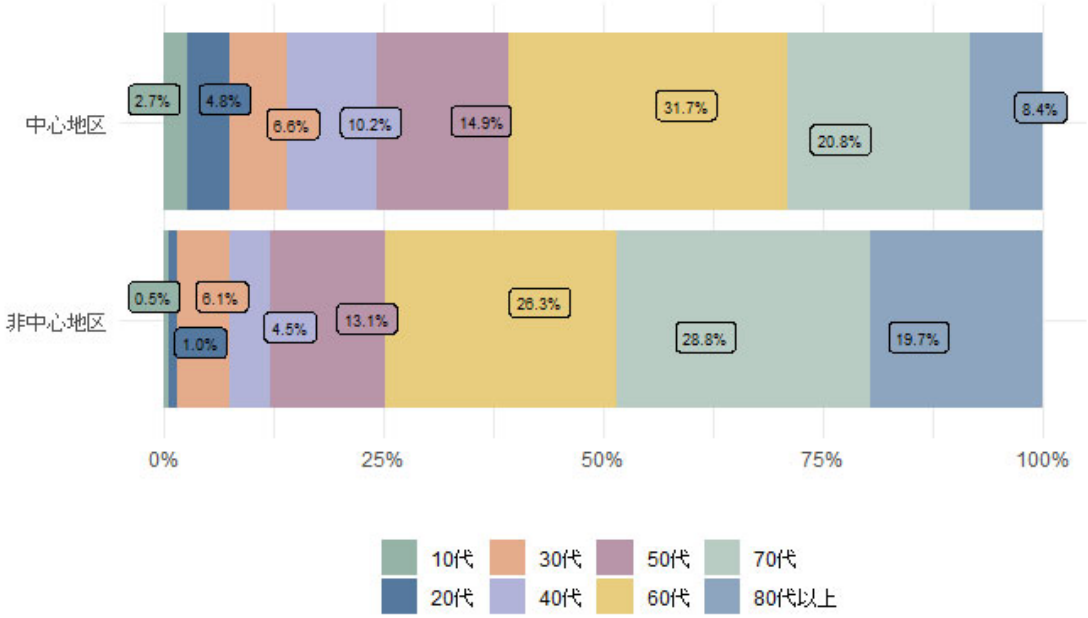
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に比較すると、もっとも高齢者の割合が少ないのが都市的地域であり、もっとも高いのが平地農業地域となっている。



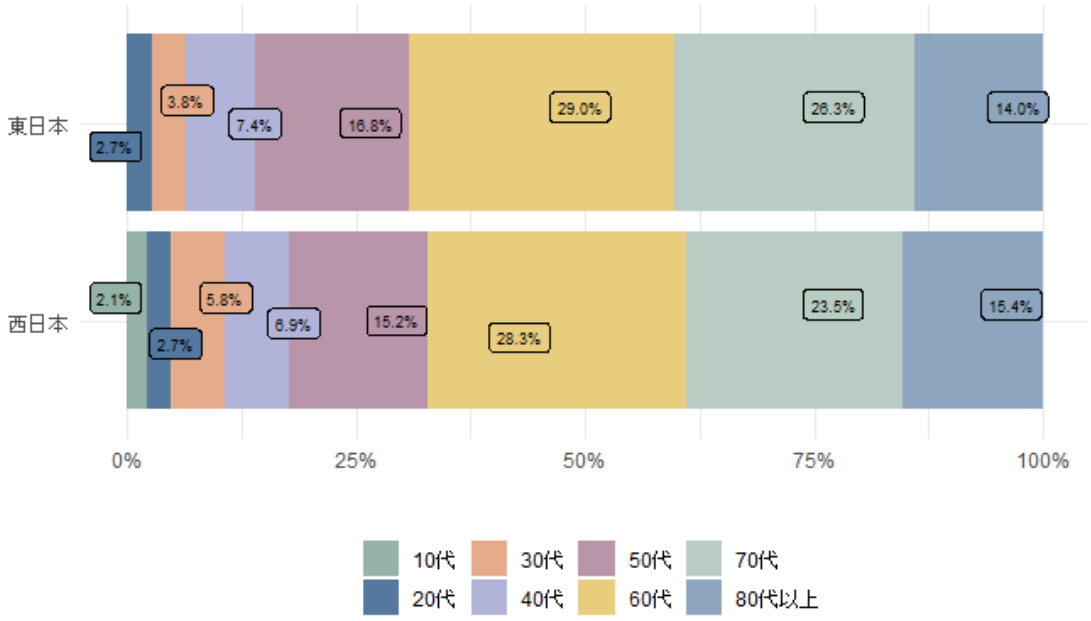
（3）中心地区･非中心地区別

令和２年度調査では、中間農業地域及び山間農業地域において、中心地区と非中心地区の両方で調査を行った。ここで、中心地区とは、同一旧市町村内に食料品日用品サービス、金融サービス、ガソリンスタンドの全てがそろっている地区であり、非中心地区はそれぞれの施設しかない地区である。　中山間地域のみを抜き出し、年齢構成を見ると、非中心地区はより、高齢者の割合が高いことがわかる。



（4）地域別

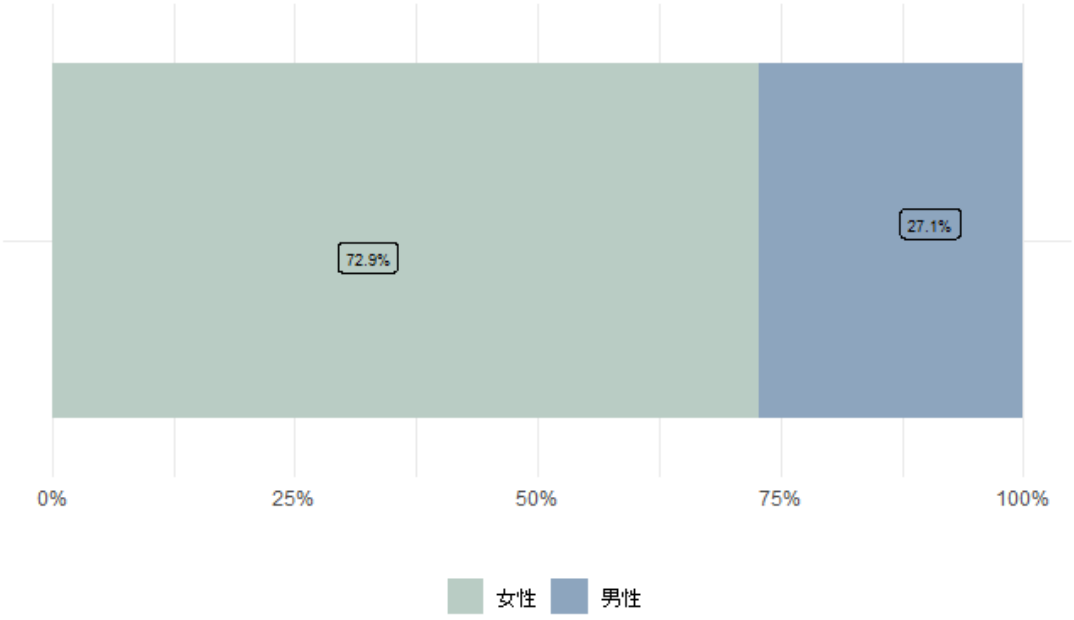
地域別に比較すると、大きな違いは見られない。



4.2.2. 回答者の性別

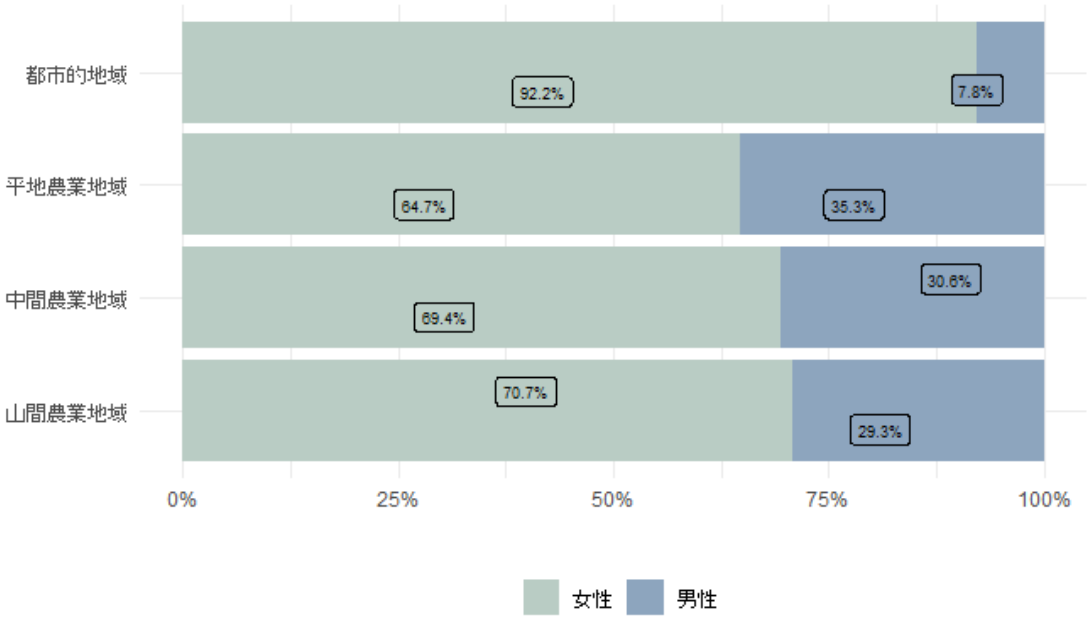
（1）全体

回答者の約７割が女性である。



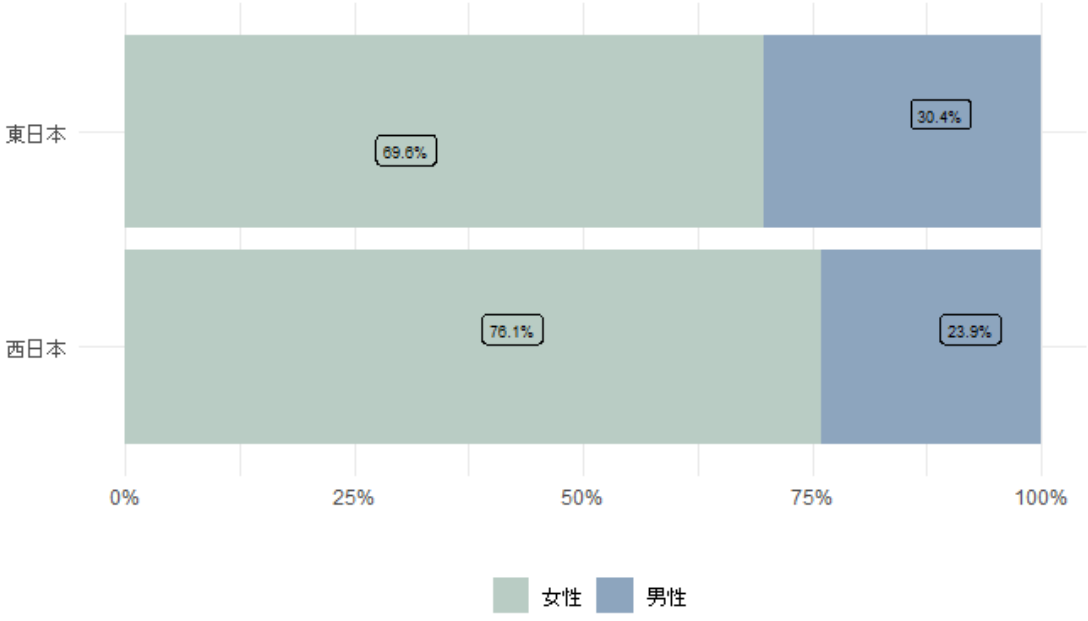
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に性別を見ると、都市的地域で９割以上が女性である。



（3）地域別

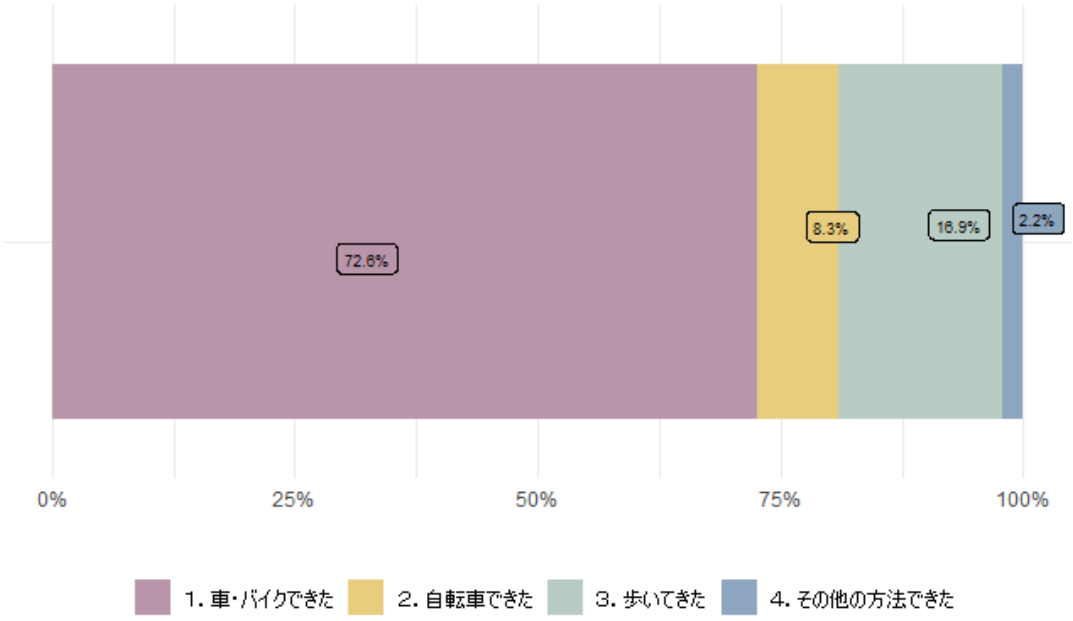
地域別に見ると、西日本の方が若干女性比率が高い。



4.2.3. 来場の方法

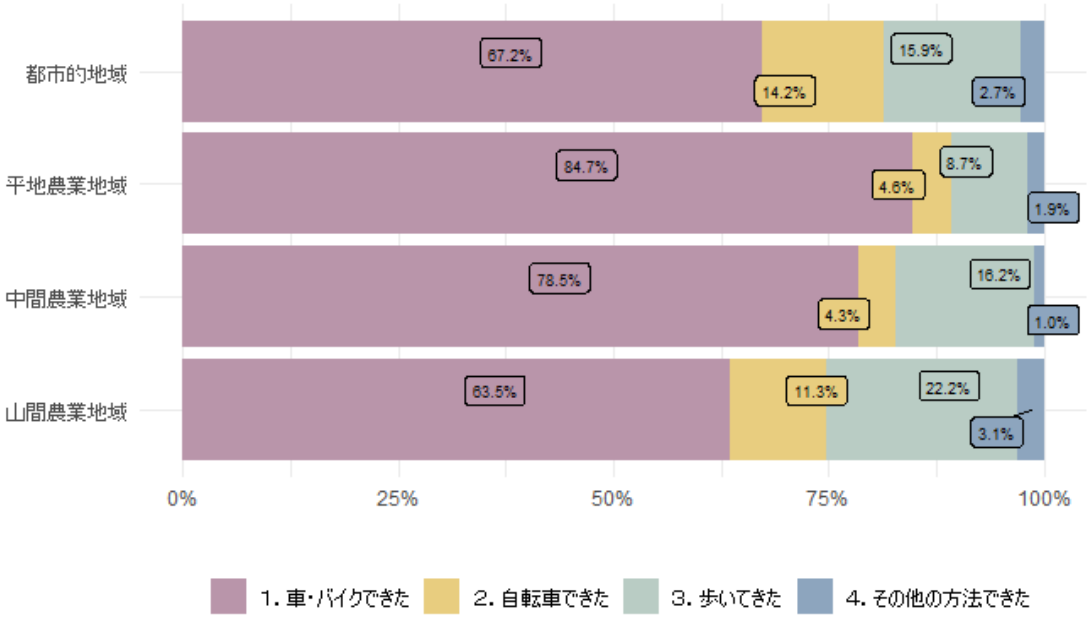
（1）全体

約７割が「車・バイクできた」と回答している。その他の方法の多くは、バス等の公共交通機関である。



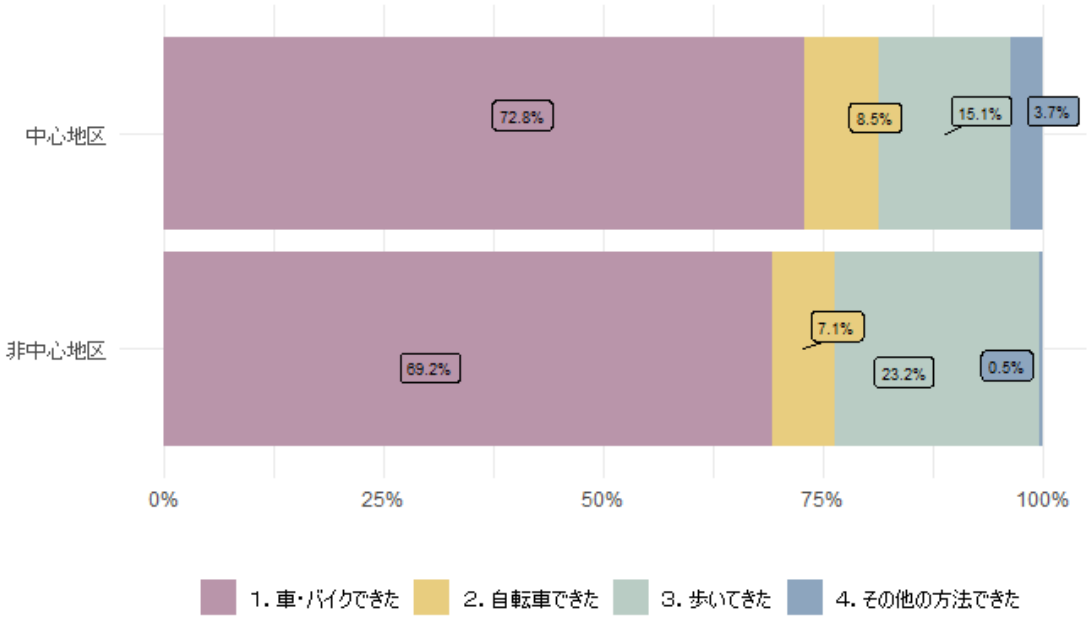
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に見ると、都市的地域、山間農業地域では「車・バイクできた」比率が低い。



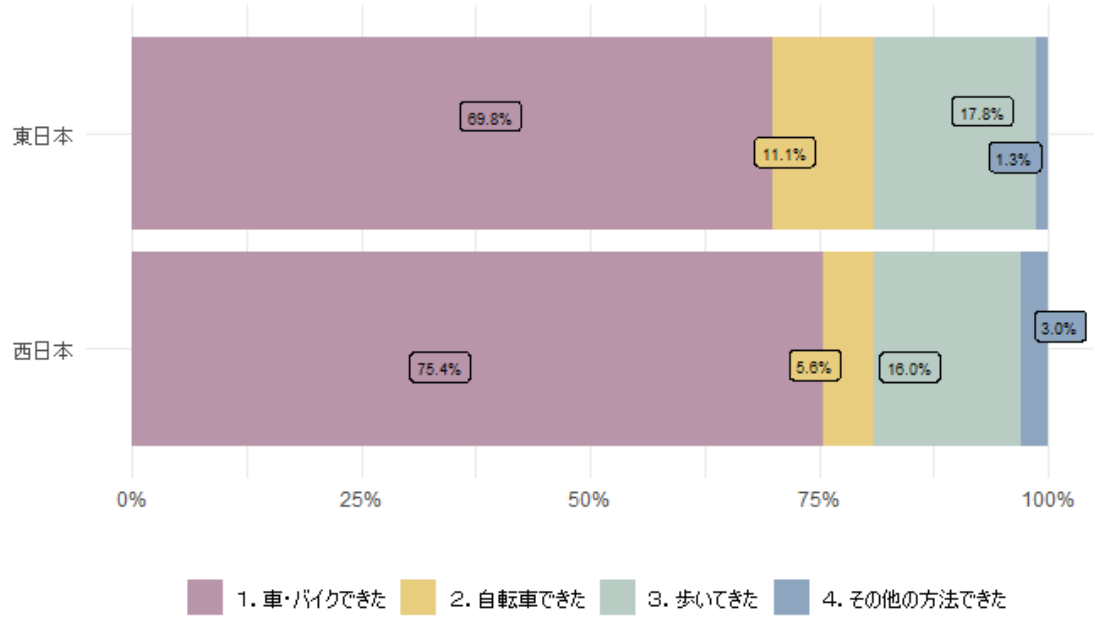
（3）中心地区・非中心地区別

中心地区、非中心地区で大きな違いは無い。



（4）地域別

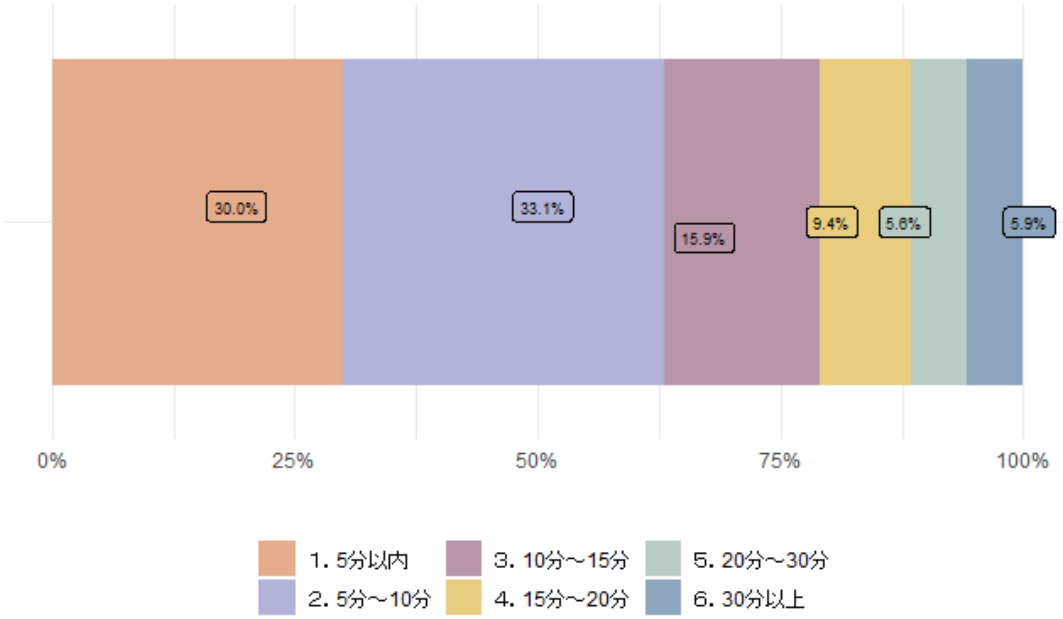
地域別に見ると西日本において、若干「車・バイクできた」比率が低い。



4.2.4. 所要時間

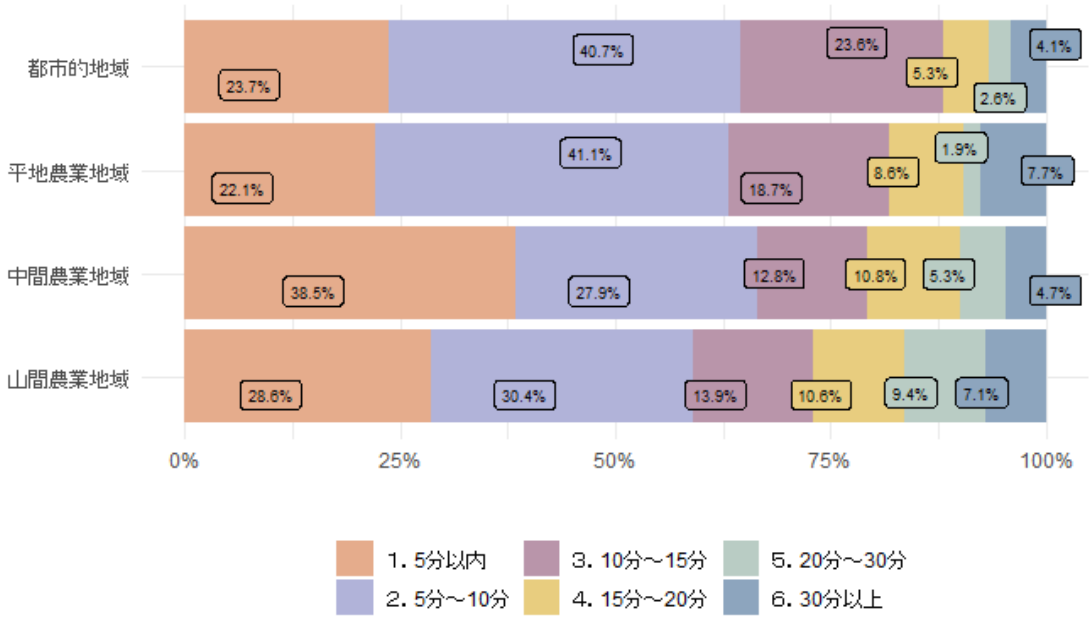
（1）全体

所要時間は約 6 割が 10 分以内であるが、30 分以上かかる地域からきている人もある程度いることがわかる。



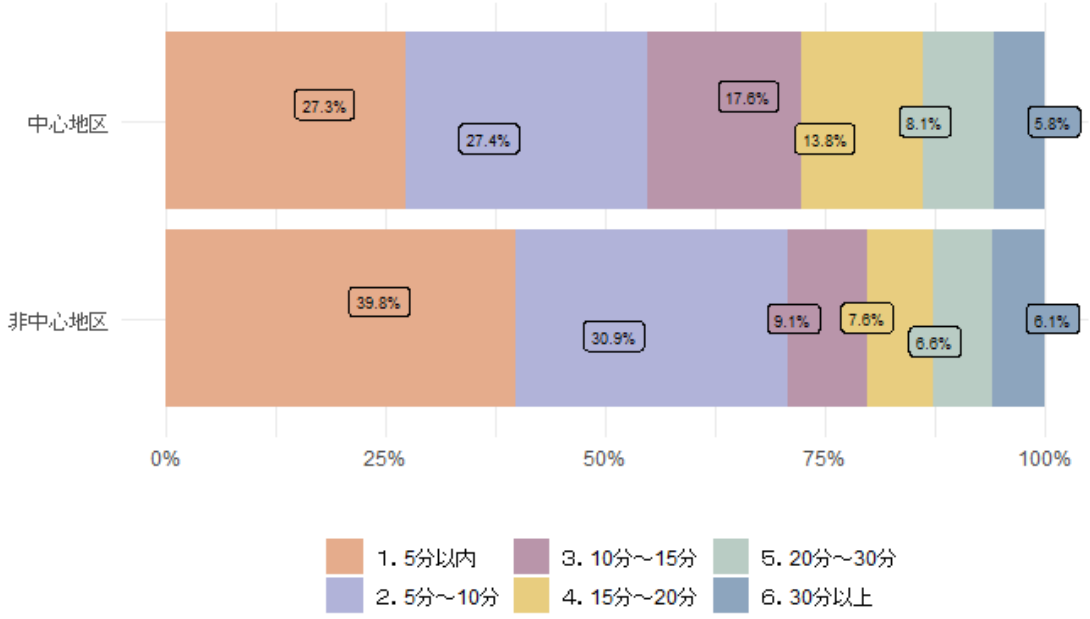
（2）農業地域類型別

中山間地域になるに従い、15 分以上かけて来場する割合が高くなっている。。



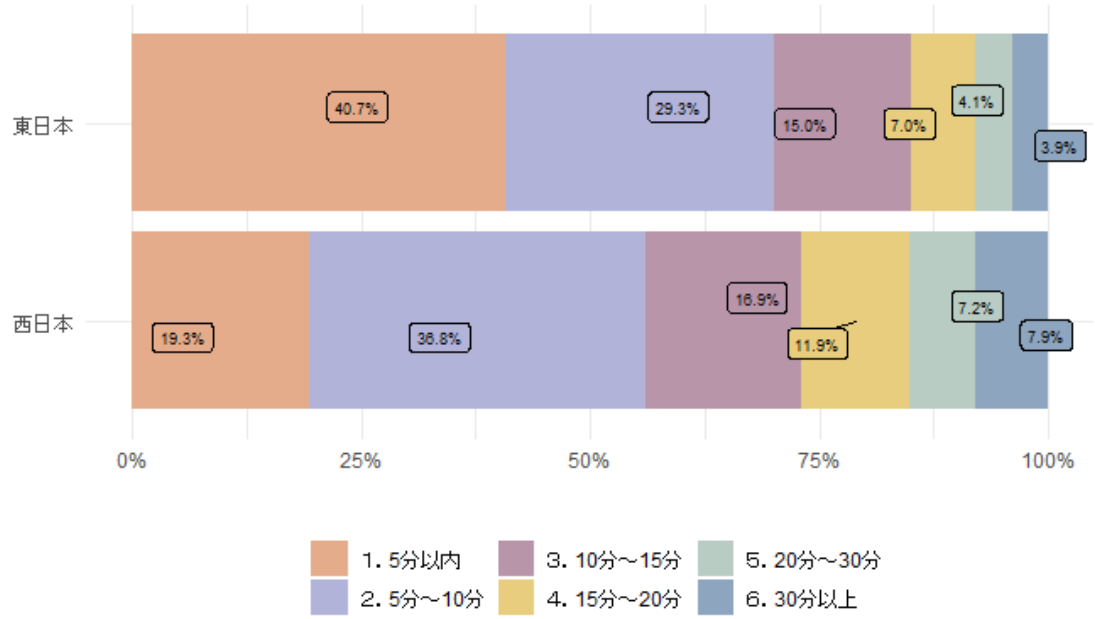
（3）中心地区・非中心地区別

非中心地区の方が所要時間は短くなっている。



（4）地域別

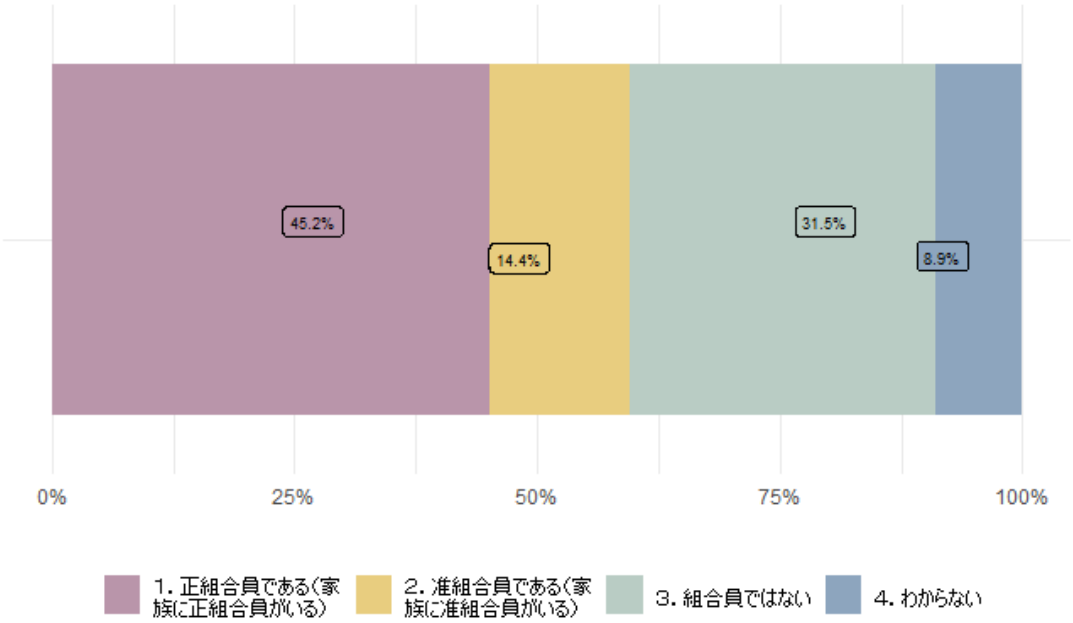
地域別に見ると、東日本の方が所要時間が短い。



4.2.5. JA への加入状況

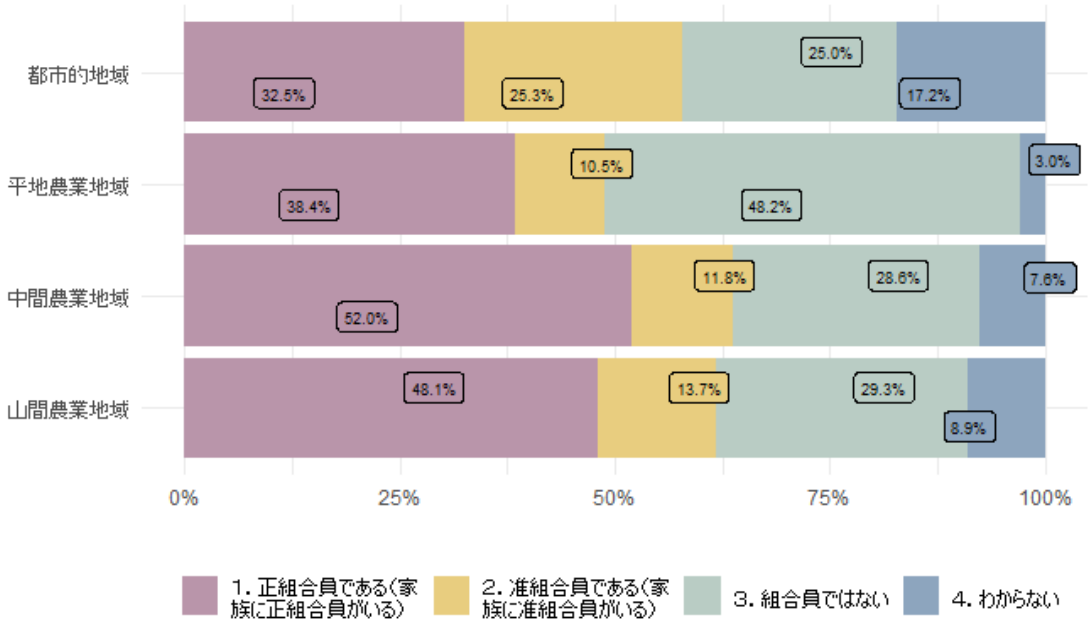
（1）全体

正組合員である割合が 4 割程度であり、組合員でない割合が 3 割程度となっている。分からないとの回答が 1 割程度あるが、組合員でない可能性が高いとも思われる。



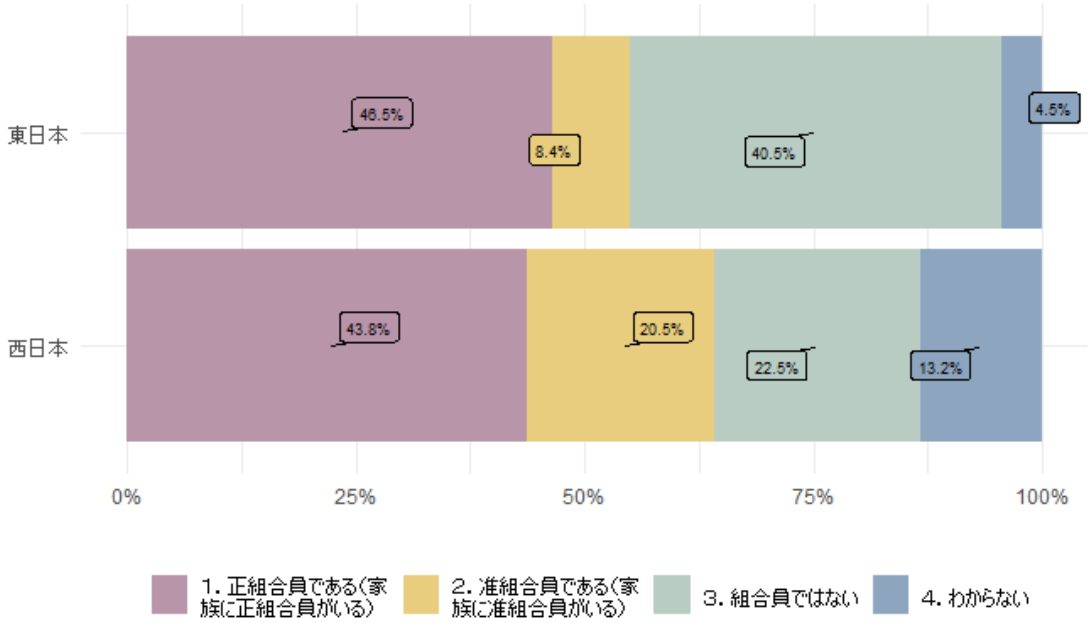
（2）農業地域類型別

都市的地域では、正組合員率が低く、准組合員率が高くなっている。



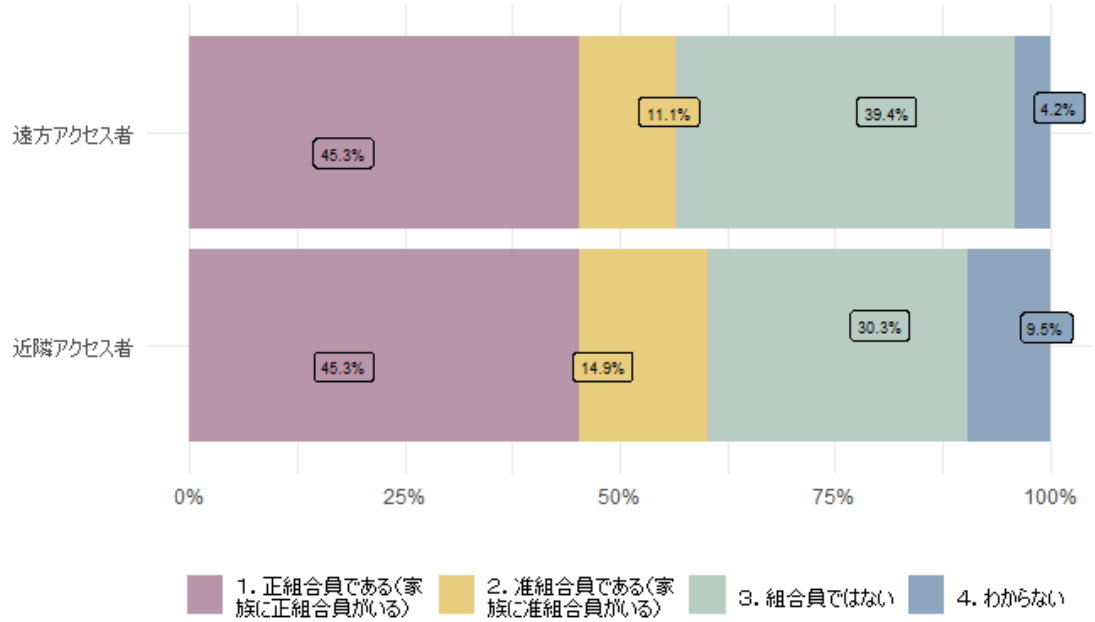
（3）地域別

地域別に見ると東日本で組合員でない人が多い。



（4）アクセス状況別

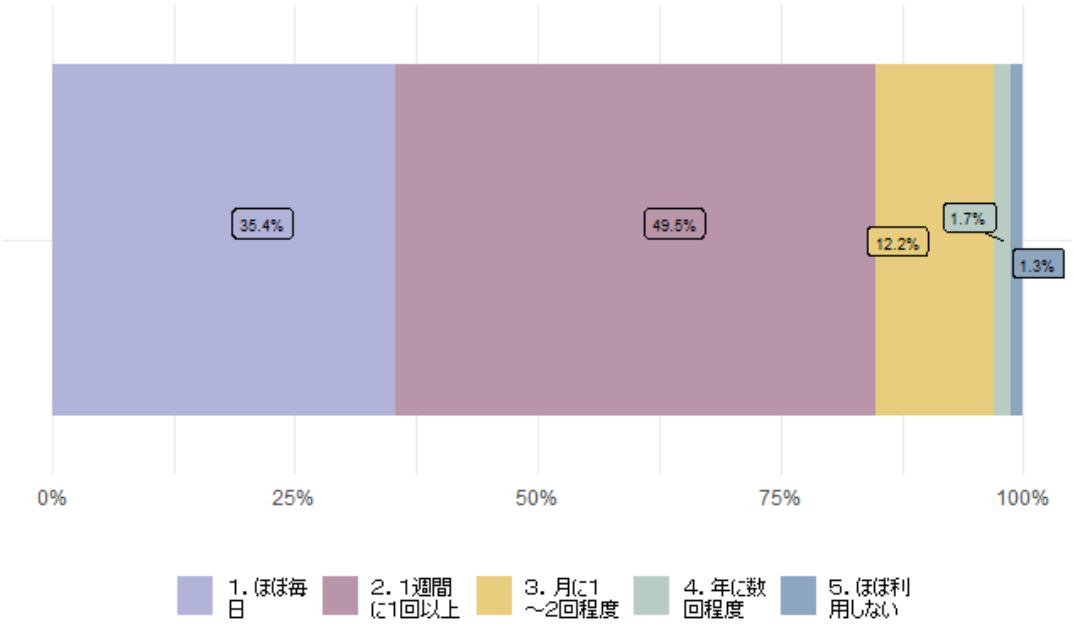
徒歩で 15 分以上、自動車で 20 分以上かかると回答した人を遠方アクセス者と定義し、遠方アクセス者、近隣アクセス者別に加入状況を比較したが、あまり大きな違いは見られなかった。



4.2.6. 利用頻度

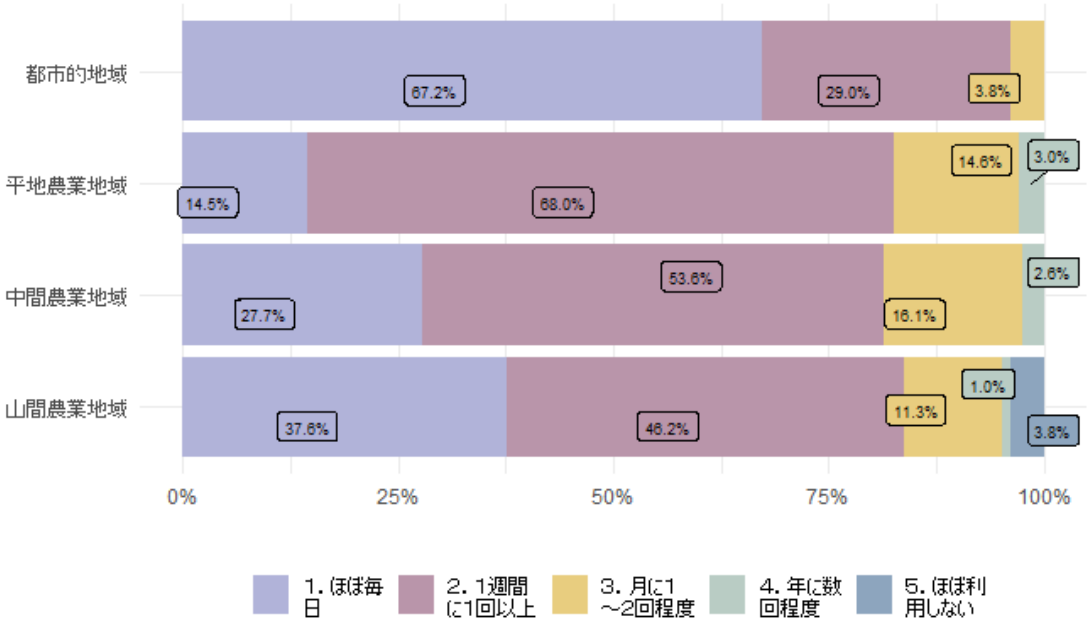
（1）全体

利用頻度を見ると「１週間に１回以上」が半分程度であり、「ほぼ毎日」と併せると８割以上が週に１回以上利用している。



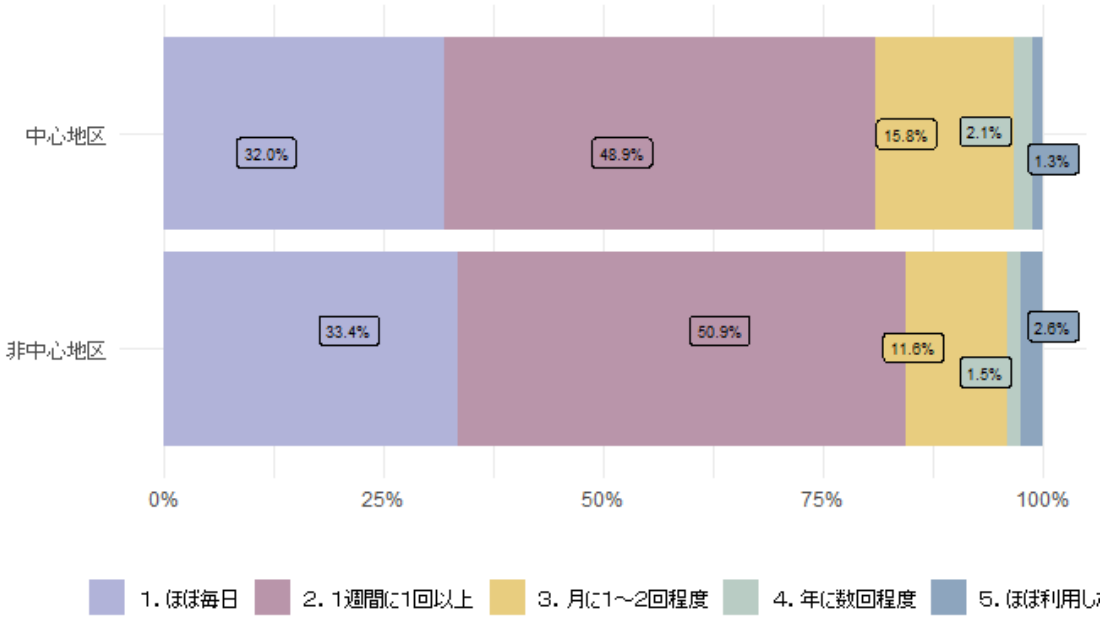
（2）農業地域類型別

農業地域別にみると都市的地域において利用頻度が高い。また、平地農業地帯の頻度が低い。



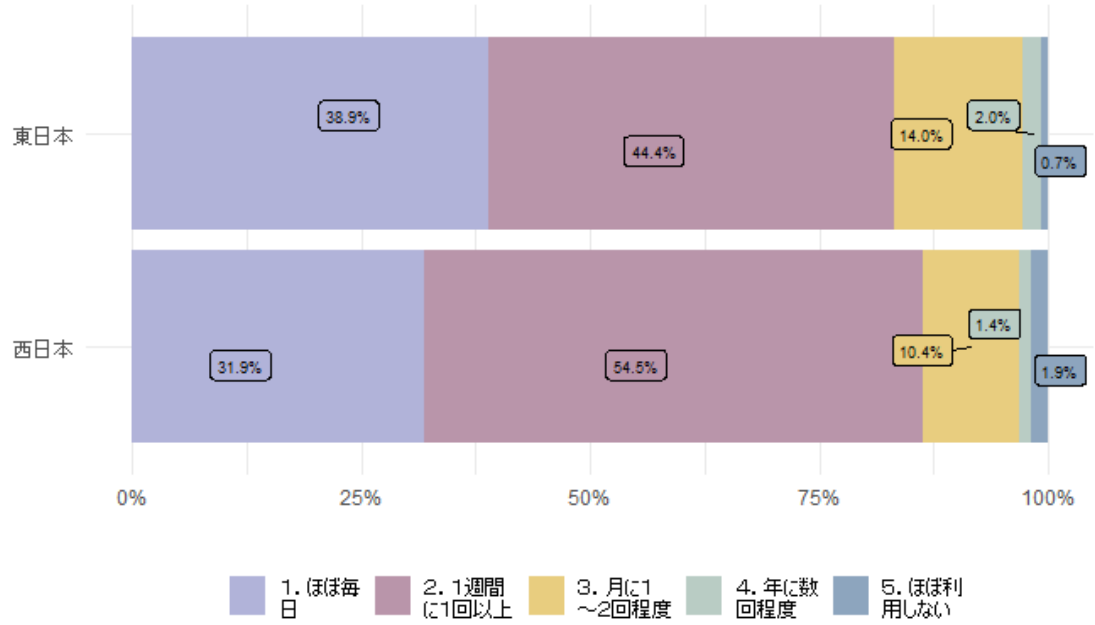
（3）中心地区･非中心地区別

中心地区、非中心地区で利用頻度に大きな違いは無い。



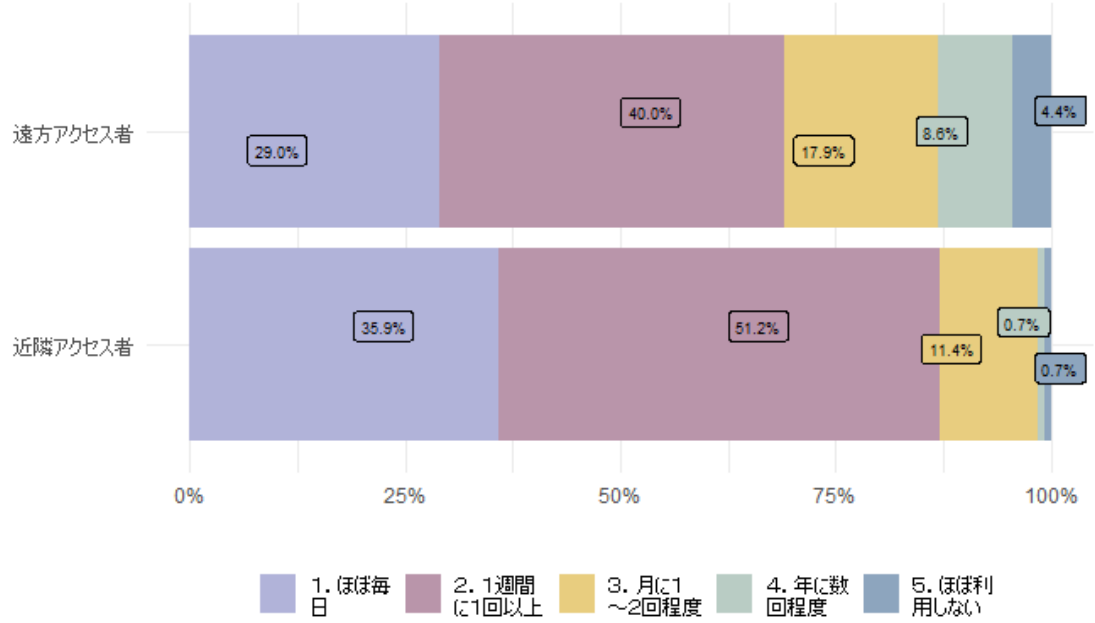
（4）地域別

東日本において若干利用頻度が高くなっている。



（5）アクセス状況別

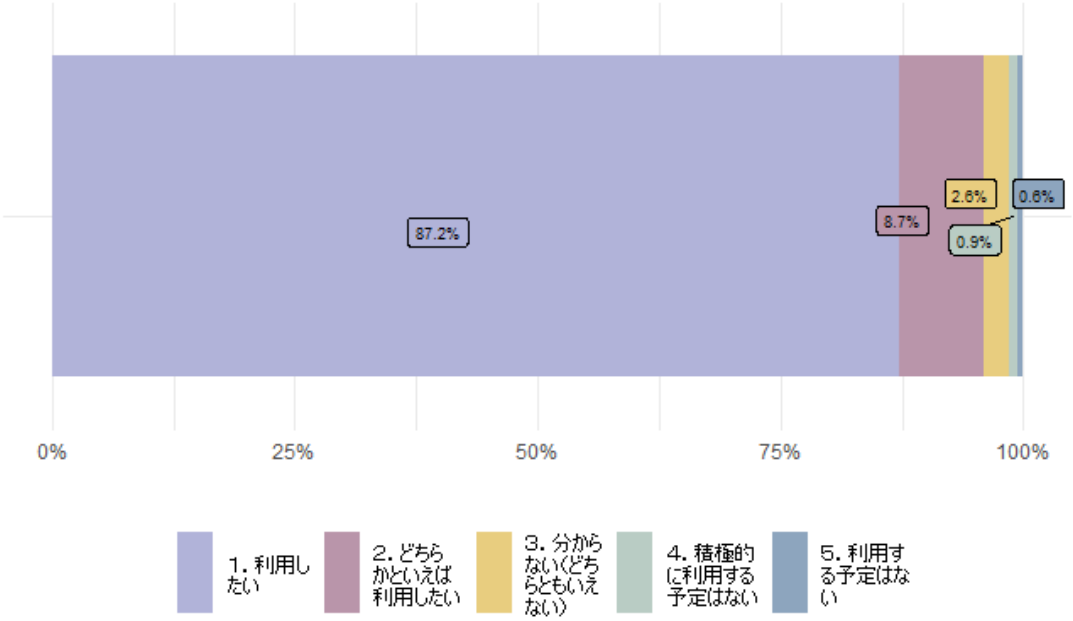
遠方からアクセスしている人の利用頻度は低い。



4.2.7. JA 施設の利用意向

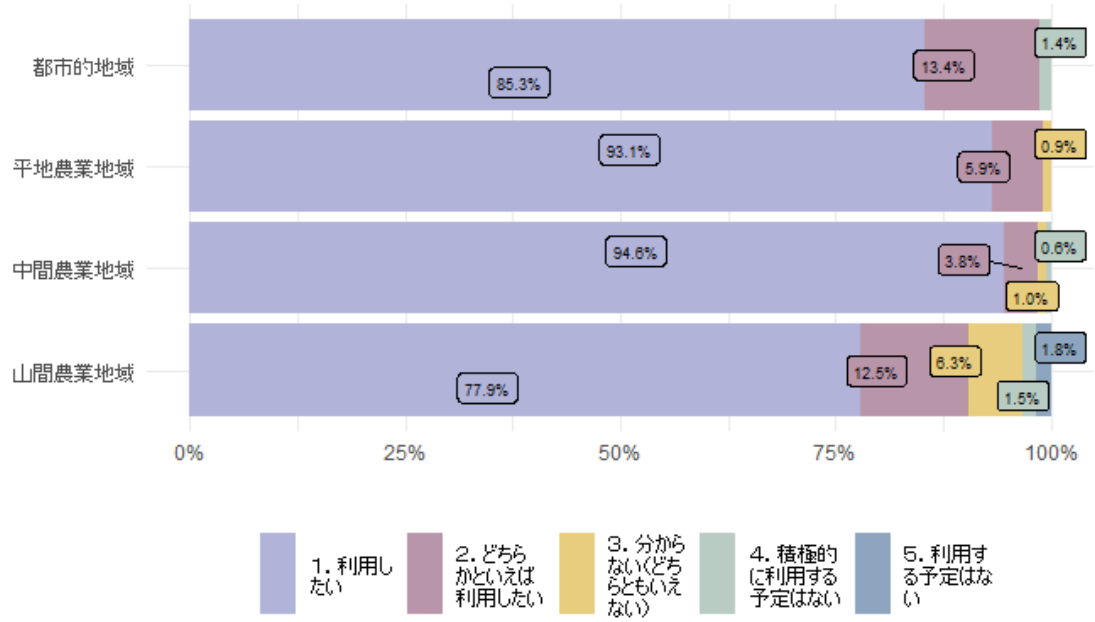
（1）全体

全体として、「利用したい」と回答した人の割合が非常に高い。



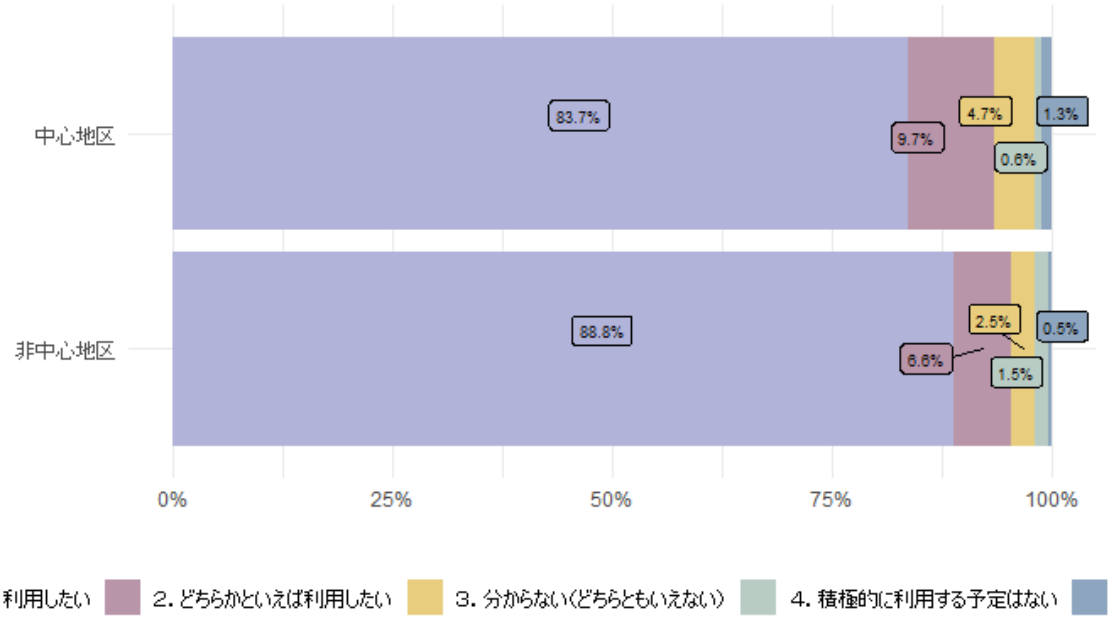
（2）農業地域類型別

農業地域類型別にみても全ての類型で高くなっているが、都市的地域、山間農業地域で若干低くなっている。



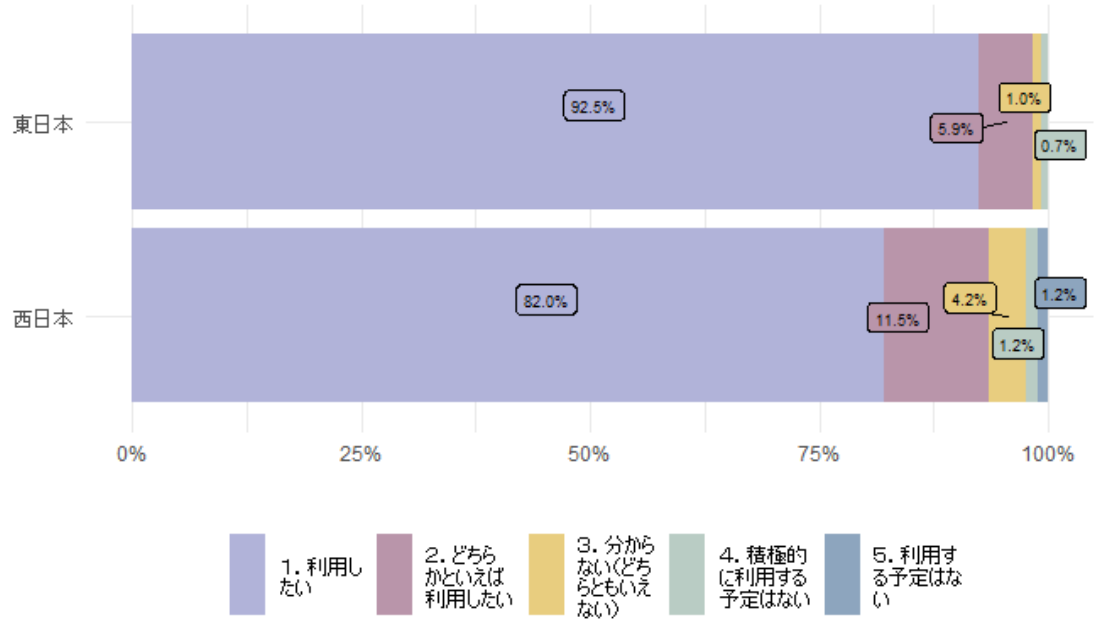
（3）中心地区･非中心地区別

非中心地区の方が利用意向がやや高い。



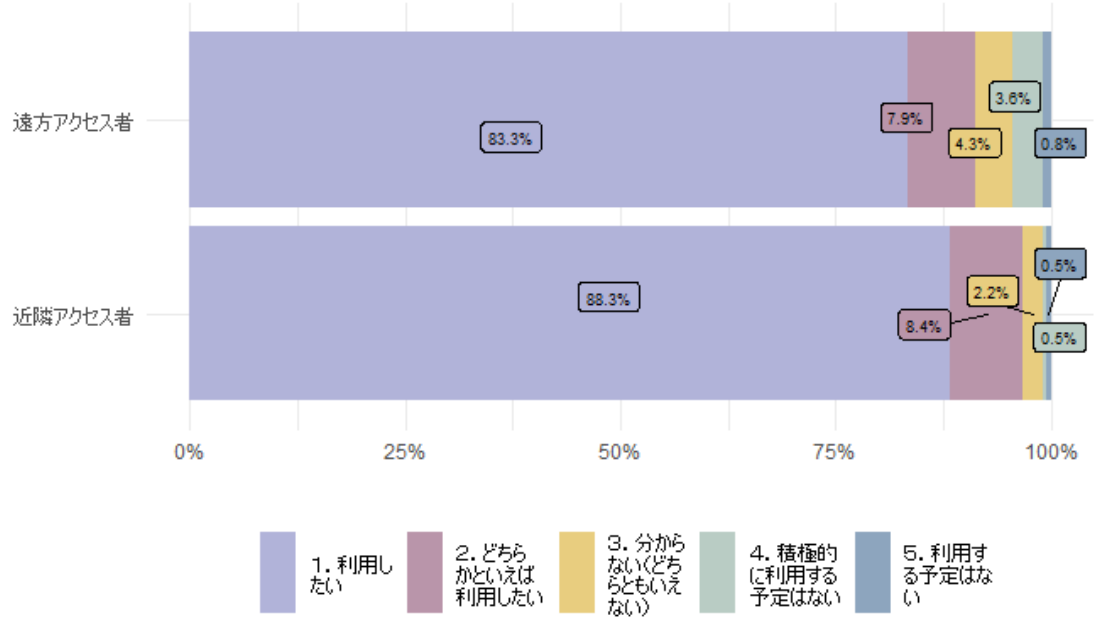
（4）地域別

地域別に見ると東日本の方が利用意向が高い。



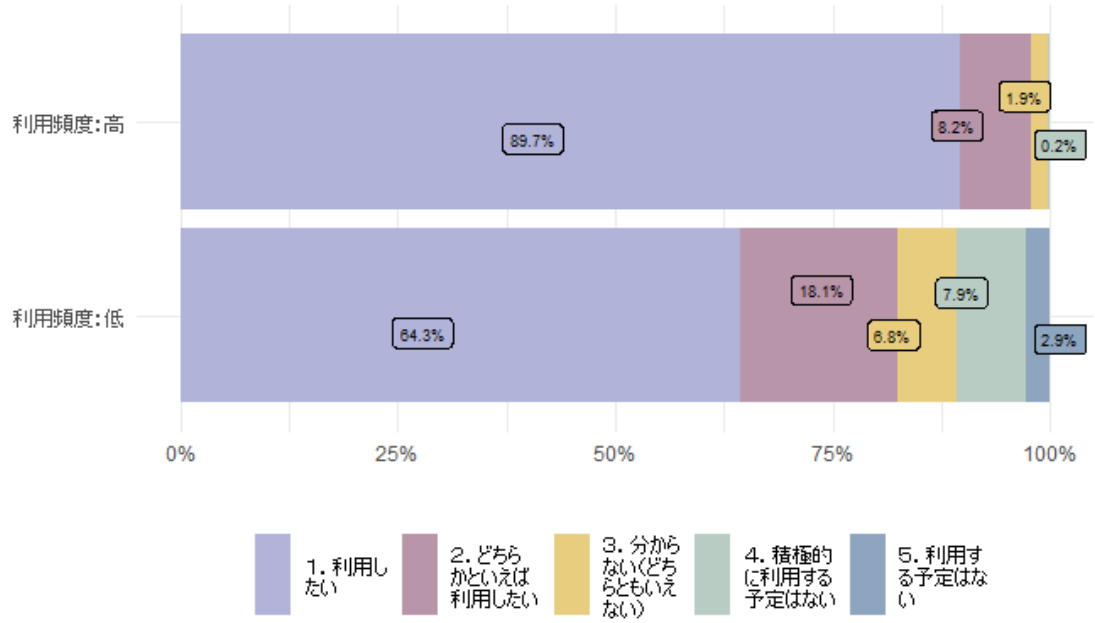
（5）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人の方が今後の利用意向が若干低くなっている。



（6）利用頻度別

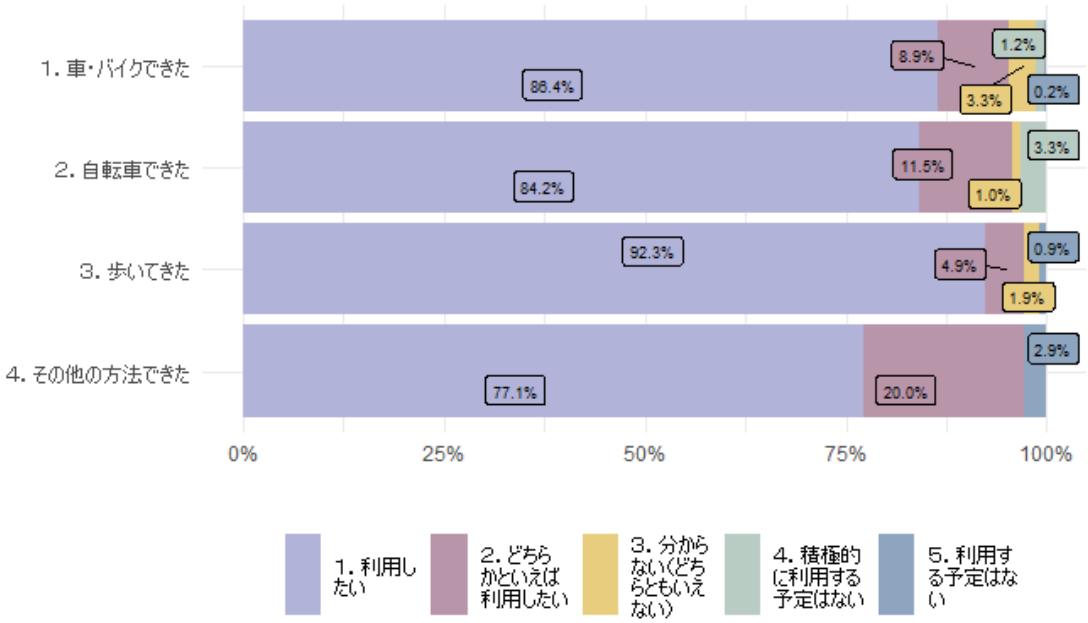
利用頻度が低い人の利用意向は低くなっている。



（7）移動手段別

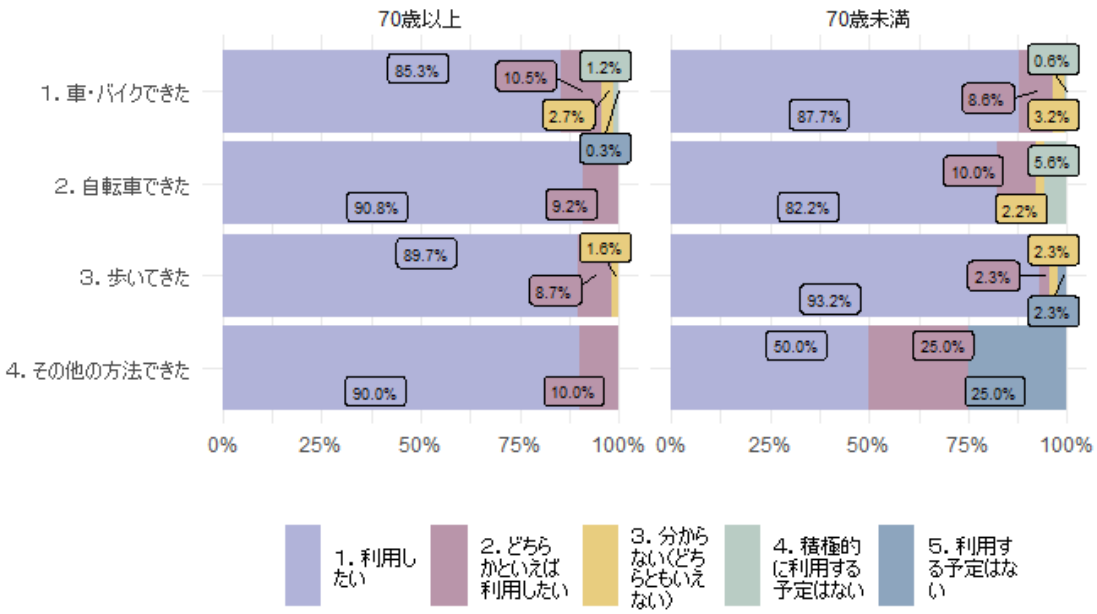
①全体

移動手段別にみるとその他の方法できた（多くがバスなどの公共交通機関）人の利用意向が低い。



②年齢別

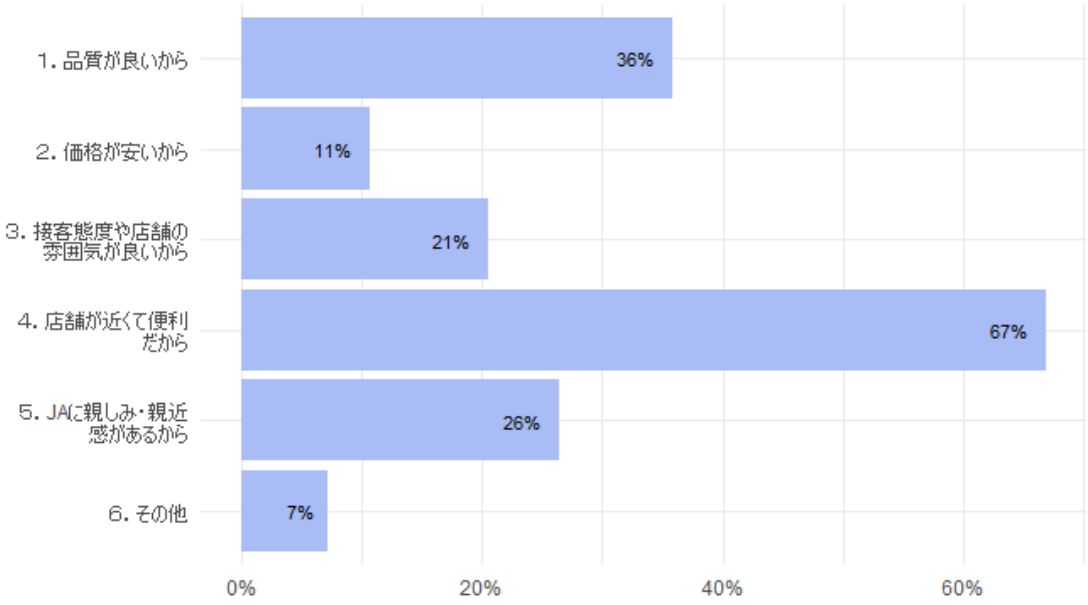
年齢別ではそれほど大きな違いは見られない。。



4.2.8. 今後も利用したい理由

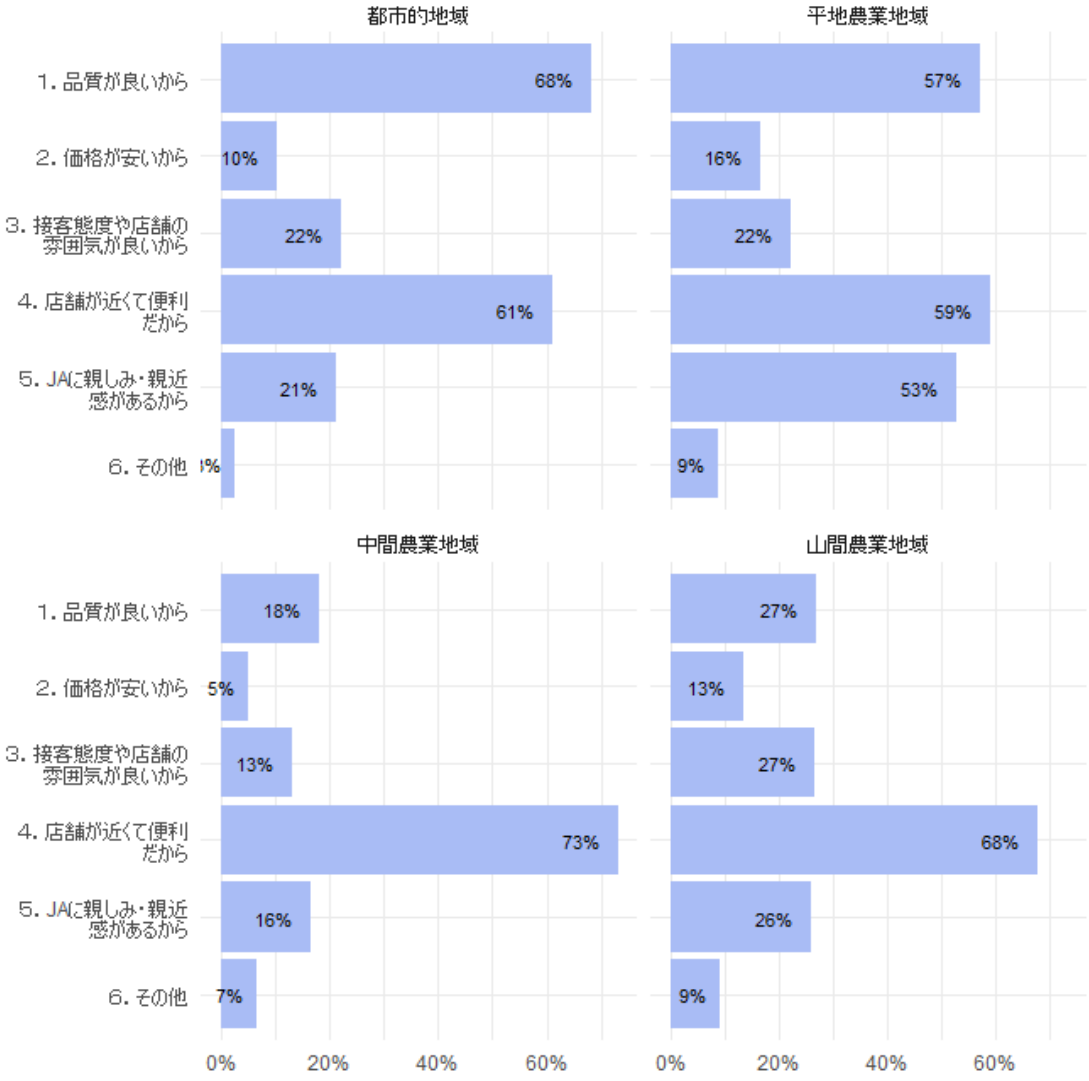
（1）全体

今後も利用したい理由として、「店舗が近くて便利だから」が最も多く、「品質が良いから」がそれにつづいている。「JA に親しみ・親近感があるから」との回答も 25%程度あった。



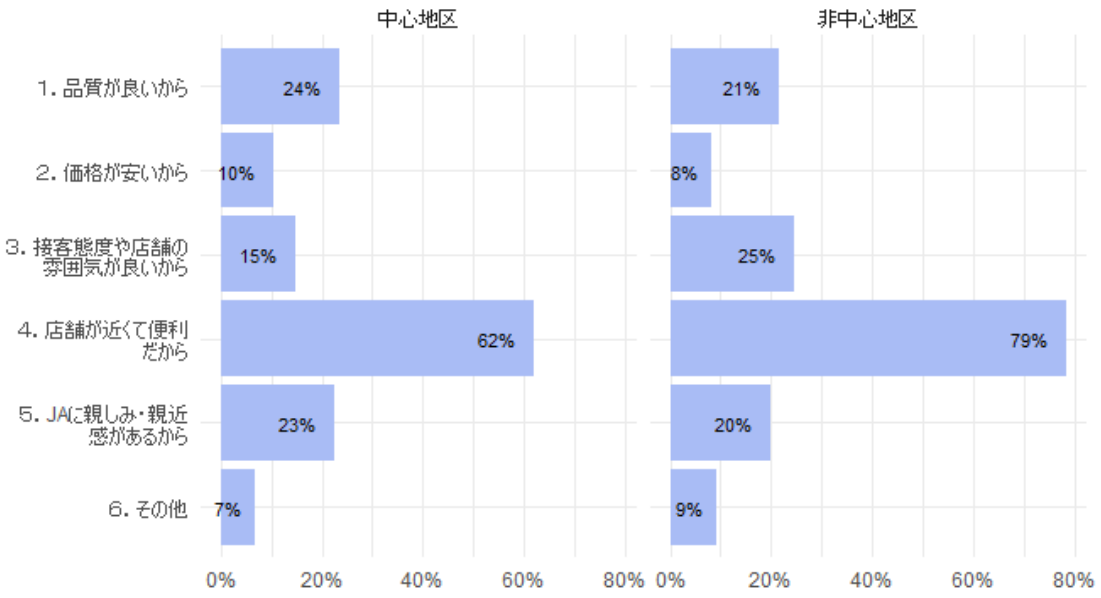
（2）農業地域類型別

いずれの類型においても「店舗が近くて便利だから」は総じて高いが、品質については、都市的地域、平地農業地域における評価が高い。また平地農業地域では JA に親しみがあるという回答が非常に高い。



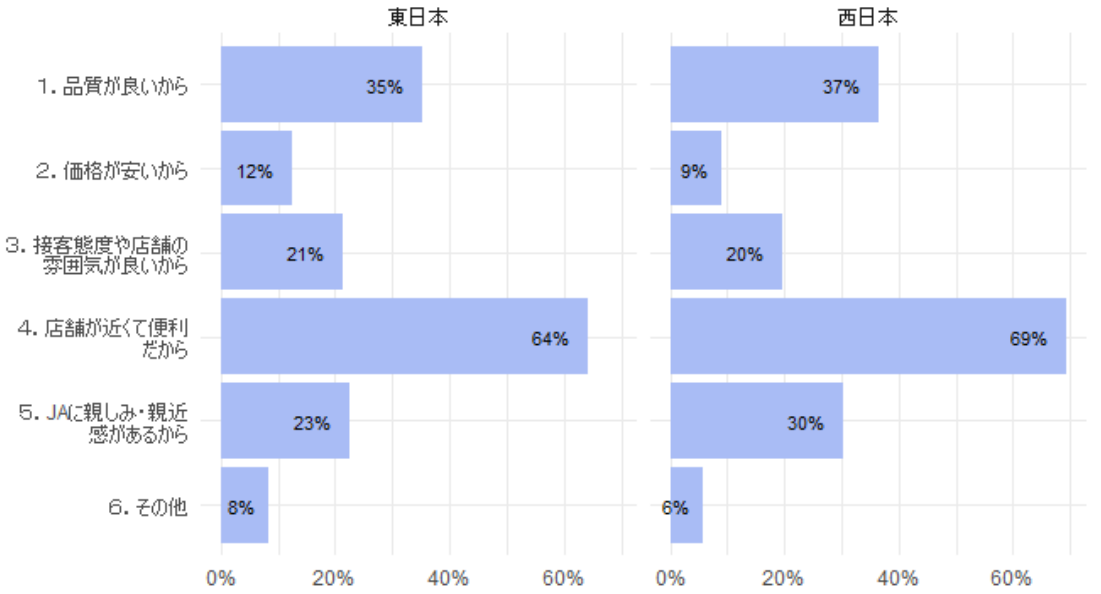
（3）中心地区･非中心地区別

非中心地区では店舗が近くて便利という回答が多い。



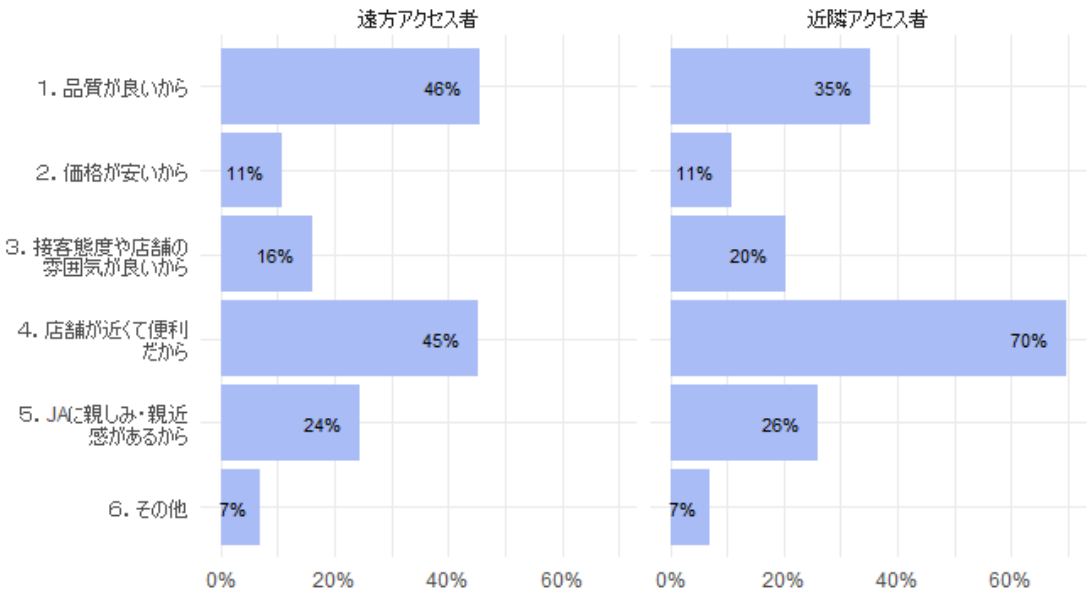
（4）地域別

地域別に見ると、西日本において「JA に親しみがある」割合が若干高い。



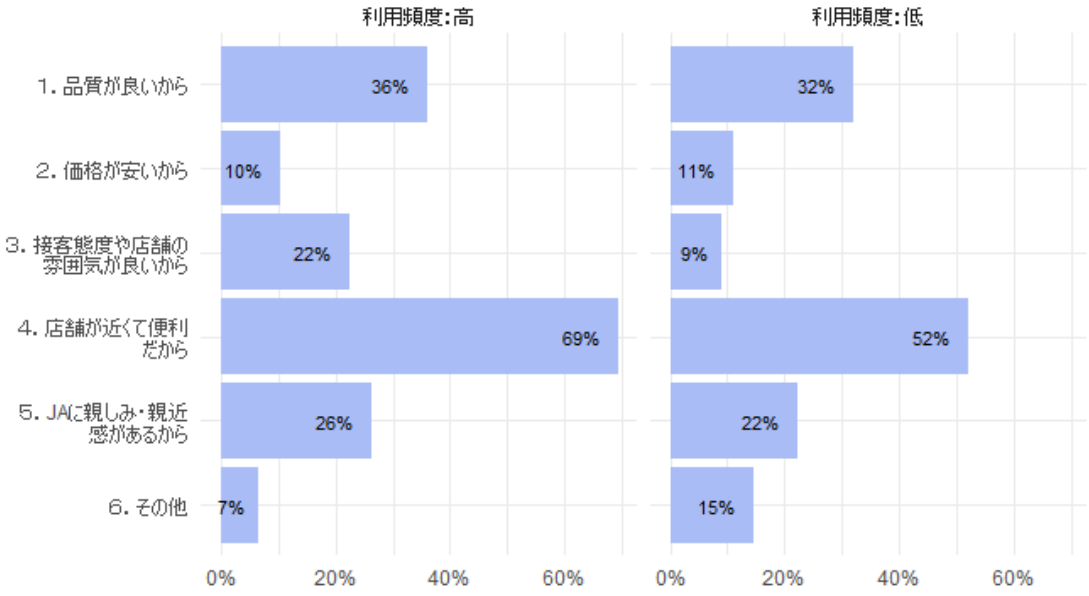
（5）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人は品質に対する評価が高くなっている。



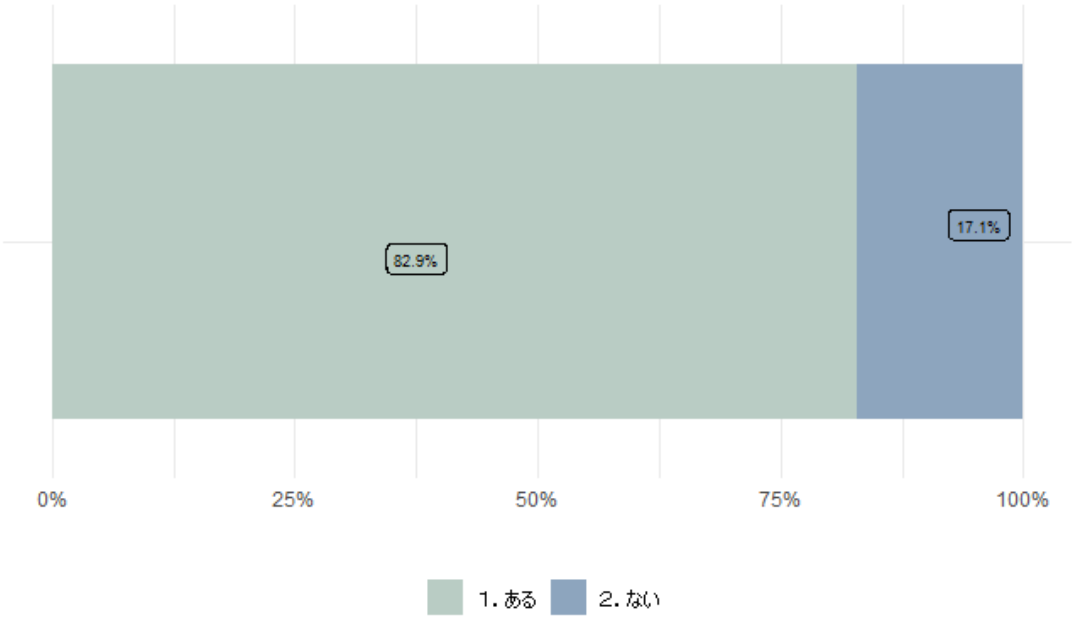
（6）利用頻度別

利用頻度が高いほど、立地に対する評価が高い。



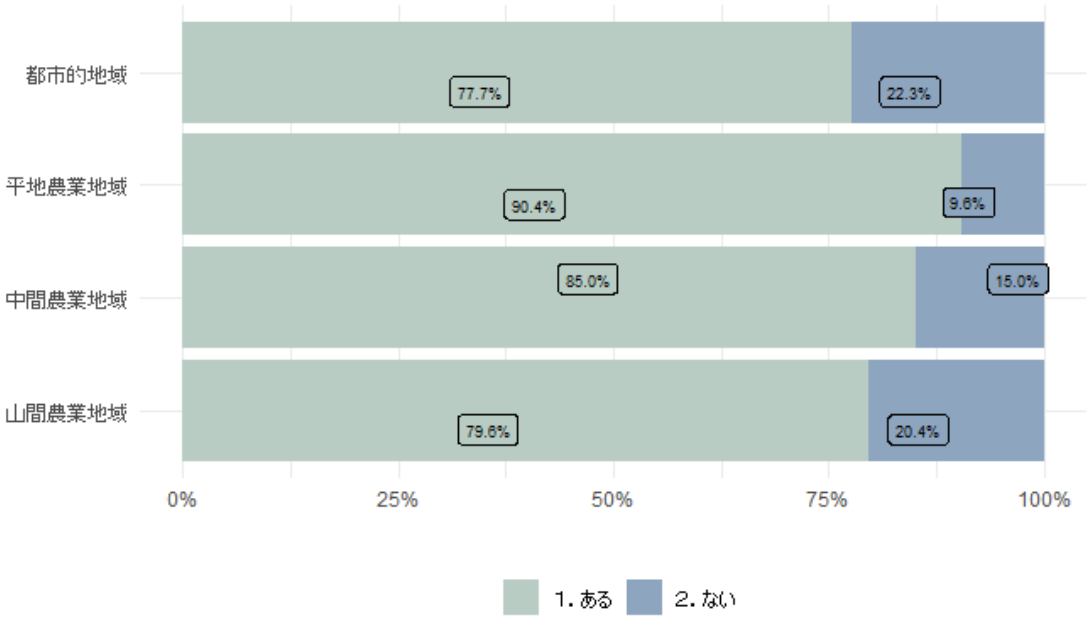
4.2.9. JA 施設以外の利用

8 割の人が JA 施設以外の施設も利用していると回答している。



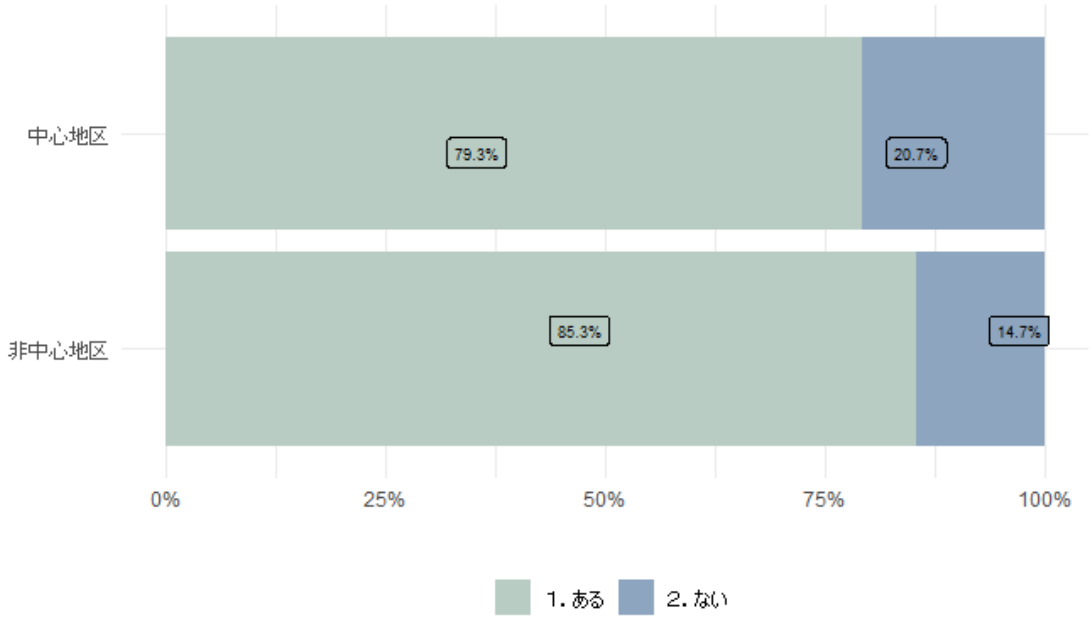
（1）農業地域類型別

平地農業地域においては、JA 以外の施設を利用している割合が若干高い。



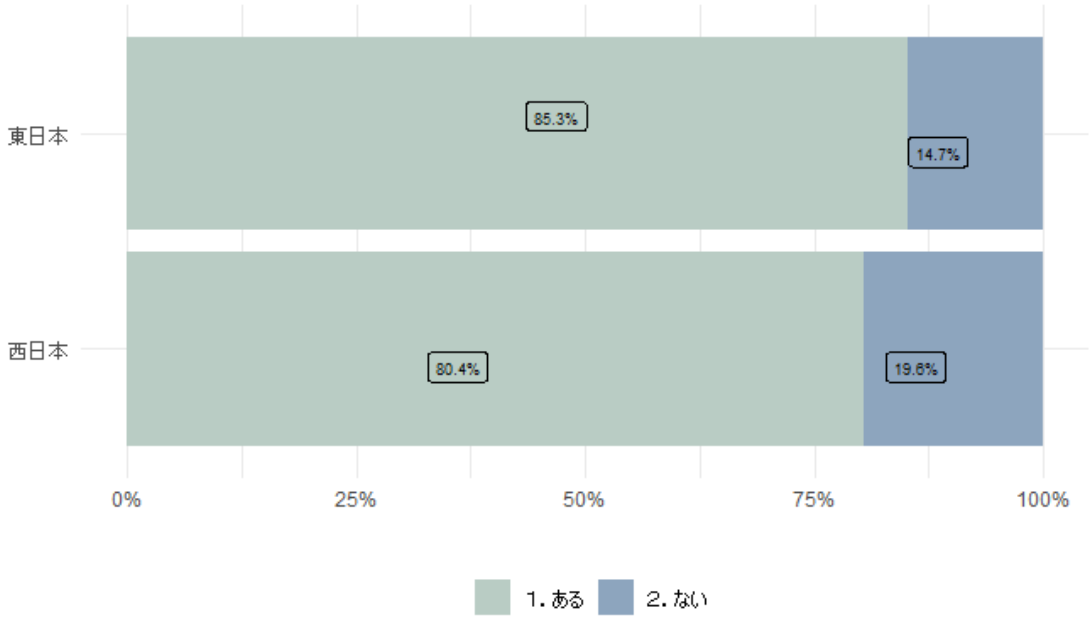
（2）中心地区･非中心地区別

非中心地区の方が他の店舗を利用している割合が高い。



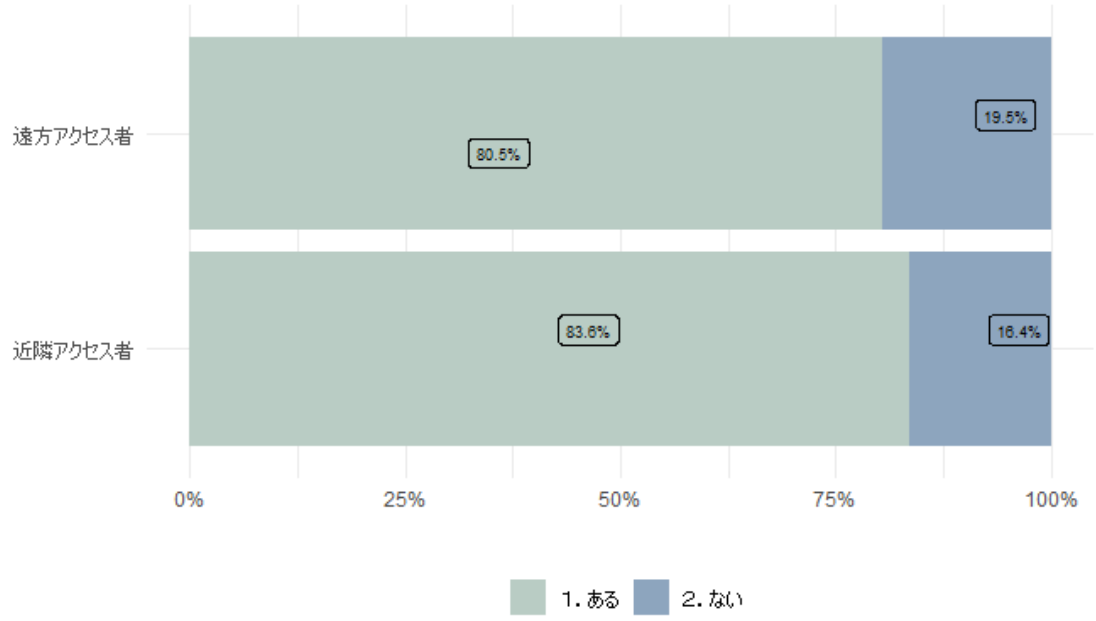
（3）地域別

地域別に大きな差は見られない。



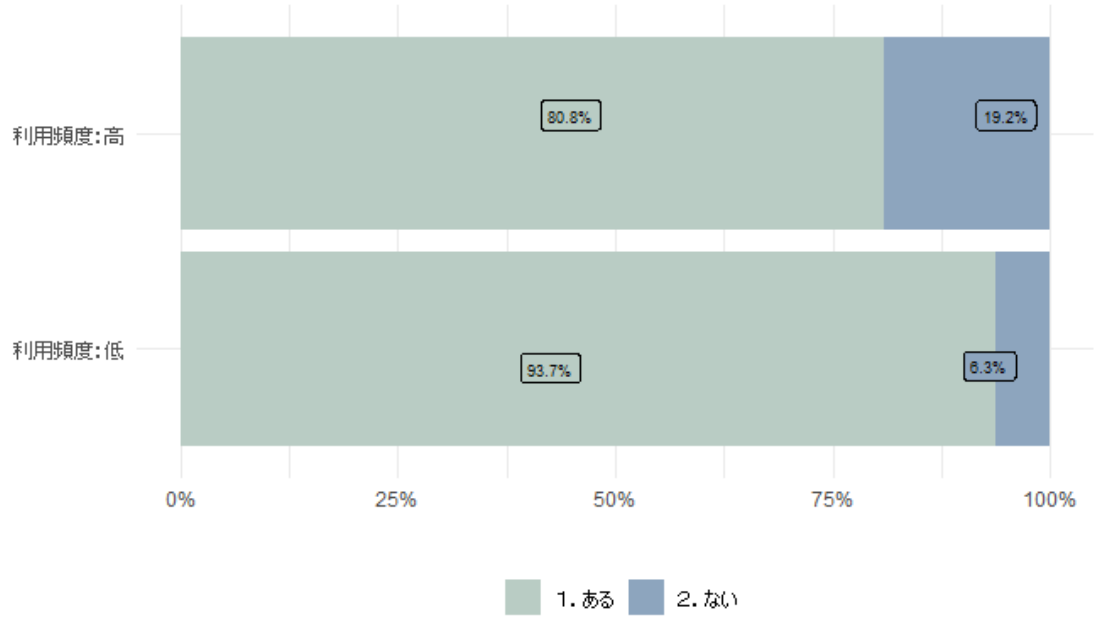
（4）アクセス状況別

アクセス状況別には大きな違いは見られない。



（5）利用頻度別

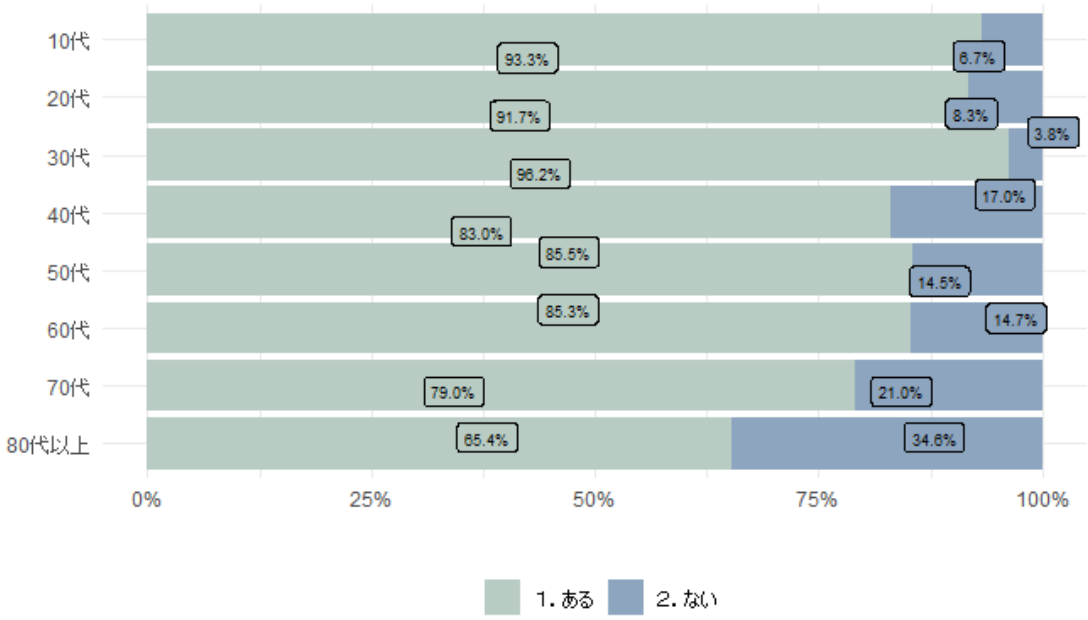
利用頻度が高い人の方が他の店がないと回答している割合が高い。



（6）年齢層別

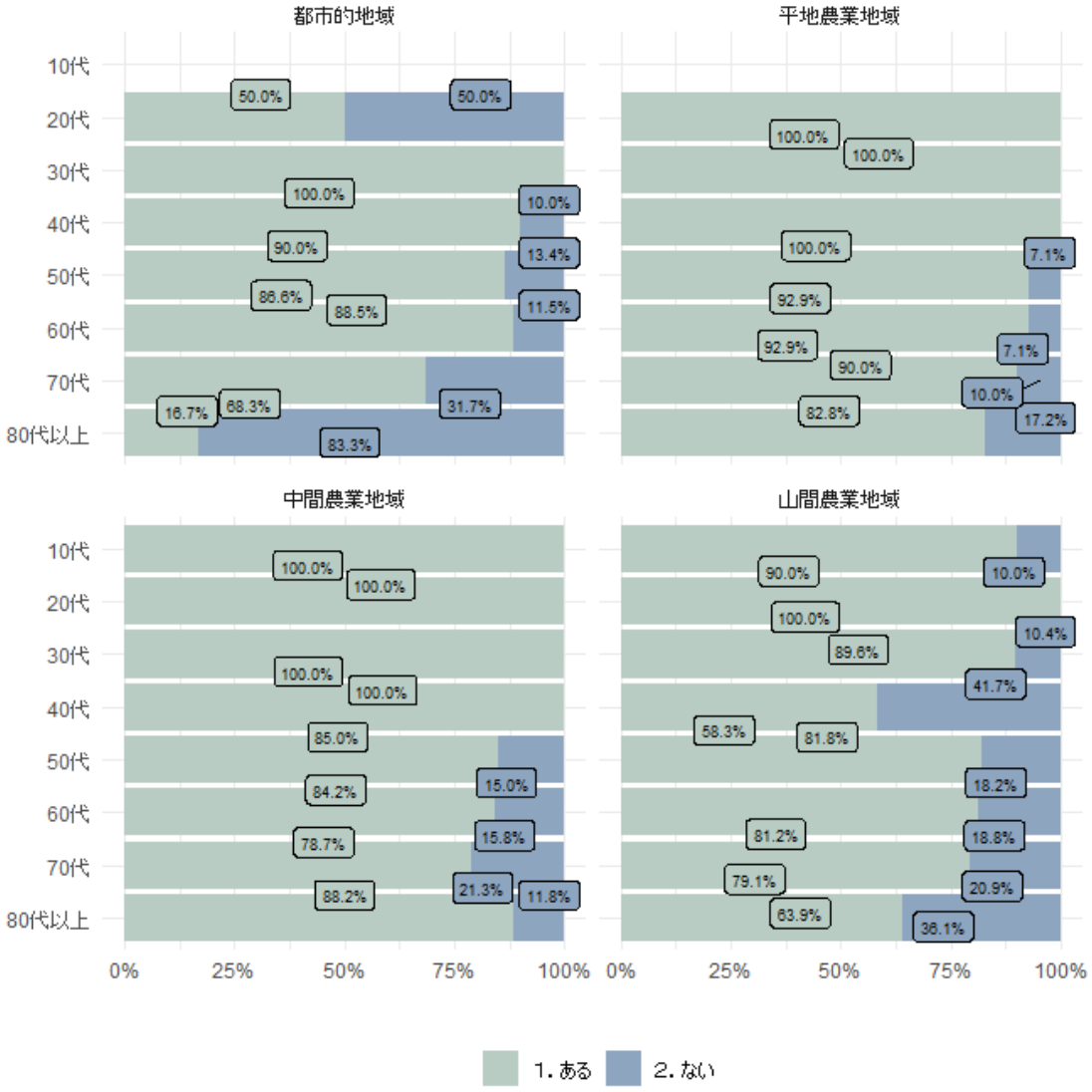
①全体

年齢が高くなるにつれ、他の施設がないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

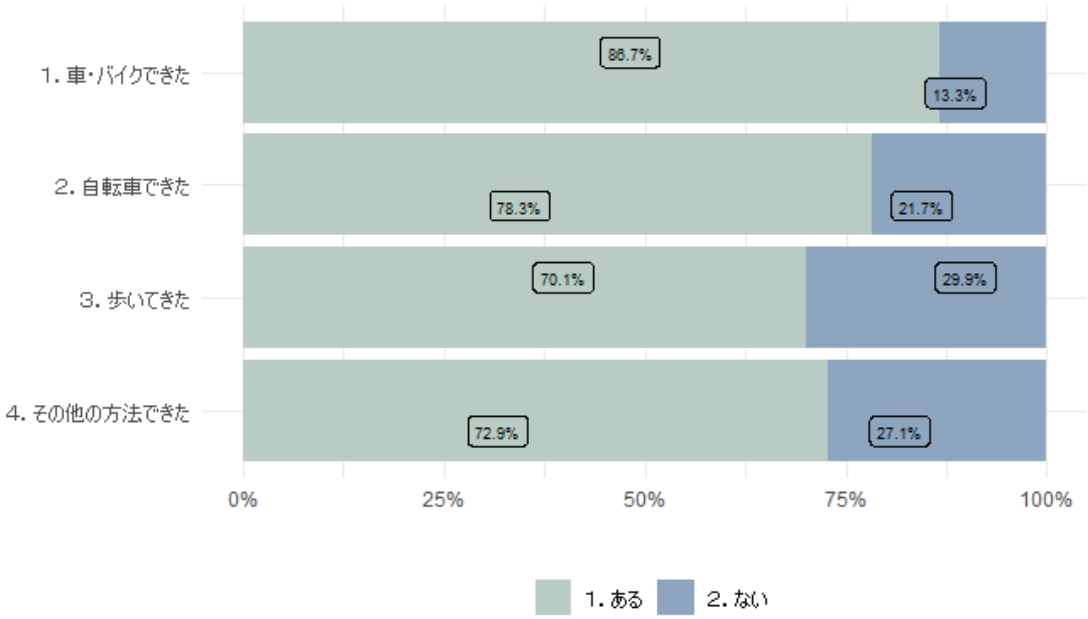
全体として、年齢が高くなるにつれ、他の施設がないと回答する割合が高くなる。



（7）移動手段別

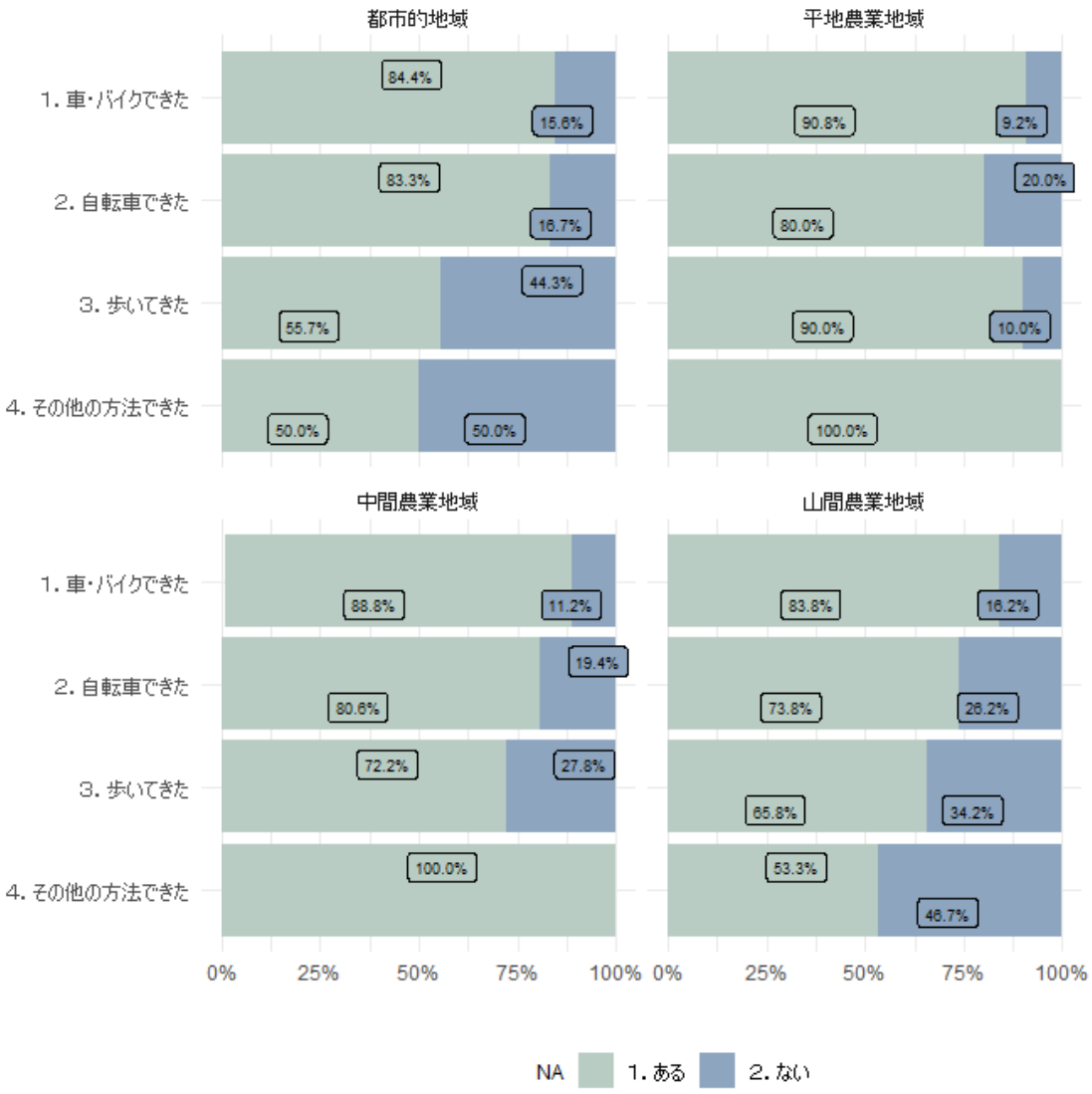
①全体

移動手段が自転車、歩き、その他（主に公共交通機関）であるほうが、他の施設を利用していないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

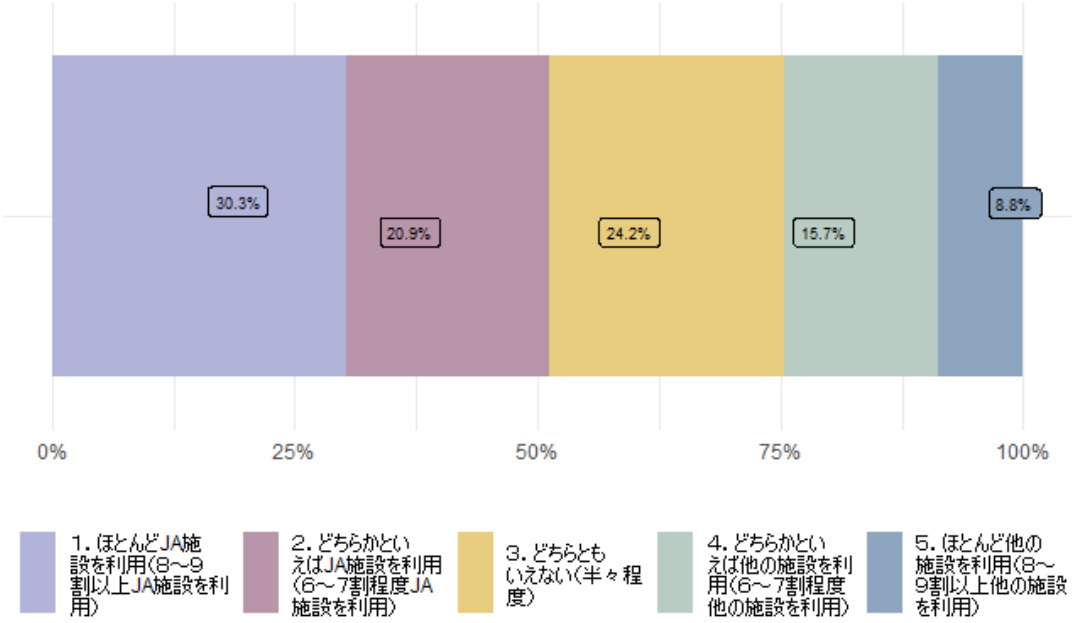
「その他の方法できた」という回答は少ないため、若干結果はばらついている。



4.2.10. 農協施設と農協以外の施設の利用状況

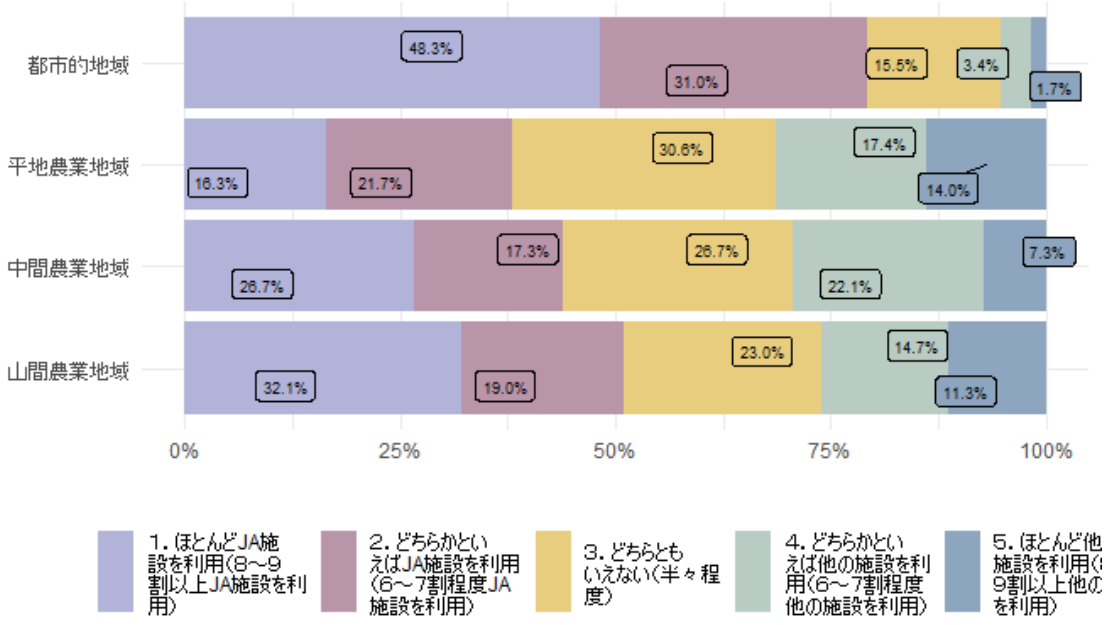
（1）全体

約半分が６割以上農協施設を利用している。



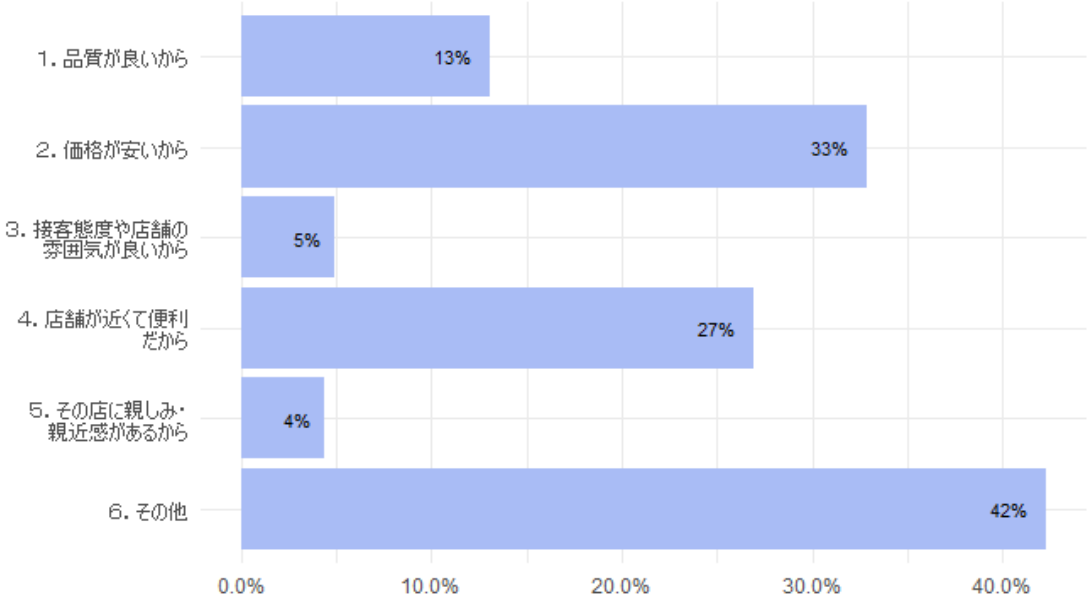
（2）農業地域累計別利用状況

平地農業地域では他の施設を利用する割合が高い。



4.2.11. 他のスーパーマーケットを利用する理由

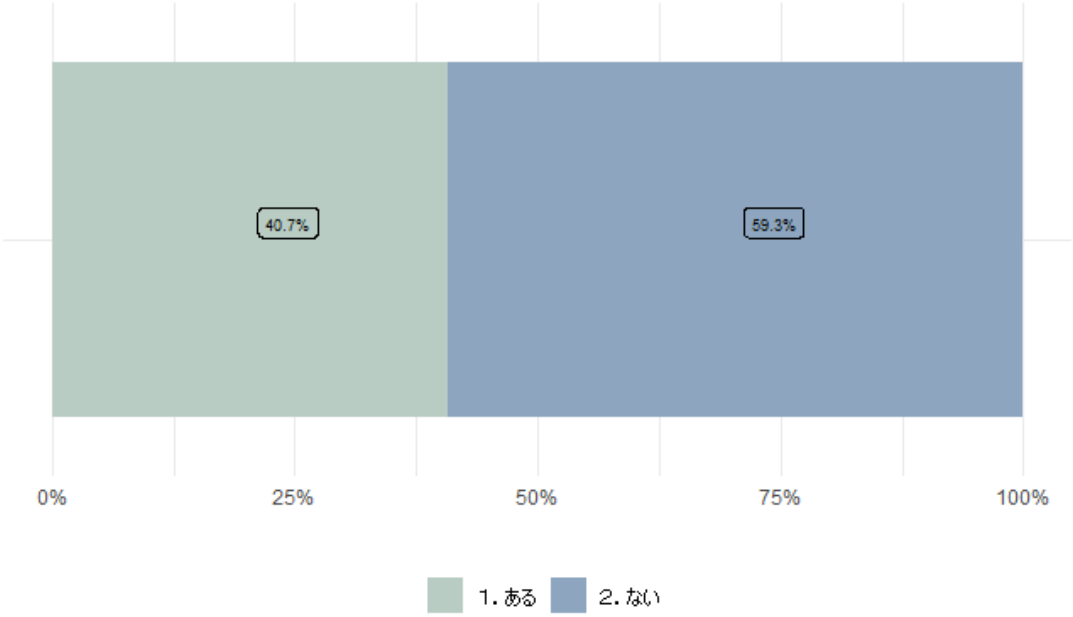
「その他」を選択される比率が非常に高い。店頭での会話等から類推すると、A コープに無いような商品を購入する場合、という意見が多く聞かれた。



4.2.12. 農協以外の施設の利用可能性

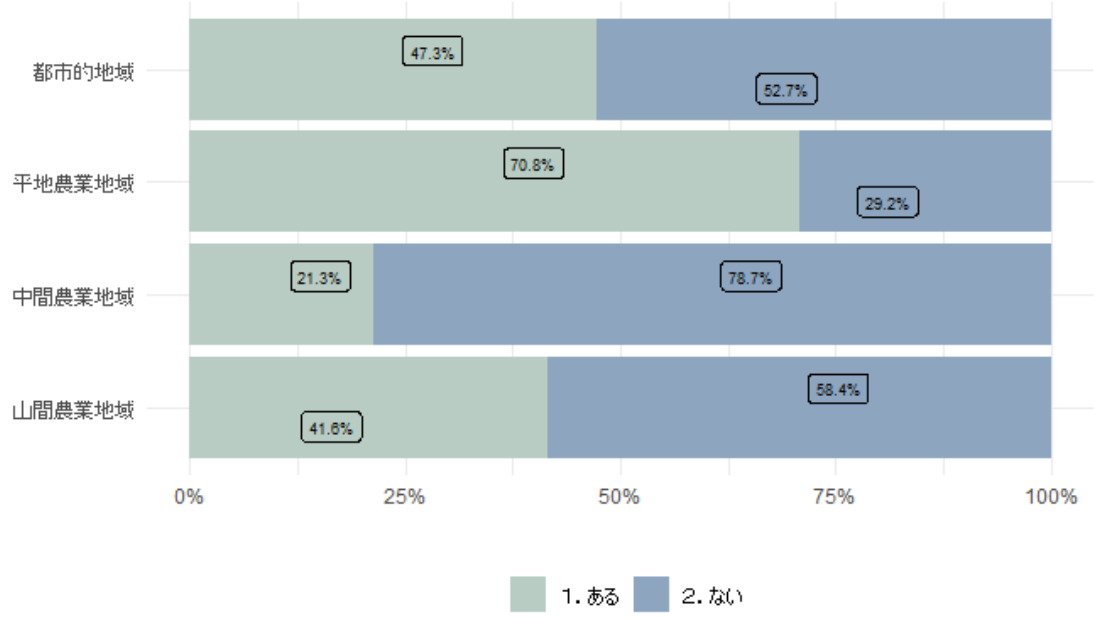
（1）全体

農協以外の施設が利用できない割合は 6 割程度となっている。



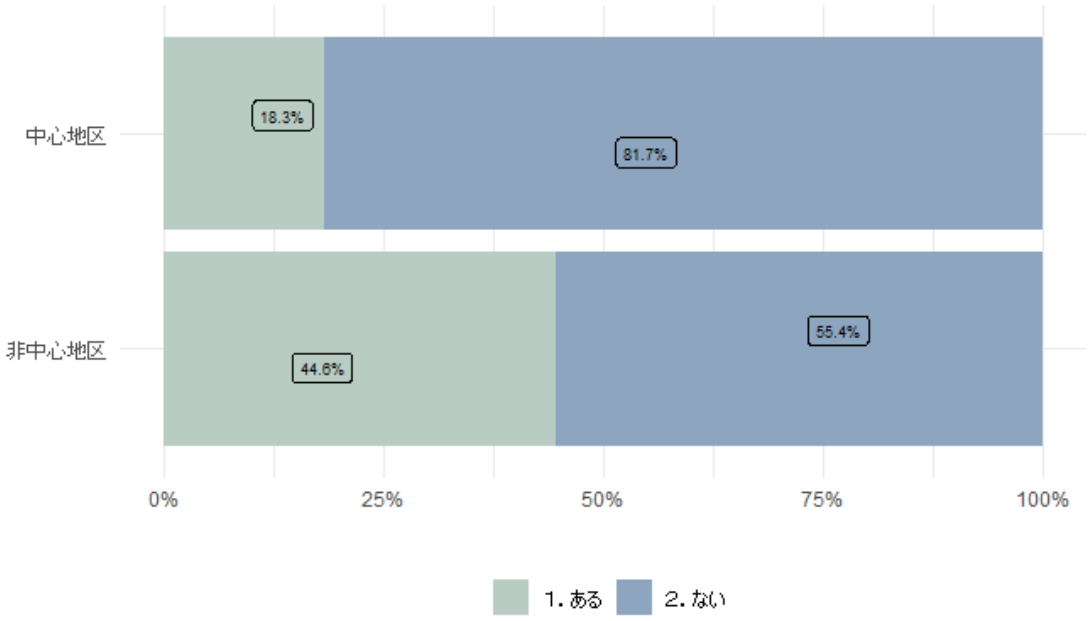
（2）農業地域累計別、農協施設以外の利用可能性

平地農業地域において、農協以外の施設が利用できない割合が低い。



（3）中心地区･非中心地区別、農協施設以外の利用可能性

中心地区の方が他に利用できる店舗はないという回答が多かった。

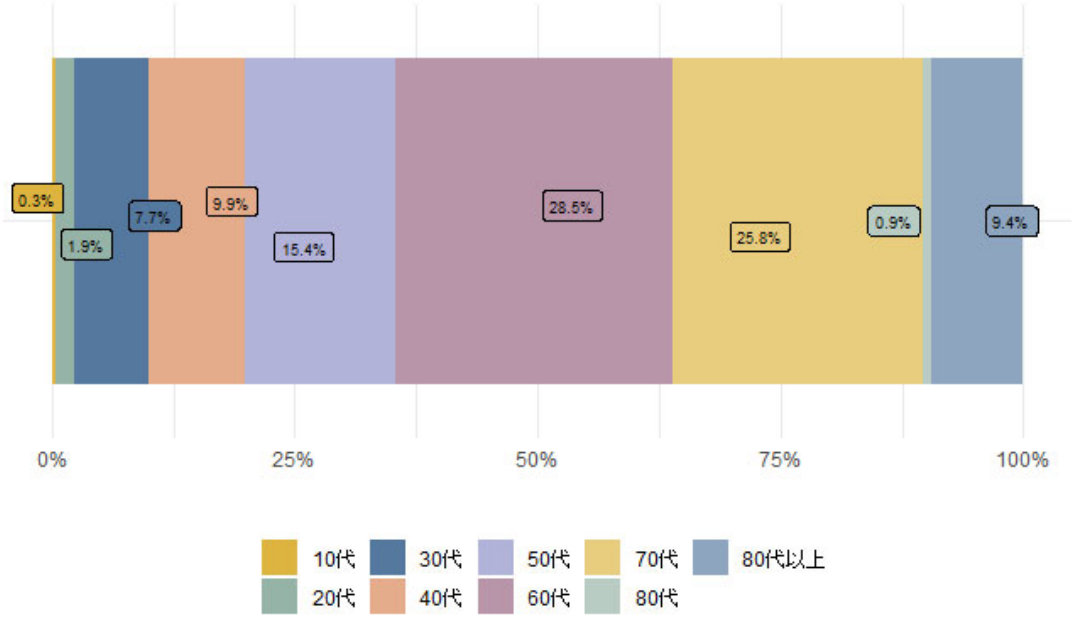


4.3. 金融サービス

4.3.1. 回答者の年代

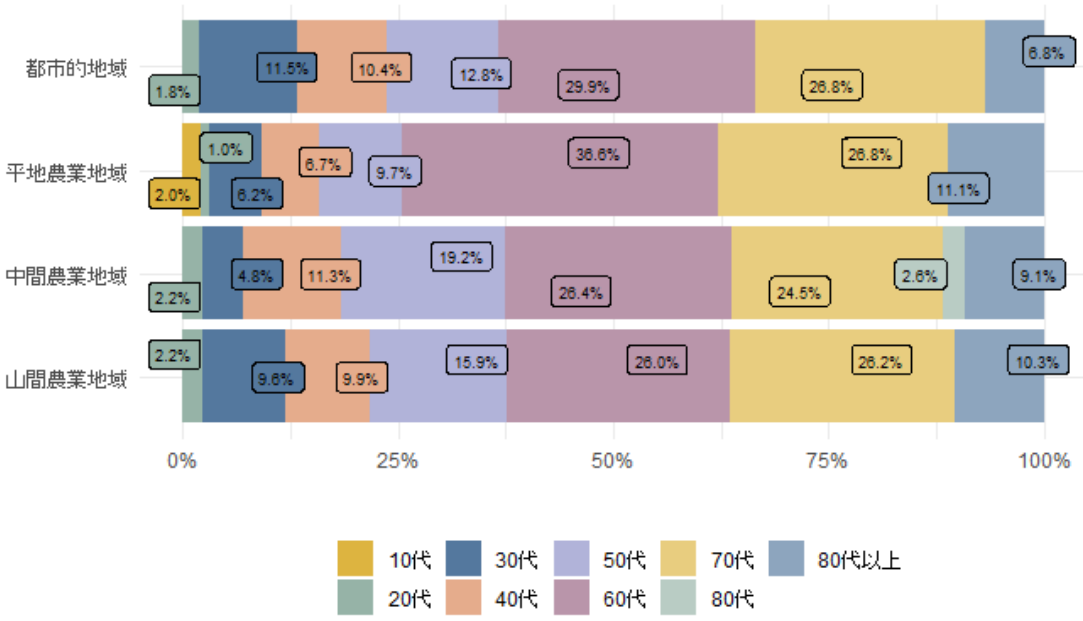
（1）全体

回答者の年代を見ると約６割が６０歳以上であるが、購買サービスと比較すると若干年齢層が低くなっている。



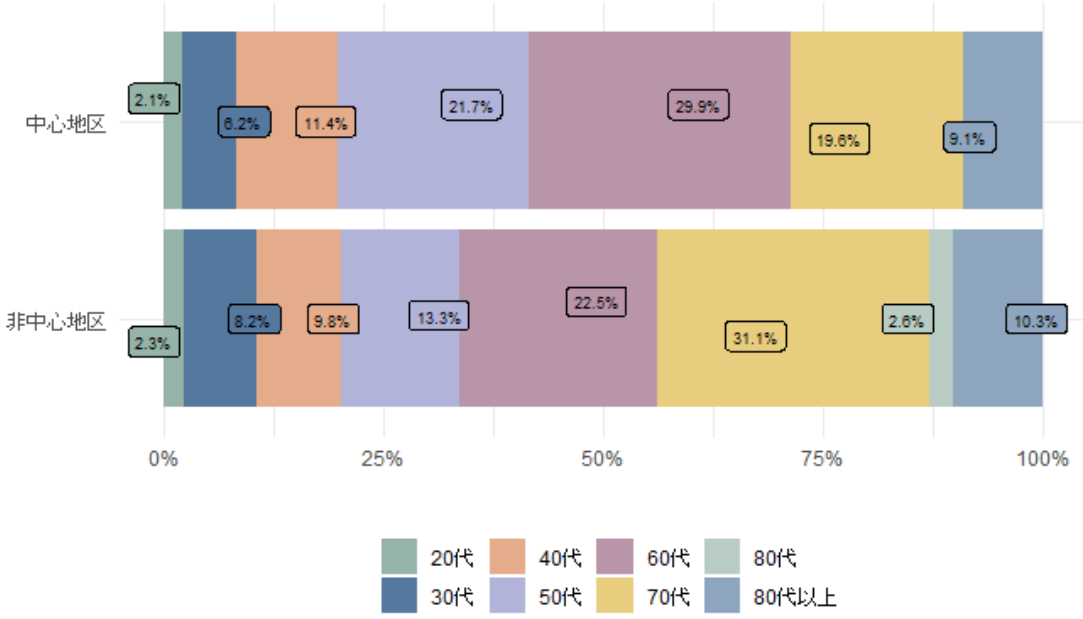
（2）農業地域類型別

平地農業地域での高齢者比率が高い。



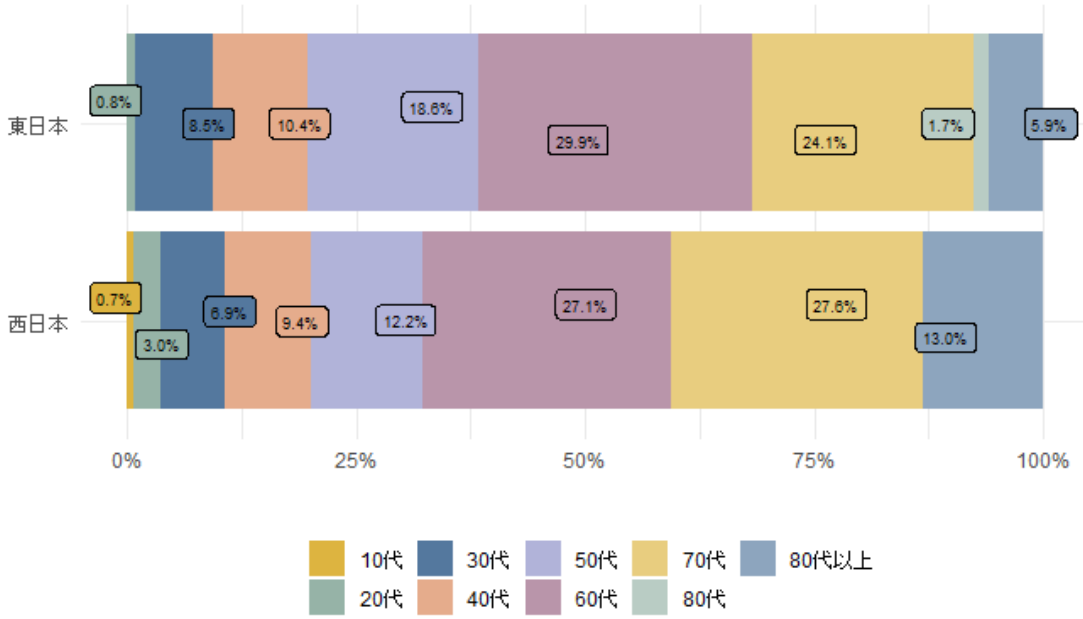
（3）中心地区・非中心地区別

非中心地区の方が高齢者の割合が高い。



（4）地域別

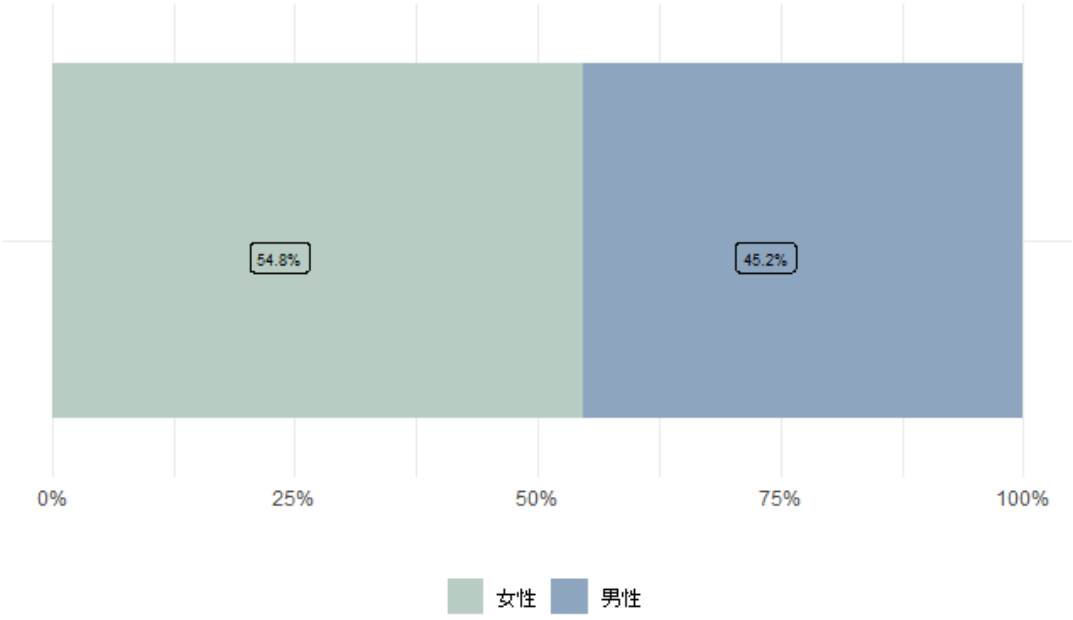
地域別にみると若干西日本で高齢化率が高い。



4.3.2. 回答者の性別

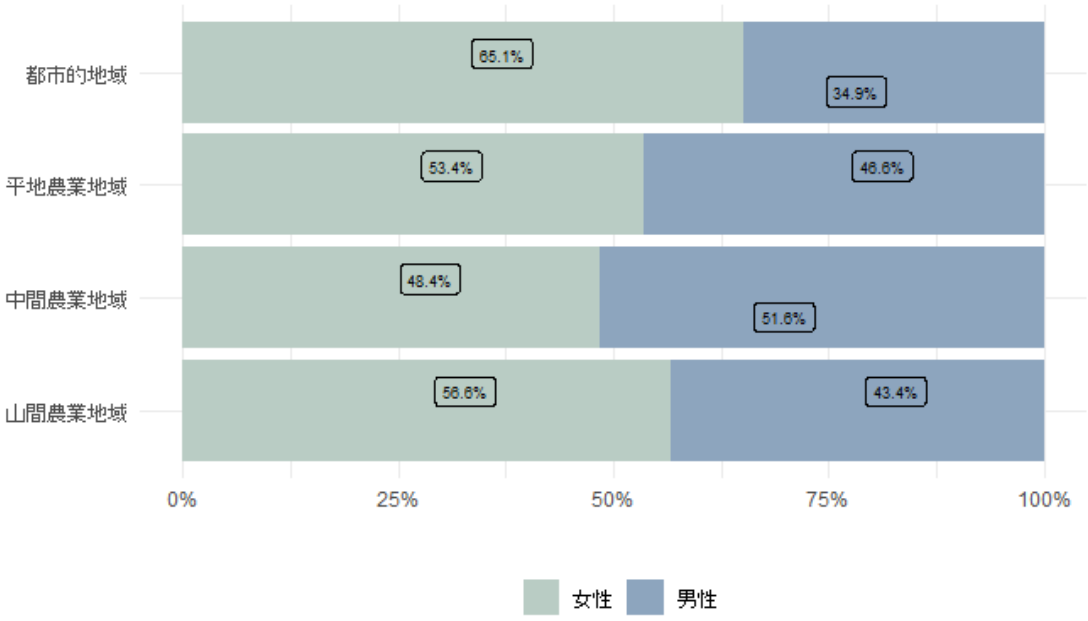
（1）全体

男女比率は購買サービスとは大きく異なり、男性比率が５割近くになっている。



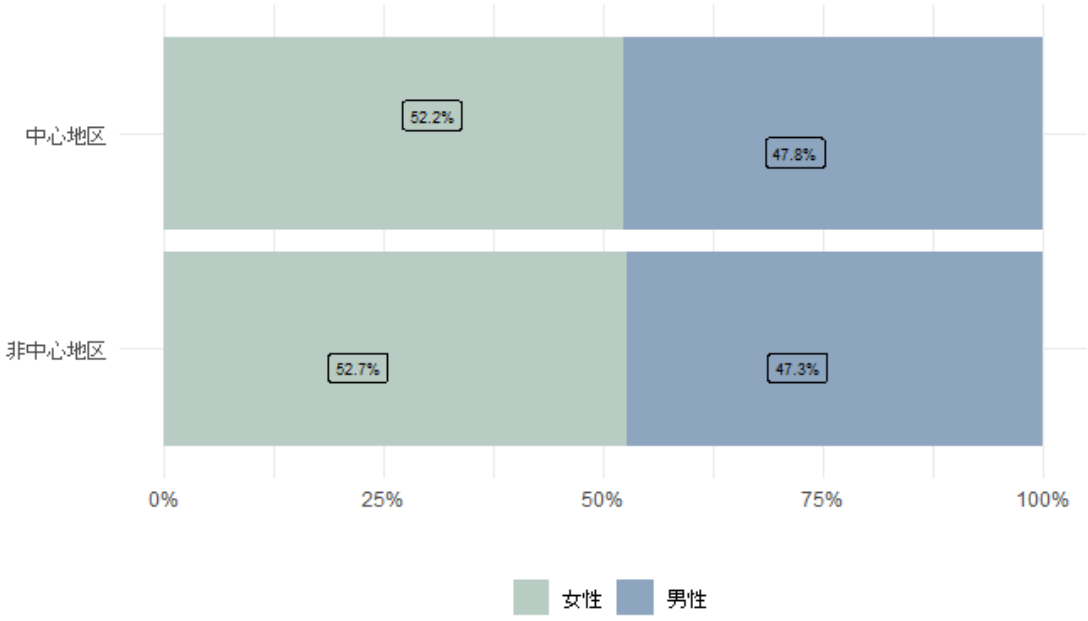
（2）農業地域類型別

都市的地域で女性の割合が若干高くなっている。



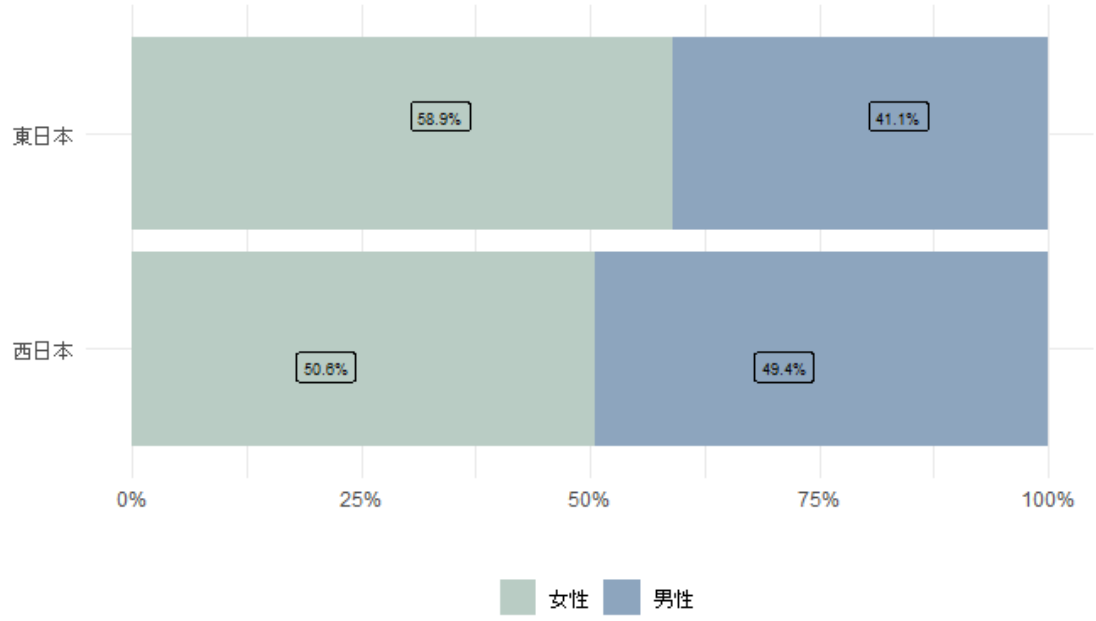
（3）中心地区・非中心地区別

中心地区、非中心地区で大きな違いは無い。



（4）地域別

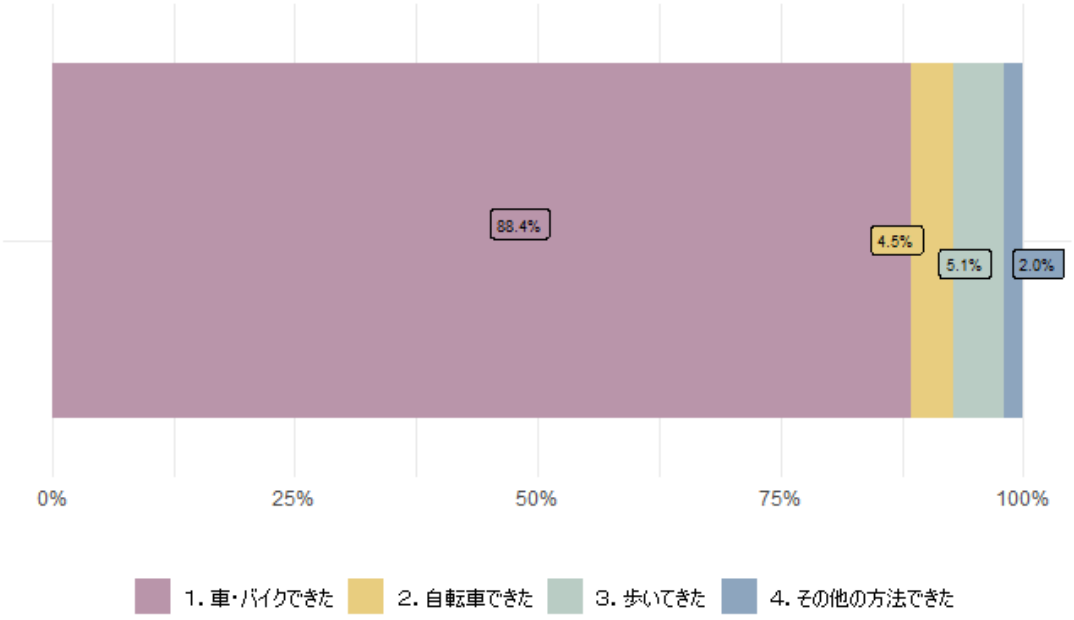
地域別に見ると東日本において女性の割合が高くなっている。



4.3.3. 来場の方法

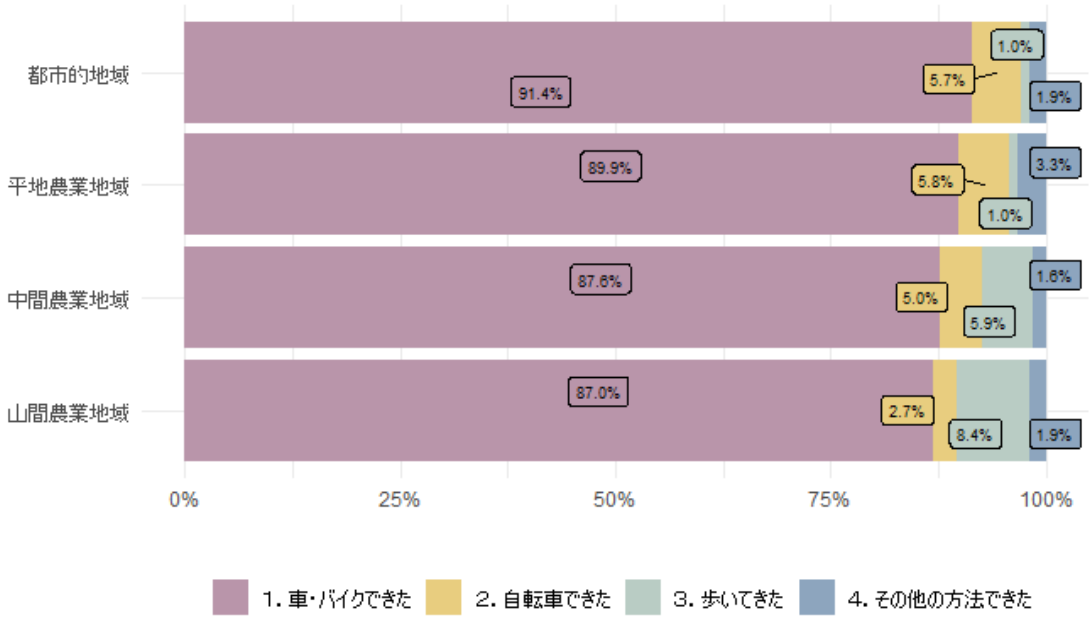
（1）全体

全体の９割近くが車・バイクで来場している。



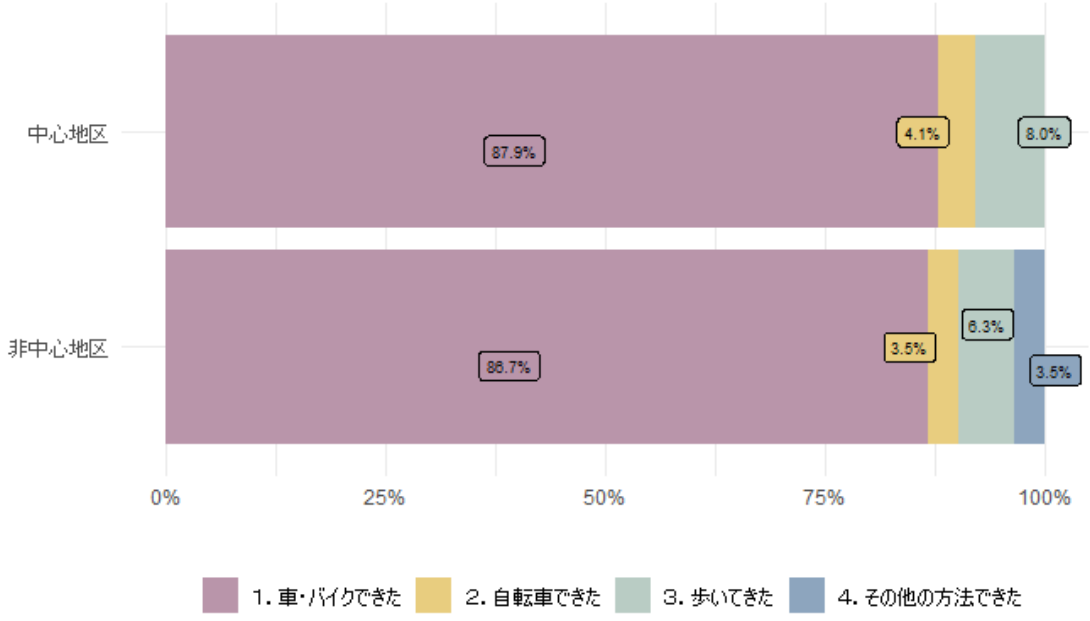
（2）農業地域類型別

車・バイクを利用する割合は都市的地域、平地農業地域で高い。



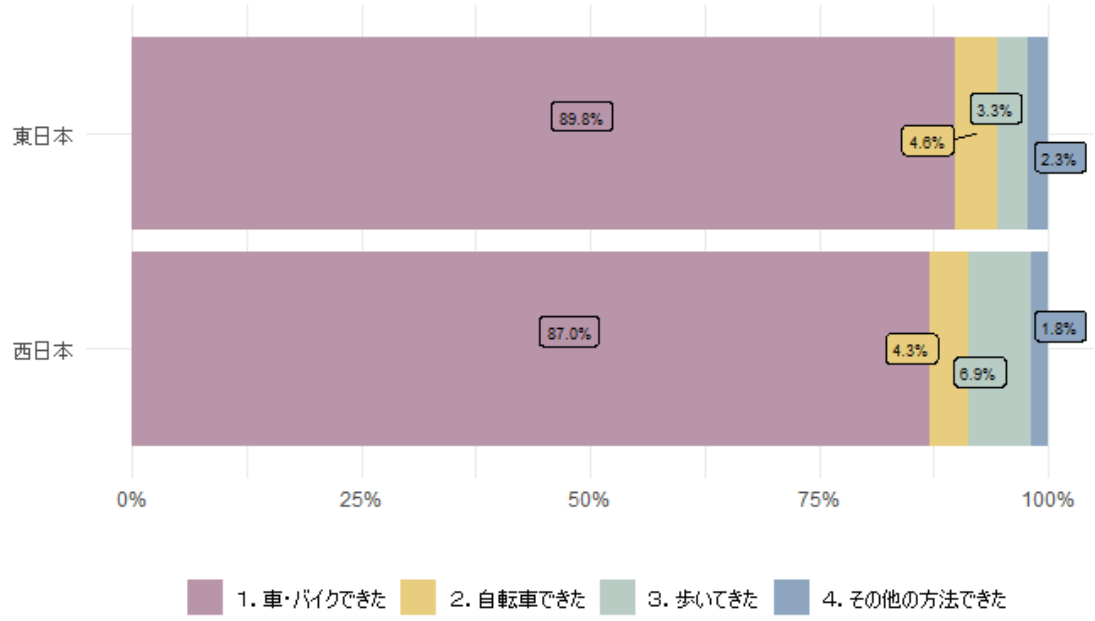
（3）中心地区・非中心地区別

中心地区、非中心地区で大きな違いは無い。



（4）地域別

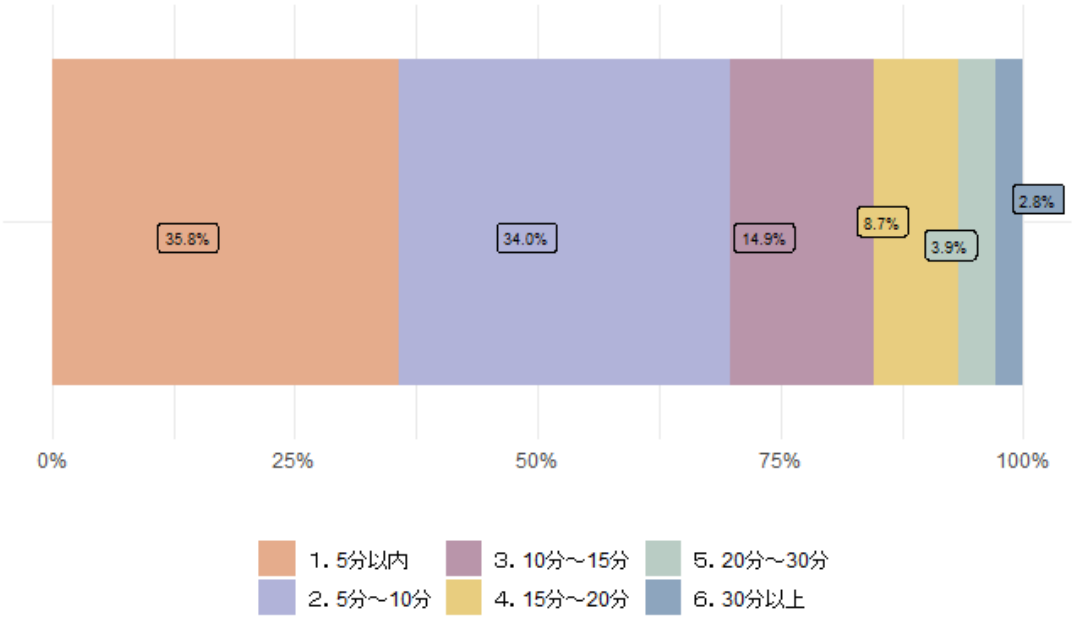
地域別で見ると大きな違いは無い。



4.3.4. 所要時間

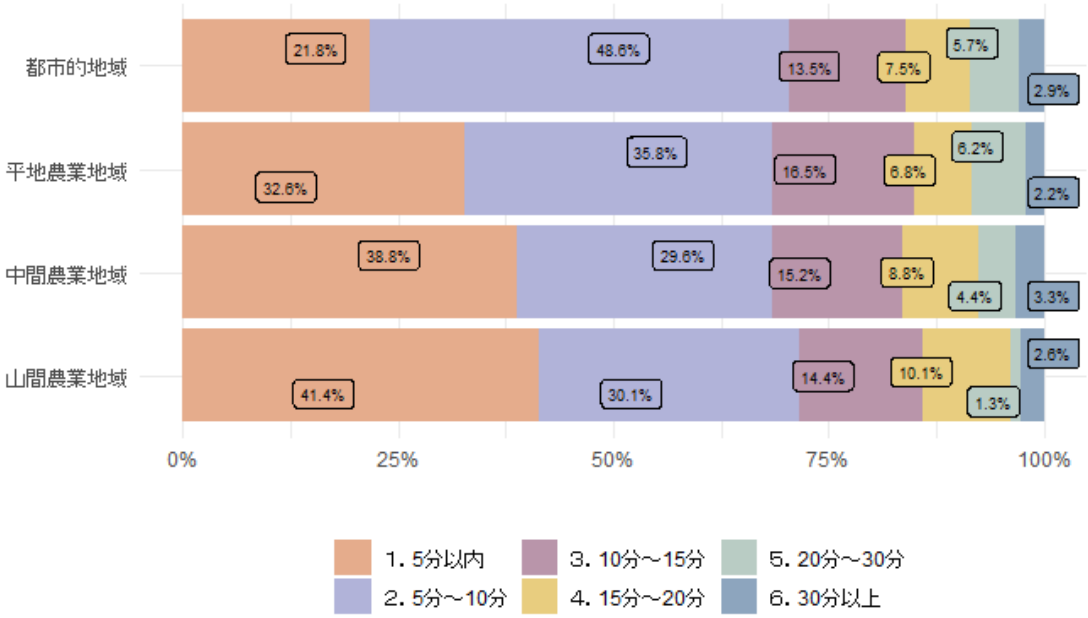
（1）全体

所要時間については、全体の約 7 割が 10 分未満であった。なお、30 分以上かけて来場する人の割合は 3 %程度である。



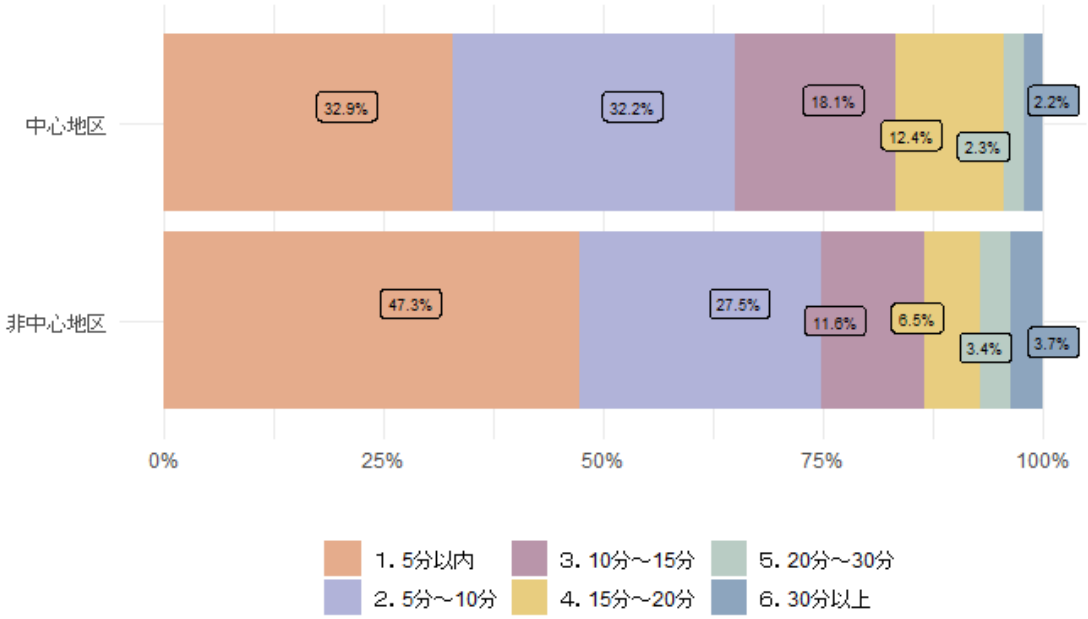
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に見ると、中間、山間になるに従って 5 分以内の割合が高くなっている。



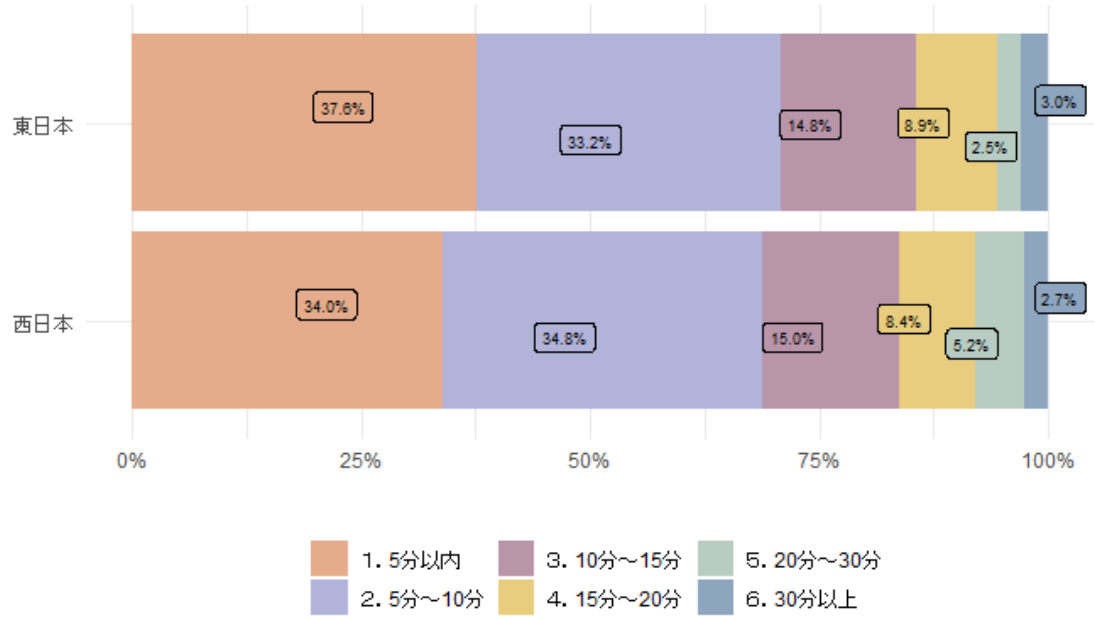
（3）中心地区・非中心地区別

非中心地区の方が所要時間が短い。



（4）地域別

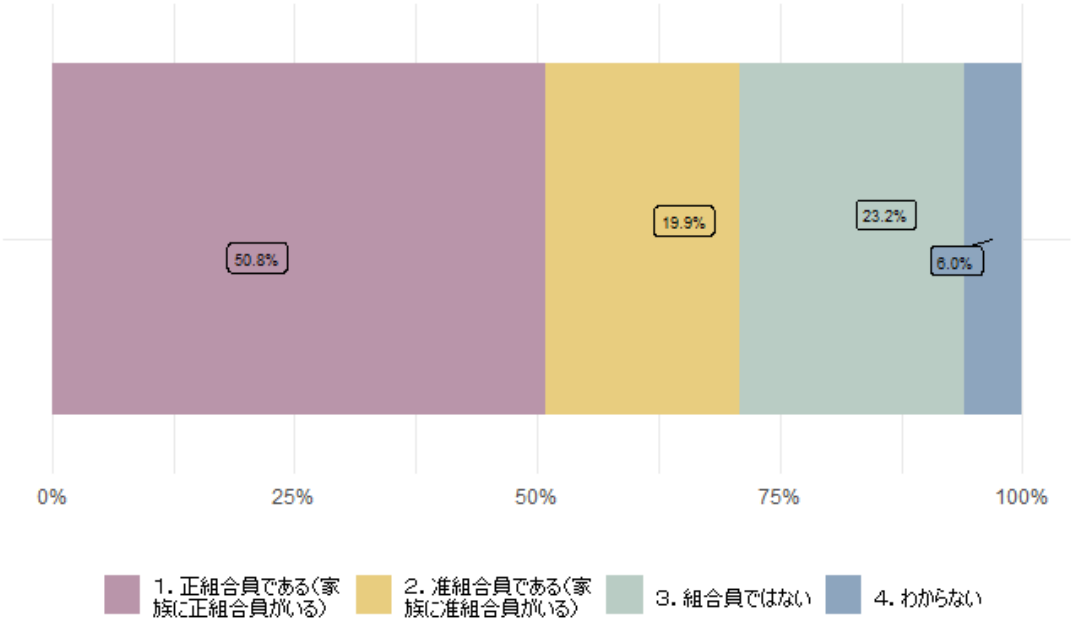
地域別には大きな違いは見られない。



4.3.5. JA への加入状況

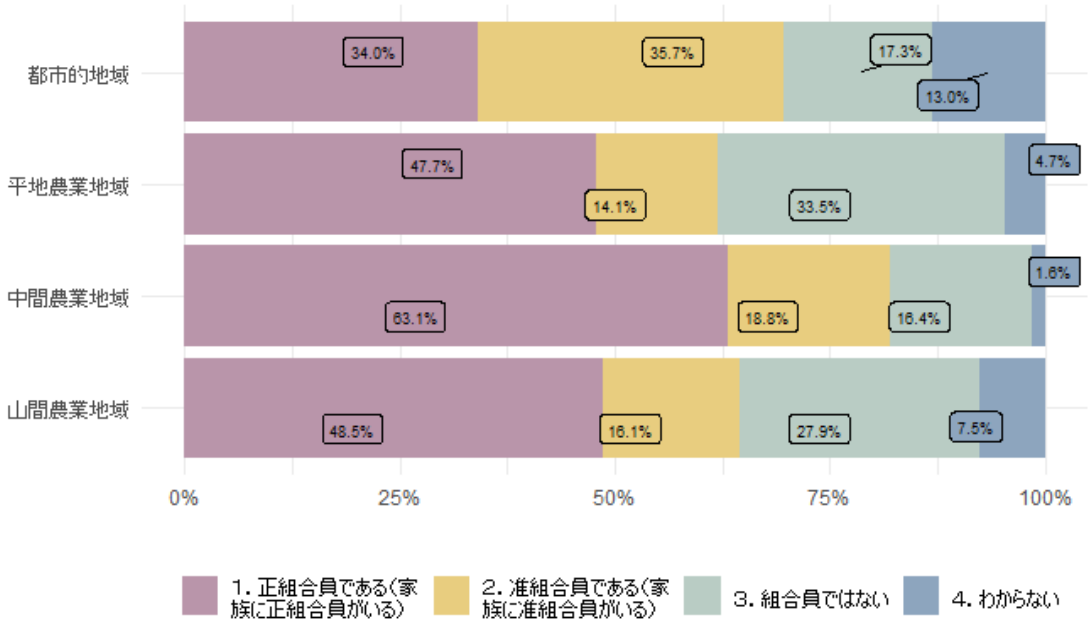
（1）全体

回答者の約半分が正組合員である。



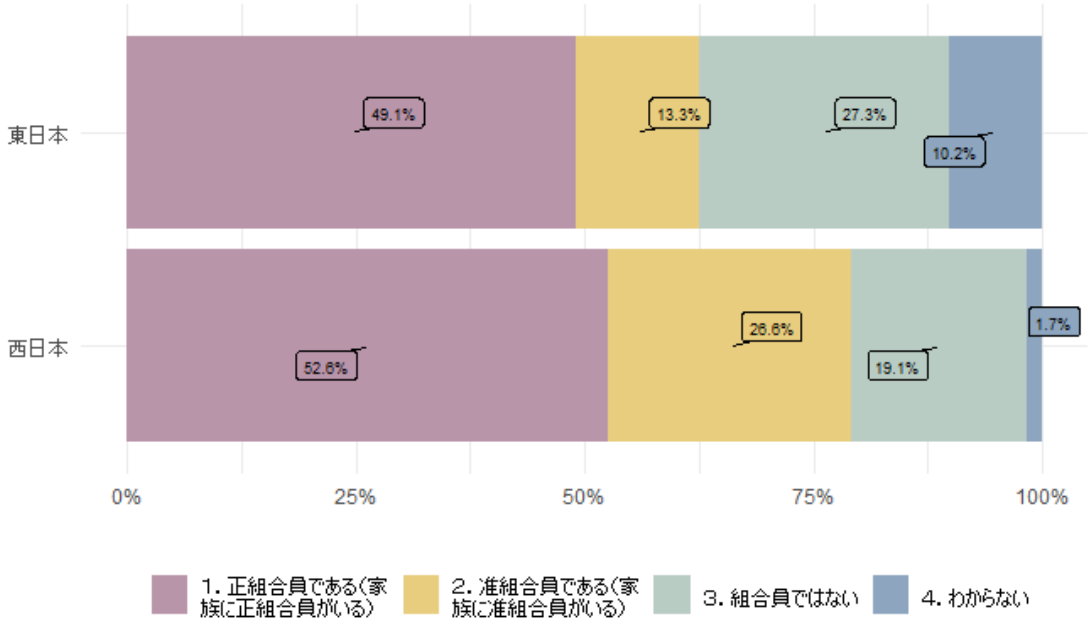
（2）農業地域類型別

都市的地域において正組合員の割合が低く、准組合員の割合が高い。



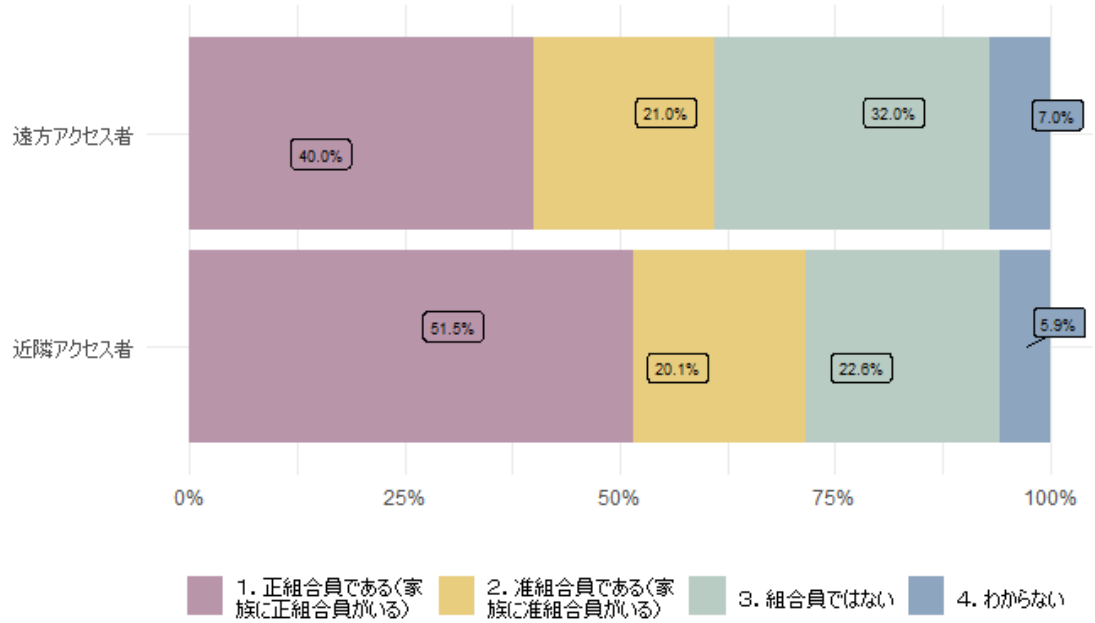
（3）地域別

地域別に見ると西日本の方が組合員率が高い。



（4）アクセス状況別

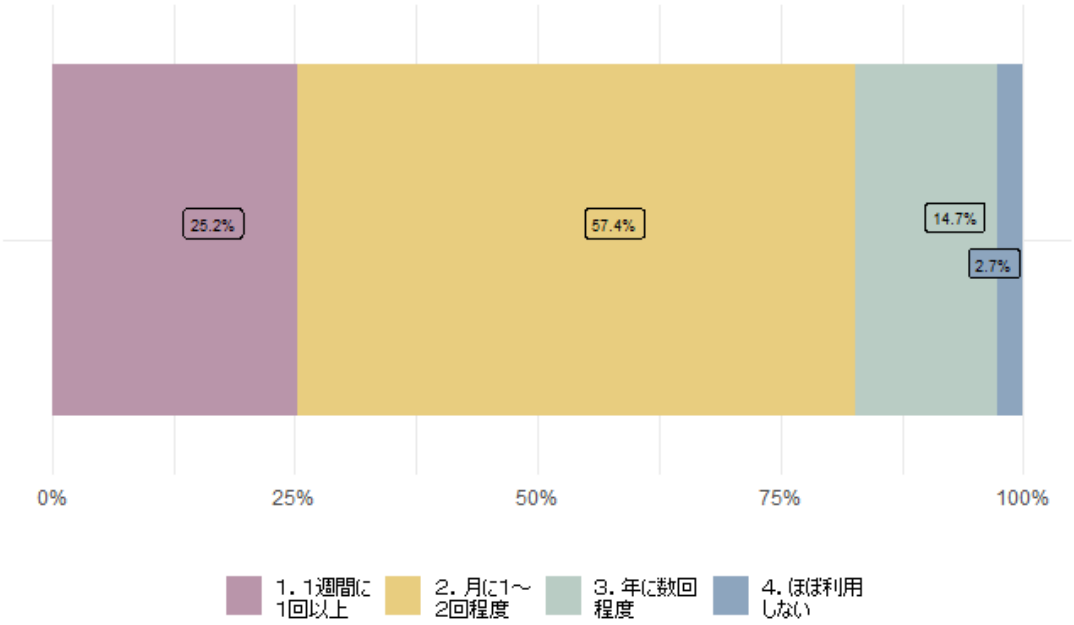
遠方からアクセスしている人の正組合員比率は低い。



4.3.6. 利用頻度

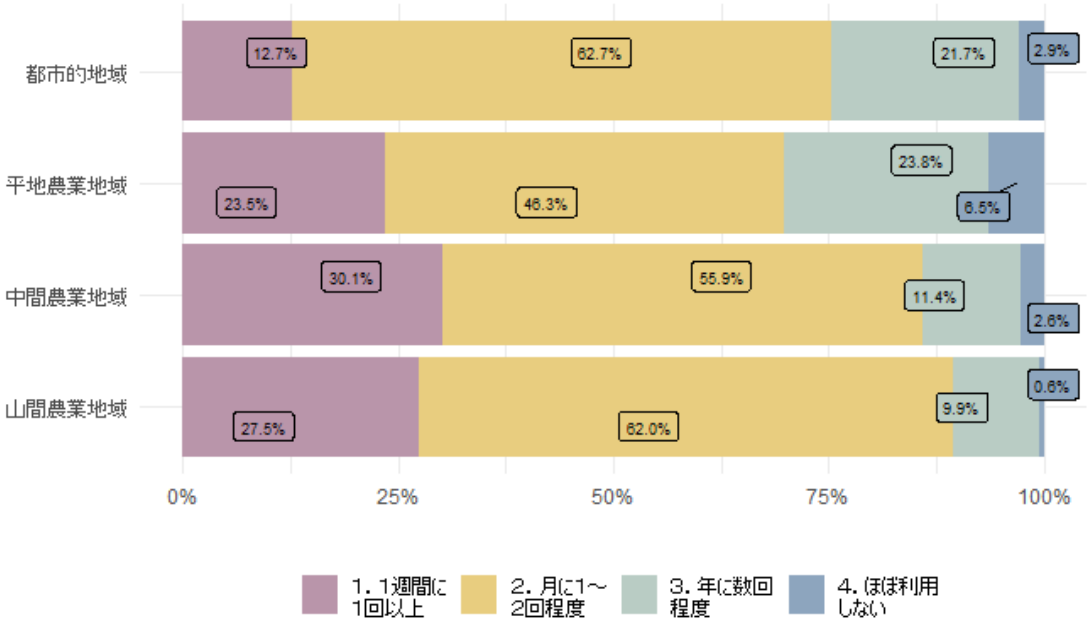
（1）全体

「１週間に１回以上」という回答が 25%程度、「月に１～２回程度」が６割弱であり、両者を併せると８割以上が月に１回以上利用している。



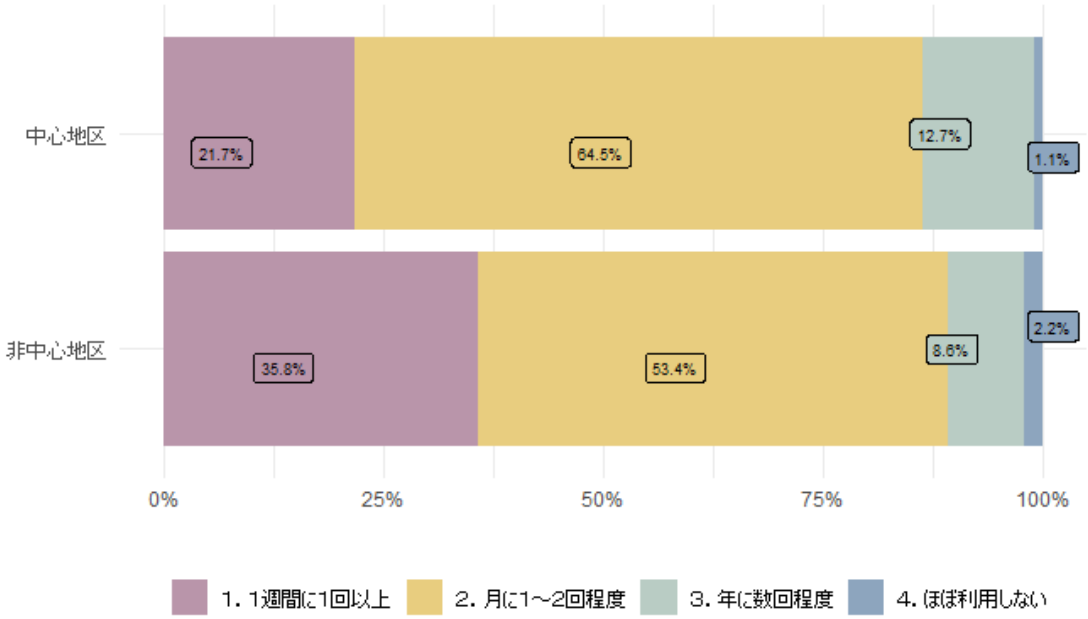
（2）農業地域類型別

「１週間に１回以上」利用する割合は都市的地位で低い。月に１度以上利用する割合は、中間農業地域、山間農業地域で若干高い。



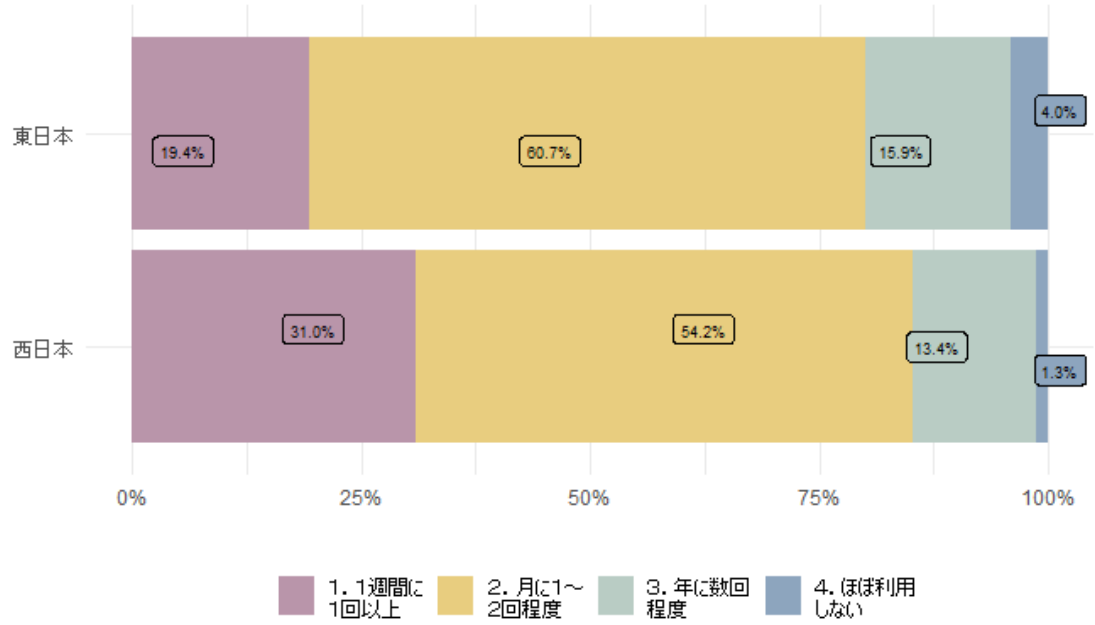
（3）中心地区･非中心地区別

非中心地区の方が利用頻度が高い。



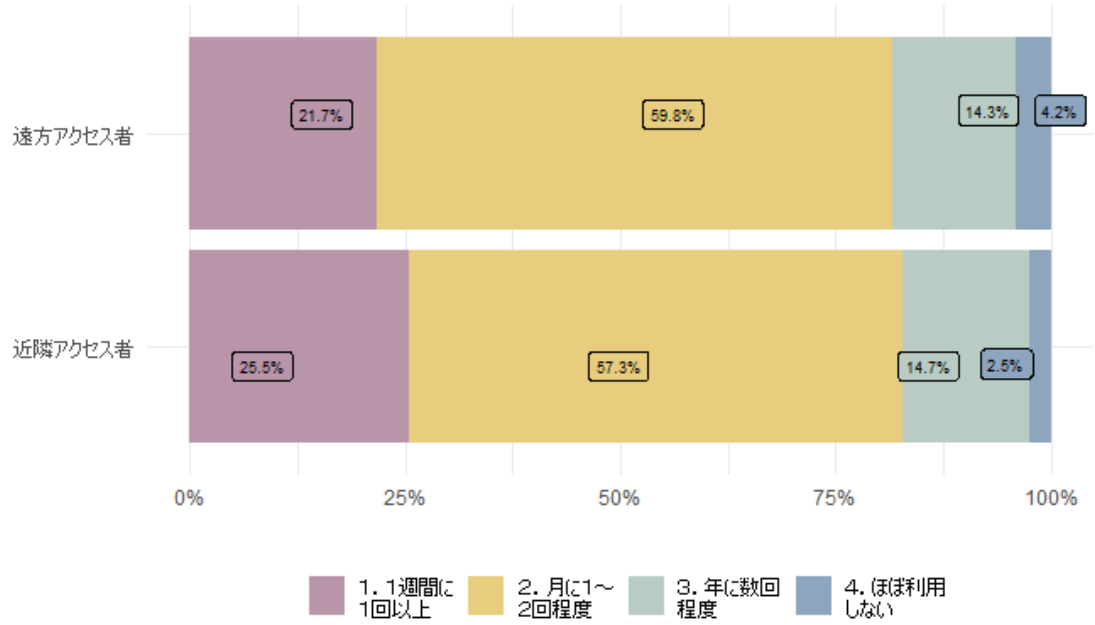
（4）地域別

西日本の方が利用頻度が若干高い。



（5）アクセス状況別

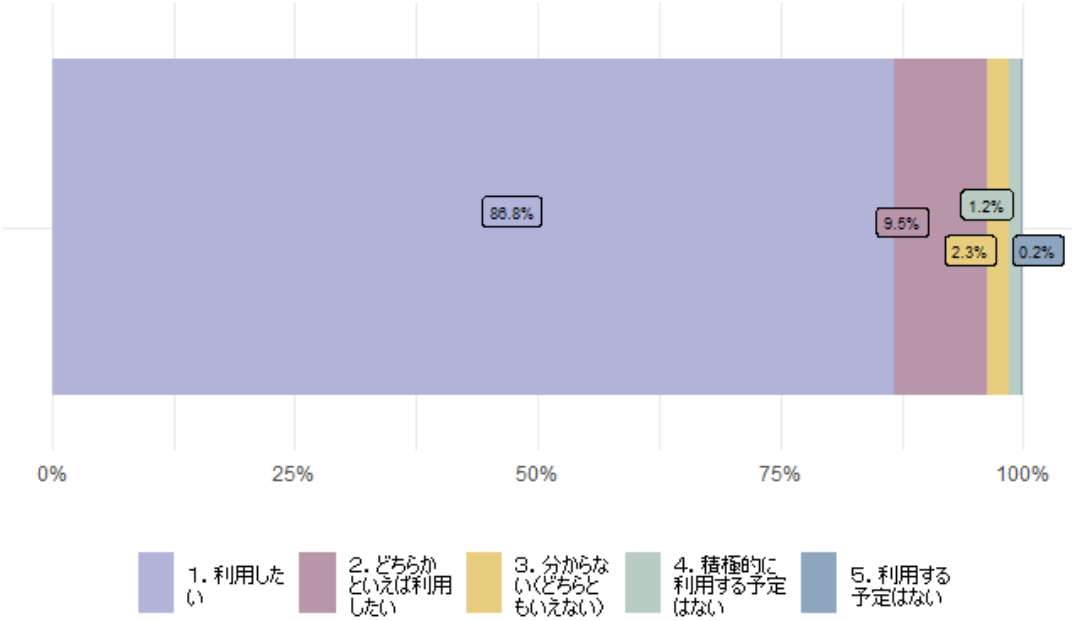
アクセス状況ではあまり変わらない。



4.3.7. JA 施設の利用意向

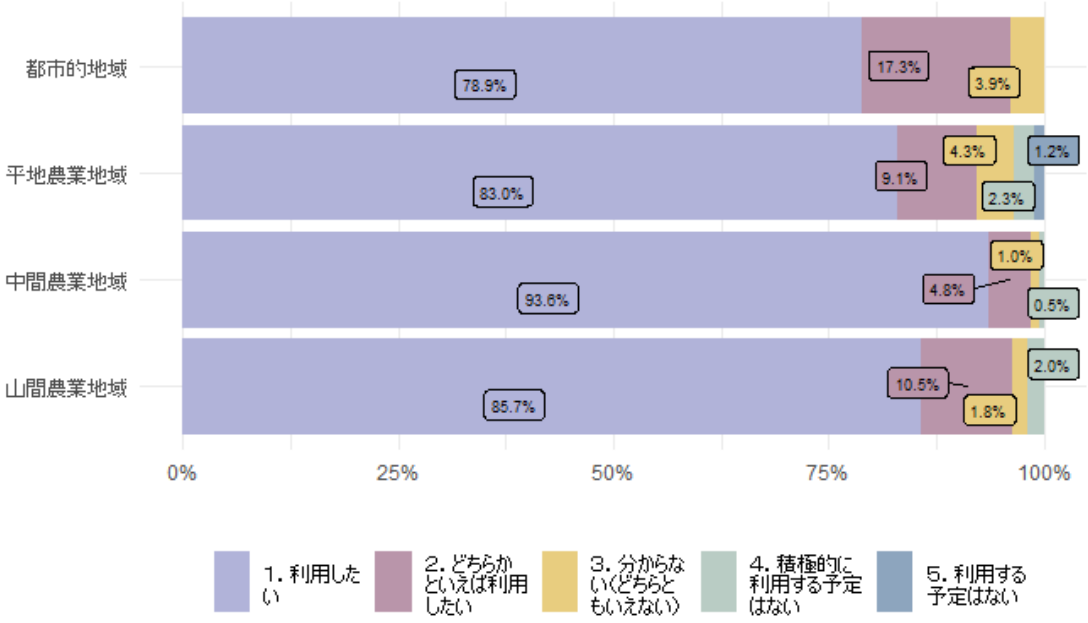
（1）全体

全体の９割近くが今後も「利用したい」と回答している。



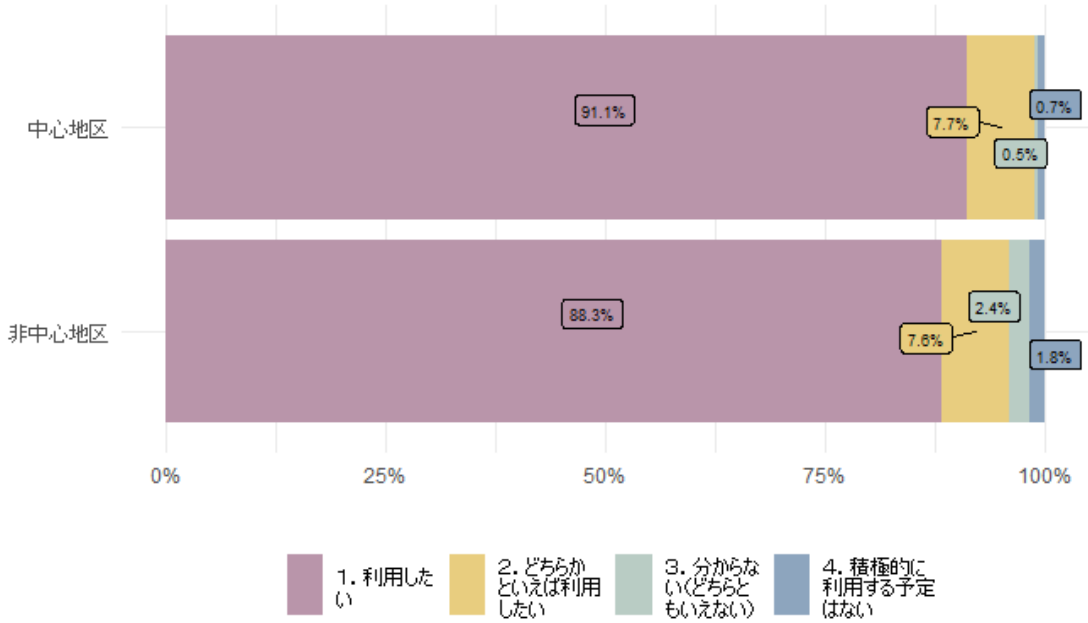
（2）農業地域類型別

中間農業地域の利用意向が若干高い。



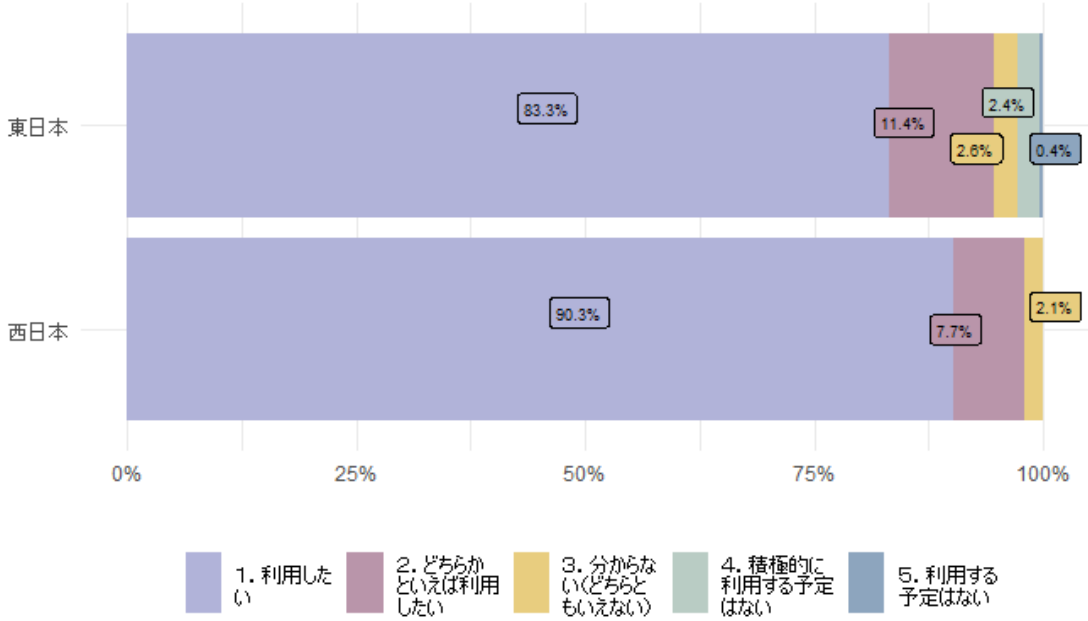
（3）中心地区･非中心地区別

中心地区、非中心地区で大きな違いは無い。



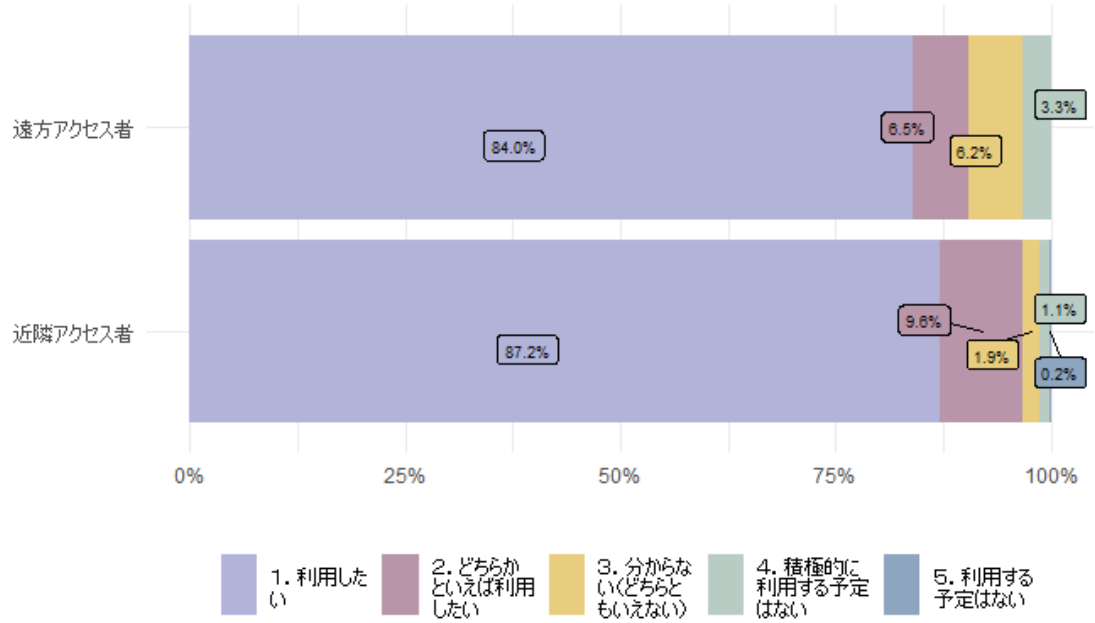
（4）地域別

地域別に見ると西日本の方が若干利用意向が高い。



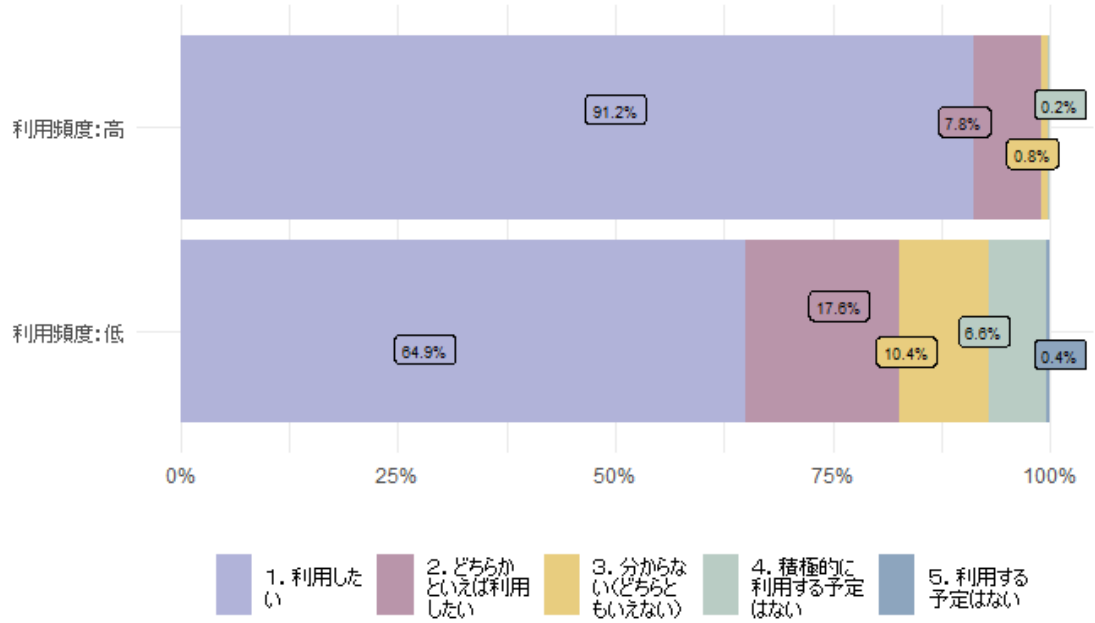
（5）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人の利用意向は若干低い。



（6）利用頻度別

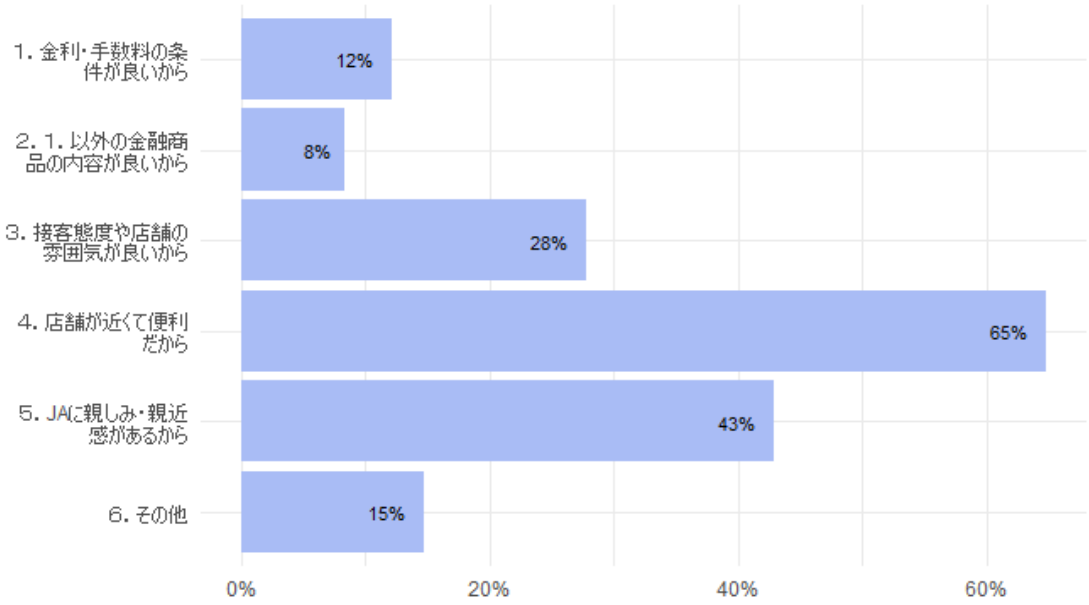
利用頻度が低い回答者の利用意向は低い。



4.3.8. 今後も利用したい理由

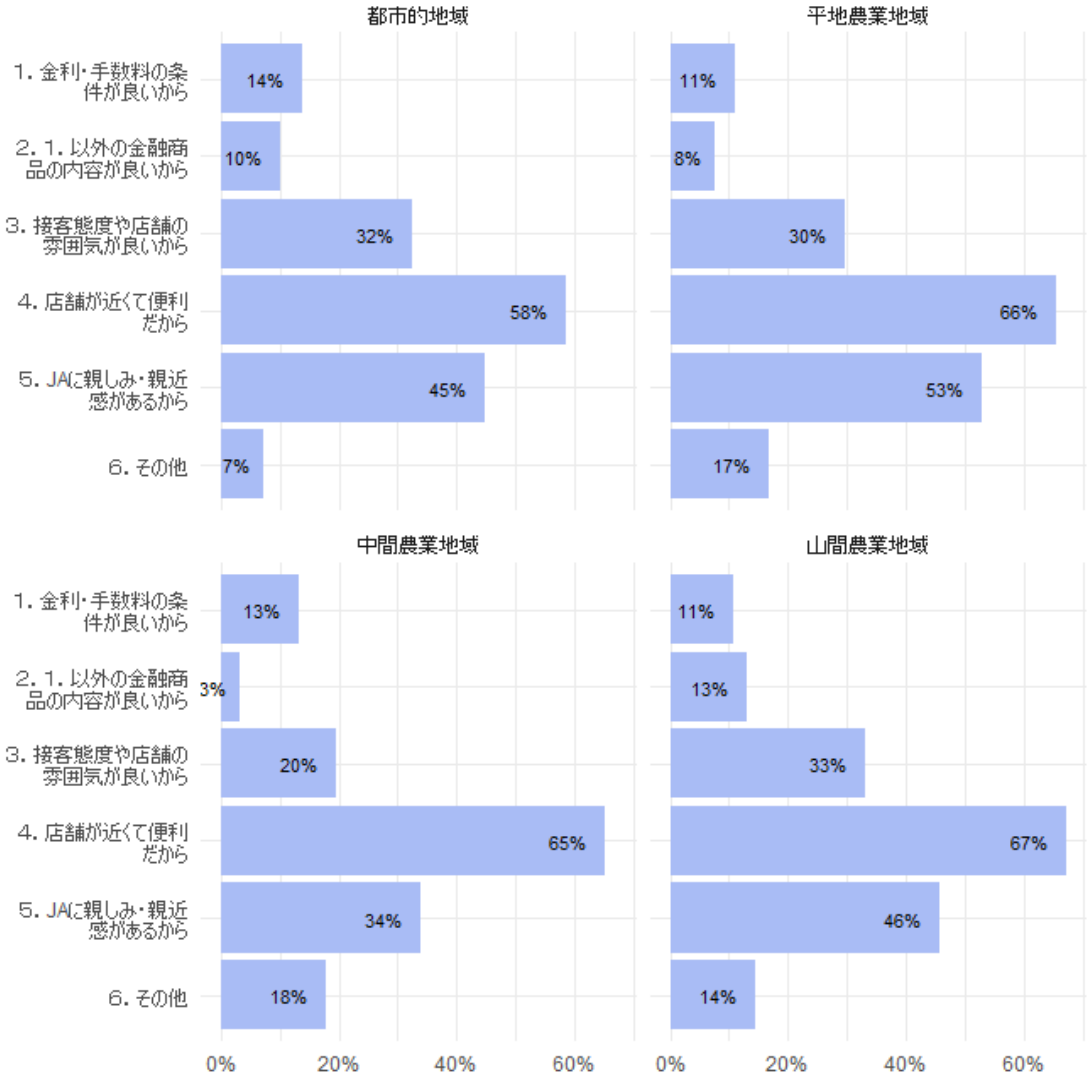
（1）全体

今後も利用したい理由として「店舗が近くて便利だから」が最も多く、「JA に親しみ・親近感があるから」がそれにつづいている。



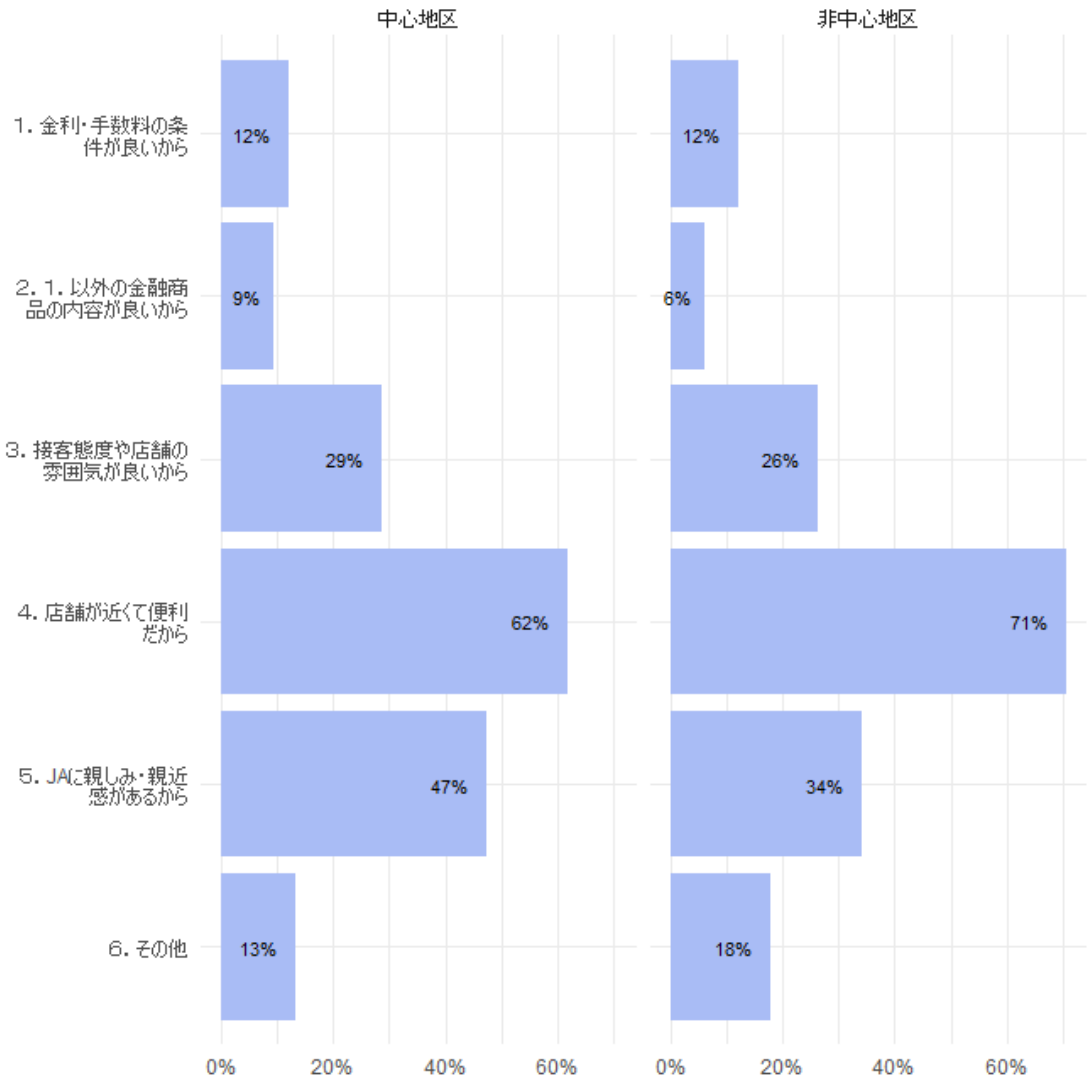
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に見ても傾向は変わらない。



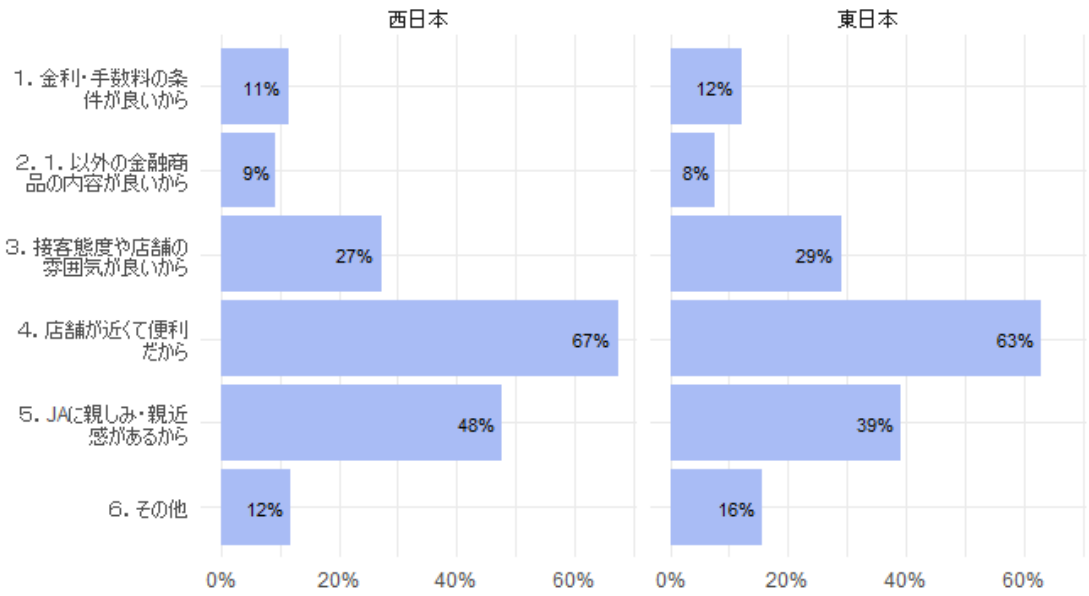
（3）中心地区･非中心地区別

非中心地区の方が近くて便利という比率が高い。



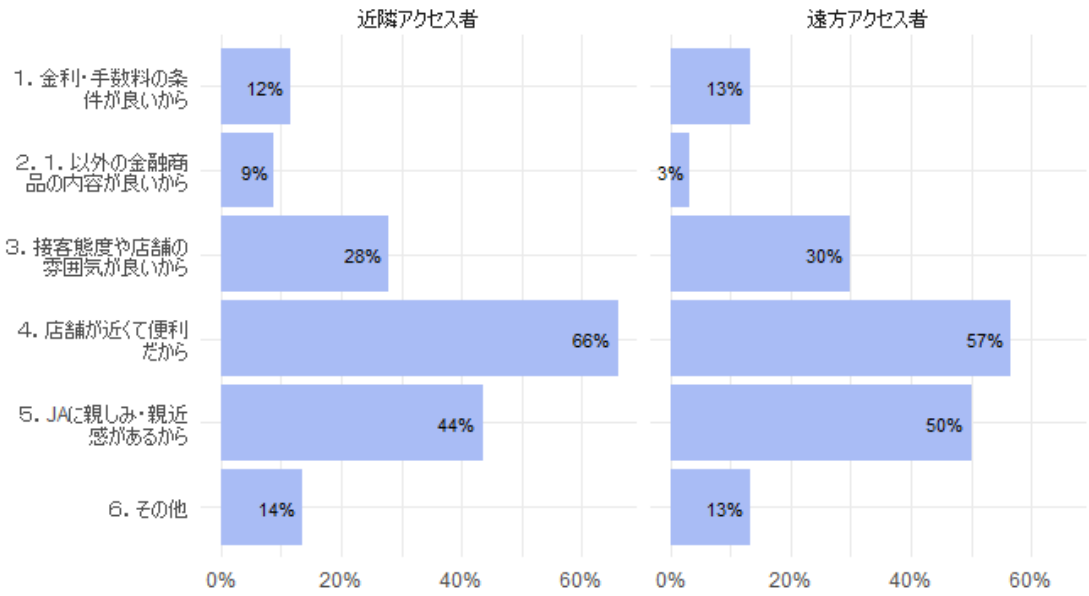
（4）地域別

地域別に大きな差は無いが、西日本は「JA に親しみ・親近感がある」が若干高い。



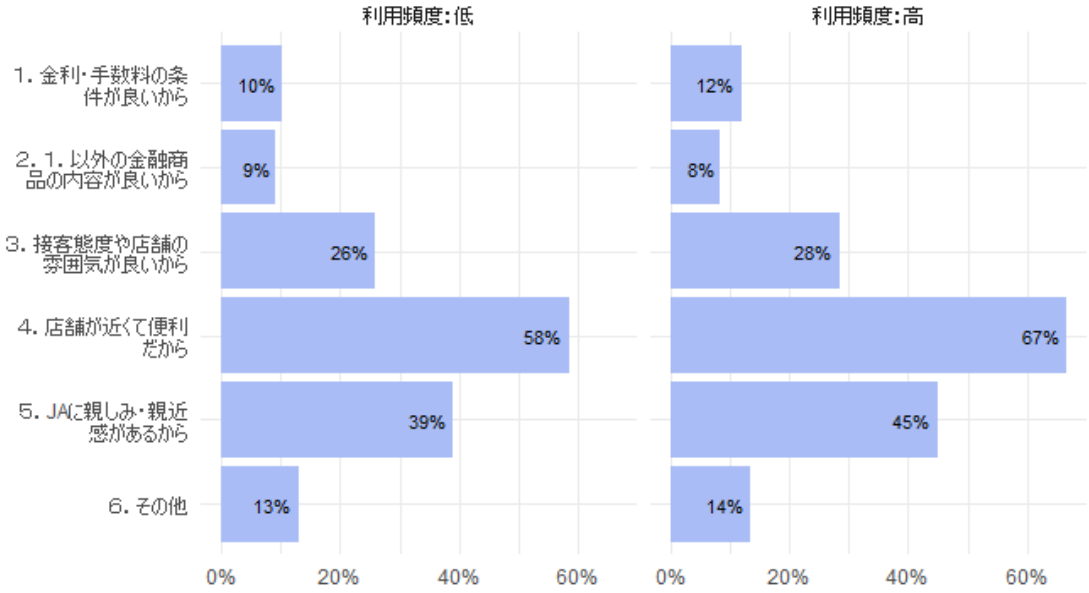
（5）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人の場合、「JA に親しみ・親近感がある」の割合がやや高い。



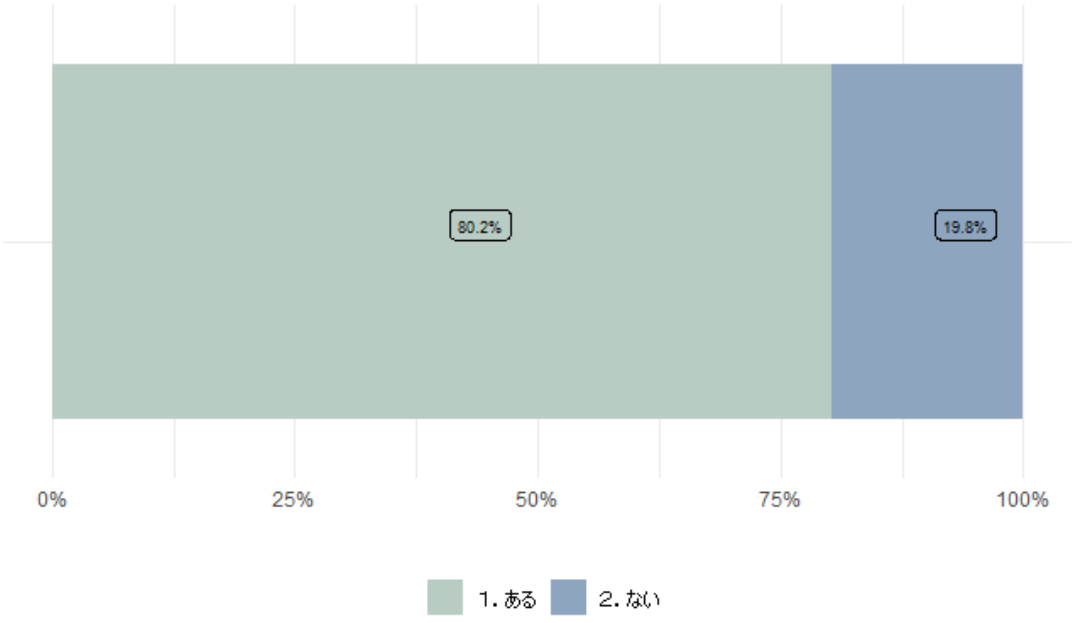
（6）利用頻度別

利用頻度が高い回答者の方が、「店舗が近くて便利」「JA に親しみ・親近感がある」の割合が高い。



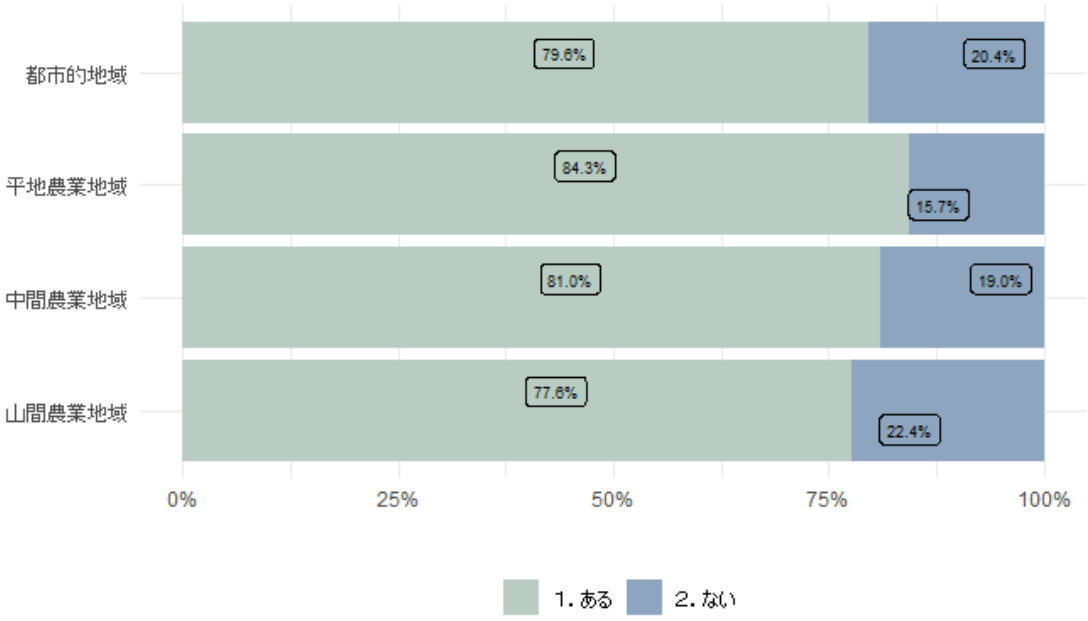
4.3.9. JA 施設以外の利用

8 割の人が JA 施設以外の施設も利用していると回答している。



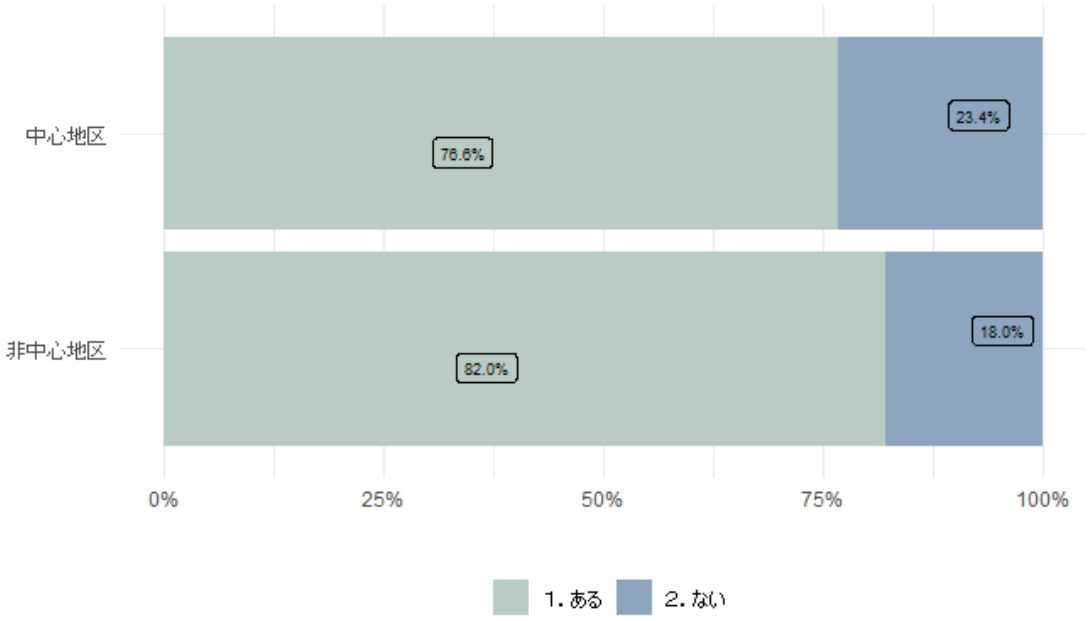
（1）農業地域類型別

平地農業地域においては、JA 以外の施設を利用している割合が若干高い。



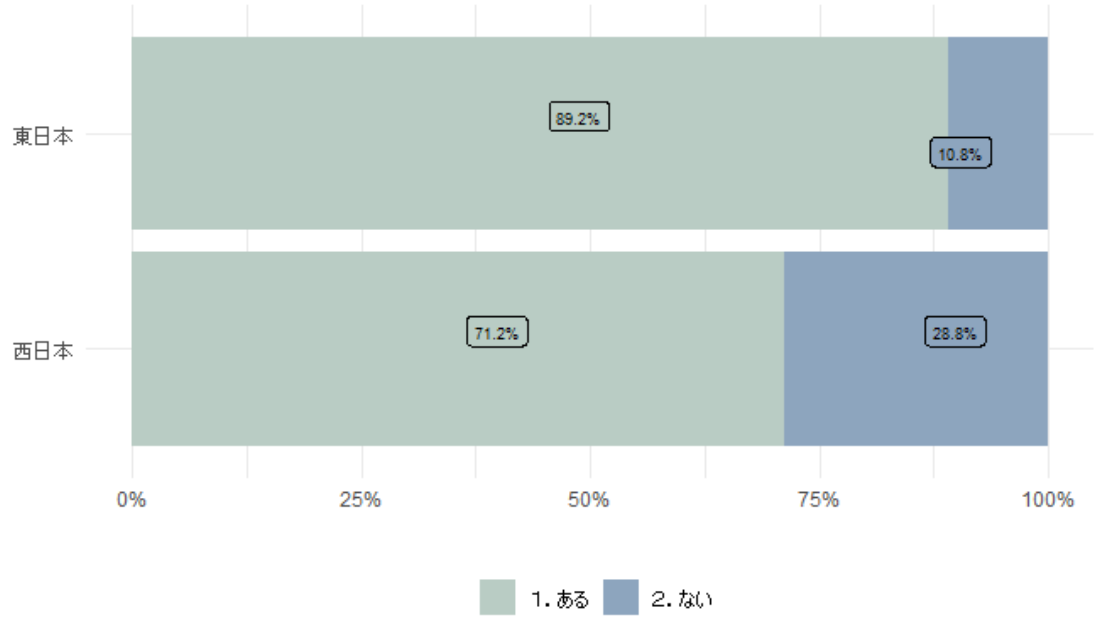
（2）中心地区・非中心地区別

非中心地区の方が他に利用している金融機関があると回答する割合が高い。



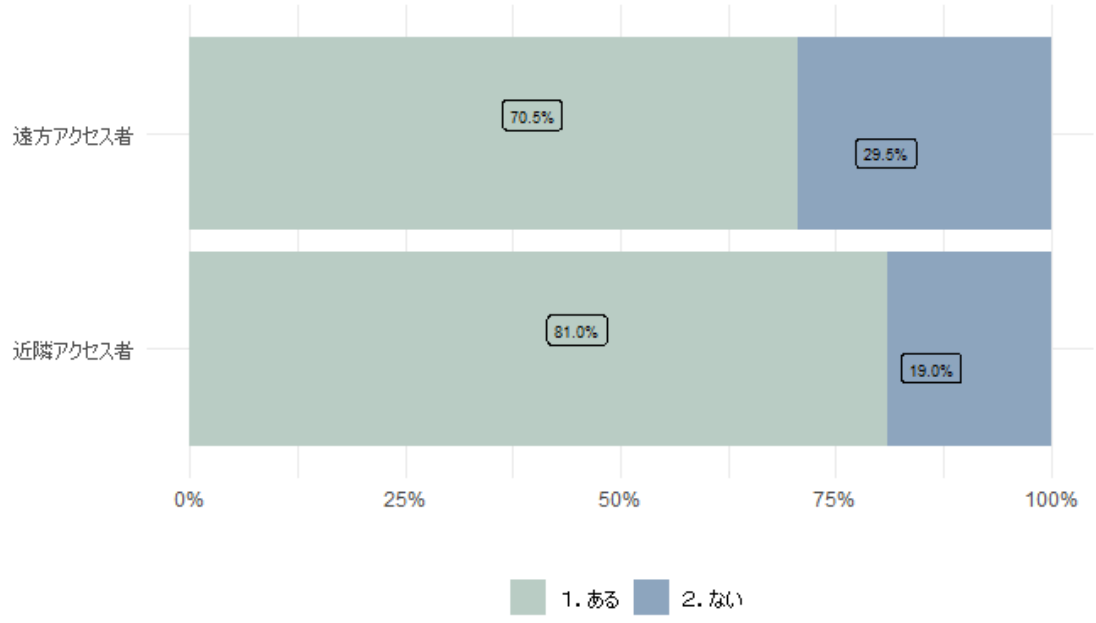
（3）地域別

西日本において、他の店舗を利用していないと回答している割合が高い。



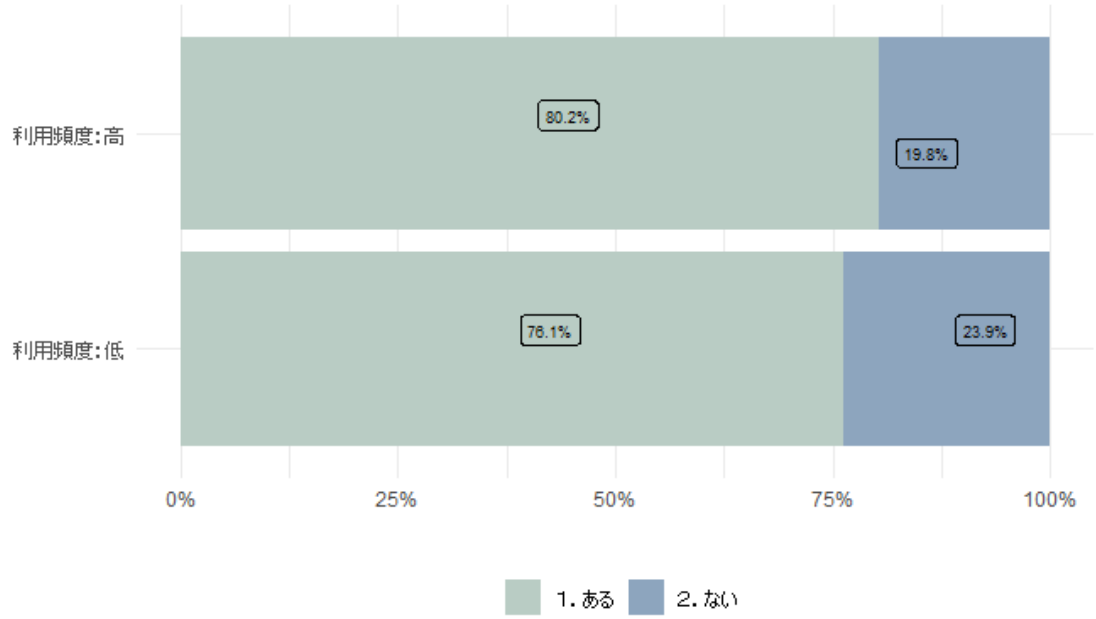
（4）アクセス状況別

遠方アクセス者の方が他の施設を利用しない割合が高い。



（5）利用頻度別

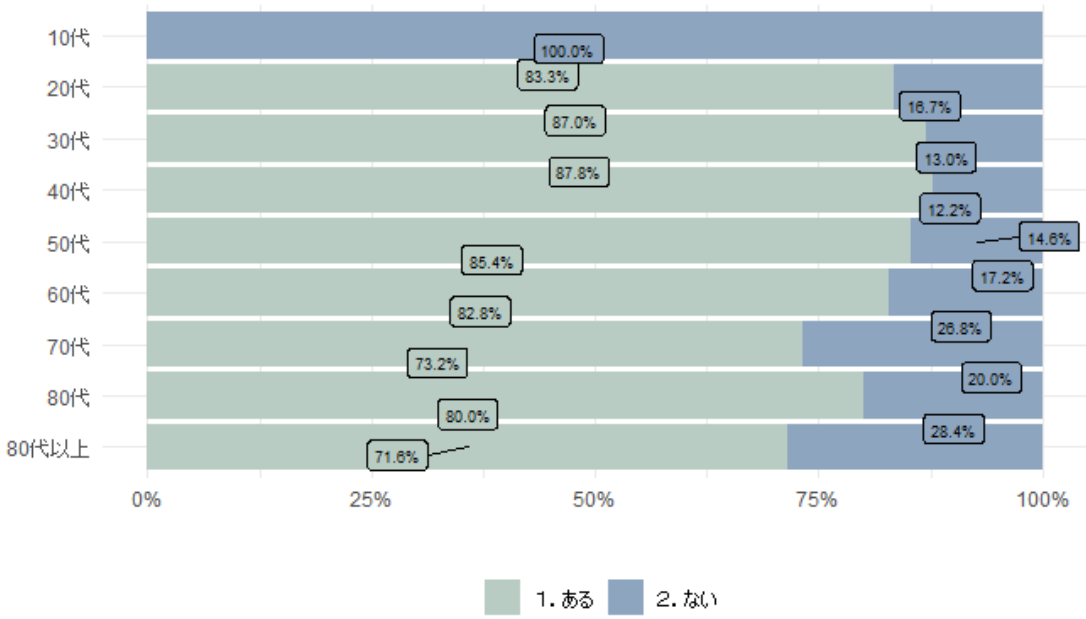
利用頻度が高い人の方が他の店がないと回答している割合が若干高い。



（6）年齢層別

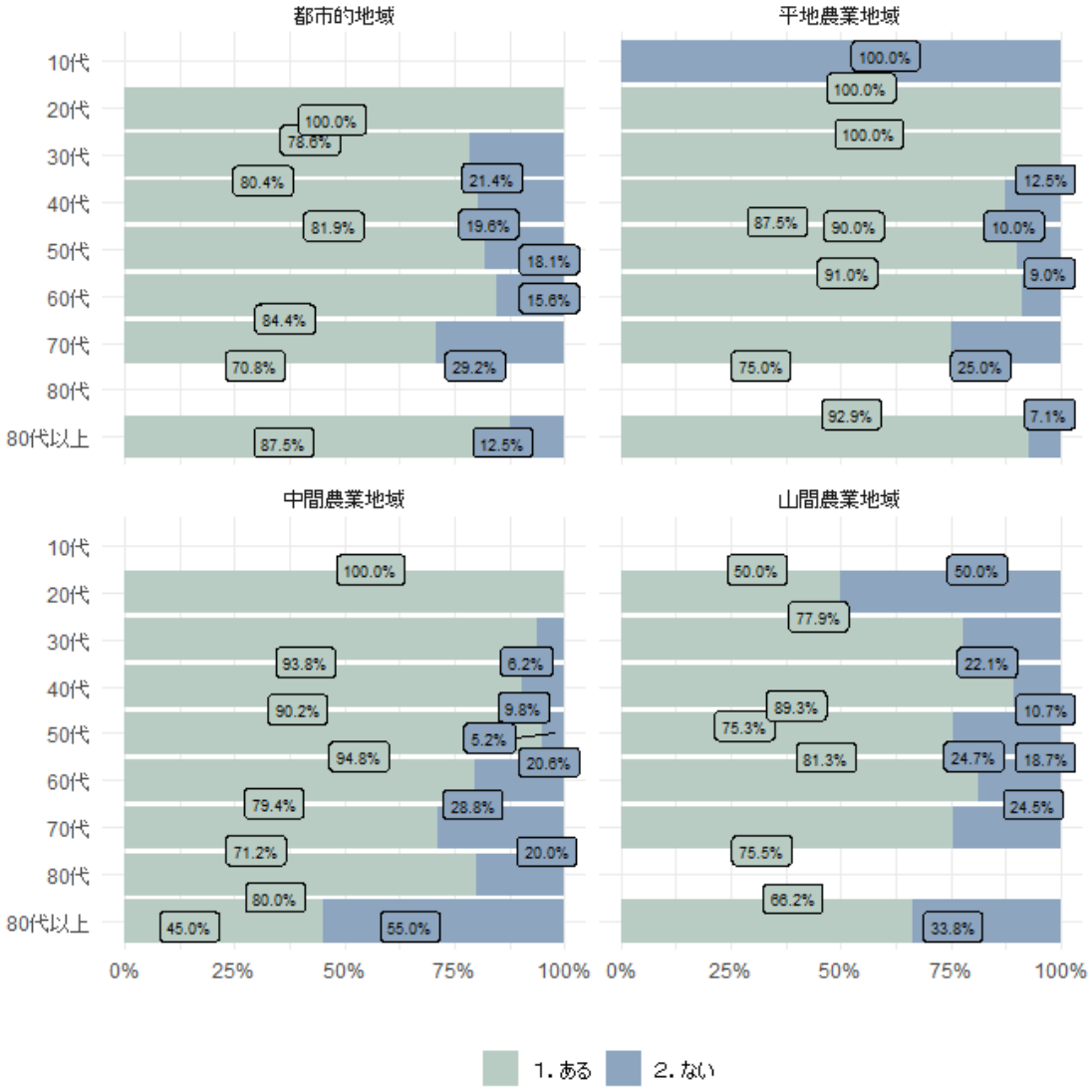
①全体

年齢構成での違いは大きくはないが、年代が高くなると他の施設を利用しない割合が若干高まる。



②農業地域類型別

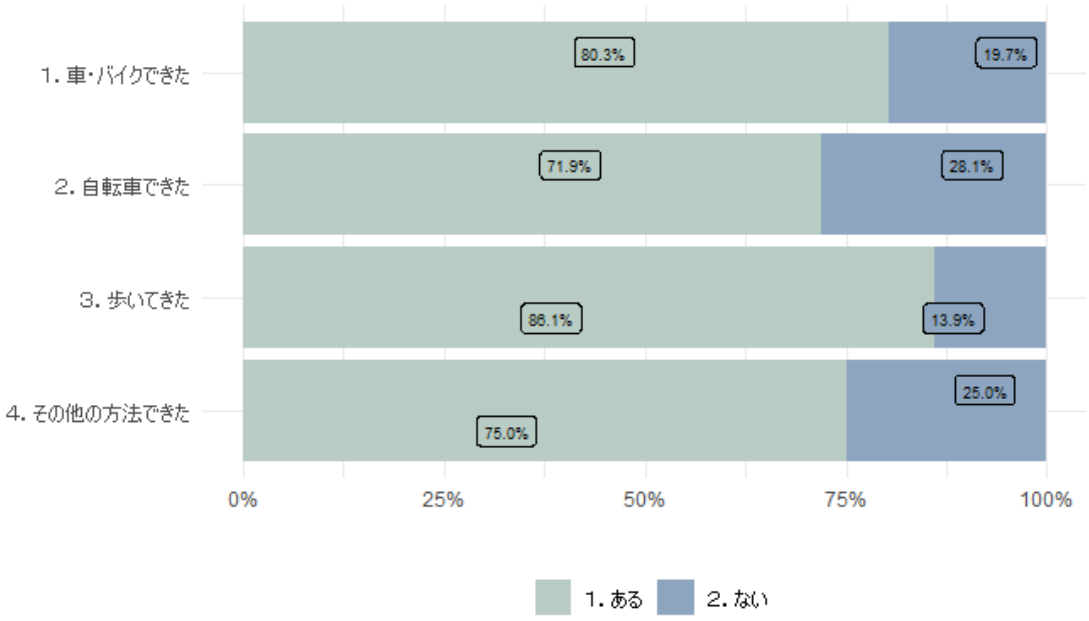
特に、中間農業地域、山間農業地域で、80 代が他の施設を利用しないと回答する割合が高くなる。



（7）移動手段別

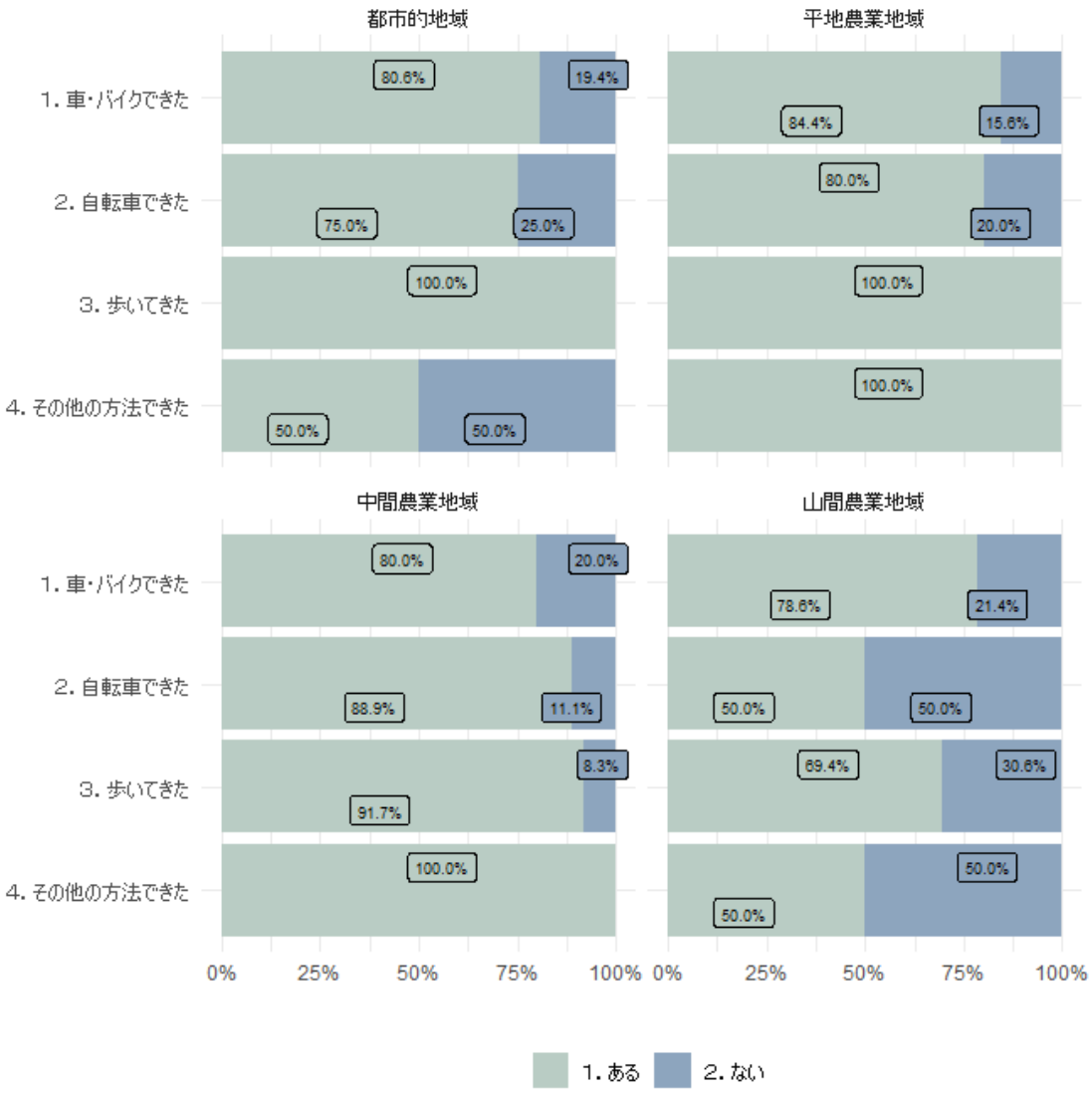
①全体

移動手段が自転車、その他の方法であるほうが、他の施設を利用していないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

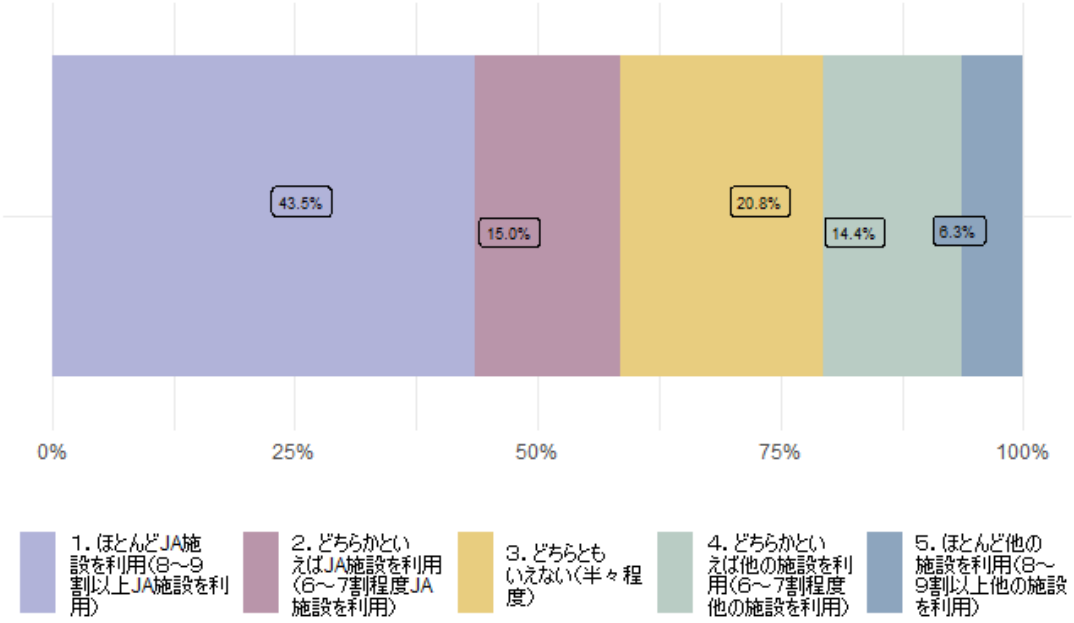
「その他の方法できた」という回答は少ないため、若干結果はばらついている。



4.3.10. 農協施設と農協以外の施設の利用状況

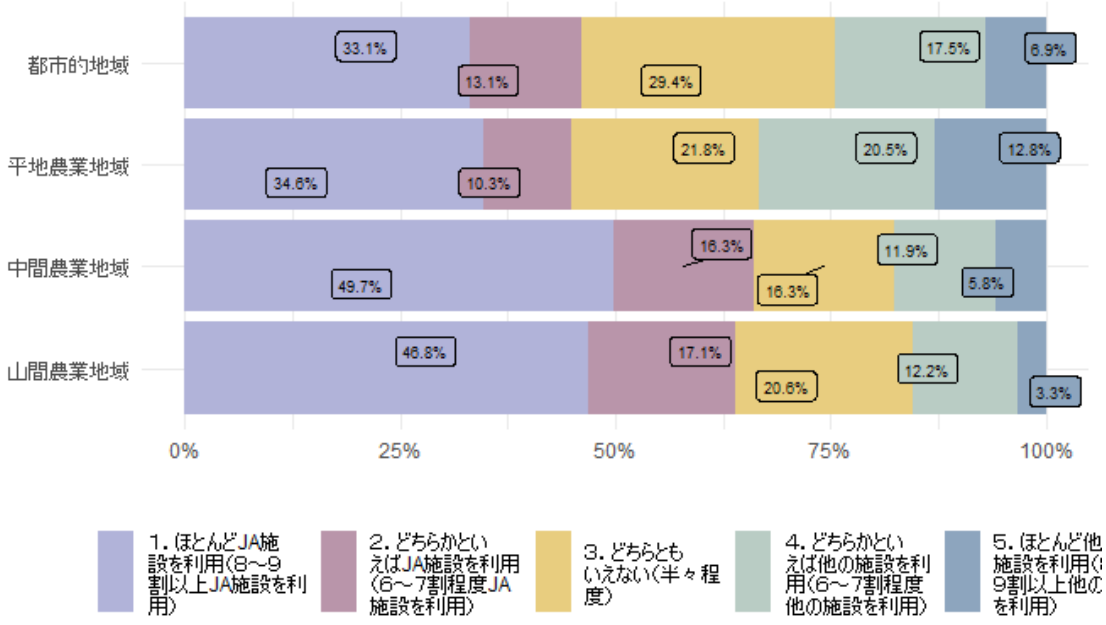
（1）全体

約 6 割が 6 割以上農協施設を利用している。



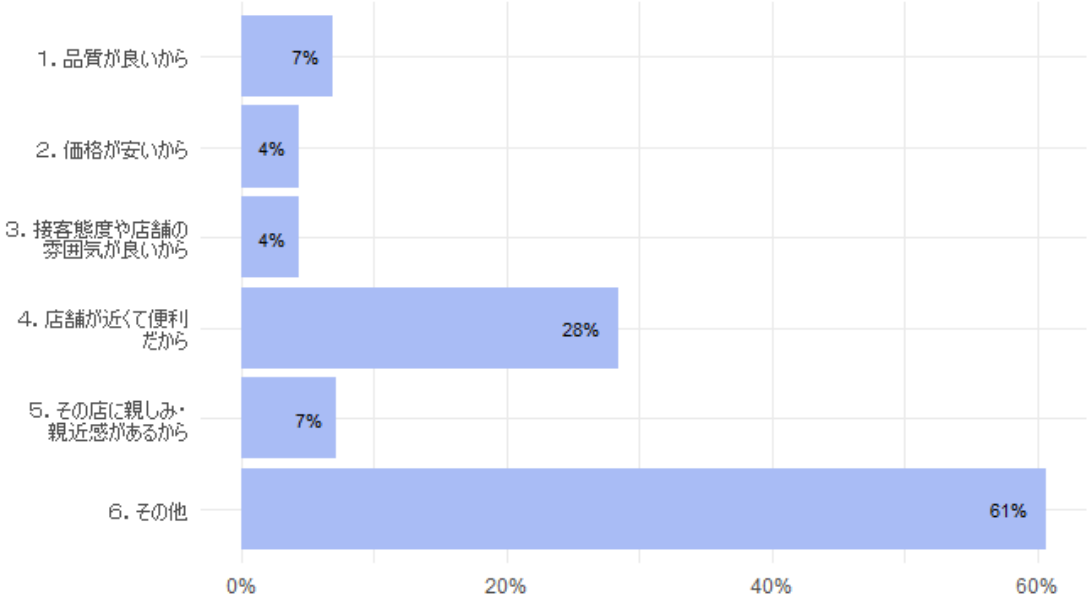
（2）農業地域累計別利用状況

都市的地域、平地農業地域では他の施設を利用する割合が高い。



4.3.11. 他の金融機関を利用する理由

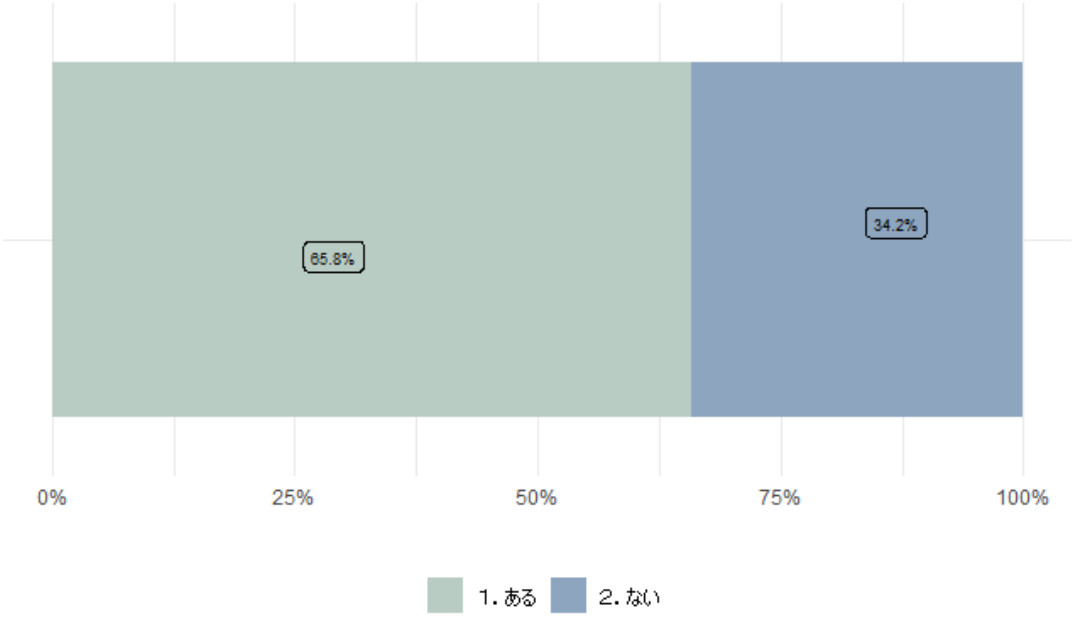
「その他」が最も多くなっている。店頭での感触からすると、「給与口座になっているか」「引き落としがあるから」といった回答が多かった。



4.3.12. 農協以外の施設の利用可能性

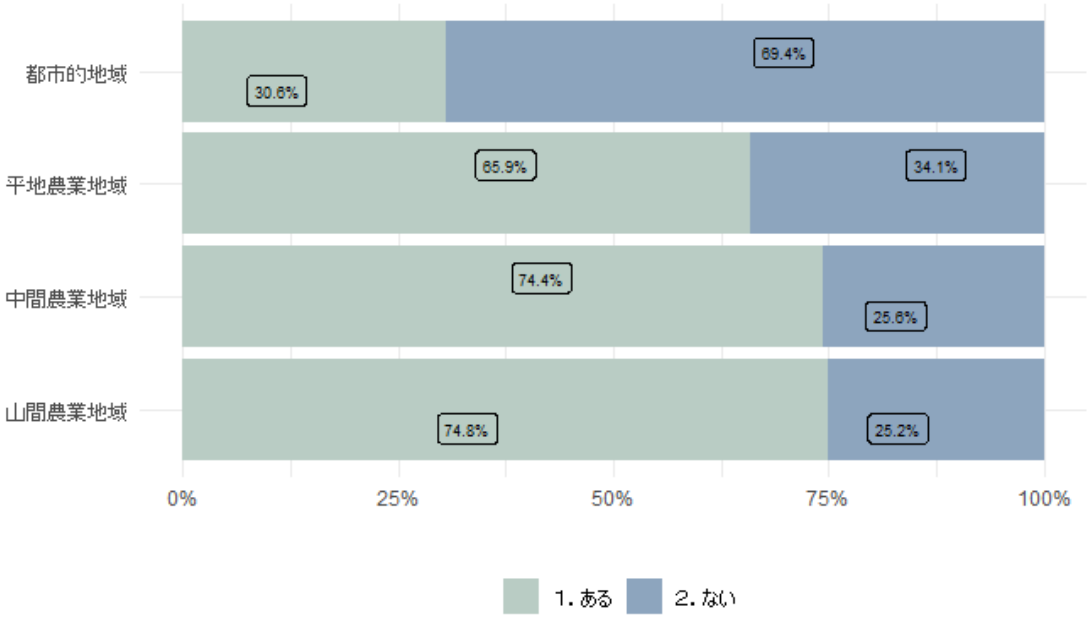
（1）全体

農協以外の施設が利用できない割合は 3 割程度となっている。



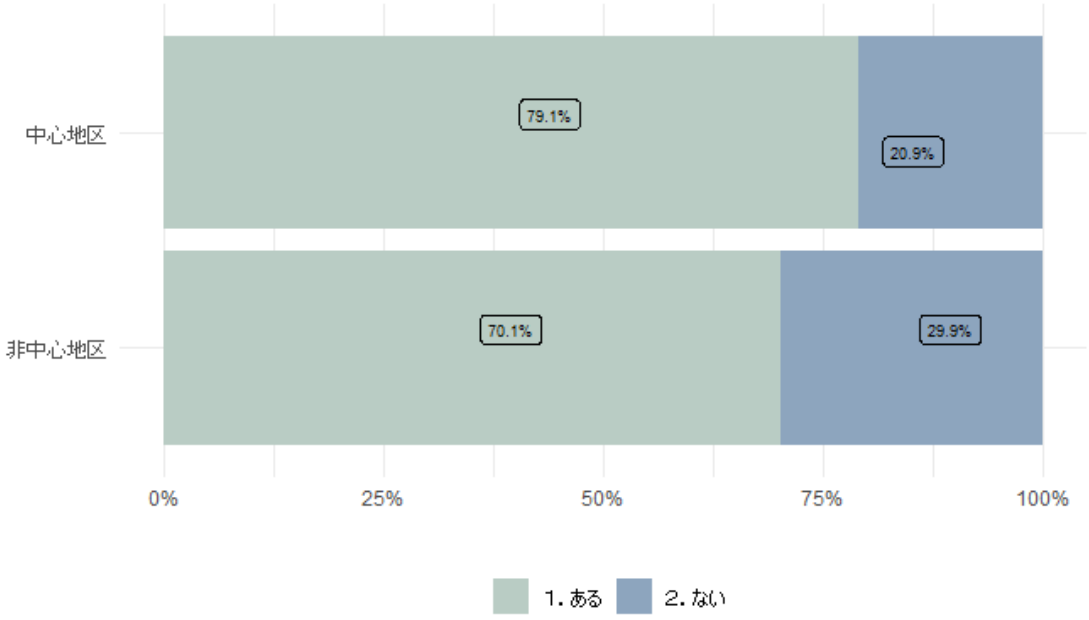
（2）農業地域累計別、農協施設以外の利用可能性

都市的地域において、農協以外の施設が利用できない割合が非常に高くなっている。



（3）中心地区･非中心地区別、農協施設以外の利用可能性

中心地区の方が、農協施設しか利用していないが農協施設以外に利用できる施設があると回答する割合が高い。

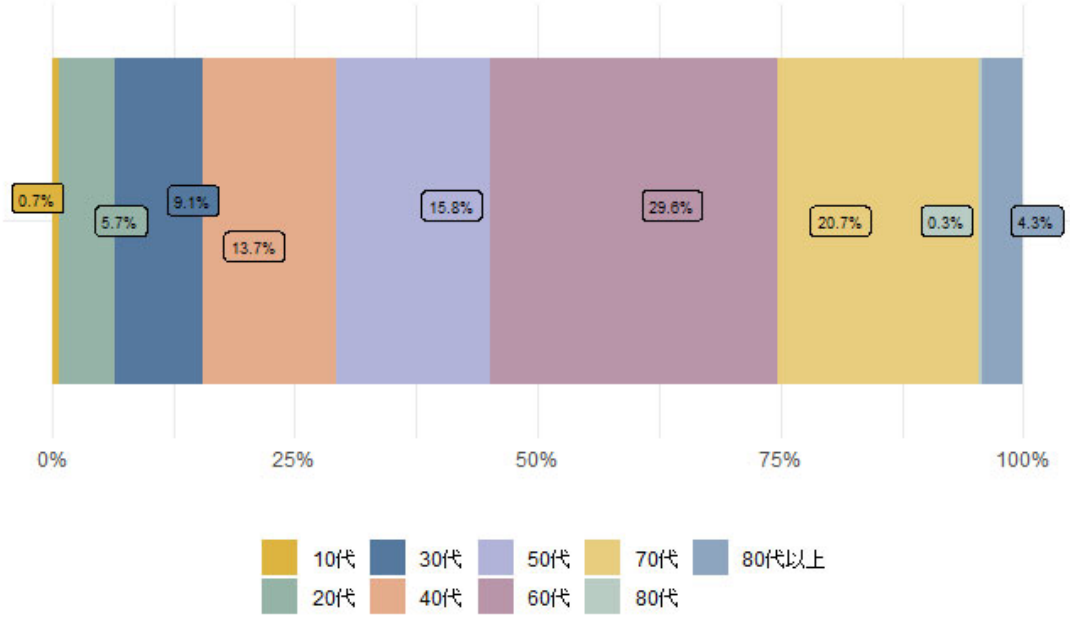


4.4. ガソリン小売サービス

4.4.1. 回答者の年代

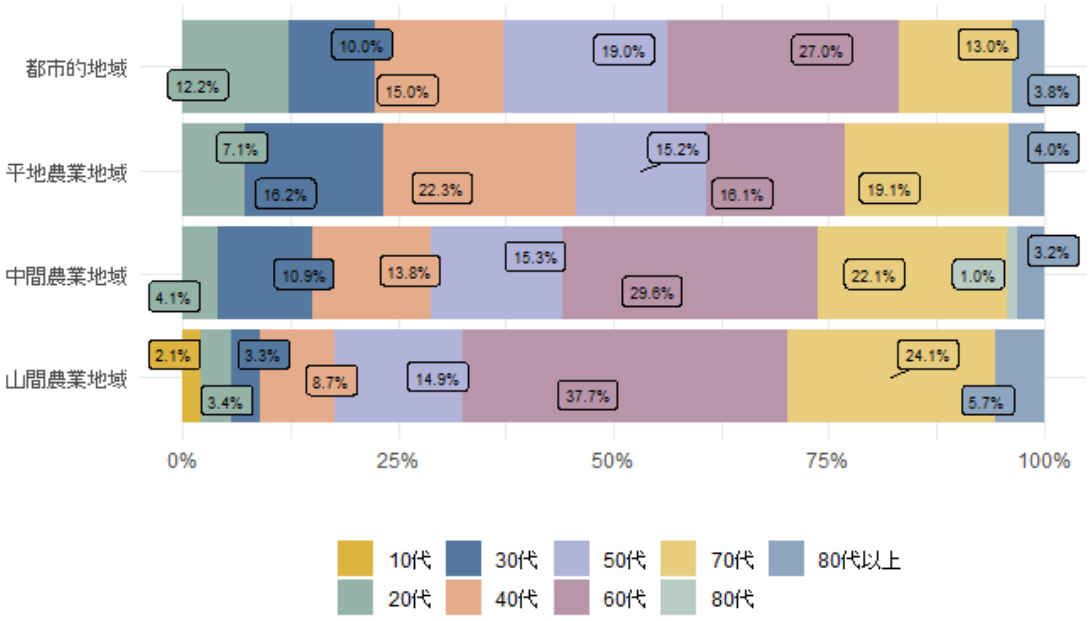
（1）全体

６０歳以上の割合は約半分と、購買サービス、金融サービスに比べて年齢構成が若くなっている。



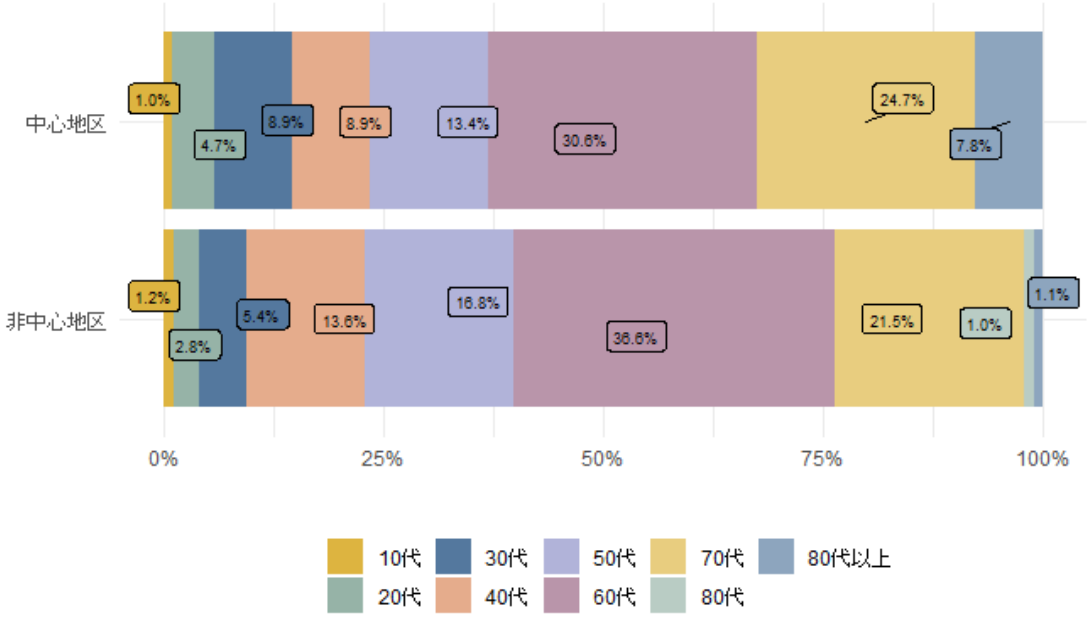
（2）農業地域類型別

都市的地域、平地農業地域において若い世代の利用が若干高い。



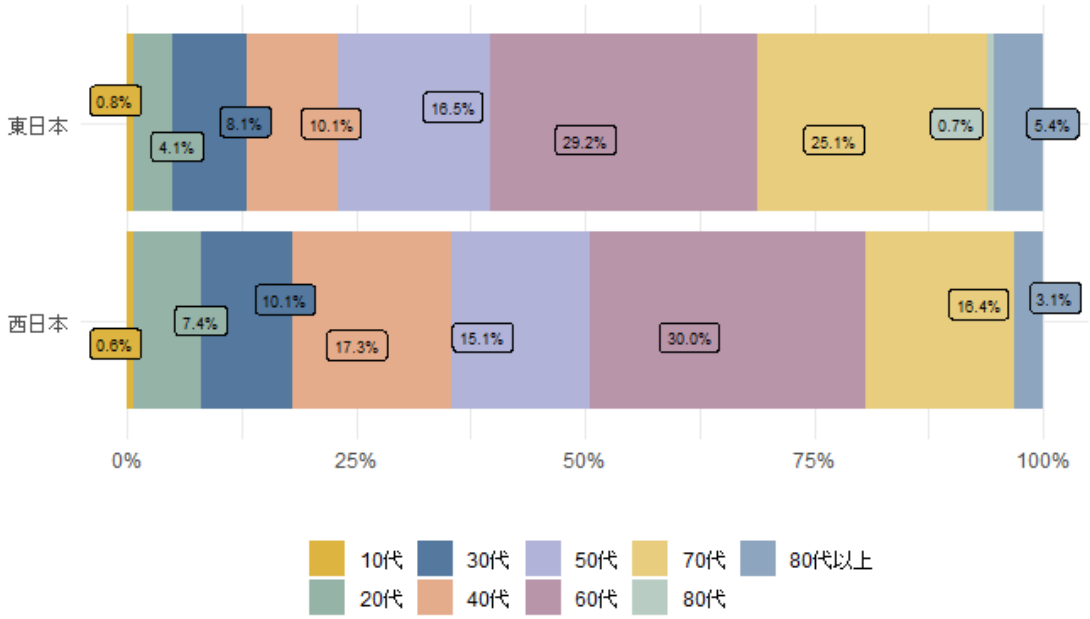
（3）中心地区・非中心地区別

60 代以上の割合は大きく変わらないが、中心地区の方が 80 代以上の割合が高い。



（4）地域別

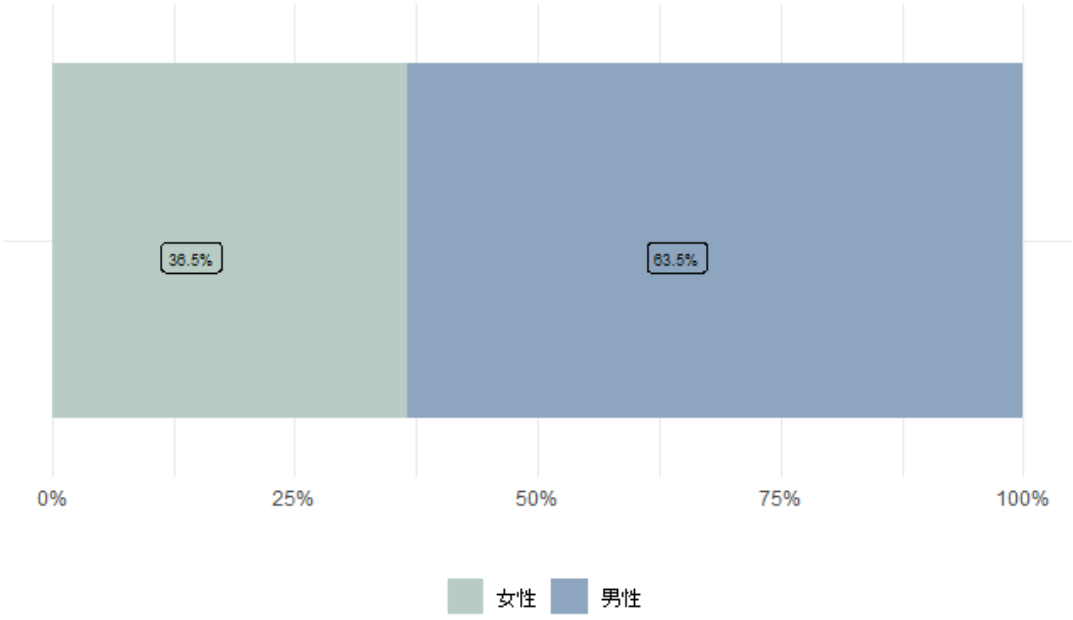
地域別に見ると東日本における高齢者割合が若干高い。



4.4.2. 回答者の性別

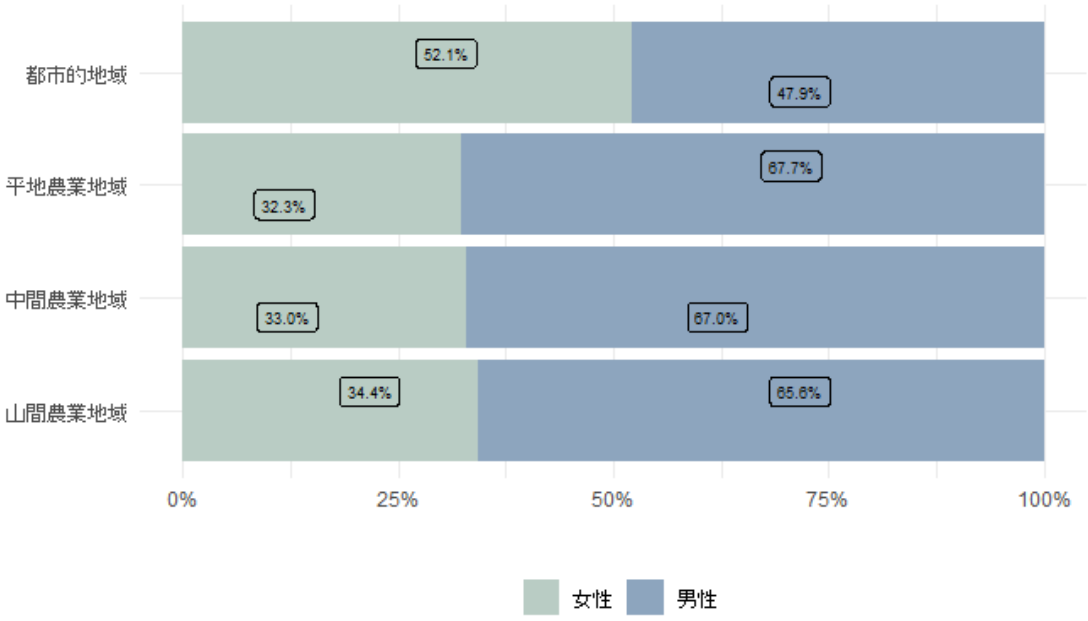
（1）全体

約６割が男性と男性比率が高い。



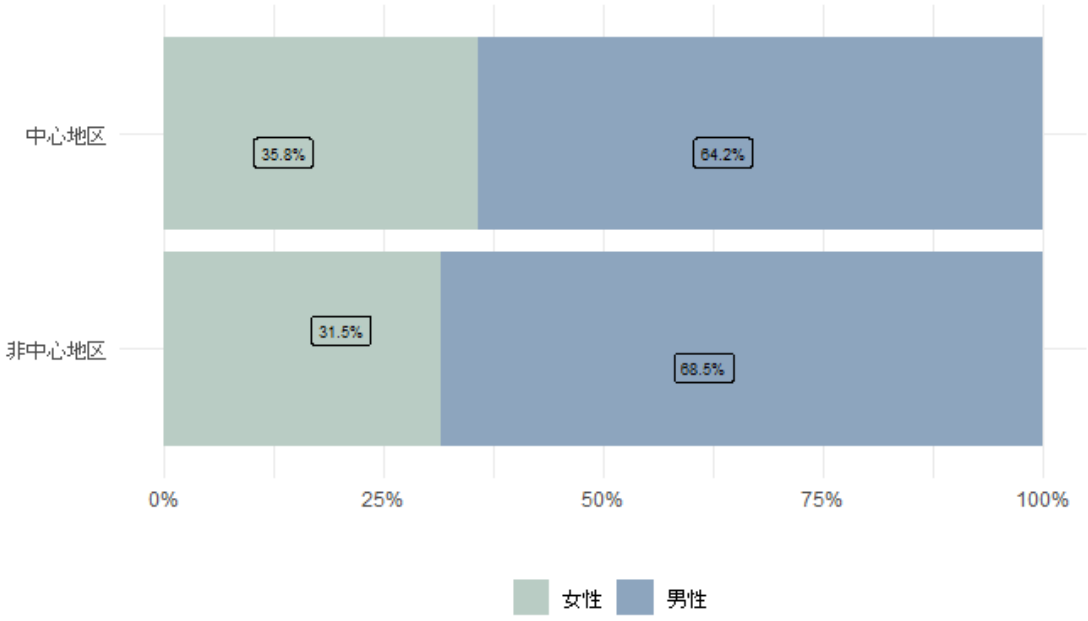
（2）農業地域類型別

都市的地域では、女性の割合が高い。



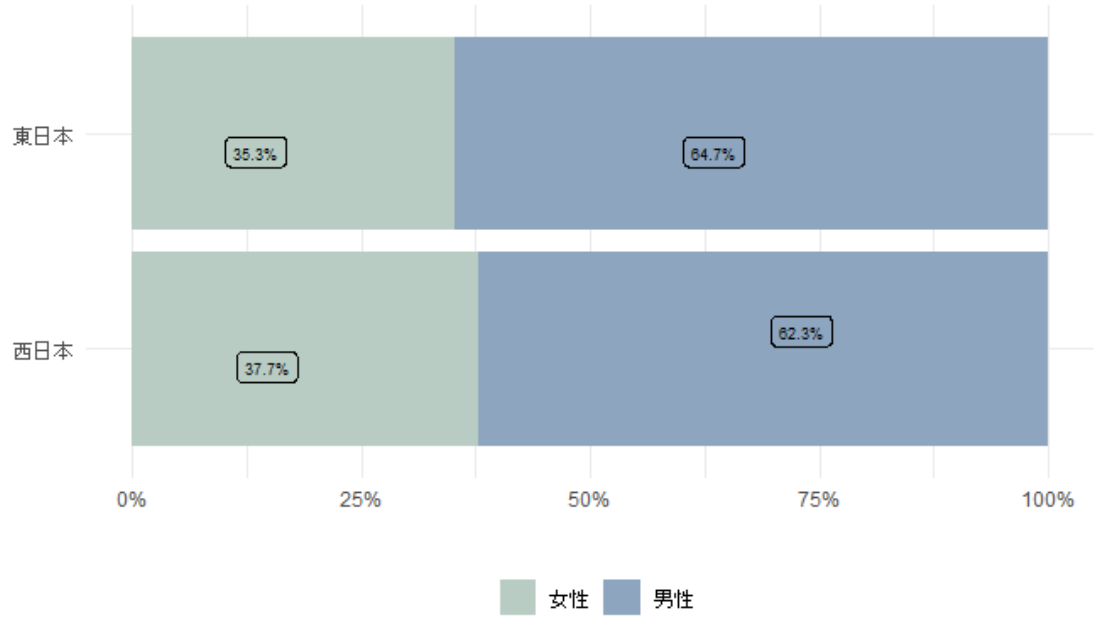
（3）中心地区・非中心地区別

中心地区・非中心地区で大きな違いは無い。



（4）地域別

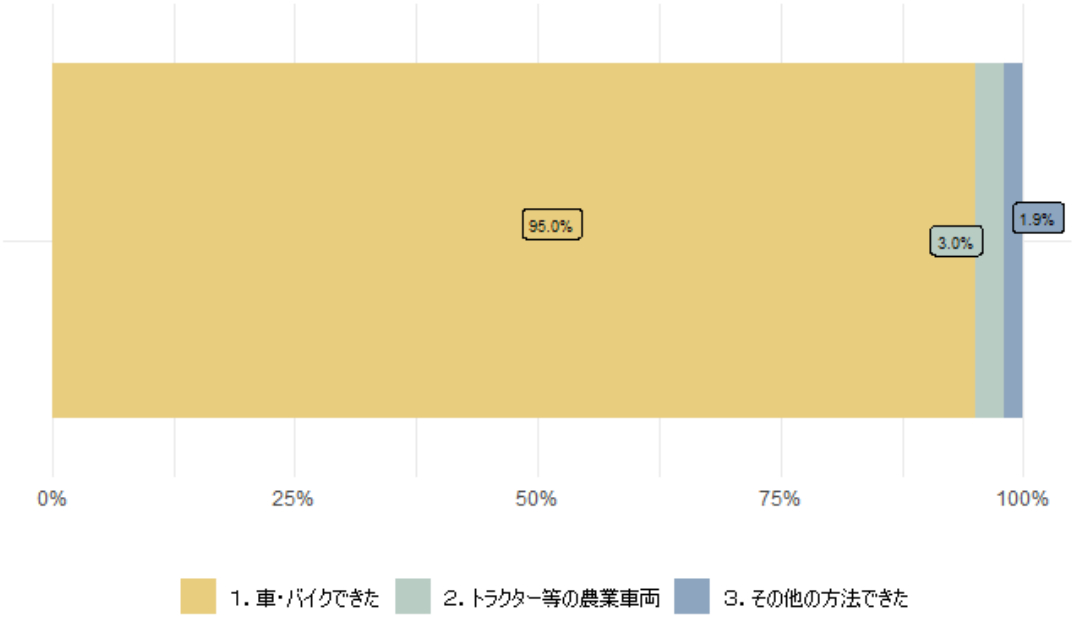
地域別にはそれほど大きな差は無い。



4.4.3. 来場の方法

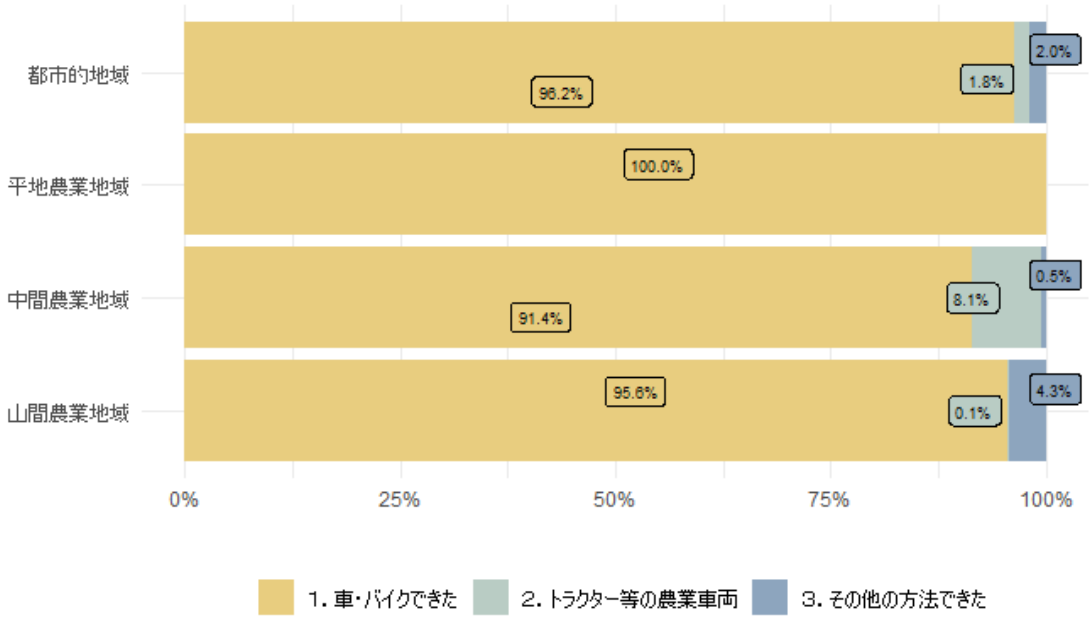
（1）全体

ガソリンスタンドであることからほとんどが車・バイクで来場している。



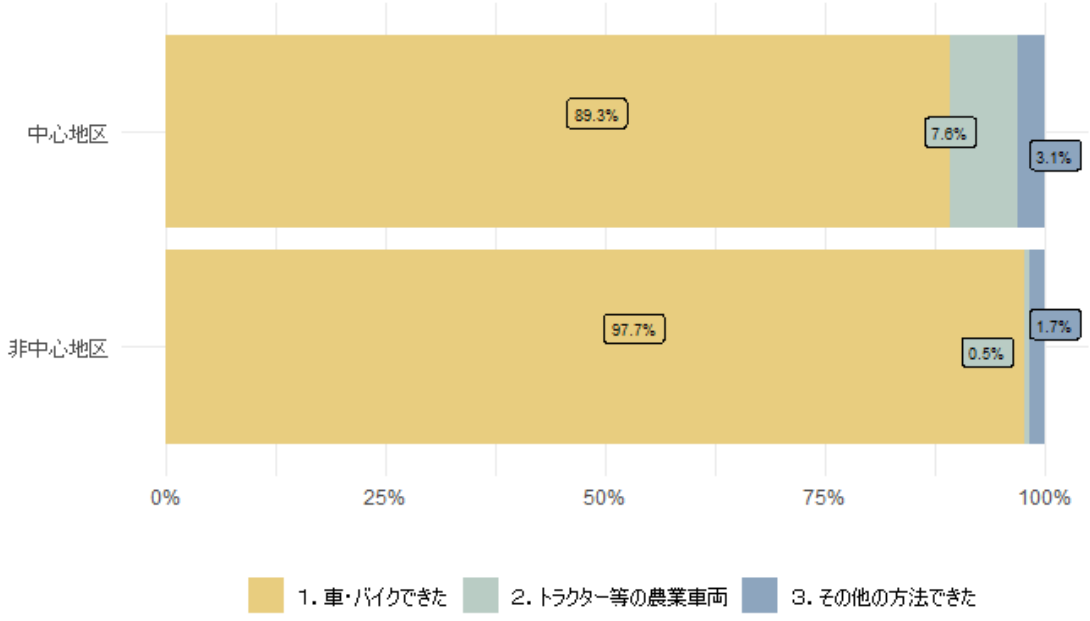
（2）農業地域類型別

農業地域別に見ても大きな違いは見られない。



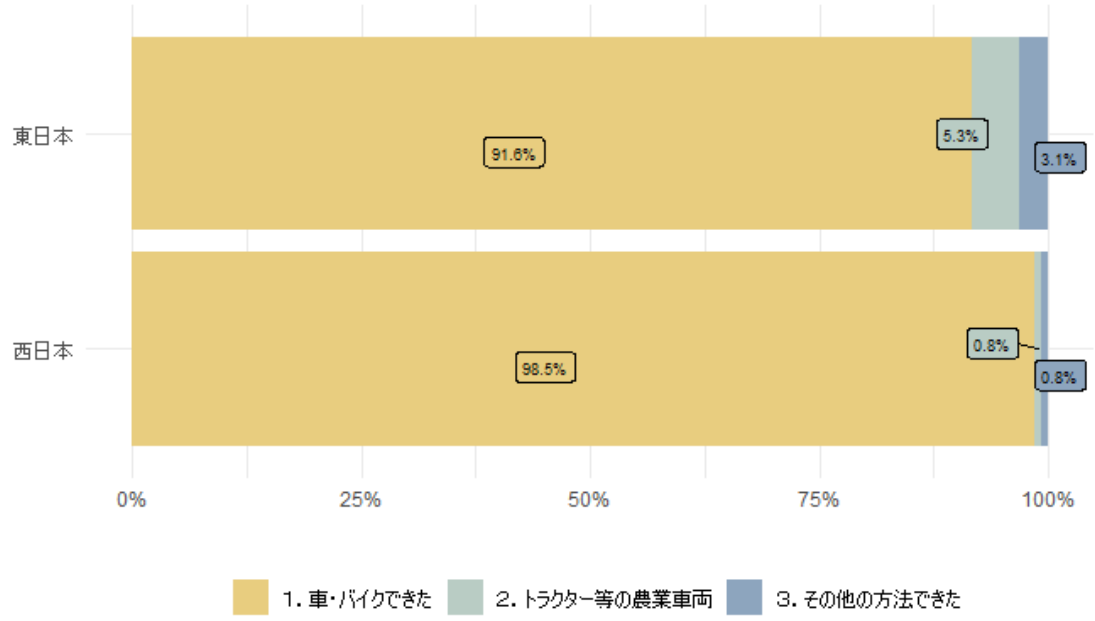
（3）中心地区・非中心地区別

中心地区の方が、車・バイクでの来場割合が高い。



（4）地域別

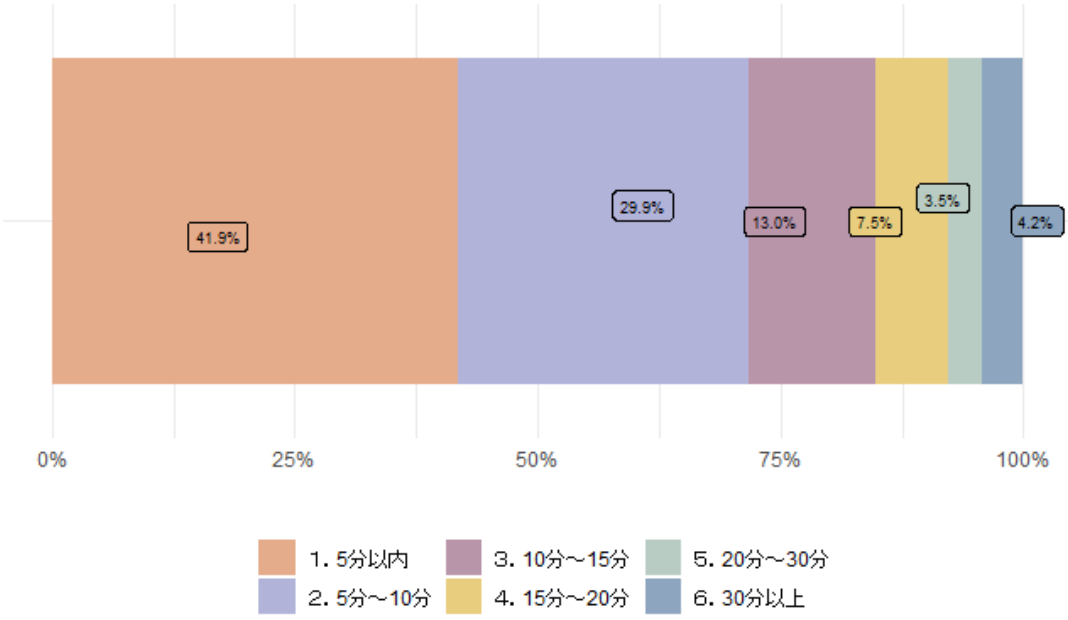
地域別に見ても大きな違いは見られない。



4.4.4. 所要時間

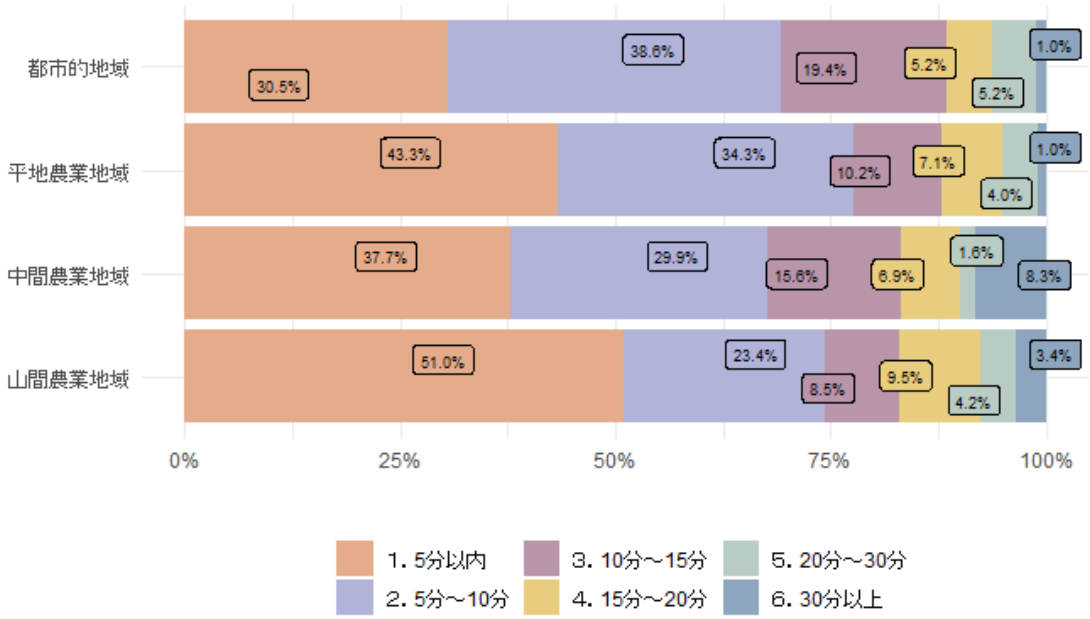
（1）全体

全体の 7 割程度が 10 分以内から来場している。



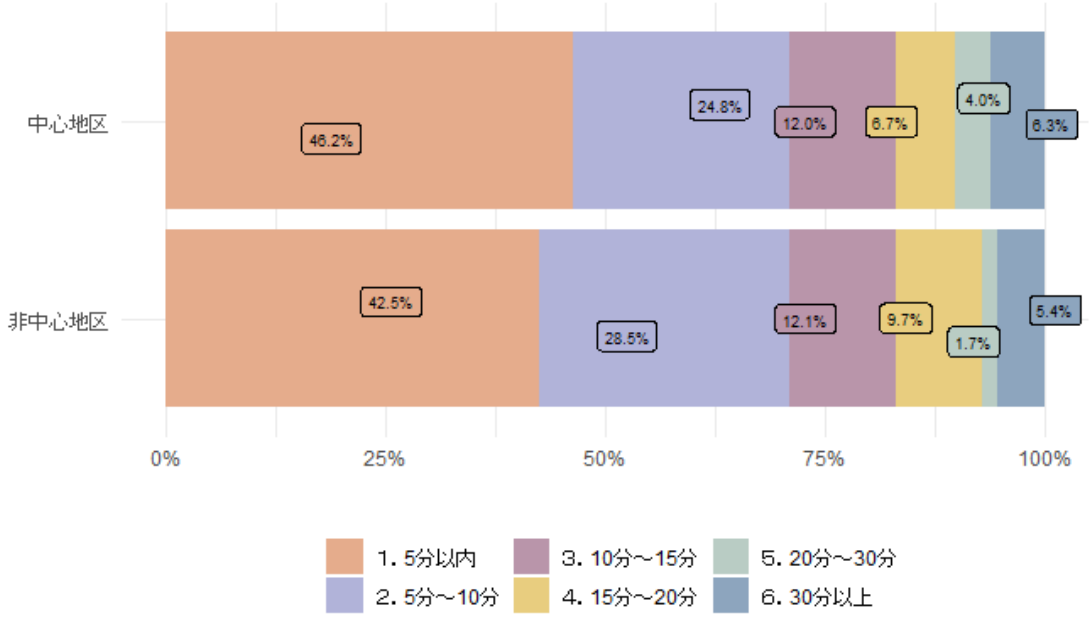
（2）農業地域類型別

山間農業地域において、遠くからの来場者が若干多い。



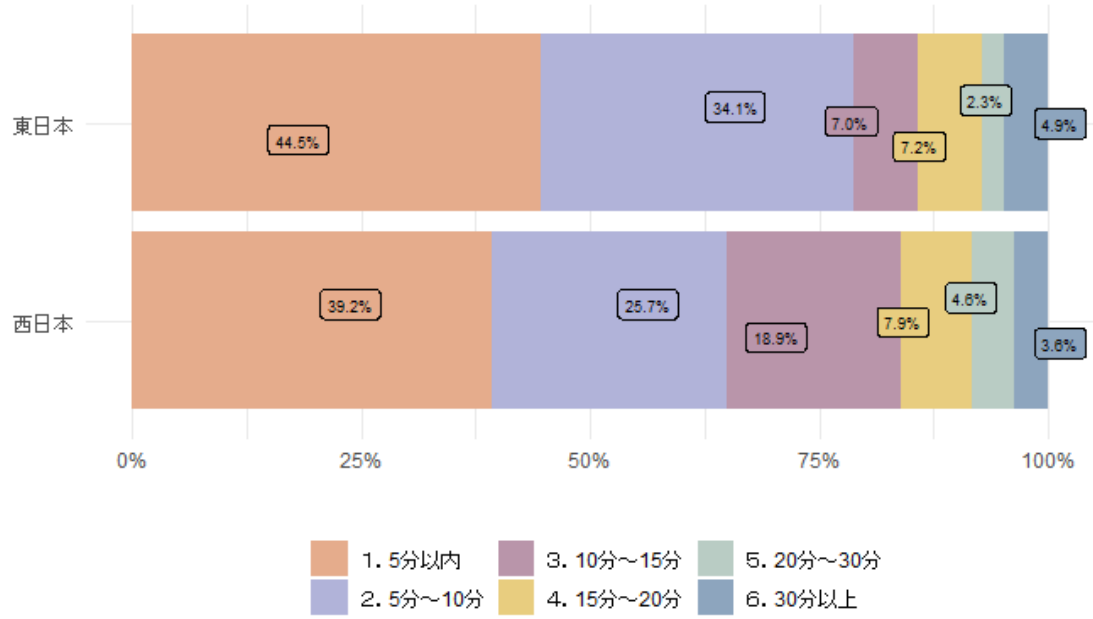
（3）中心地区・非中心地区別

中心地区・非中心地区で大きな違いは無い。



（4）地域別

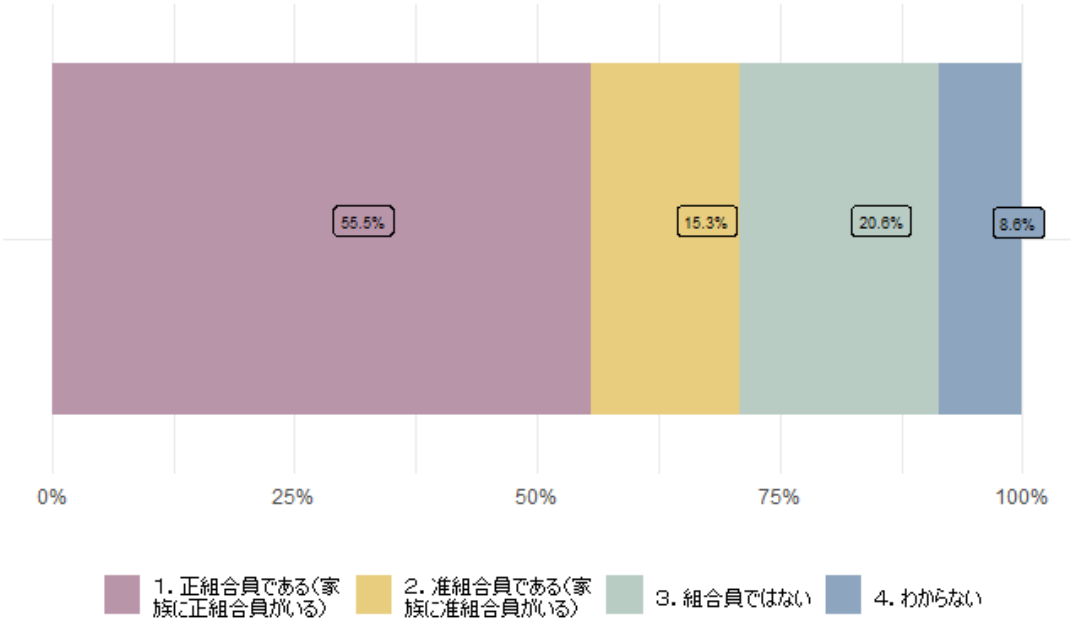
地域別にみると西日本の方が遠くからの来訪者が多い。



4.4.5. JA への加入状況

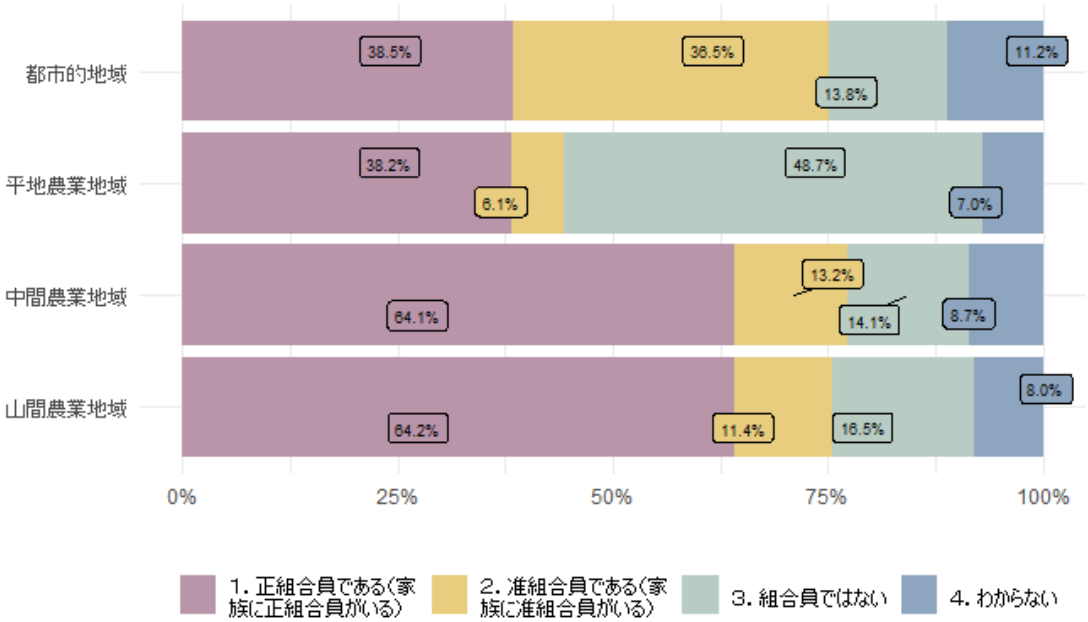
（1）全体

全体の半分以上が正組合員であり、約２割が組合員ではない。



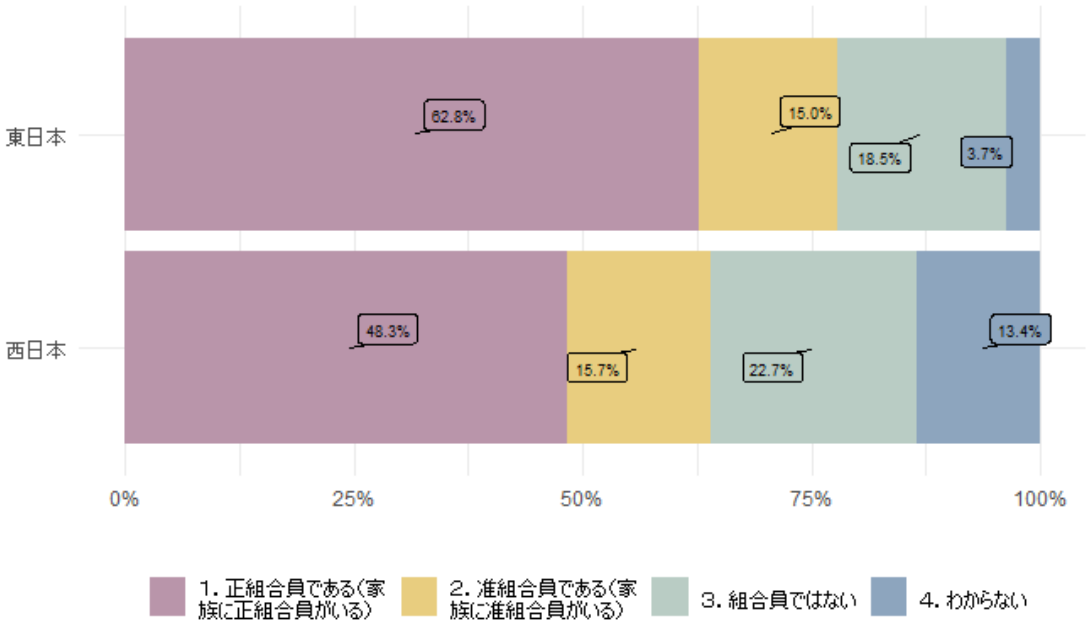
（2）農業地域類型別

中間農業地域、山間農業地域において正組合員の割合が高い。また、都市的地域は准組合員の割合が高い。



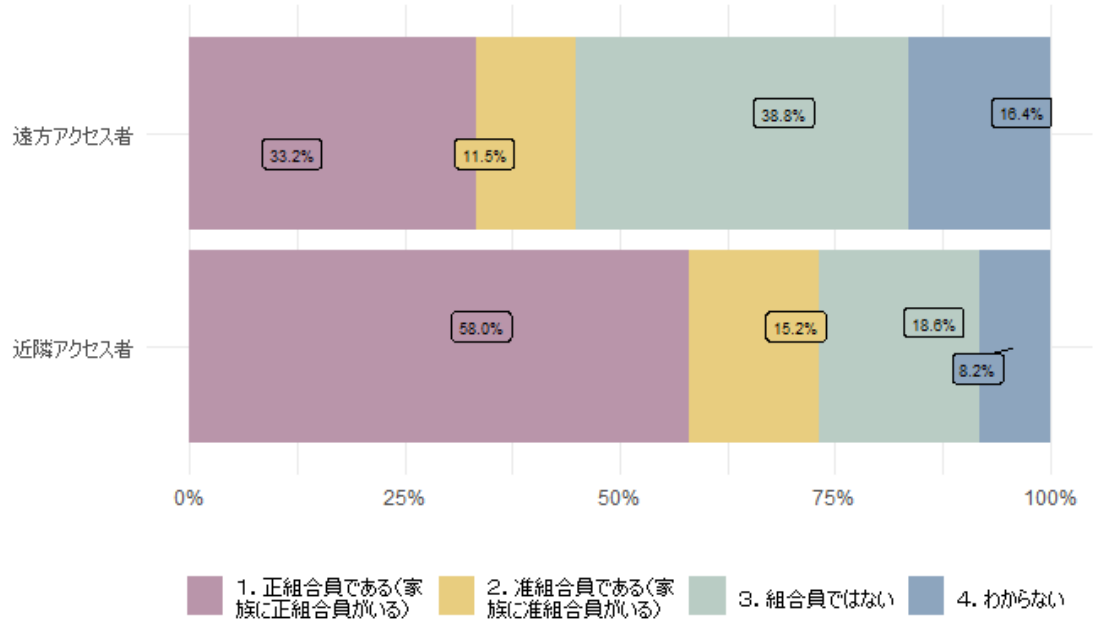
（3）地域別

地域別には西日本において非組合員比率が高い。



（4）アクセス状況別

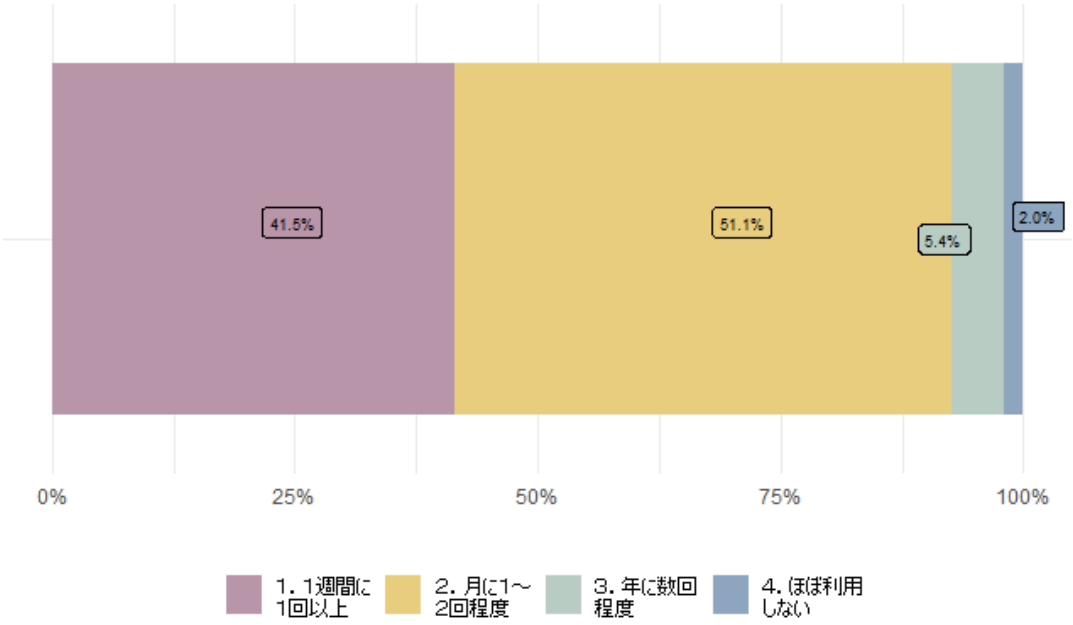
遠方からアクセスしている人の非組合員率は高い。



4.4.6. 利用頻度

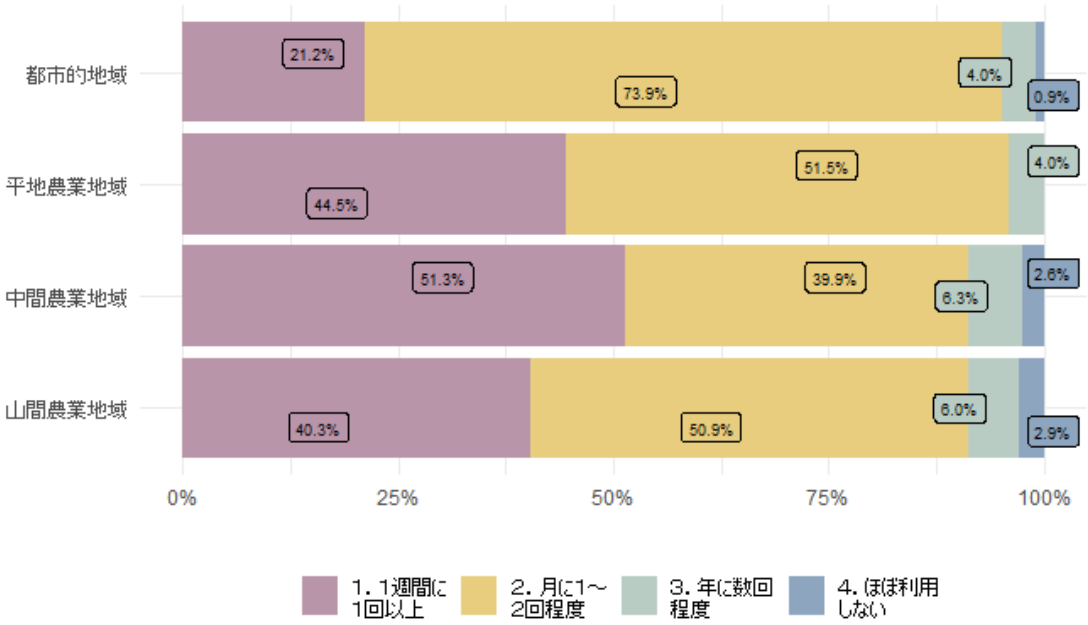
（1）全体

全体の約９割が月に１回以上利用している。



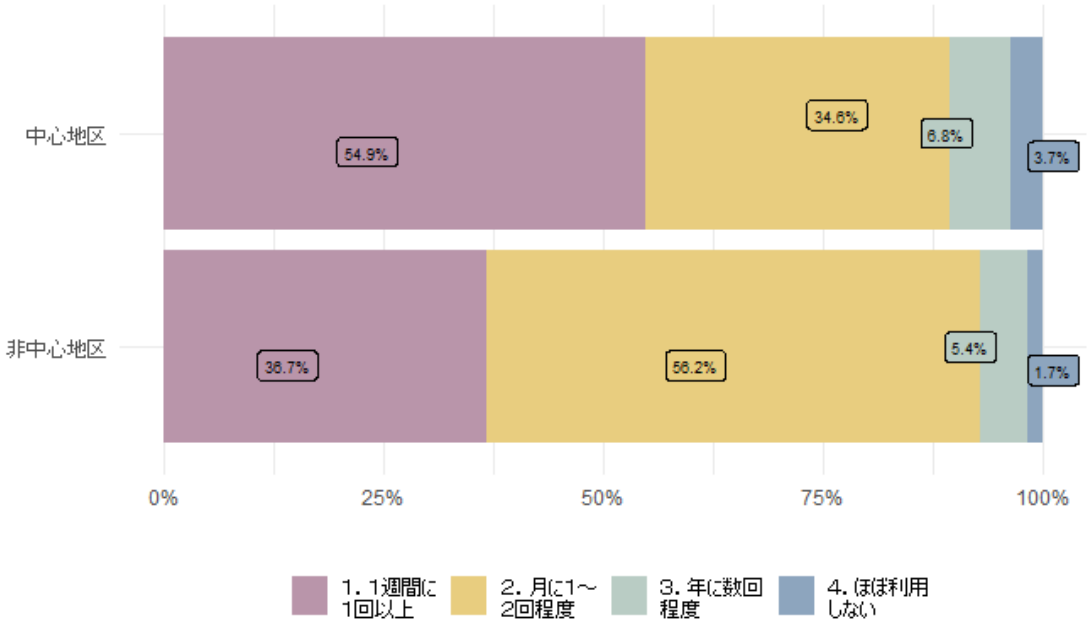
（2）農業地域類型別

都市的地域での利用頻度が若干低い。



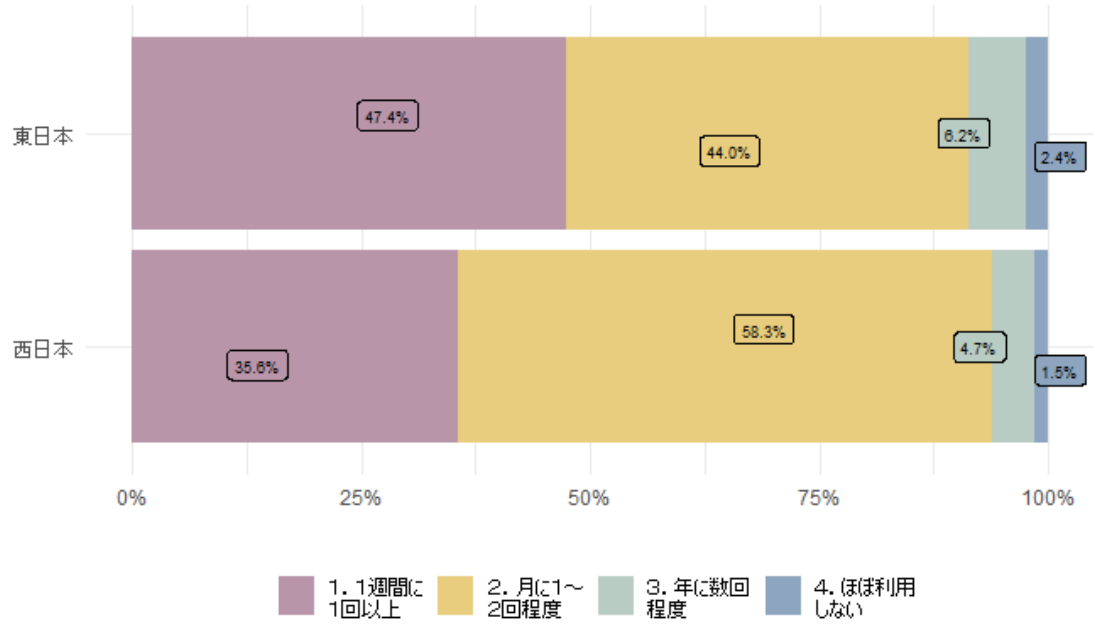
（3）中心地区･非中心地区別

中心地区・非中心地区で月に 1～2 回程度については大きな違いは無いが、週に 1 回以上利用する割合は、中心地区の方が高い。



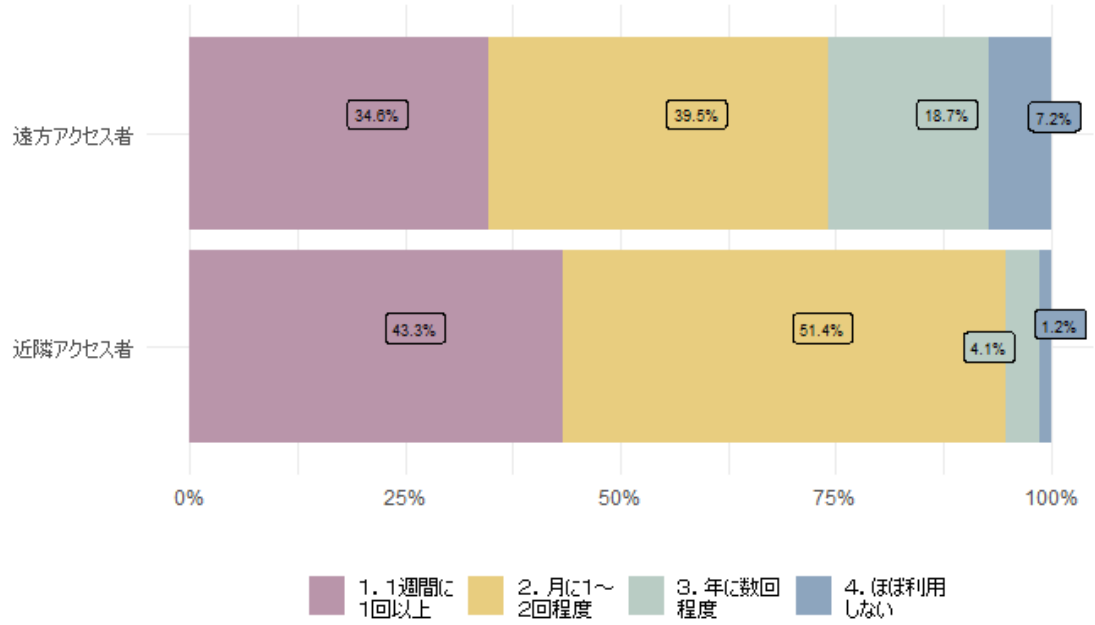
（4）地域別

西日本の利用頻度（週１回以上利用）が若干低い。



（5）アクセス状況別

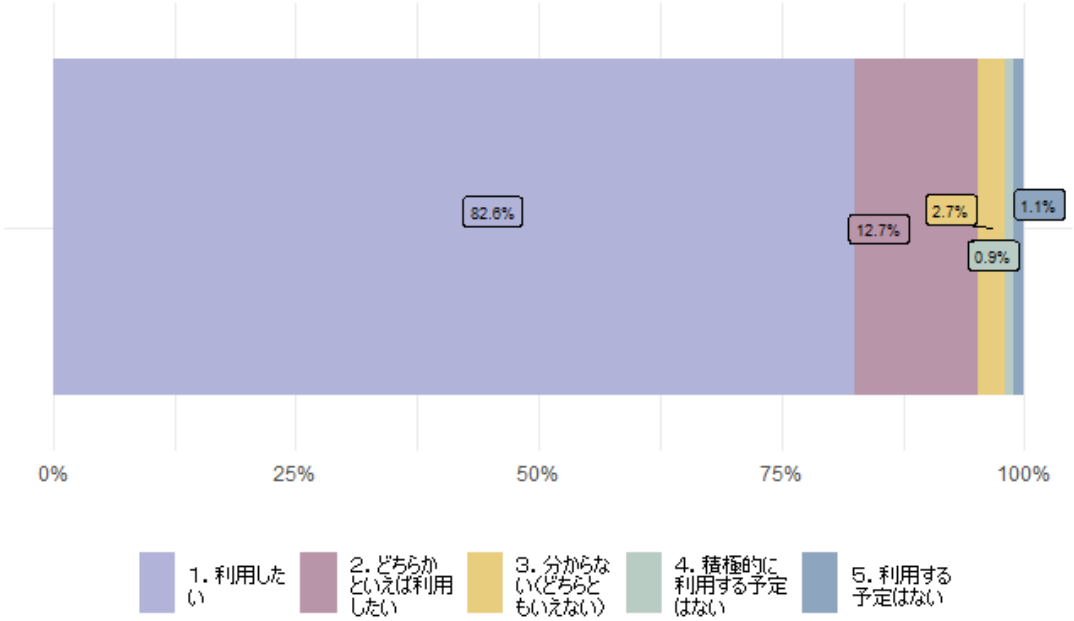
遠方からアクセスしている人の利用頻度は低い。ガソリンスタンドの場合、遠方からの来訪者がたまたま立ち寄るケースが他の施設に比べても多いと考えられる。



4.4.7. JA 施設の利用意向

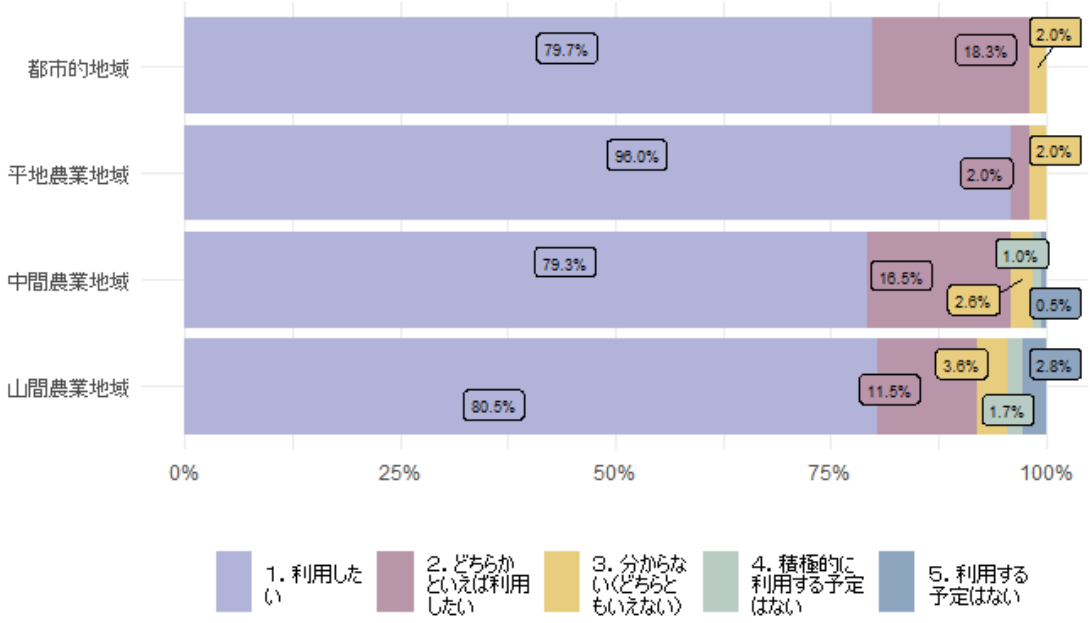
（1）全体

JA 施設の利用意向は約 9 割と高い。



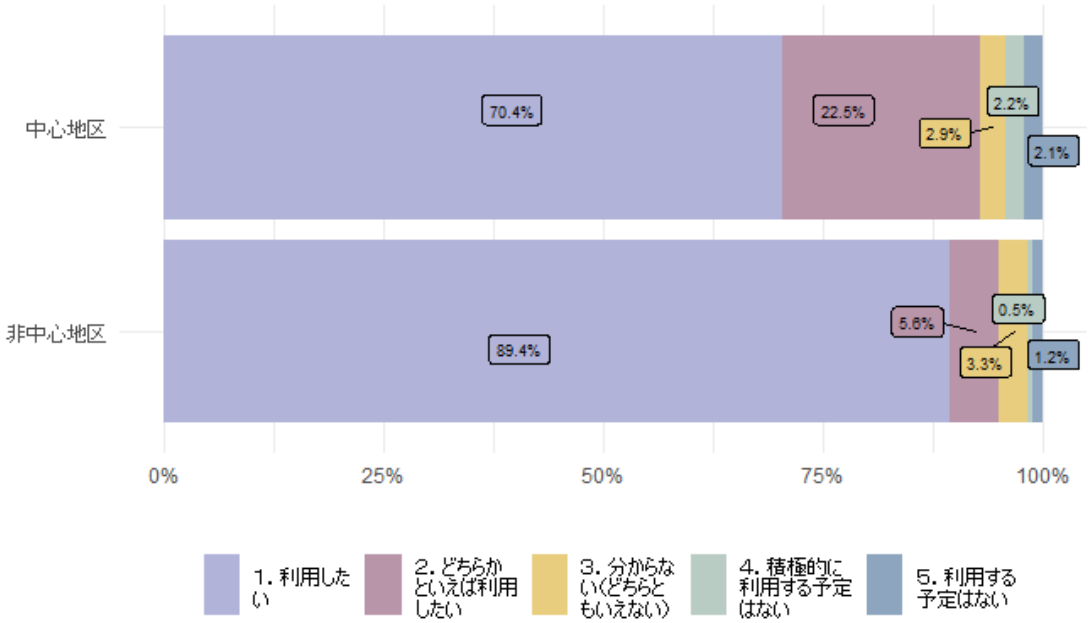
（2）農業地域類型別

平地農業地域での利用意向が高い。



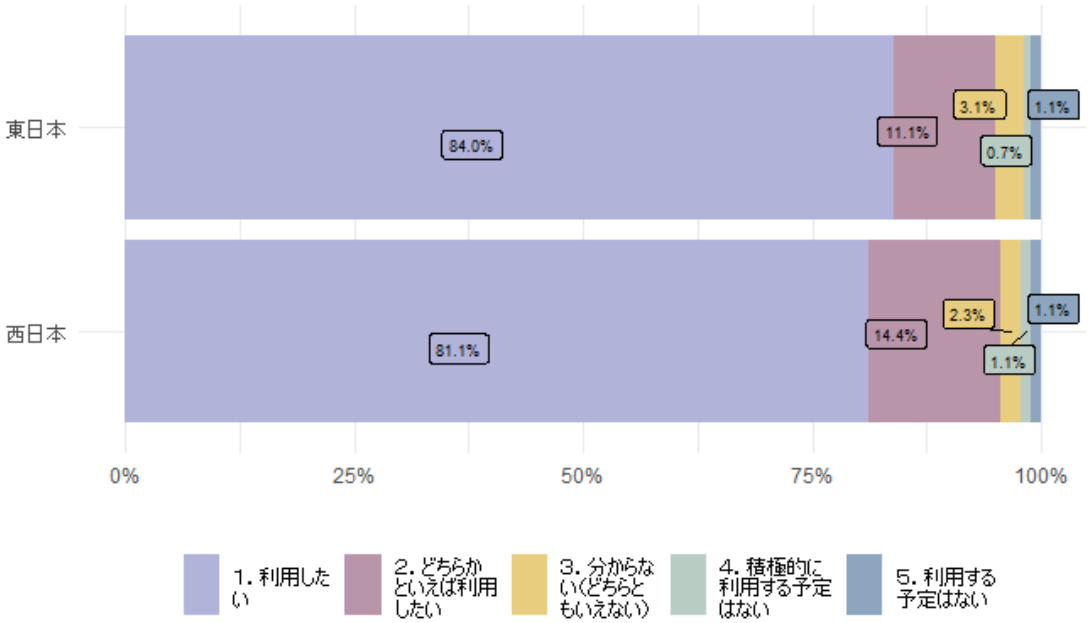
（3）中心地区・非中心地区別

非中心地区の方が利用意向が高い。



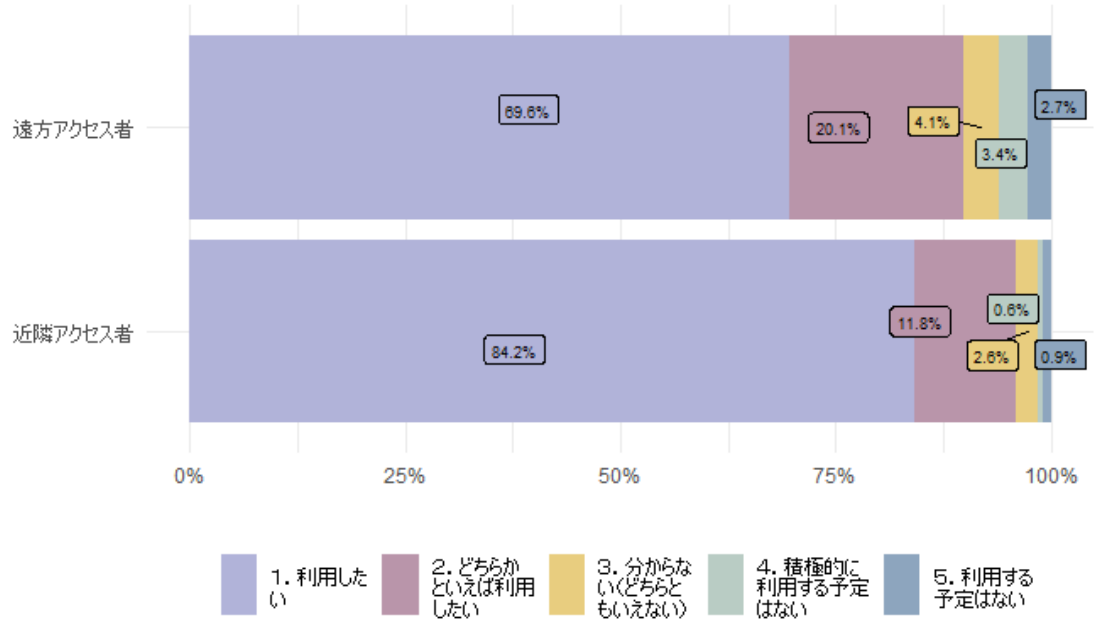
（4）地域別

地域別に大きな差は見られない。



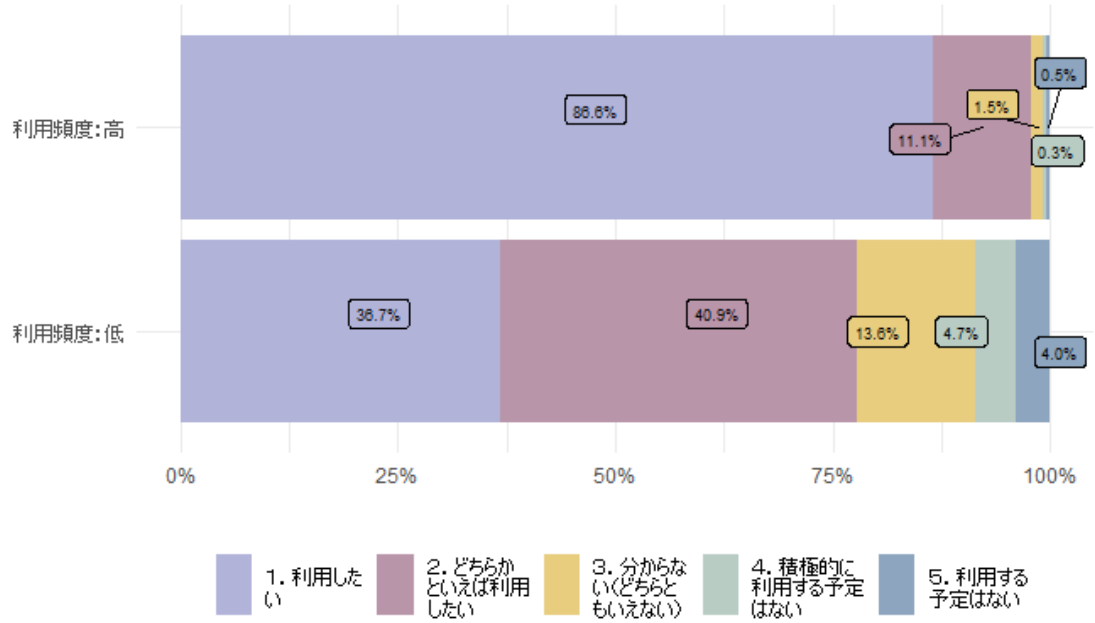
（5）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人の利用意向は低い。



（6）利用頻度別

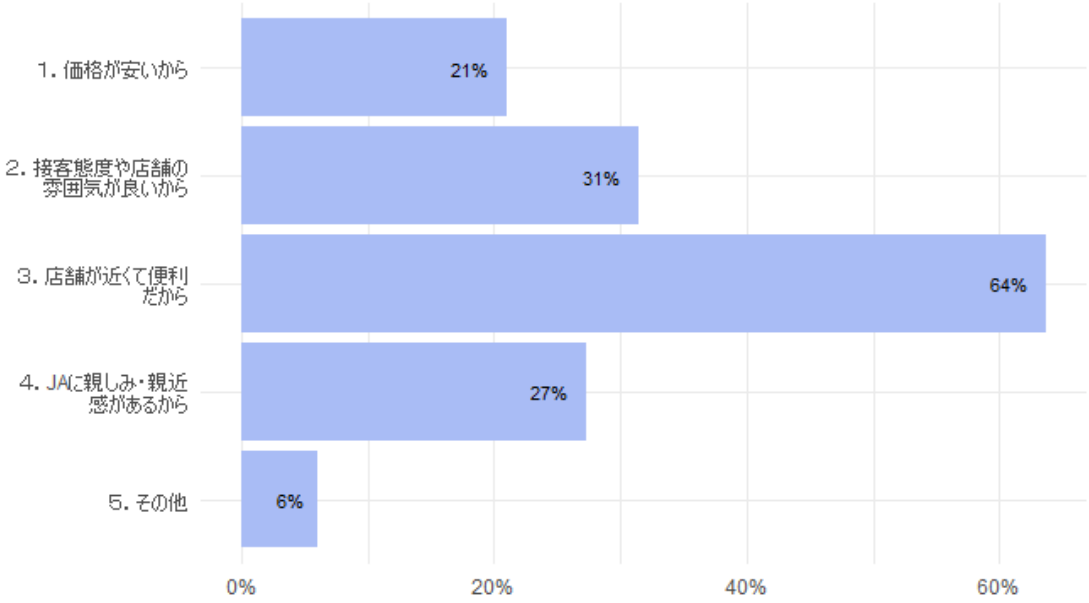
利用頻度が低い回答者の利用意向は低い。



4.4.8. 今後も利用したい理由

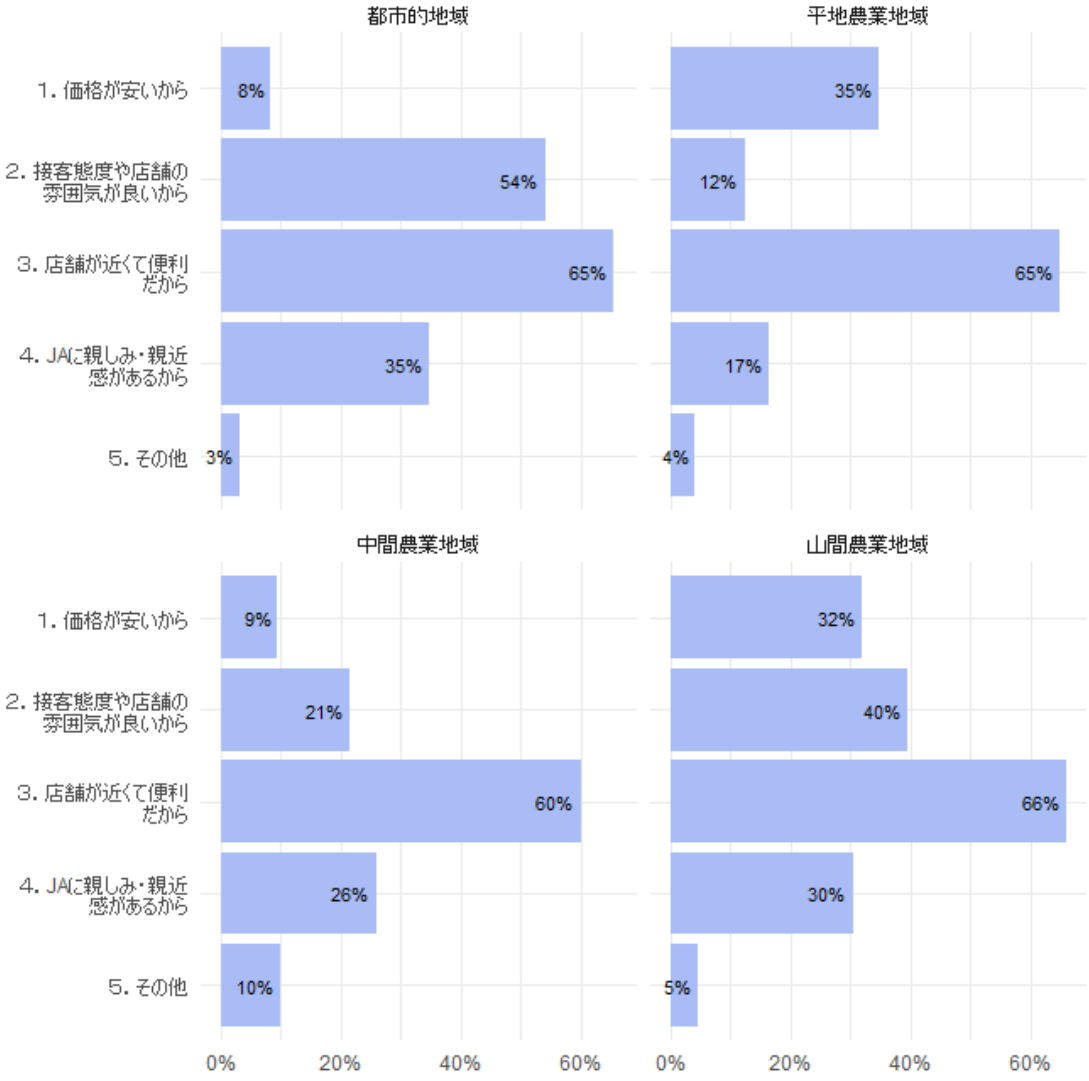
（1）全体

「店舗が近くて便利だから」という回答が最も多かった。



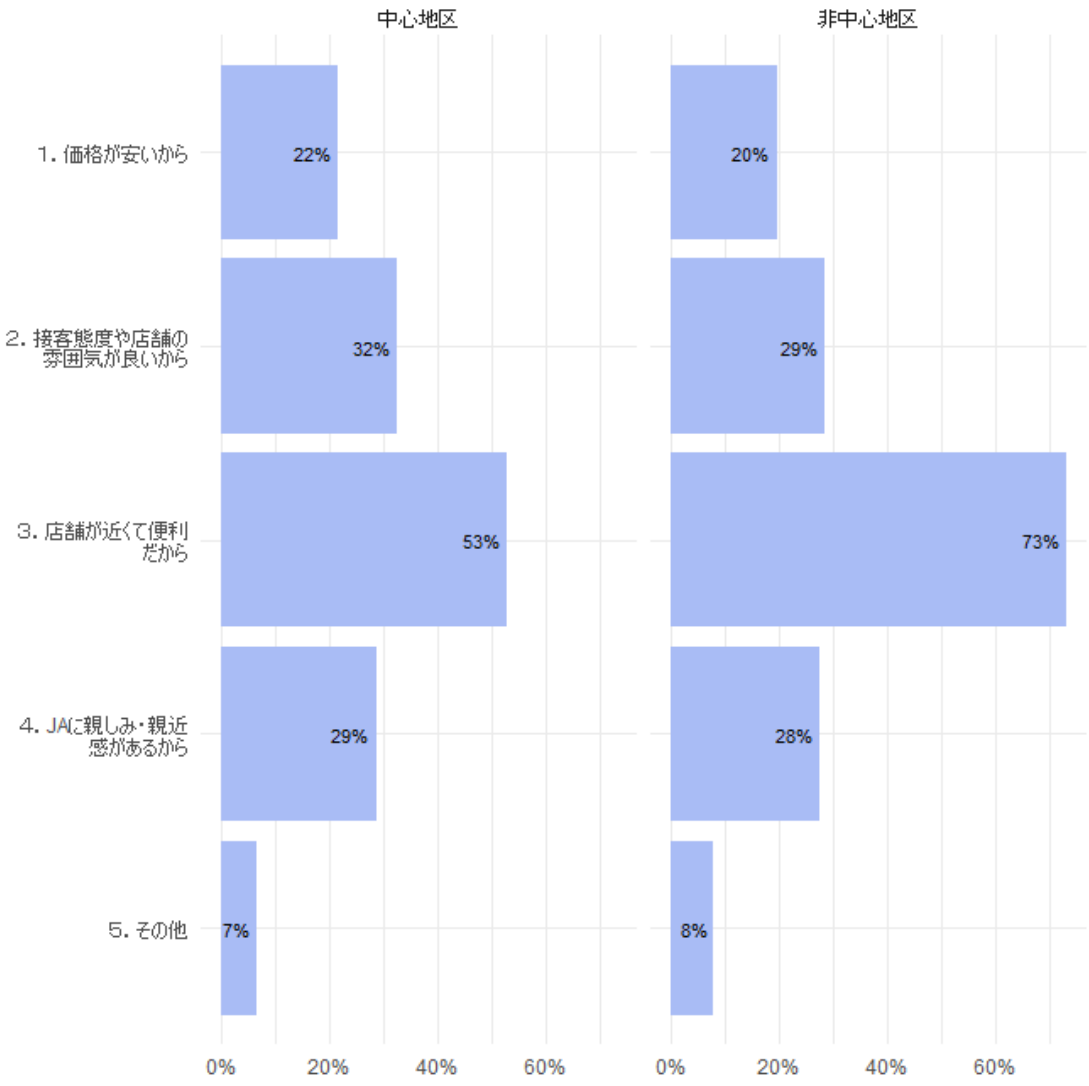
（2）農業地域類型別

平地農業地域において価格に対する評価が高かった。接客や店舗の雰囲気については、都市的地域や山間農業地域で高い。また、都市的地域では JA に親近感を感じる、という回答も多かった。



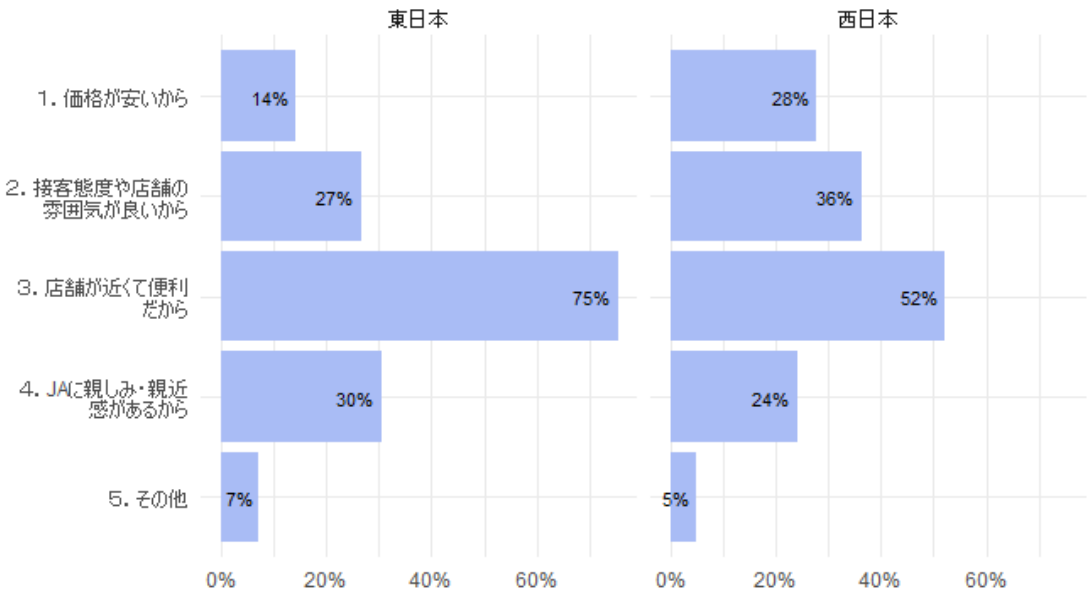
（3）中心地区･非中心地区別

非中心地区の方が近くて便利という回答が高い。



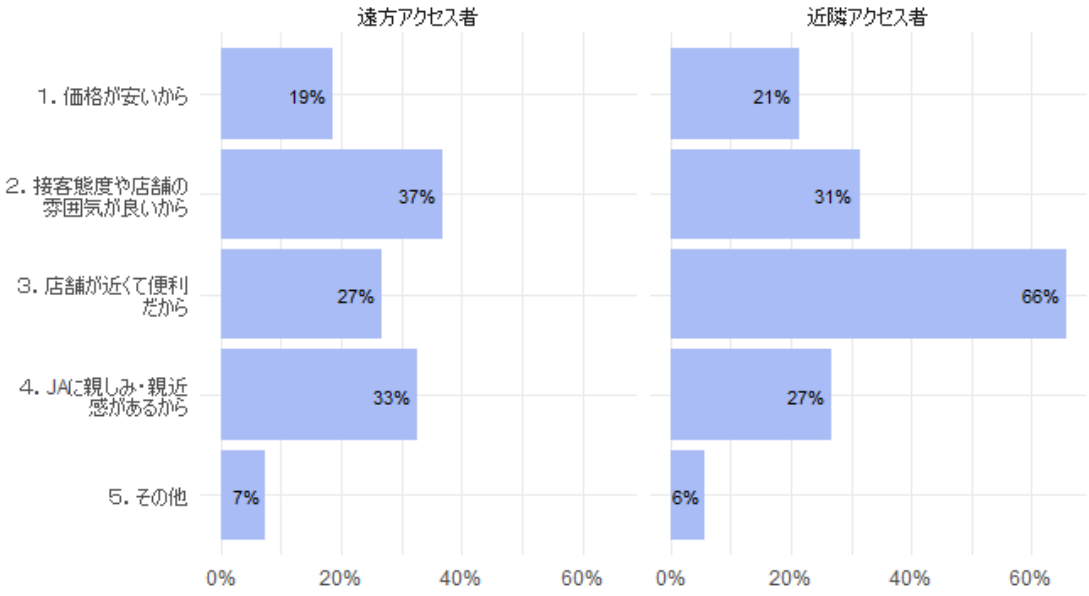
（4）地域別

西日本において「価格が安い」「接客態度や店舗の雰囲気がいい」との回答が多い。



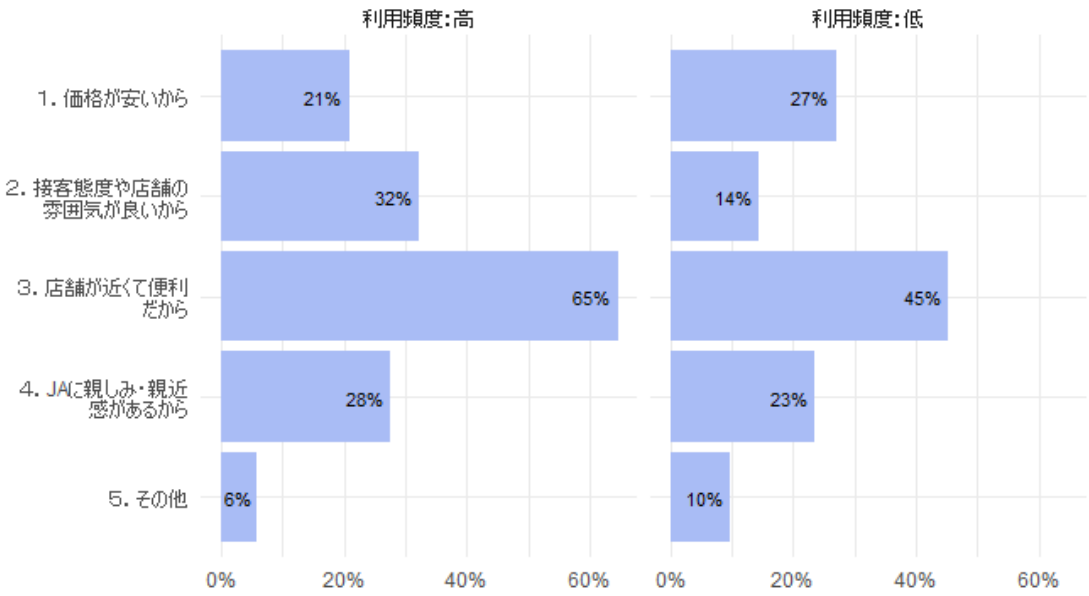
（5）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人は、「接客態度や店舗の雰囲気がいい」の割合が高い。



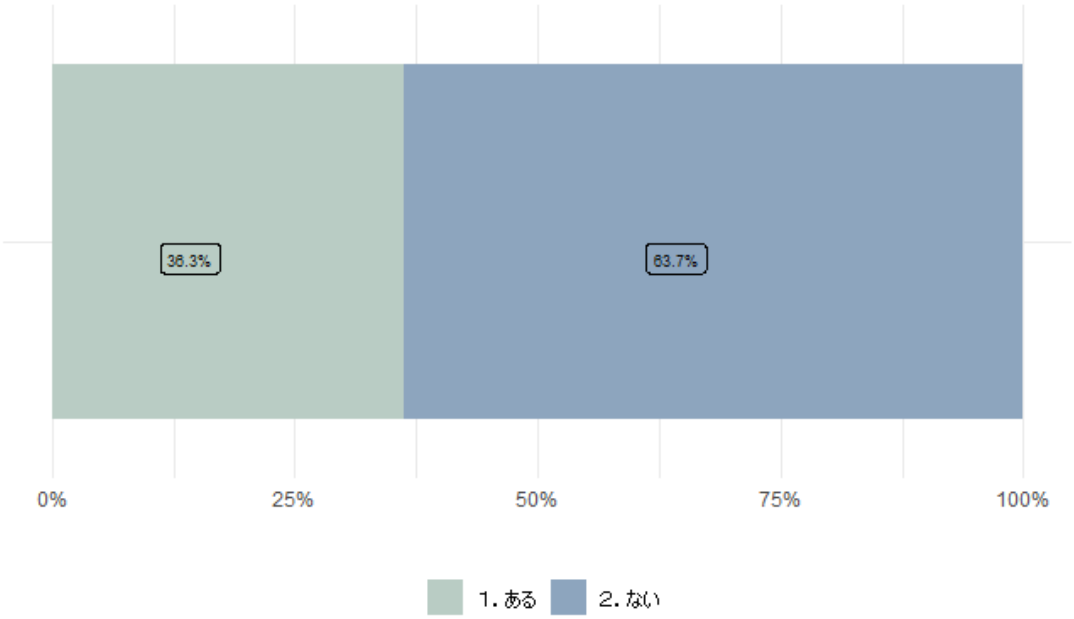
（6）利用頻度別

利用頻度の高い人ほど、全体的に評価が高い。



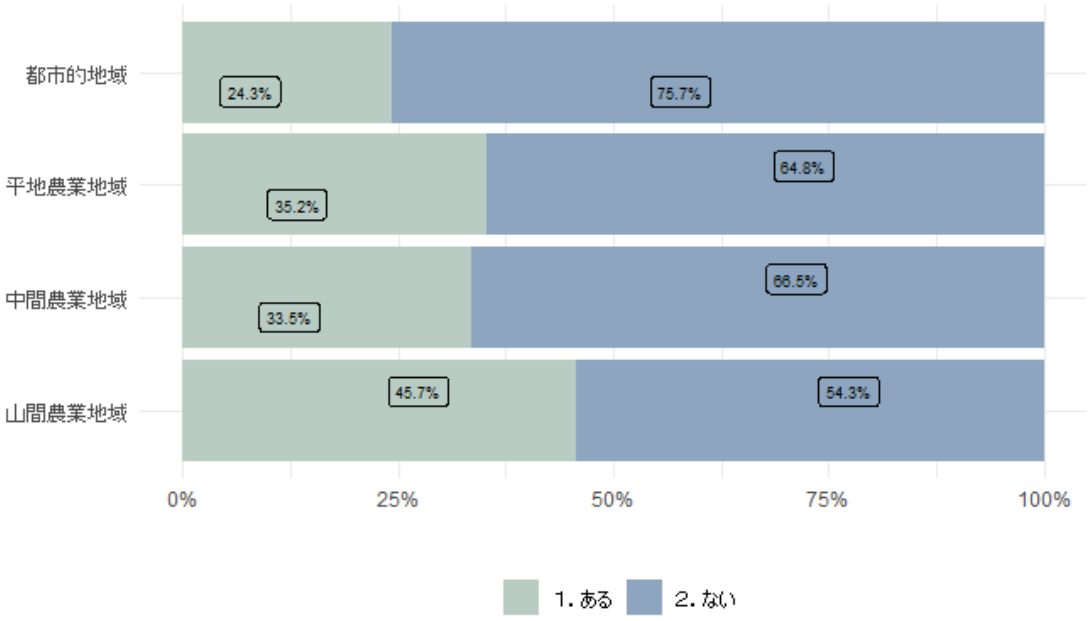
4.4.9. JA 施設以外の利用

4 割の人が JA 施設以外の施設も利用していると回答している。



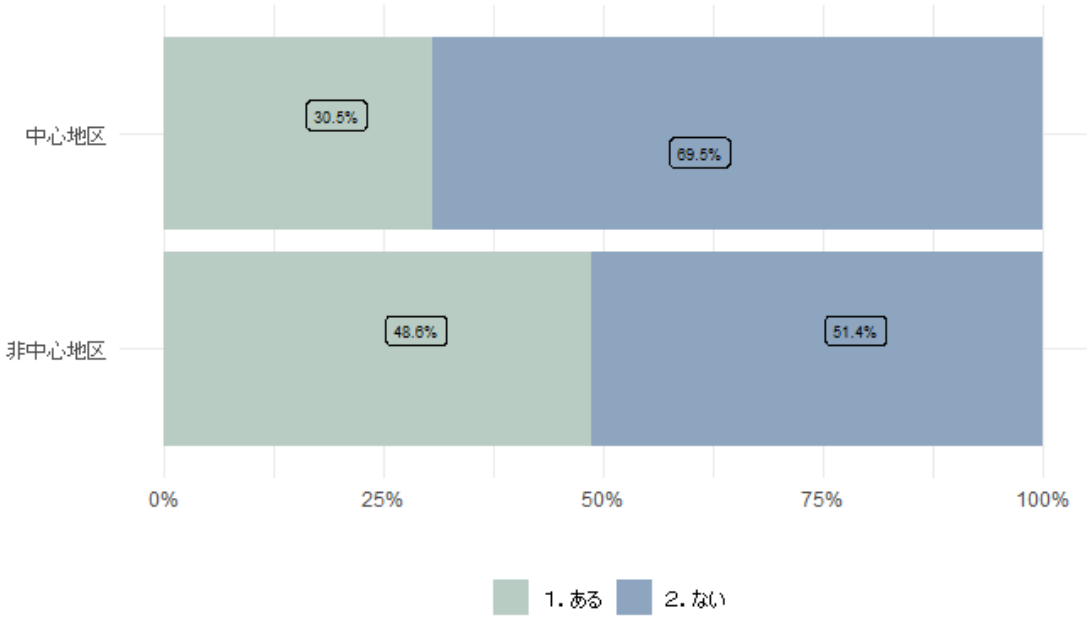
（1）農業地域類型別

都市的地域において、JA 以外の施設を利用している割合が低く、山間地域で高い。



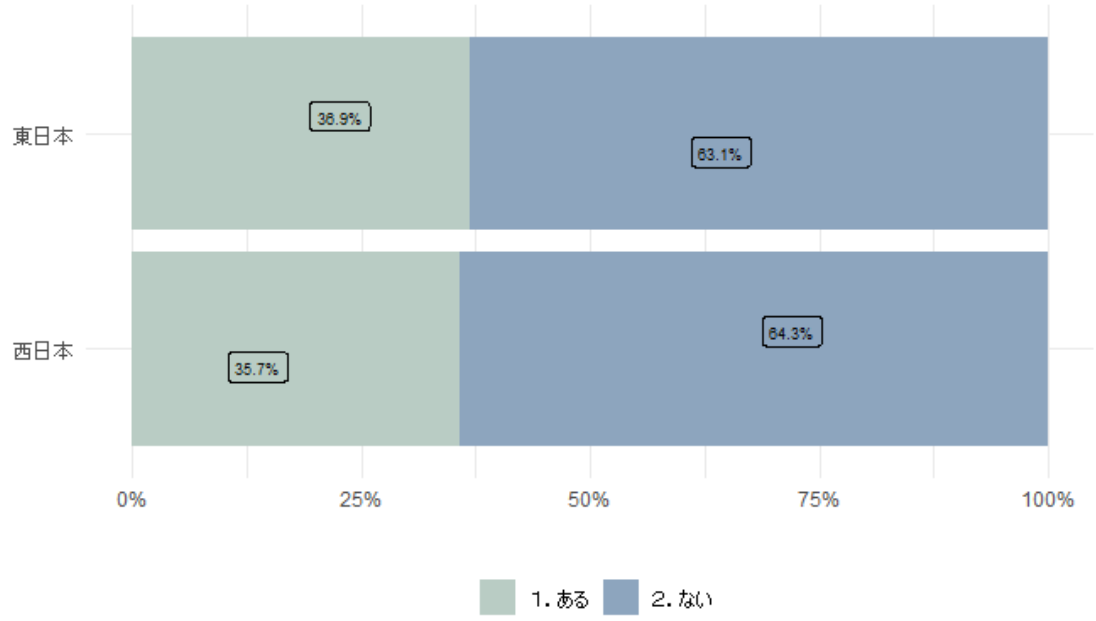
（2）中心地区･非中心地区別

非中心地区の方が他に利用する施設があるとの回答が多かった。



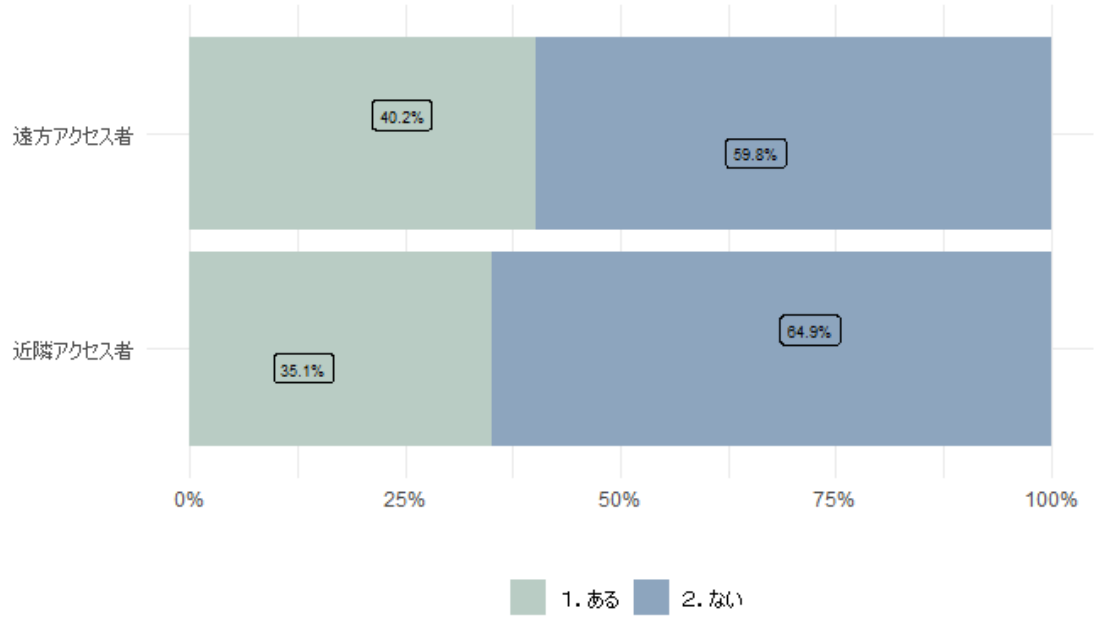
（3）地域別

地域別に大きな差はない。



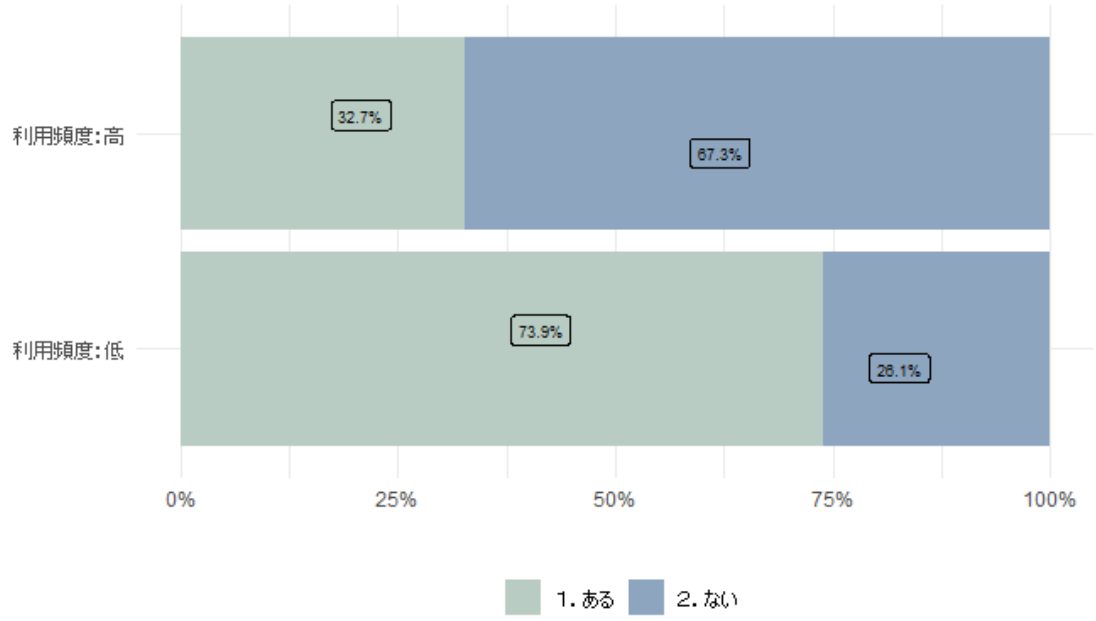
（4）アクセス状況別

遠方アクセス者の方が他の施設を利用する割合が高い。



（5）利用頻度別

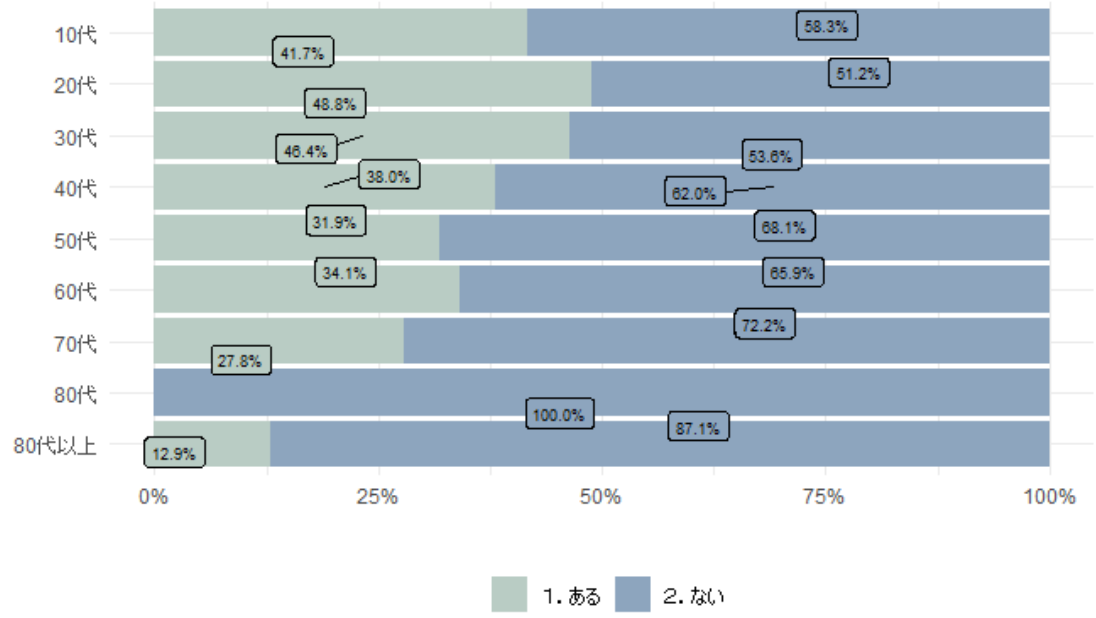
利用頻度が高い人の方が他の店がないと回答している割合が高い。



（6）年齢層別

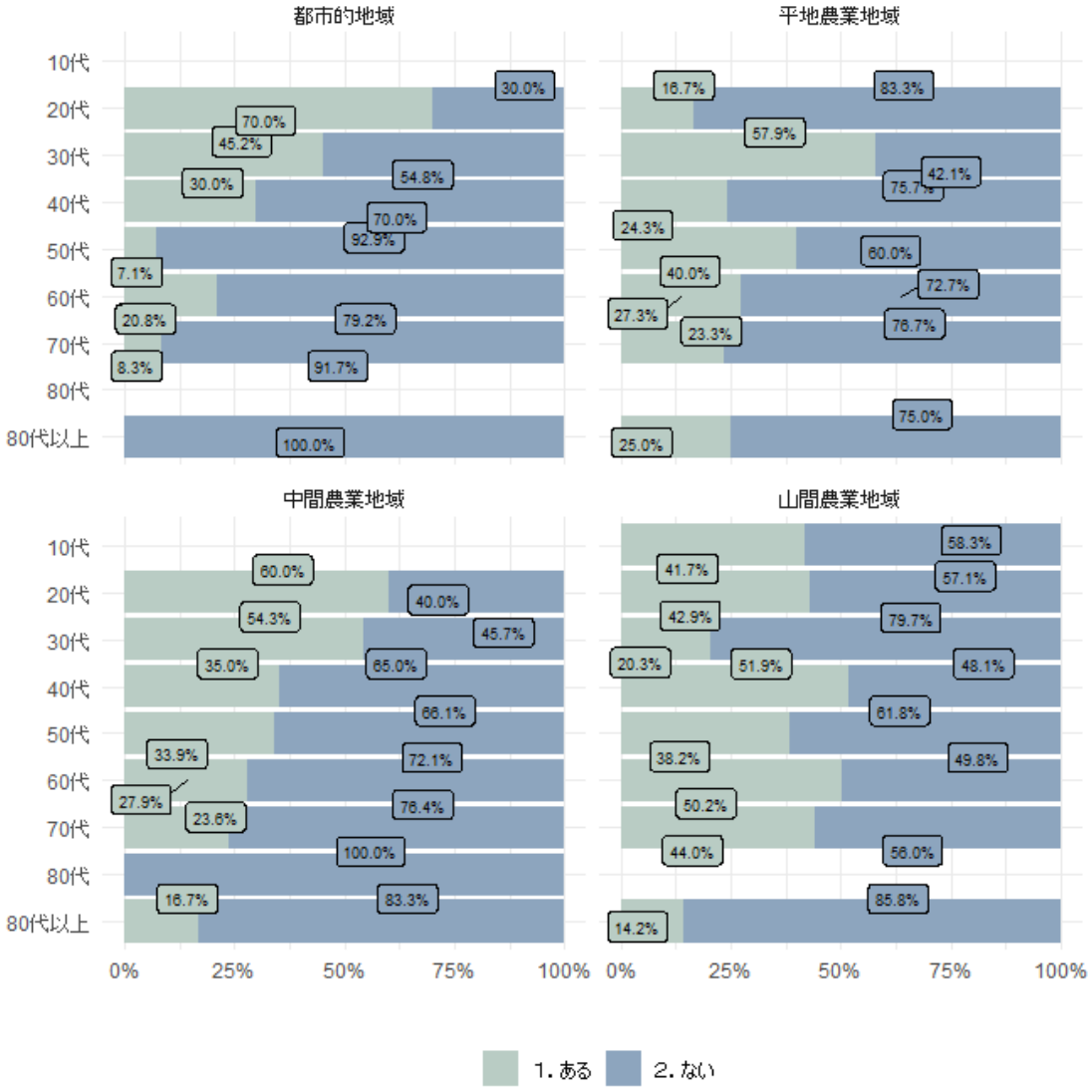
①全体

年齢が高くなるにつれ、他の施設がないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

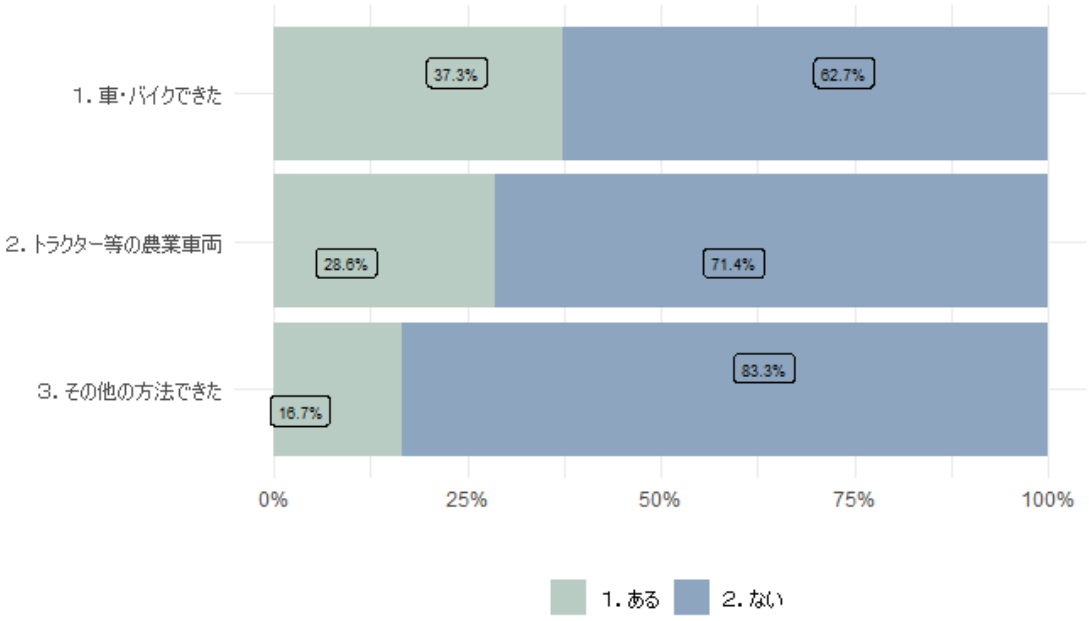
平地農業地域以外は、全体として、年齢が高くなるにつれ、他の施設がないと回答する割合が高くなる。



（7）移動手段別

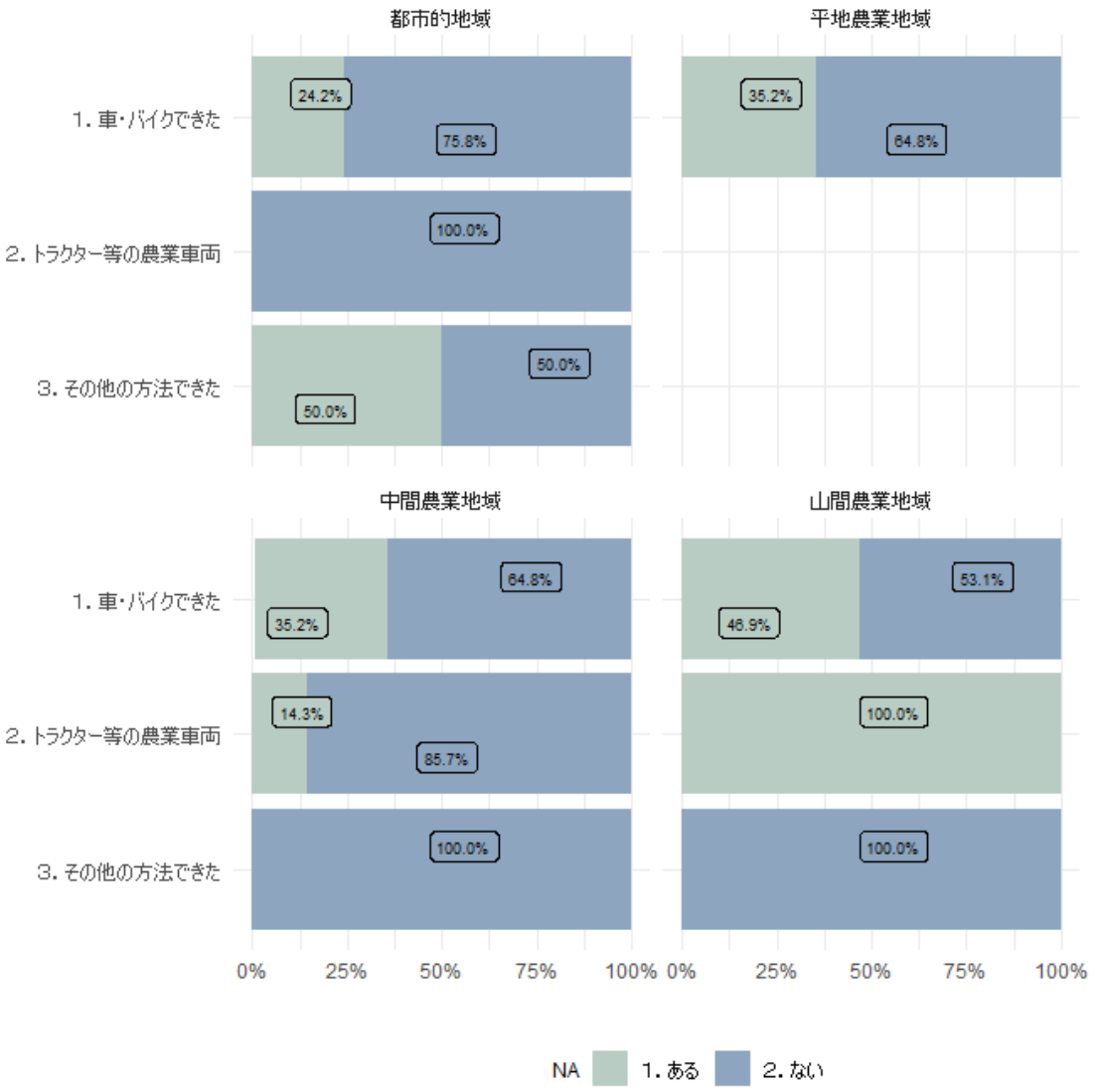
①全体

移動手段が、その他（主に公共交通機関）であるほうが、他の施設を利用しないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

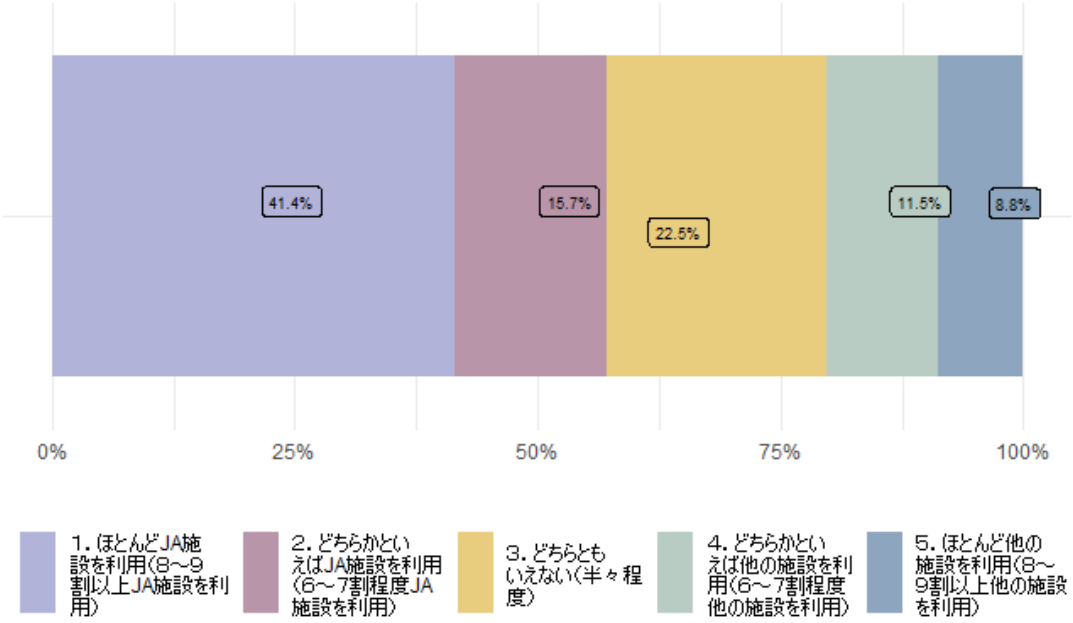
「その他の方法できた」という回答は少ないため、若干結果はばらついている。



4.4.10. 農協施設と農協以外の施設の利用状況

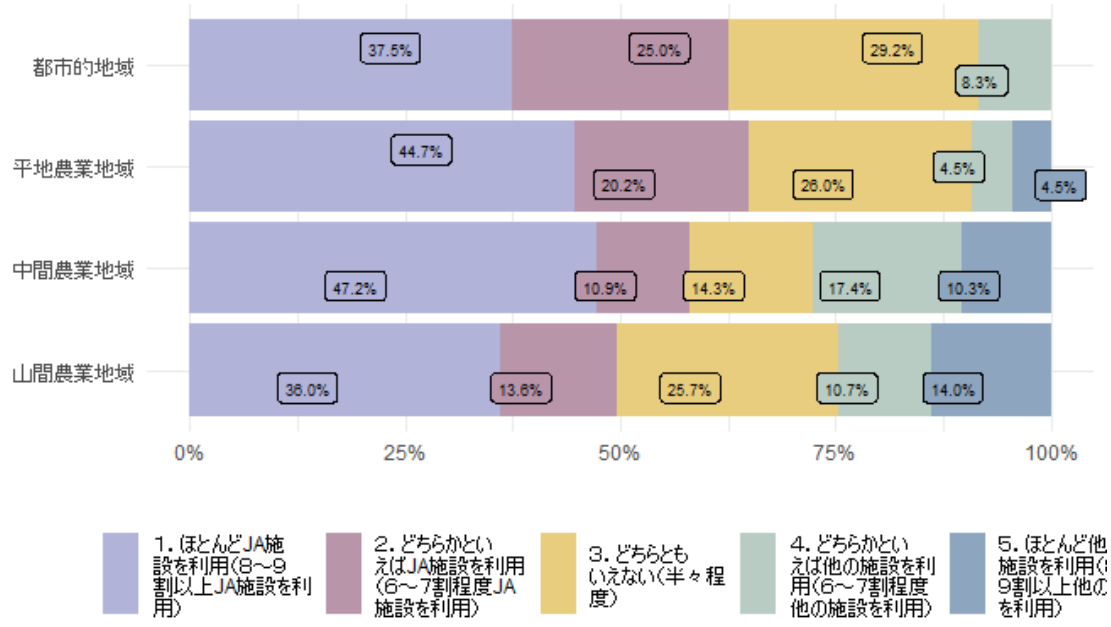
（1）全体

6割弱が6割以上農協施設を利用している。



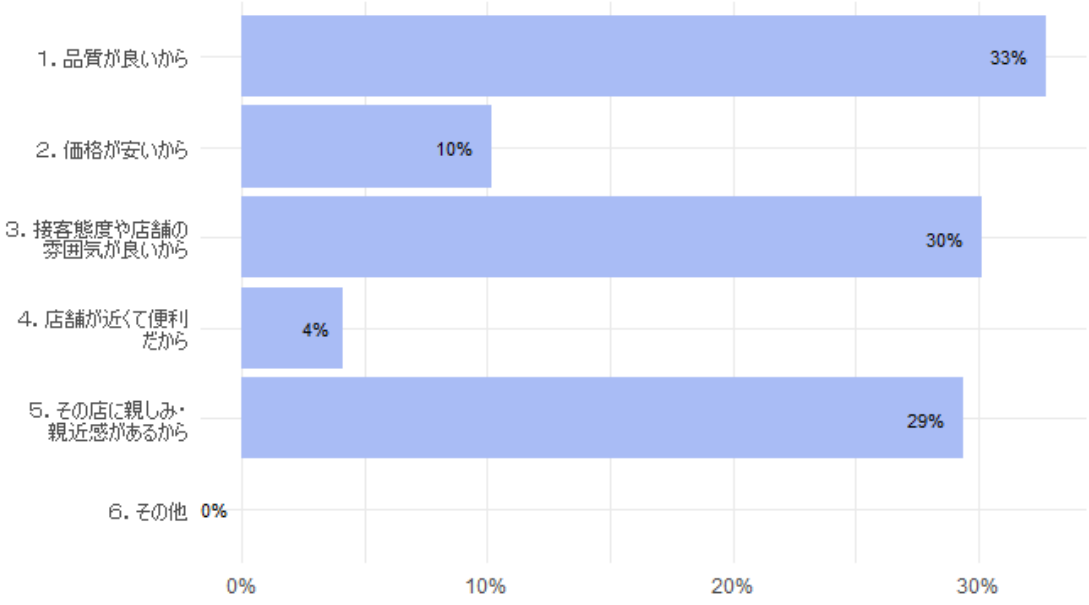
（2）農業地域累計別利用状況

山間農業地域では他の施設を利用する割合が高い。



4.4.11. 他のガソリンスタンドを利用する理由

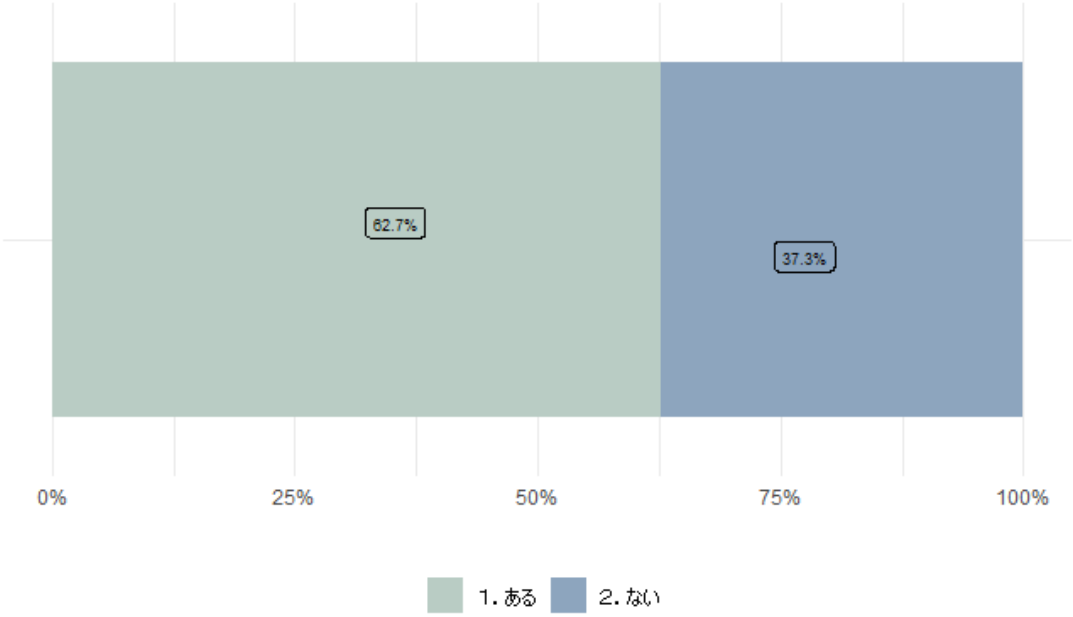
他のガソリンスタンドを利用する理由として、品質、接客態度や雰囲気、その店への親しみが挙げられている。



4.4.12. 農協以外の施設の利用可能性

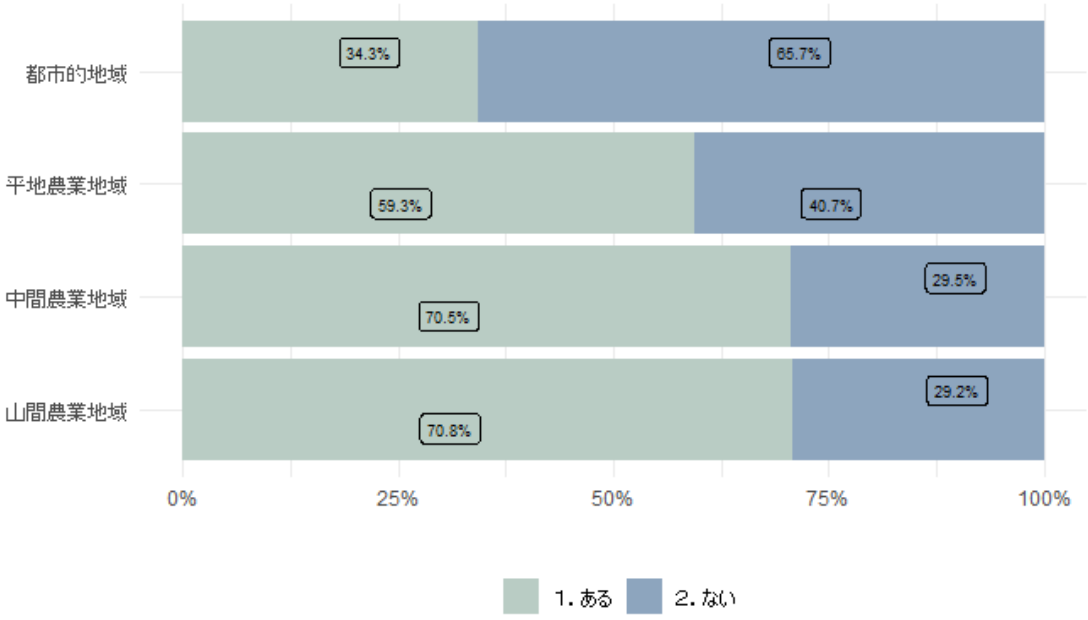
（1）全体

農協以外の施設が利用できない割合は４割弱程度となっている。



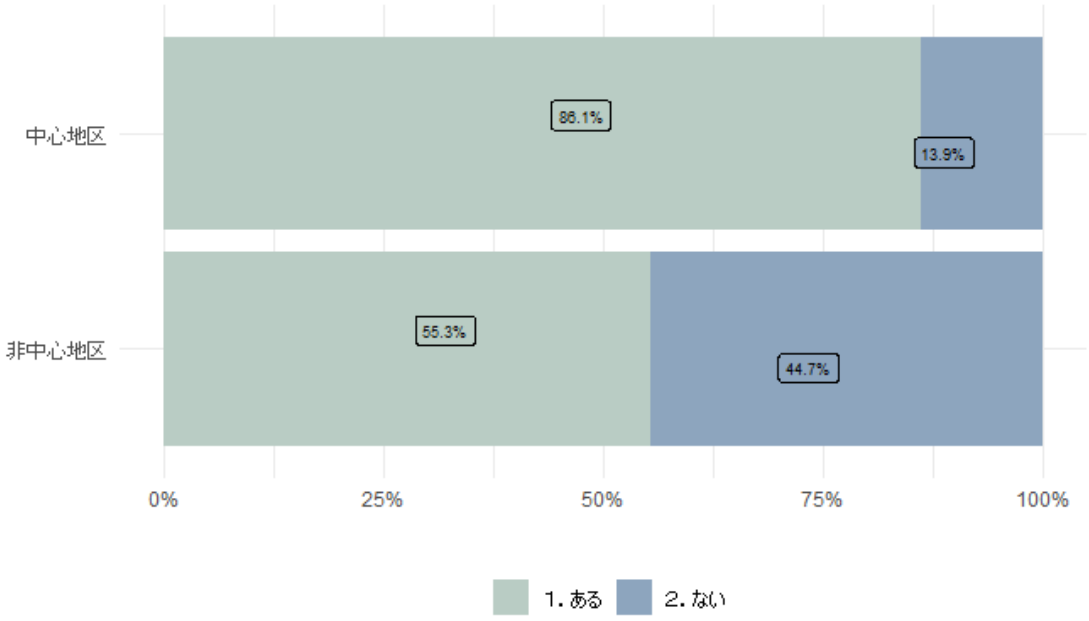
（2）農業地域累計別、農協施設以外の利用可能性

都市的地域において、農協以外の施設が利用できない割合が低い。



（3）中心地区･非中心地区別、農協施設以外の利用可能性

非中心地区の方が利用できる施設がないと回答している割合が高い。



5. 令和元年、令和２年度の集計結果

5.1. 回収状況

類型	都道府県	市町村	購買店舗		JA バンク		ガソリンスタンド	
			回収数	有効回答	回収数	有効回答	回収数	有効回答
山間農業地域	山形県	鶴岡市	52	51	37	35	35	33
都市的地域	北海道	岩見沢市	66	57	50	46	50	47
都市的地域	愛知県	豊橋市	52	46	55	51	53	47
中間農業地域	福島県	福島市	50	49	50	48	50	47
平地農業地域	茨城県	東茨城郡城里町	55	54	55	43	60	45
都市的地域	兵庫県	姫路市	80	75	41	39	60	58
中間農業地域	長野県	南牧村	50	24	34	23	50	49
平地農業地域	北海道	帯広市	55	53	51	49	51	46
平地農業地域	宮城県	亘理町	60	60	50	49	50	50
都市的地域	石川県	小松市	64	38	65	48	62	54
山間農業地域	三重県	南伊勢町	54	49	43	40	26	21
平地農業地域	鳥取県	米子市	64	59	44	42	50	50
山間農業地域	島根県	美郷町	50	49	36	36	11	11
中間農業地域	北海道	当麻町	56	55	52	51	52	51
中間農業地域	群馬県	嬬恋村	50	47	50	48	50	49
中間農業地域	広島県	安芸高田市	50	50	50	47	50	45
中間農業地域	愛媛県	伊予市	55	41	56	44	50	46

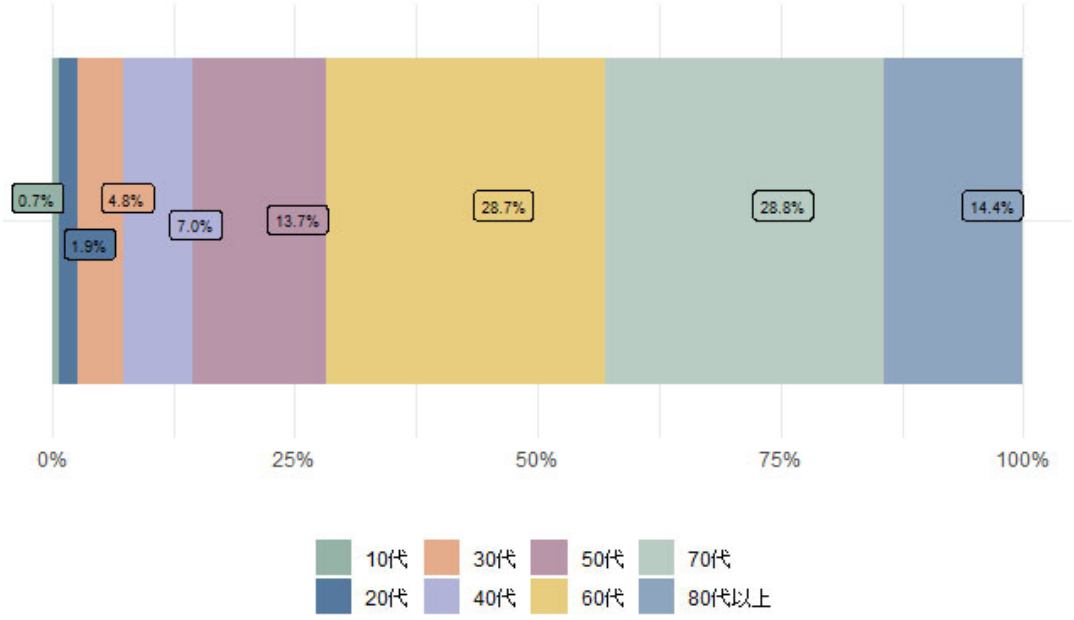
類型	都道府県	市町村	購買店舗		JA バンク		ガソリンスタンド	
			回収数	有効回答	回収数	有効回答	回収数	有効回答
中間農業地域	高知県	香美市	52	51	53	53	50	45
山間農業地域	長崎県	新上五島町	64	58	54	52	389	307
山間農業地域	北海道	北見市	53	50	41	40	30	30
都市的地域	宮崎県	延岡市	51	36	64	55	50	48
山間農業地域	新潟県	魚沼市	50	47	50	49	50	49
平地農業地域	沖縄県	南城市	52	49	50	50	54	47
山間農業地域	鹿児島県	霧島市	70	69	50	50	51	51

5.2. 食品･日用品小売サービス

5.2.1. 回答者の年代

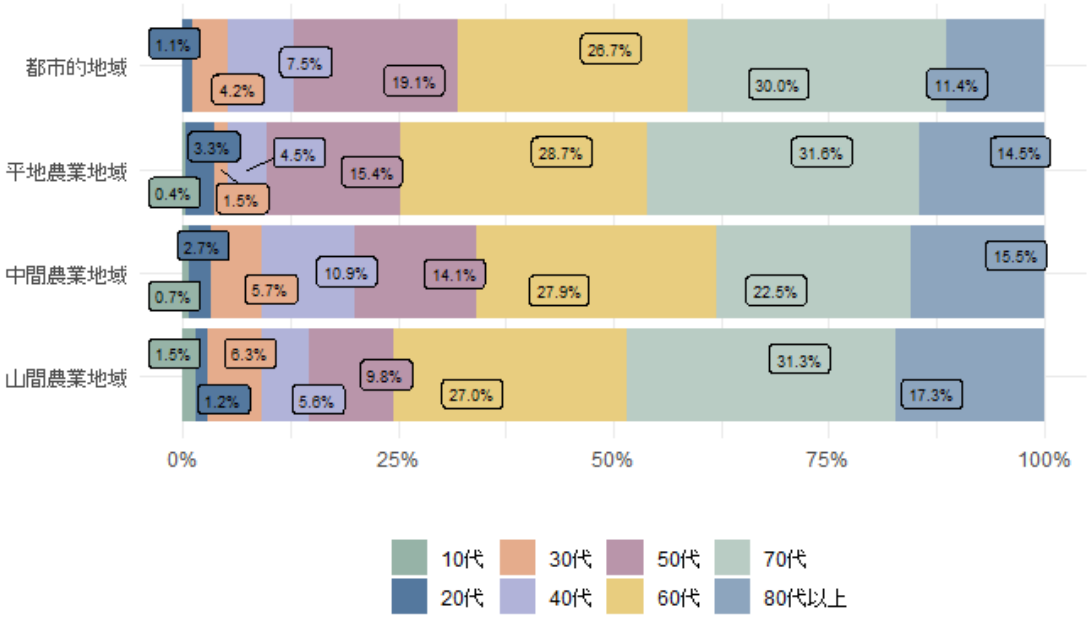
（1）全体

回答者の年代は、約７割が６０歳以上である。



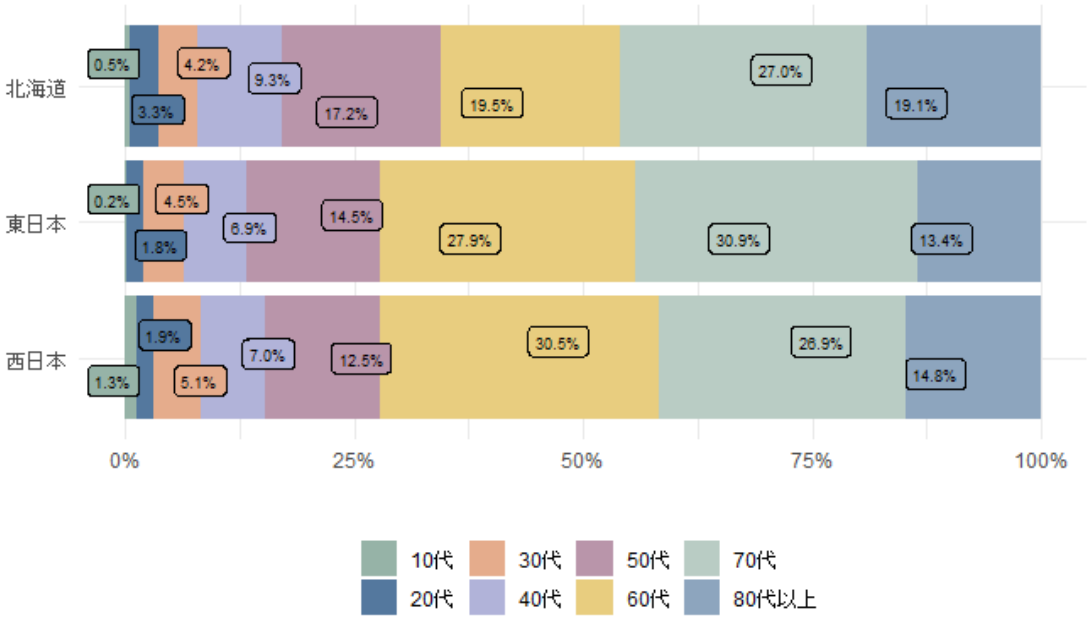
（2）農業地域類型別

農業地域類型別には大きな違いが見られないが、中間農業地域、山間農業地域になるに従って、やや高齢者の割合が高まっている。



（3）地域別

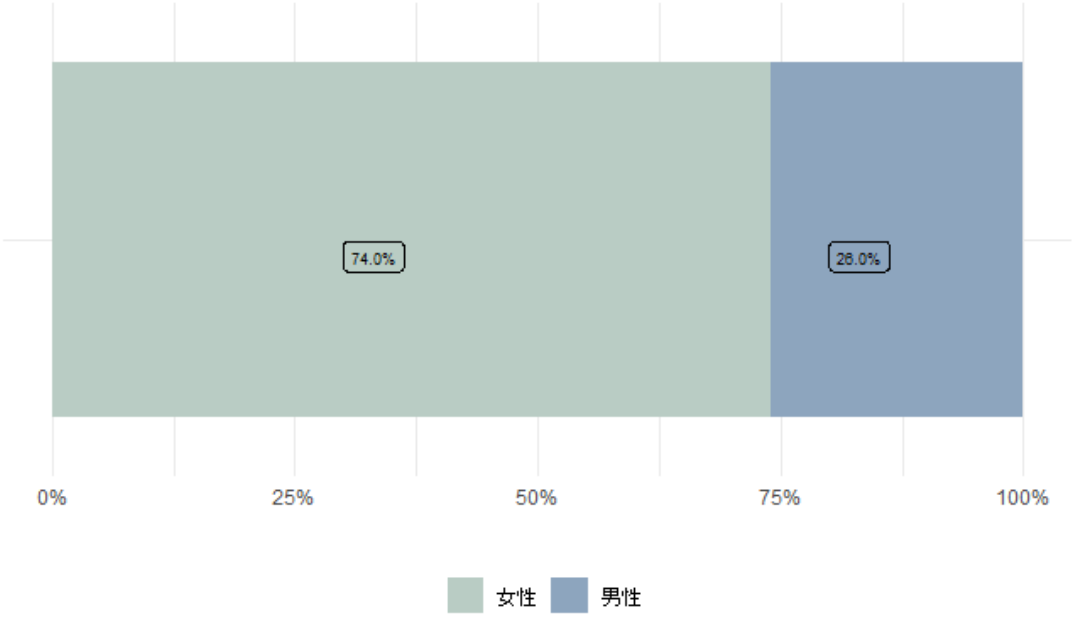
地域別に比較すると、大きな違いは見られない。



5.2.2. 回答者の性別

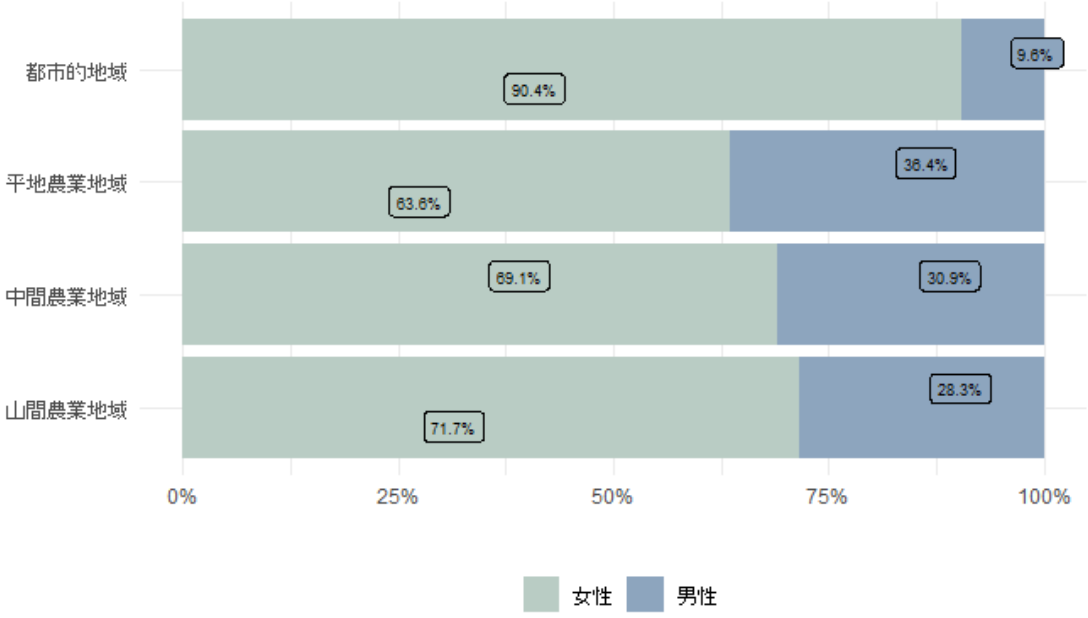
（1）全体

回答者の約３／４が女性である。



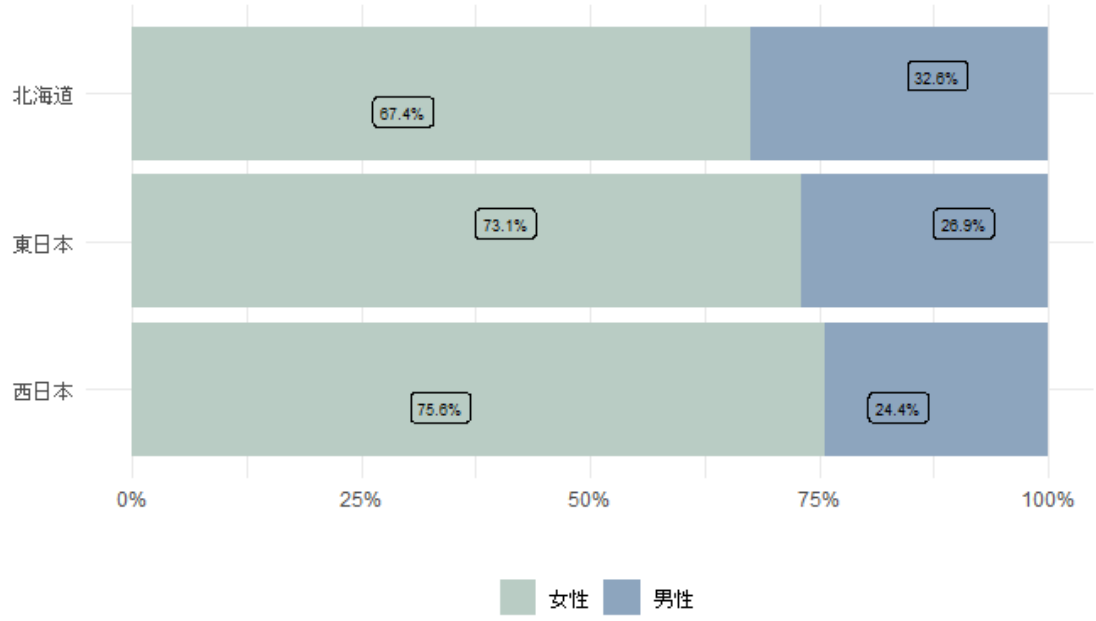
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に性別を見ると、都市的地域で約９割が女性である。



（3）地域別

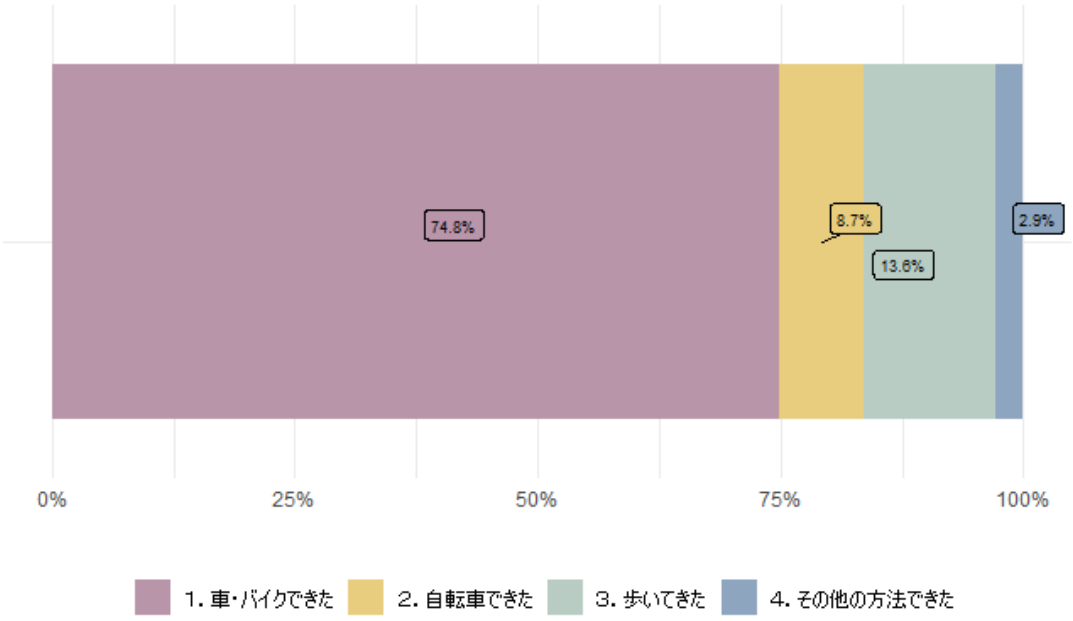
地域別に見ると、北海道でやや男性が多い。



5.2.3. 来場の方法

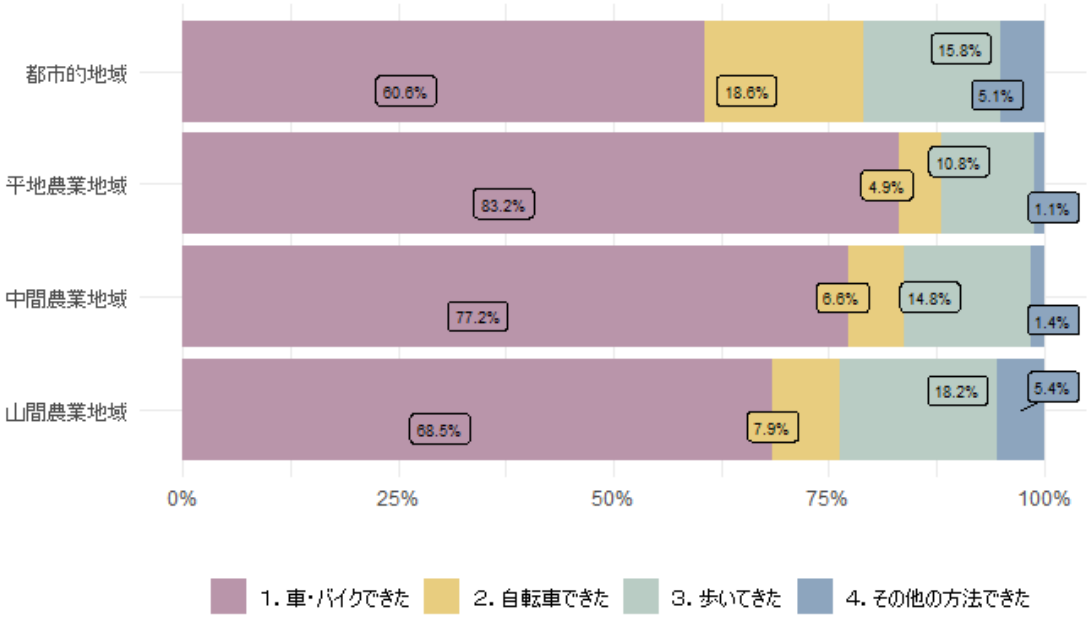
（1）全体

約７割が「車・バイクできた」と回答している。その他の方法の多くは、バス等の公共交通機関である。



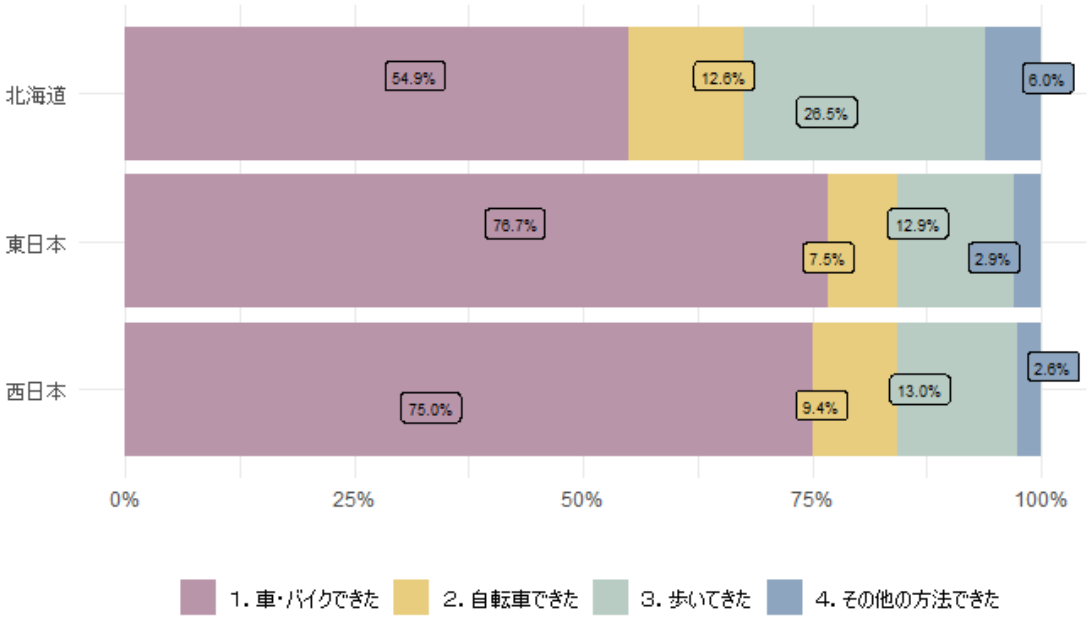
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に見ると、平地農業地域では「車・バイクできた」比率が高く、都市的地域において低い。



（3）地域別

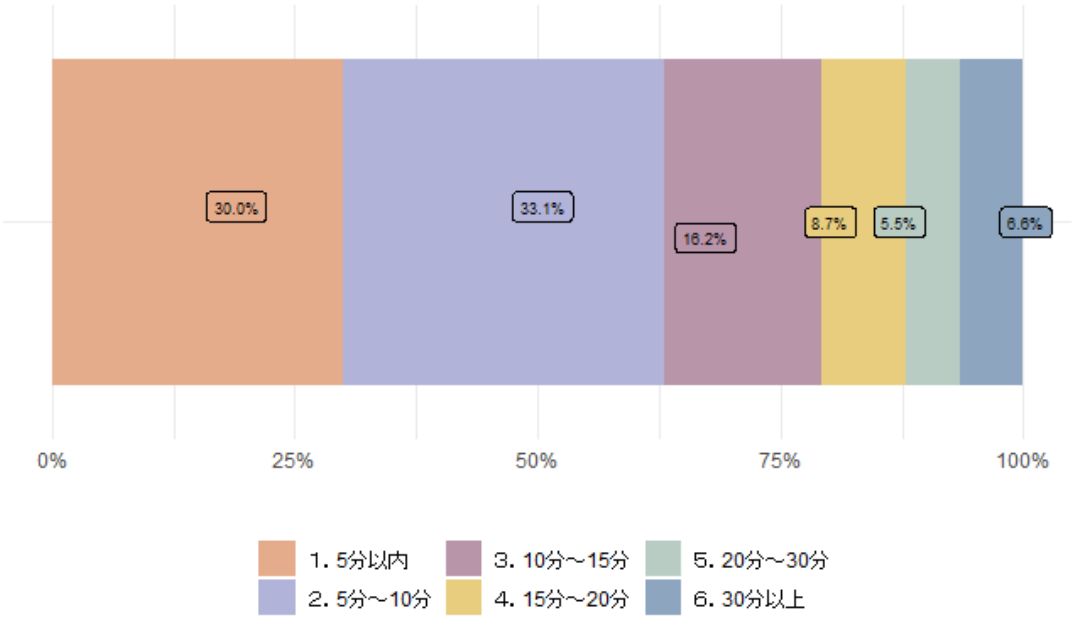
地域別に見ると北海道において、「車・バイクできた」比率が低い。



5.2.4. 所要時間

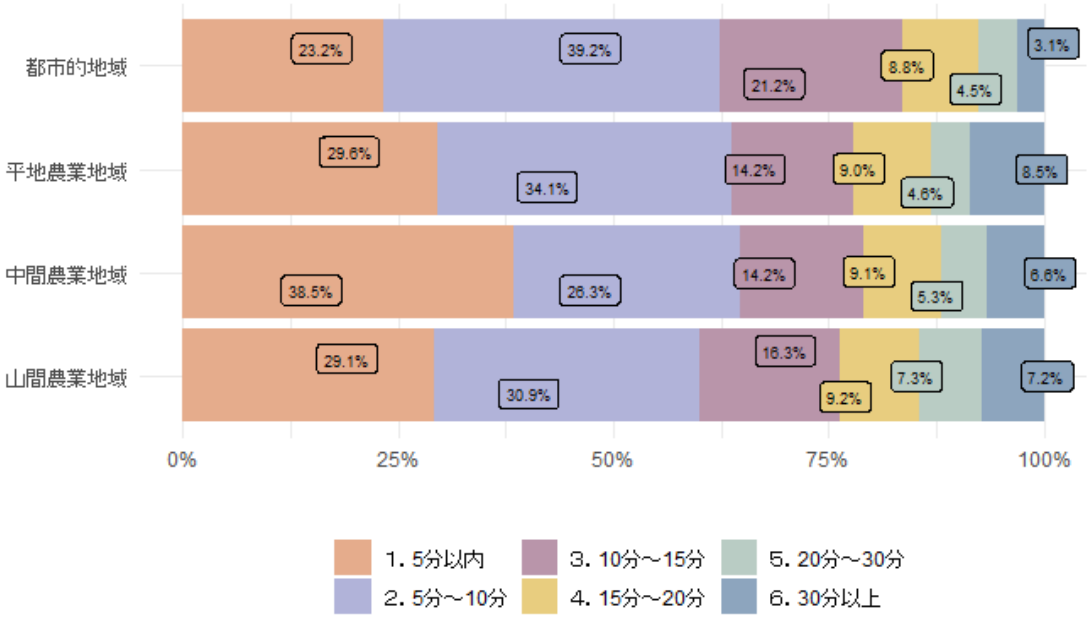
（1）全体

所要時間は約 6 割が 10 分以内であるが、30 分以上かかる地域からきている人もある程度いることがわかる。



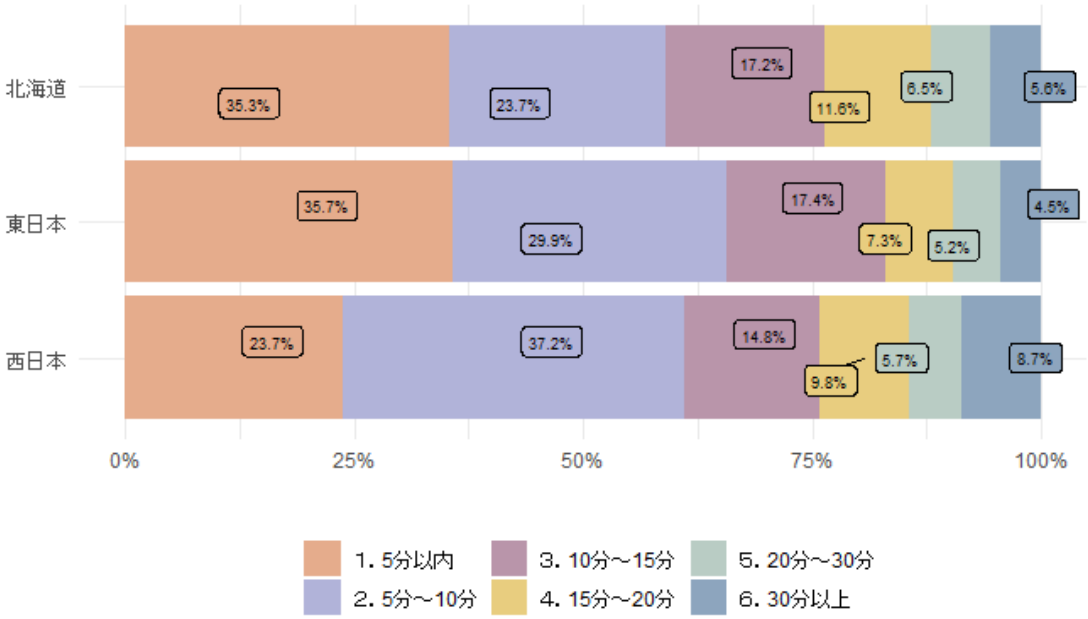
（2）農業地域類型別

10 分以内の割合は、農業地域類型別に大きく変わらないが、5 分以内の割合は都市的地域で低い。。



（3）地域別

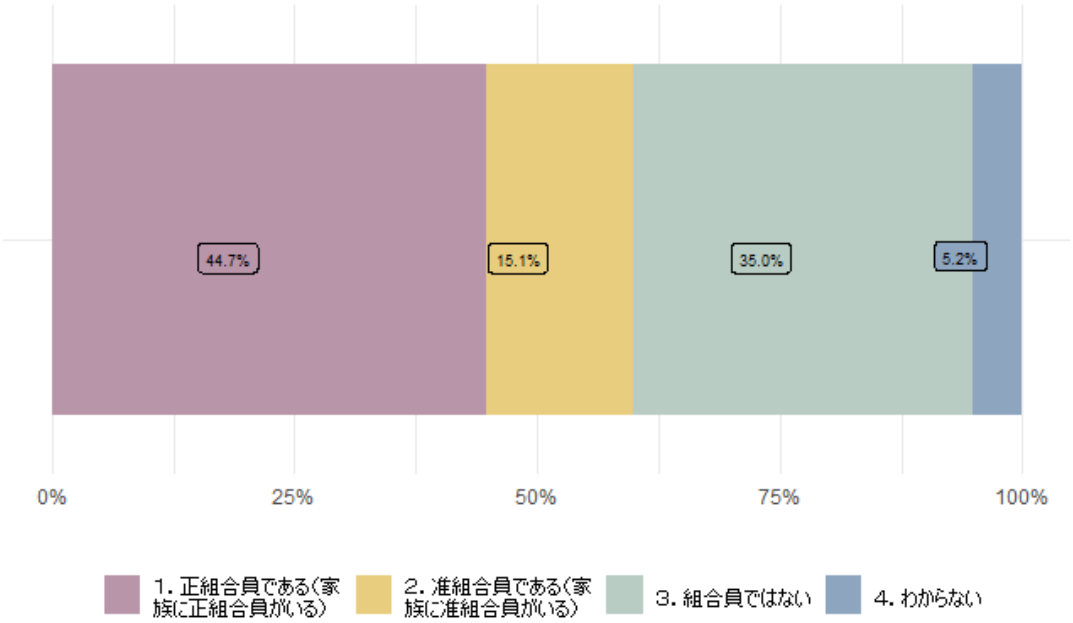
地域別に見ると大きく変わらないが 5 分以内の割合は西日本で低い。



5.2.5. JA への加入状況

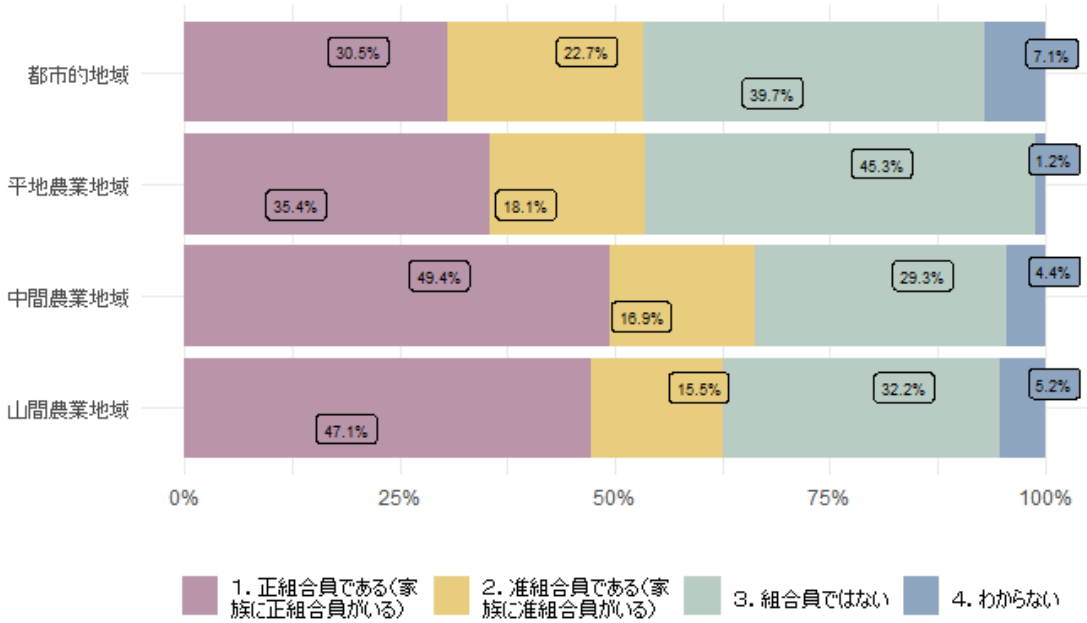
（1）全体

正組合員である割合が 4 割強であり、組合員でない割合が 4 割弱となっている。なお、令和元年調査では、選択肢に「わからない」がなかった。



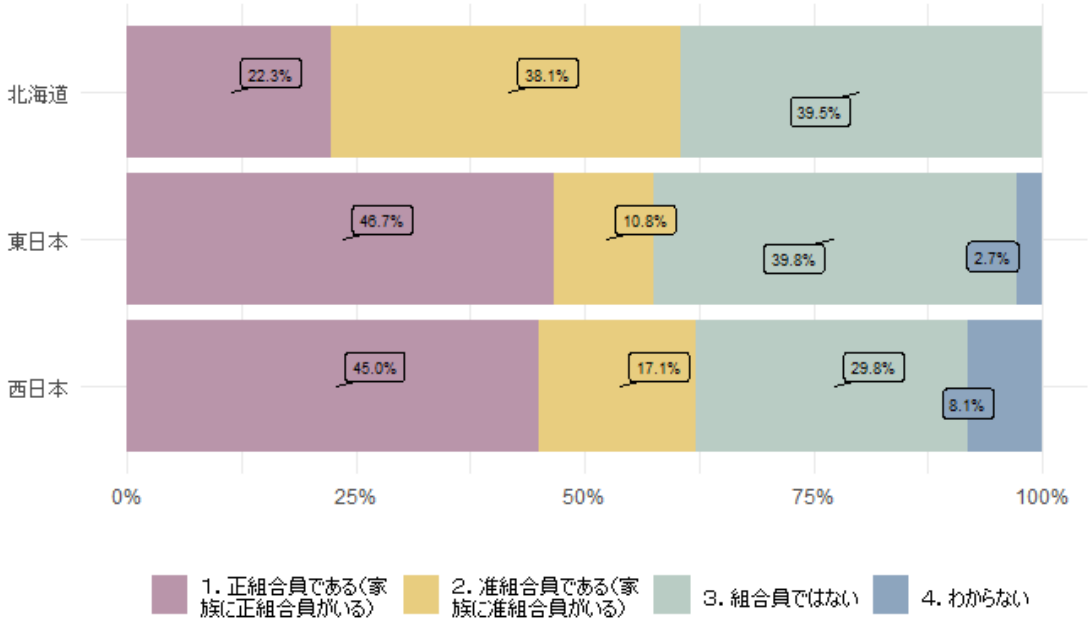
（2）農業地域類型別

都市的地域、平地農業地域での正組合員率が低い。



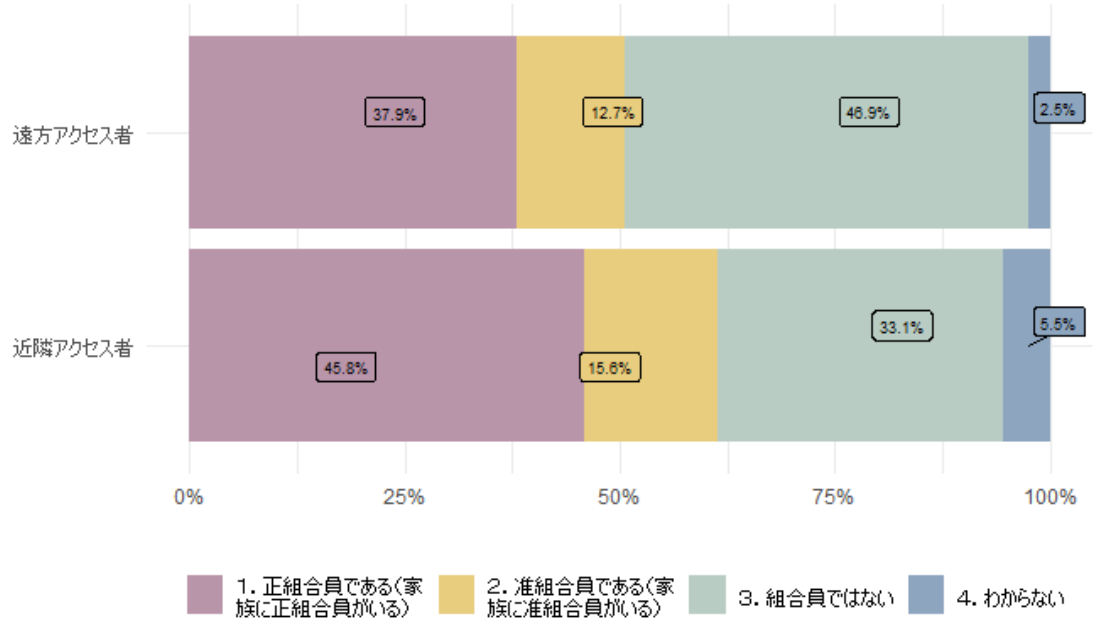
（3）地域別

地域別に見ると北海道で組合員でない人が多い。



（4）アクセス状況別

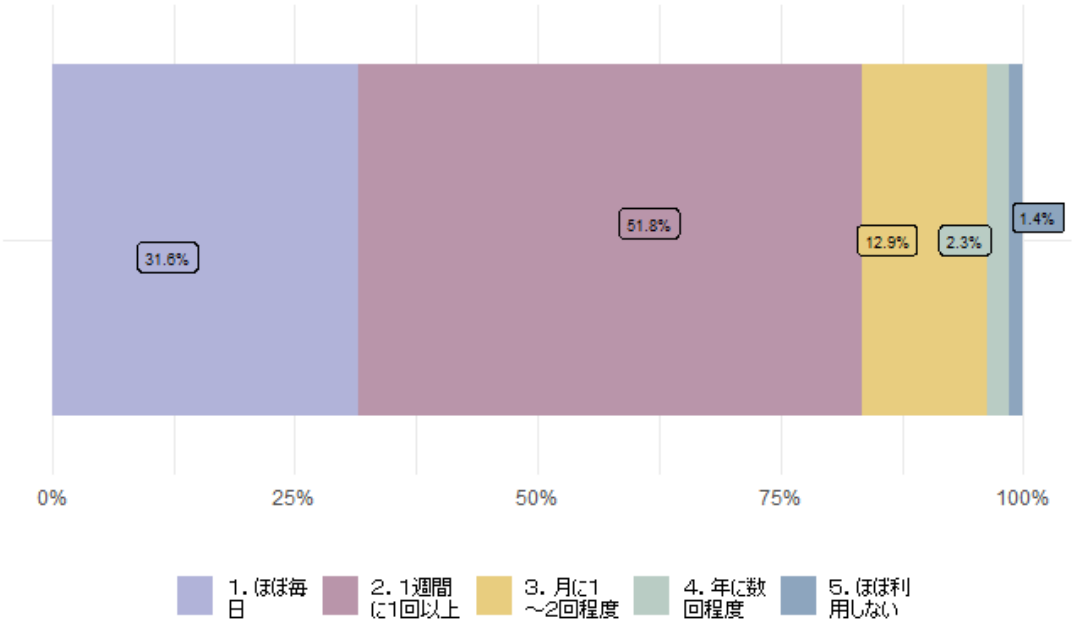
徒歩で 15 分以上、自動車で 20 分以上かかると回答した人を遠方アクセス者と定義し、遠方アクセス者、近隣アクセス者別に加入状況を比較した。その結果、遠方からアクセスしている人の正組合員率が低いことが明らかとなった。



5.2.6. 利用頻度

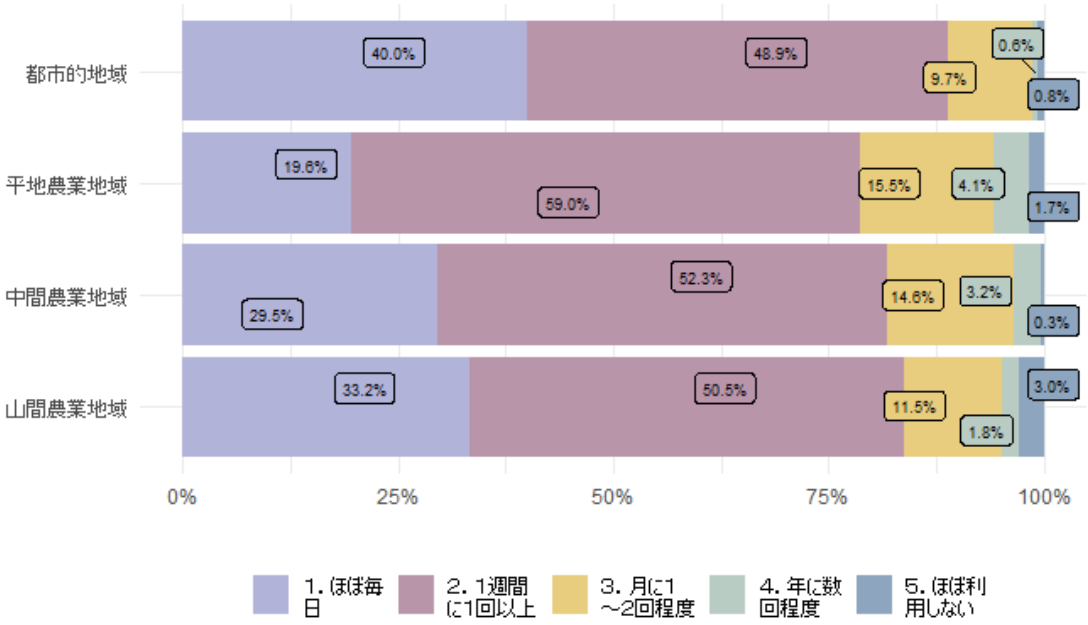
（1）全体

利用頻度を見ると「１週間に１回以上」が半分程度であり、「ほぼ毎日」と併せると８割以上が週に１回以上利用している。



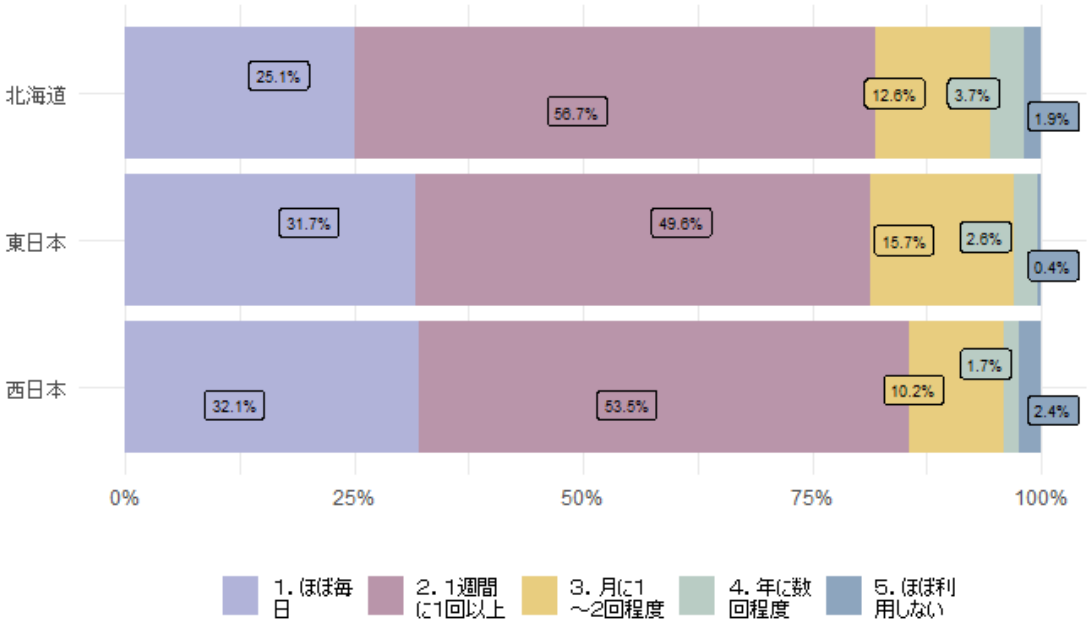
（2）農業地域類型別

農業地域別にみると都市的地域において若干利用頻度が高い。また、平地農業地帯の頻度が低い。



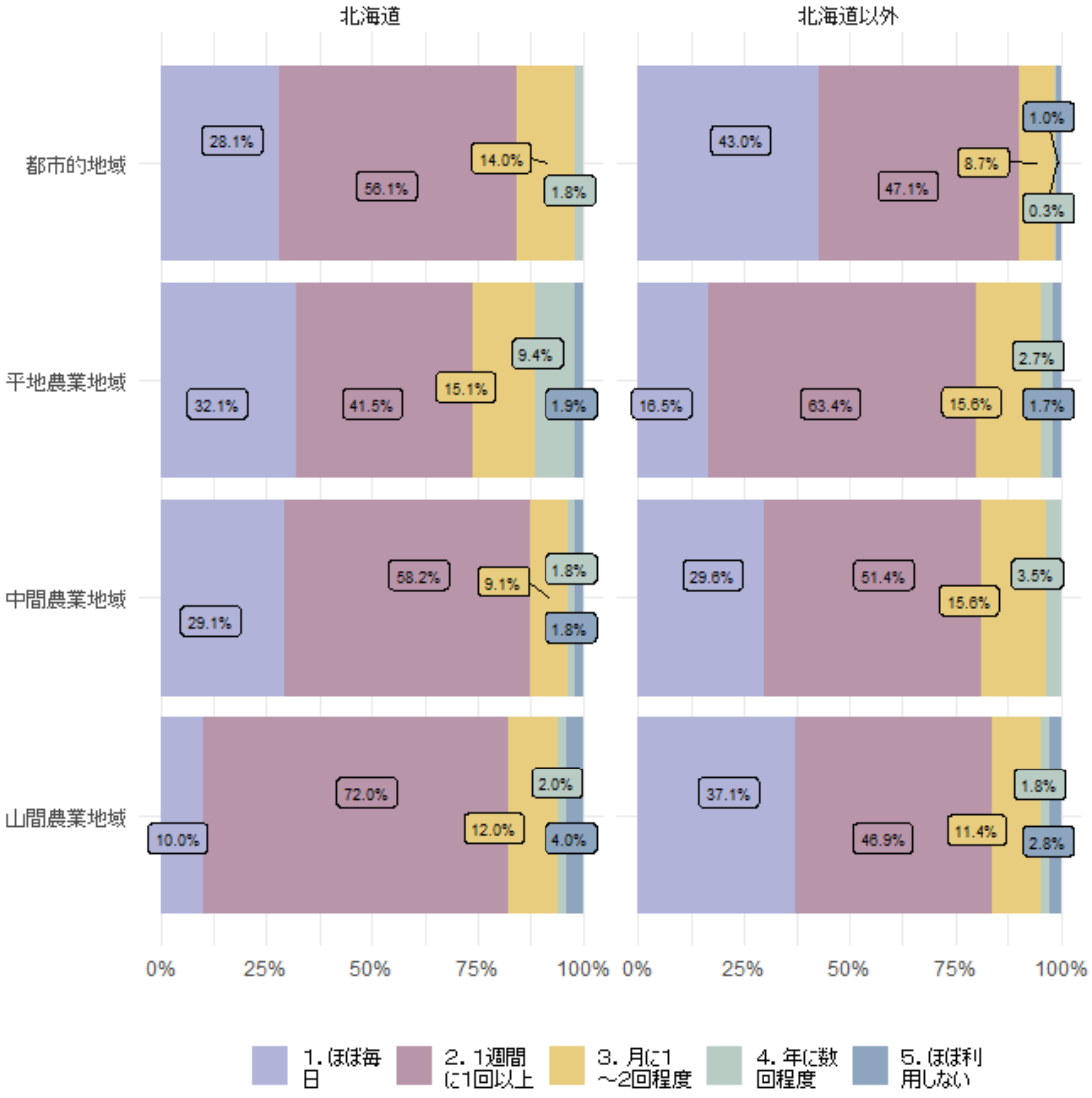
（3）地域別

地域別にはあまり大きな違いは見られない。



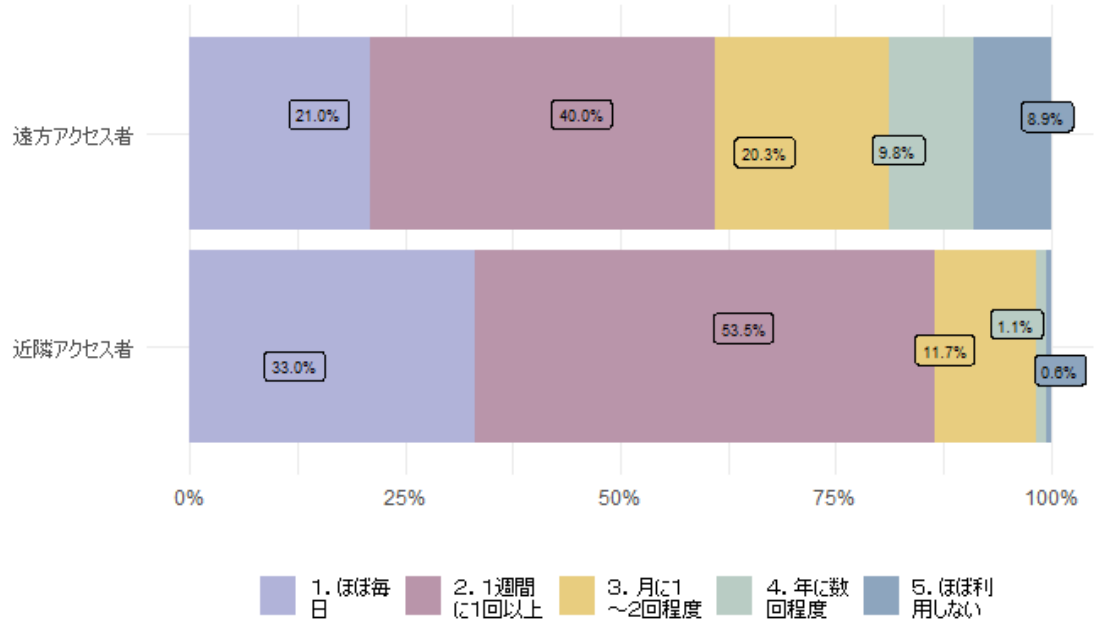
（4）農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

北海道では山間農業地域、北海道以外では平地農業地域の「ほぼ毎日」率が低くなっている。



（5）アクセス状況別

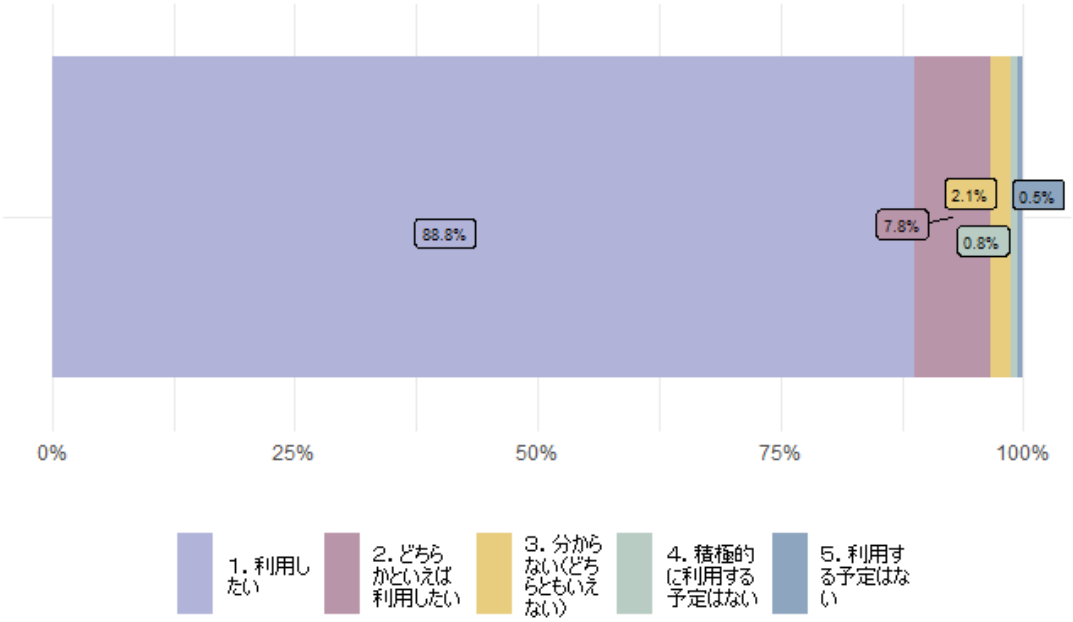
遠方からアクセスしている人の利用頻度は低い。



5.2.7. JA 施設の利用意向

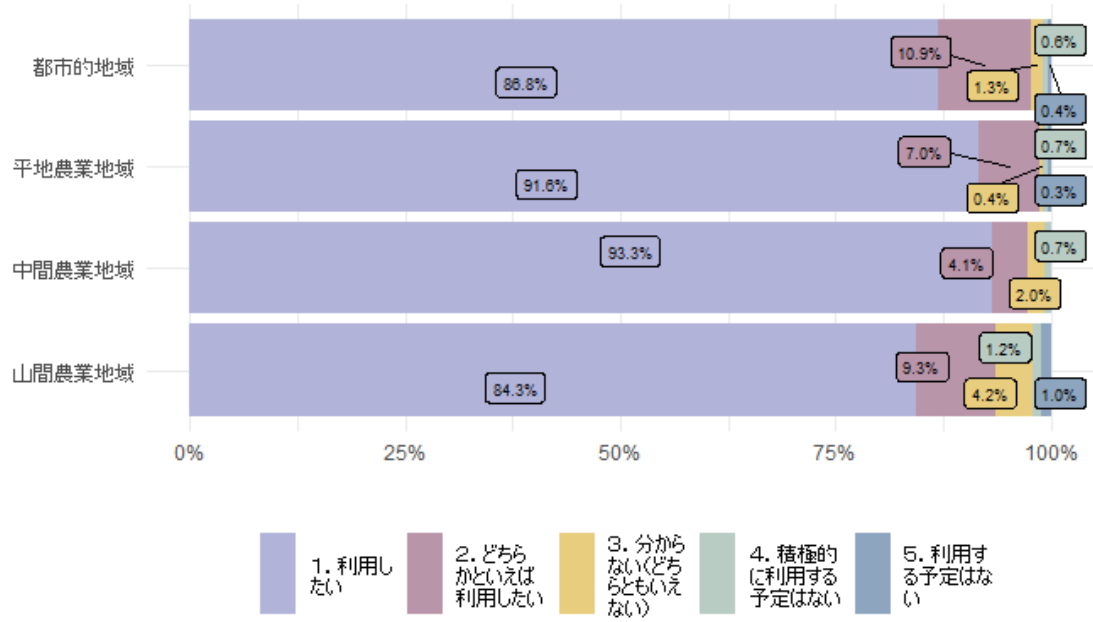
（1）全体

全体として、「利用したい」と回答した人の割合が非常に高い。



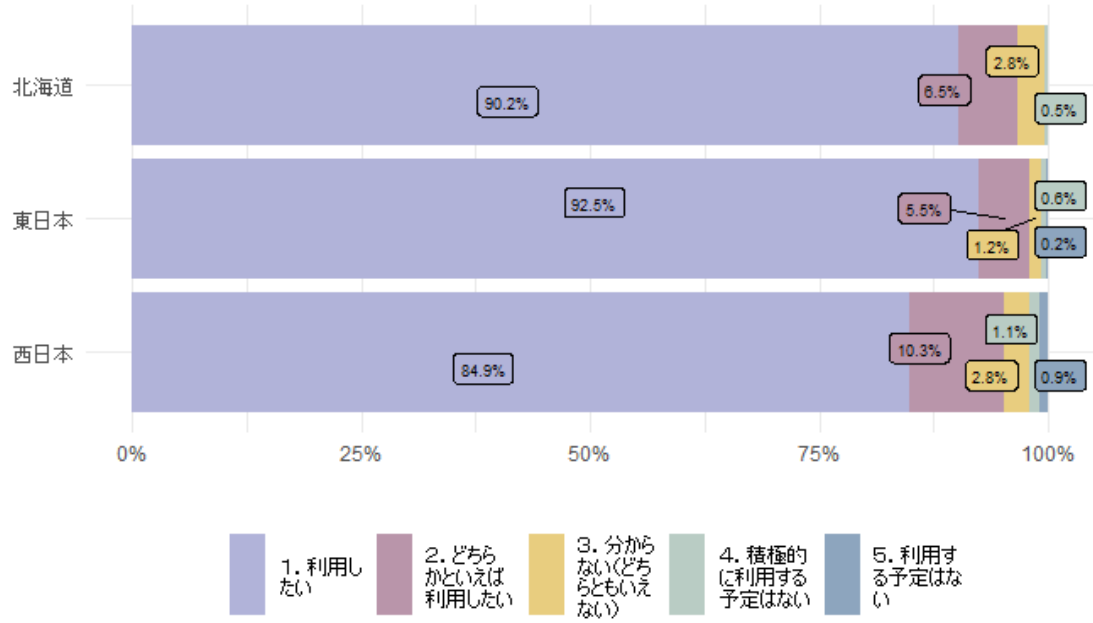
（2）農業地域類型別

農業地域類型別にみても全ての類型で高くなっているが、山間農業地域で若干低くなっている。



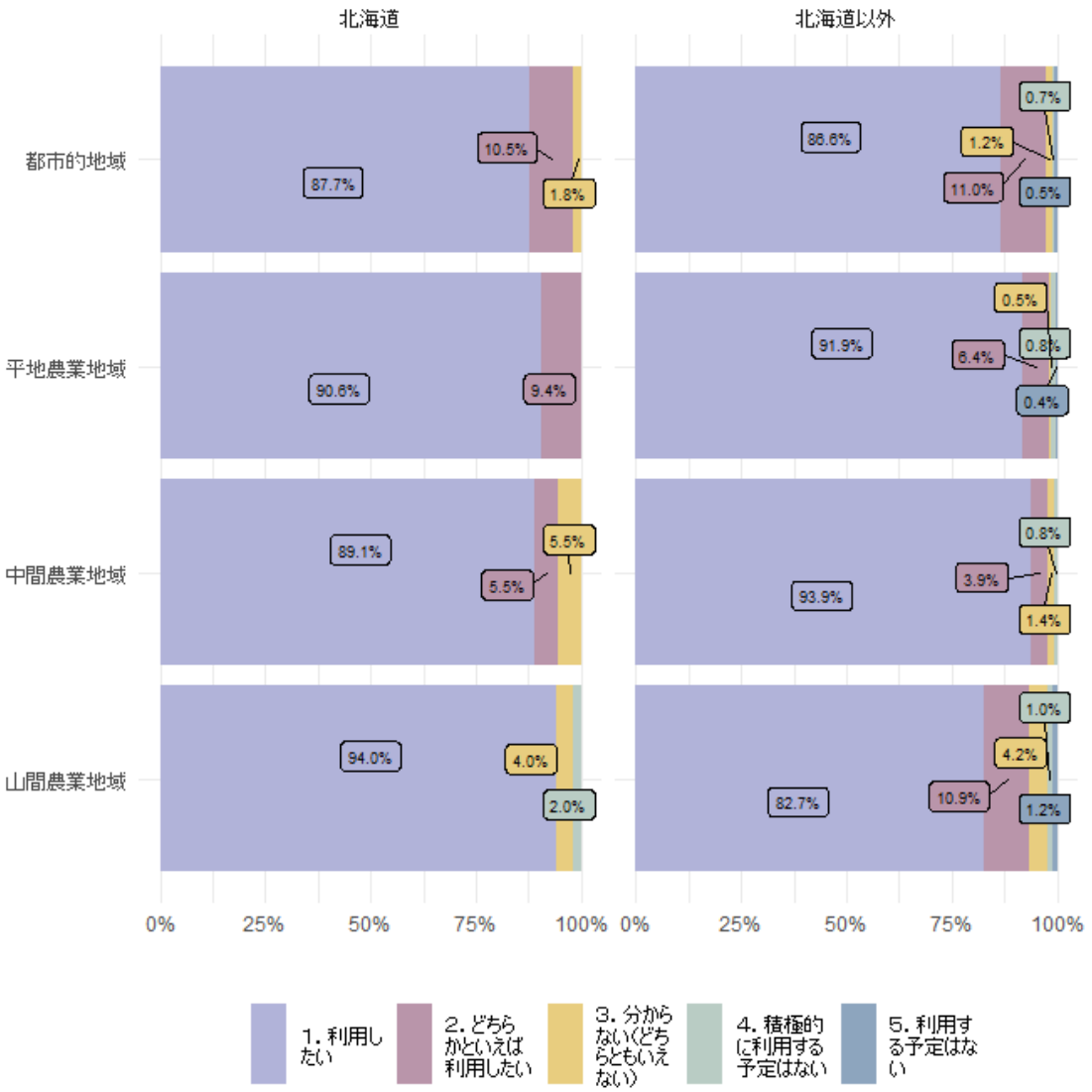
（3）地域別

地域別に見ると西日本の利用意向が若干低い。



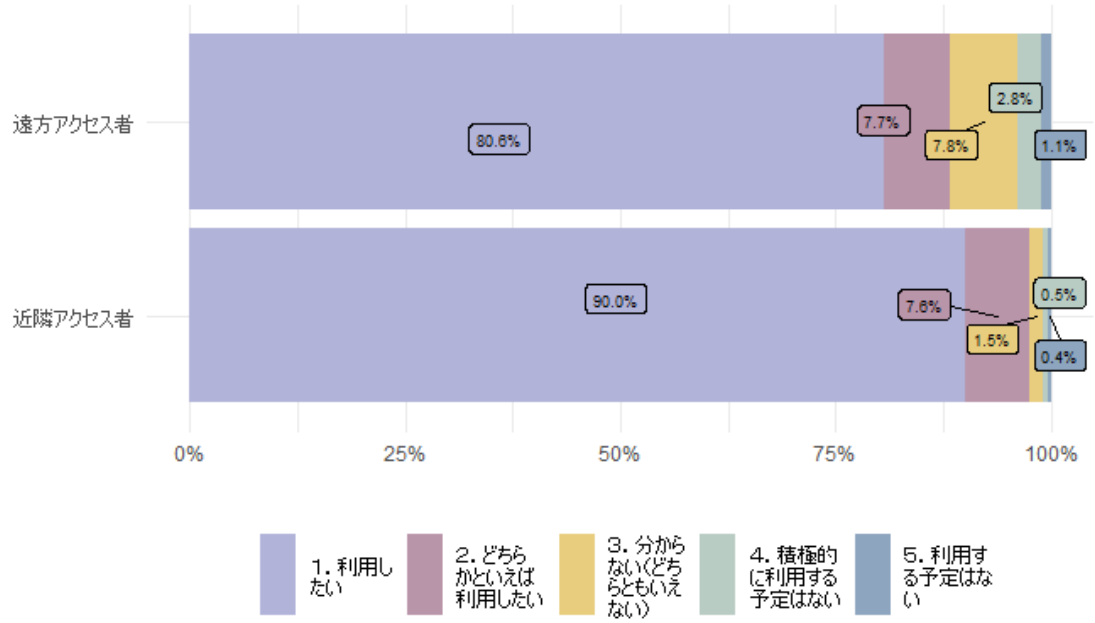
（4）農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

農業地域類型別、地域別に見ても、ほとんどの区分で利用したいと回答している。



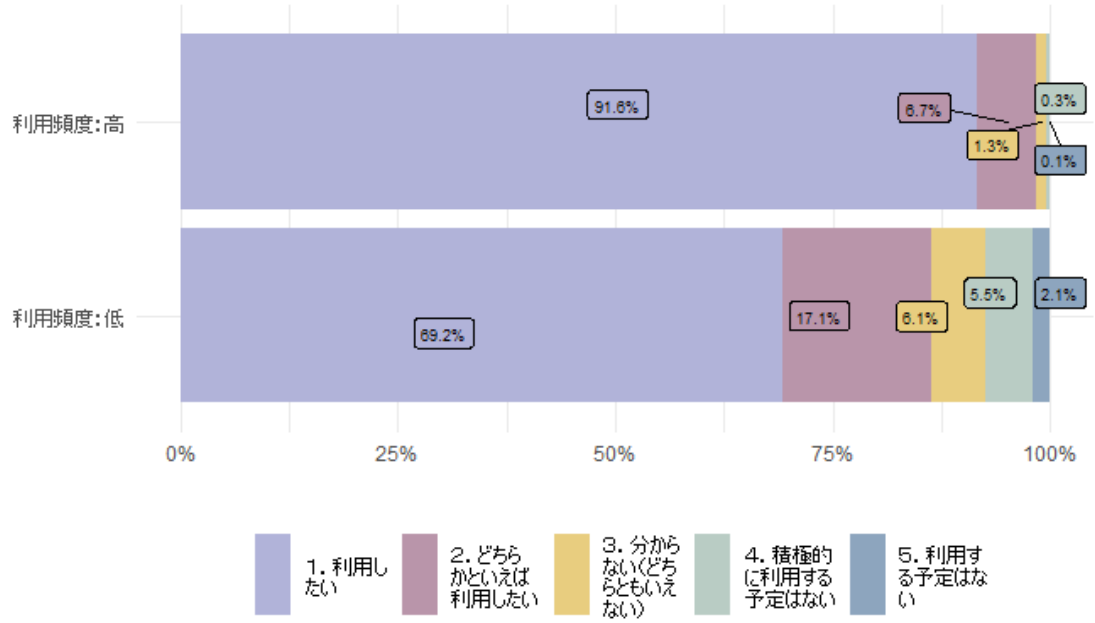
（5）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人の方が今後の利用意向が低くなっている。



（6）利用頻度別

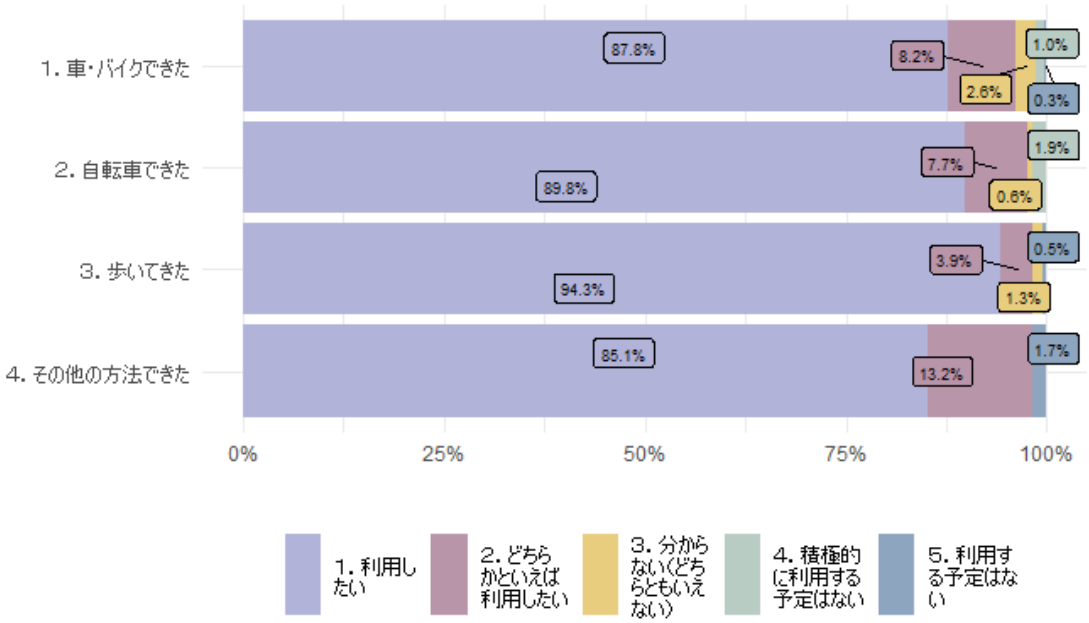
利用頻度が低い人の利用意向は低くなっている。



（7）移動手段別

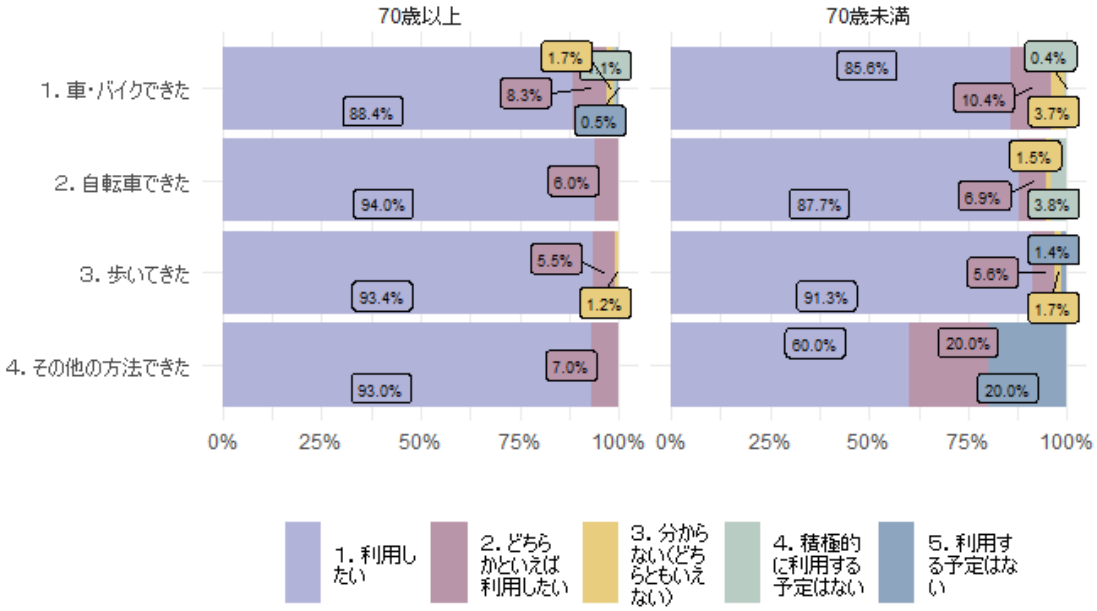
①全体

移動手段別にみるとその他の方法できた（多くがバスなどの公共交通機関）人の利用意向が若干低い。



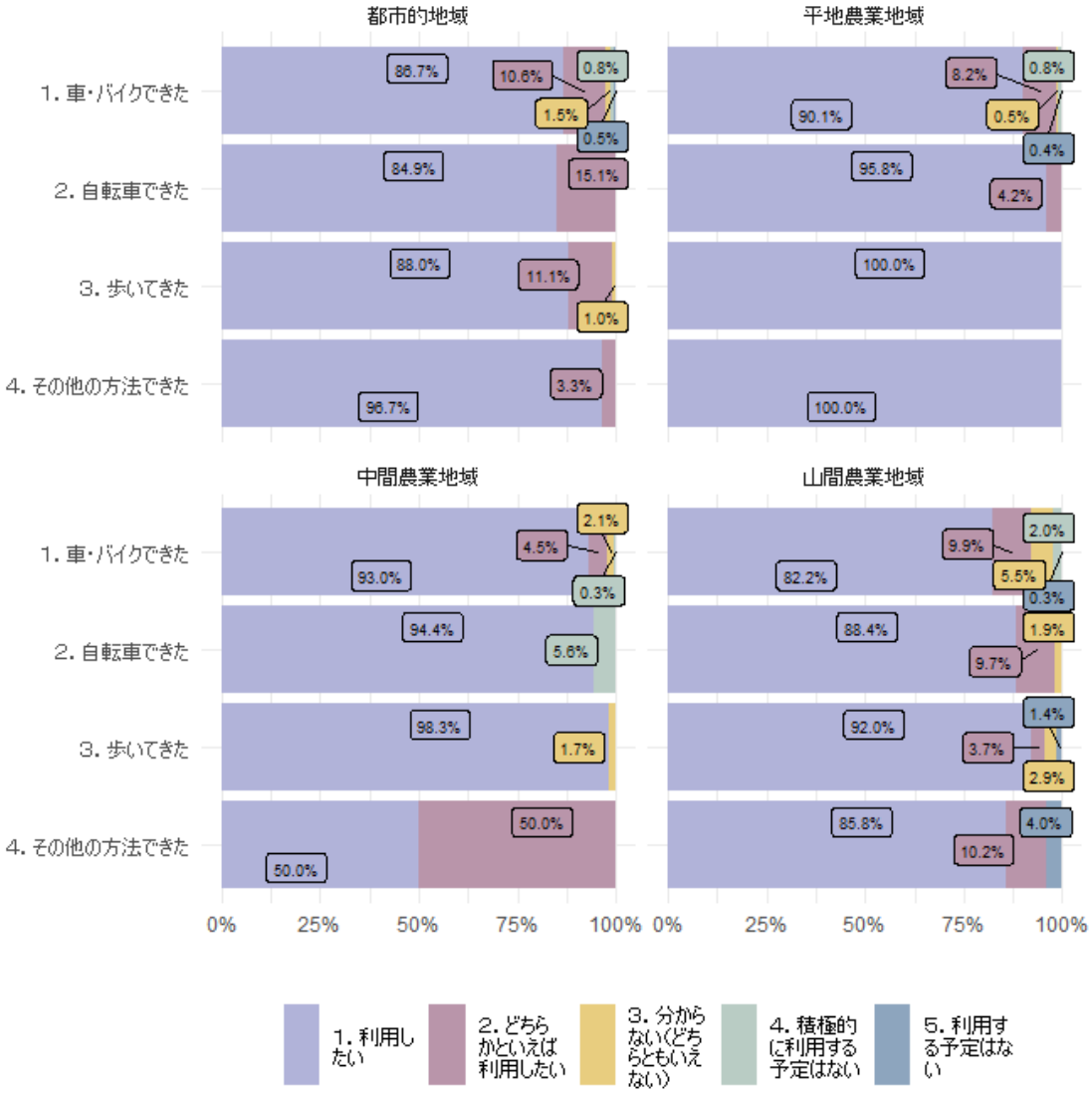
②年齢別

年齢別では、70 歳未満かつその他の方法できた場合の利用意向が低い。



③年齢別・農業地域類型別

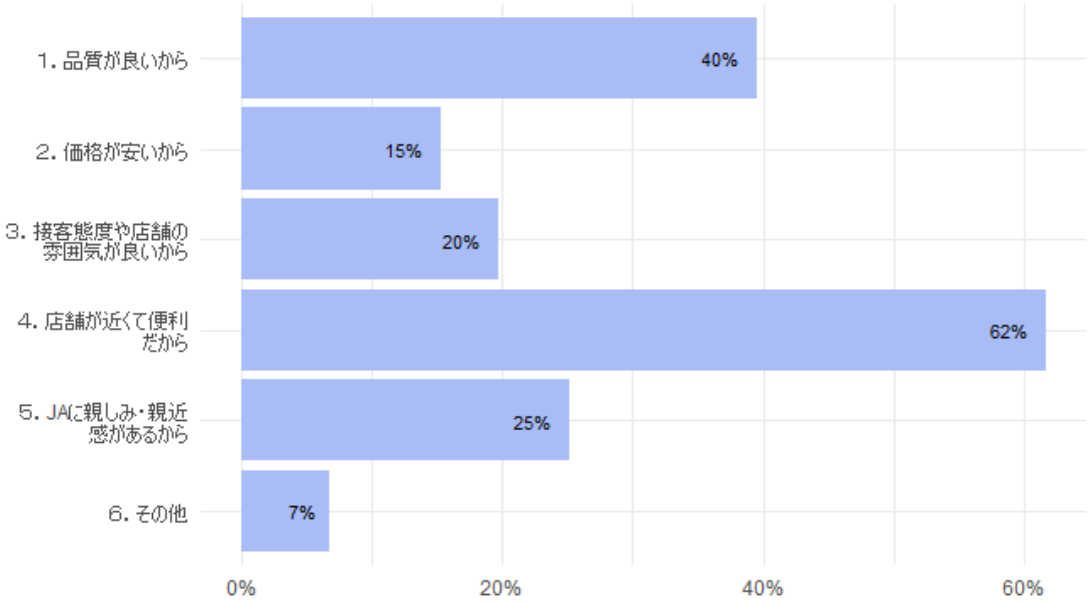
さらに、農業地域類型別に区分すると、いずれの類型でも上記と同じような傾向となった。



5.2.8. 今後も利用したい理由

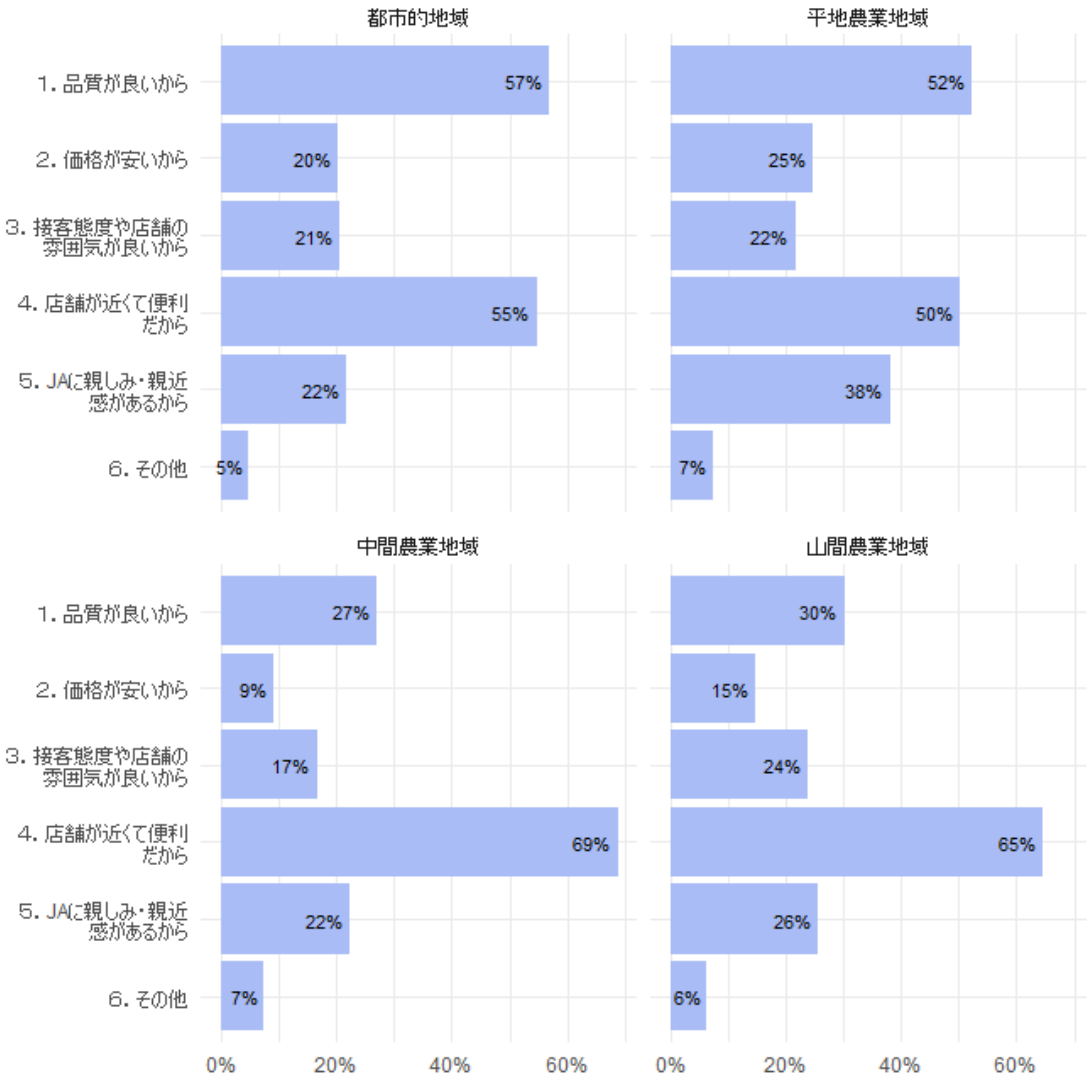
（1）全体

今後も利用したい理由として、「店舗が近くて便利だから」が最も多く、「品質が良いから」がそれにつづいている。「JA に親しみ・親近感があるから」との回答も 25%程度あった。



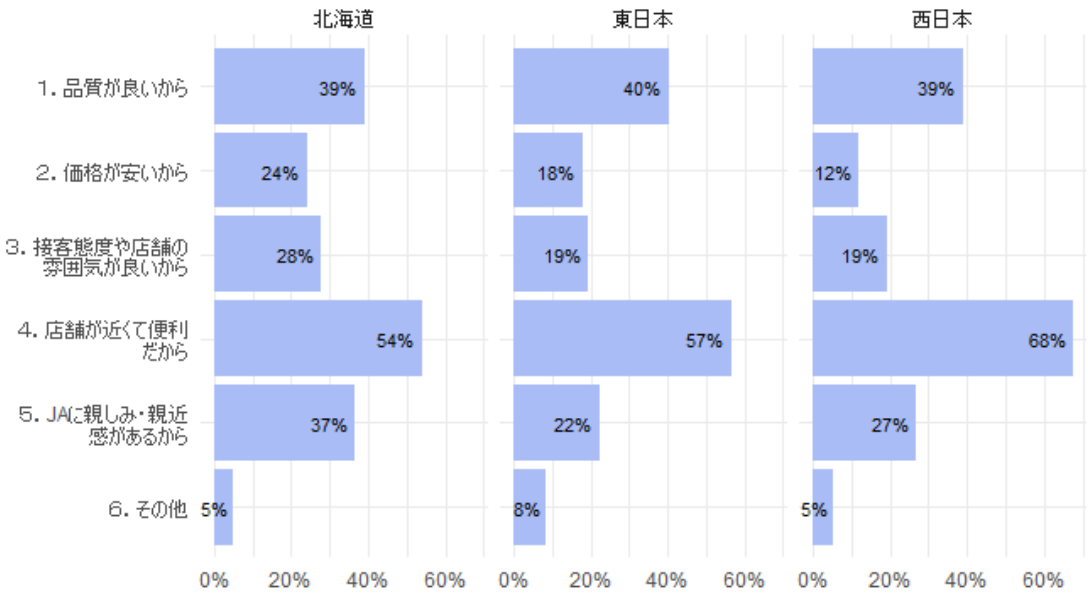
（2）農業地域類型別

いずれの類型においても「店舗が近くて便利だから」は総じて高いが、品質については、都市的地域、平地農業地域における評価が高い。また、これらの地域では価格に対する評価も高くなっている。また平地農業地域ではJAに親しみがあるという回答が非常に高い。



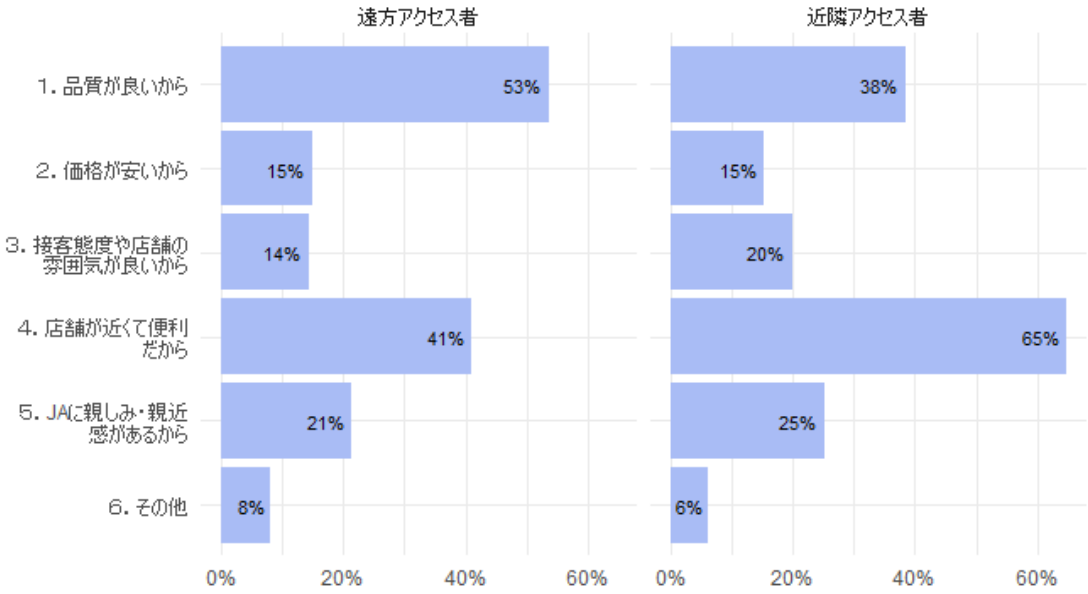
（3）地域別

地域別に見ると、北海道において「JA に親しみがある」割合が高い。



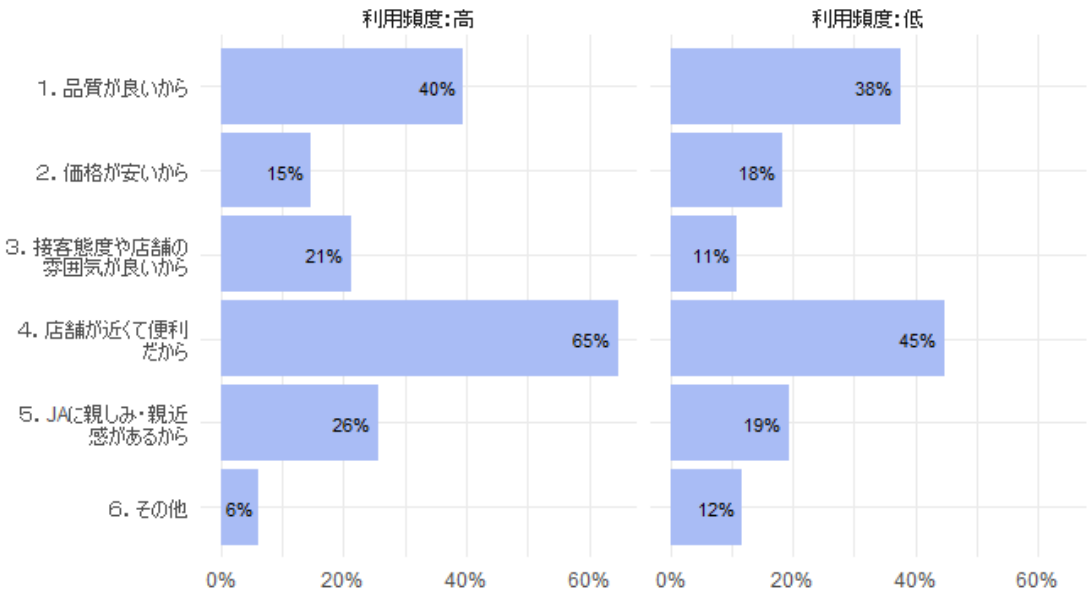
（4）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人は品質に対する評価が高い。



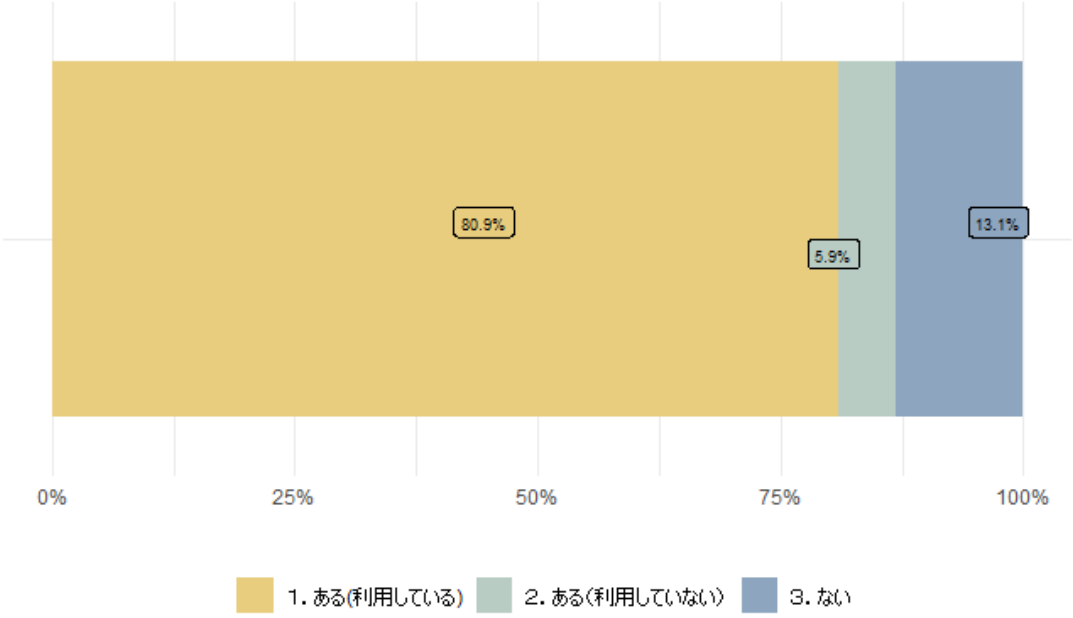
（5）利用頻度別

利用頻度が高いほど、立地に対する評価が高い。



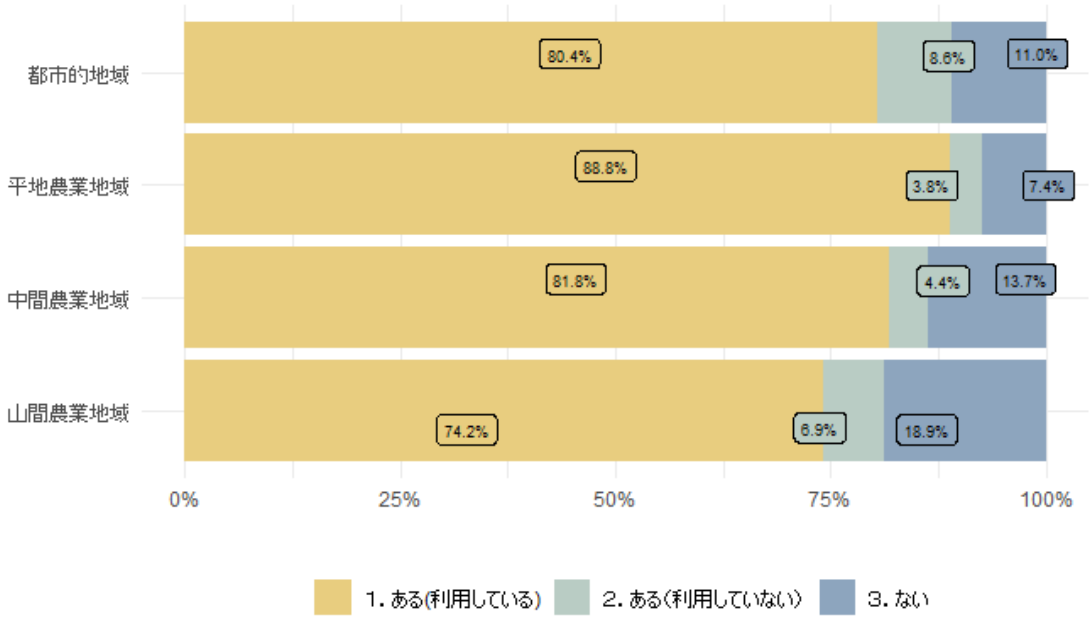
5.2.9. JA 施設以外の利用可能性

本設問については、令和元年度調査と令和２年度調査で質問が異なっている。令和元年度調査では、はじめに農協施設以外に利用可能な施設があるかどうかを質問しているが、令和２年度調査では、はじめに農協施設以外の利用状況を質問し、利用していないと回答した人に、利用施設があるのか無いのかを確認している。従って、ここでは、令和２年度調査において、農協施設以外を利用しておらず、かつ利用できる施設がないと回答した者を「３．ない」として集計し、農協施設以外を利用しておらず、かつ利用できる施設があると回答した者を「２．ある（利用していない）」として集計した。　８割の人が JA 施設以外の施設も利用していると回答している。



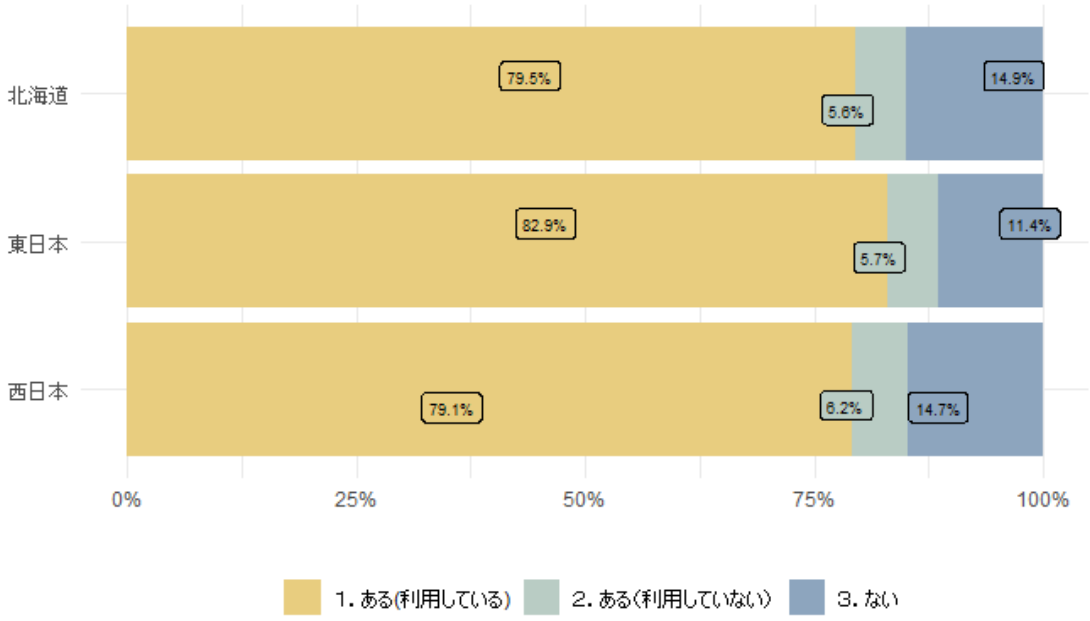
（1）農業地域類型別

山間農業地域になるとJA施設以外を利用できない割合が高くなっている。



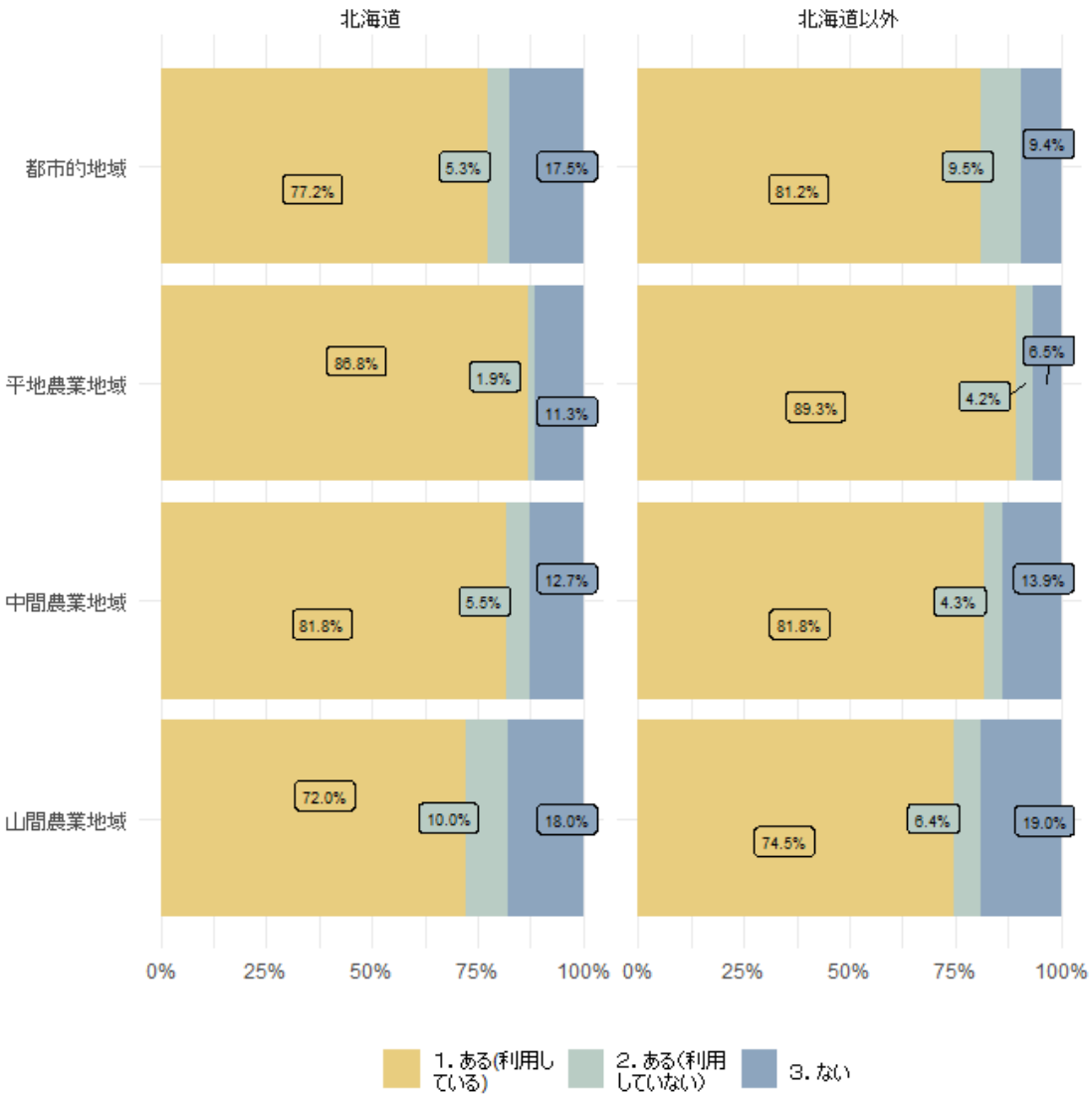
（2）地域別

地域別に大きな差はない。



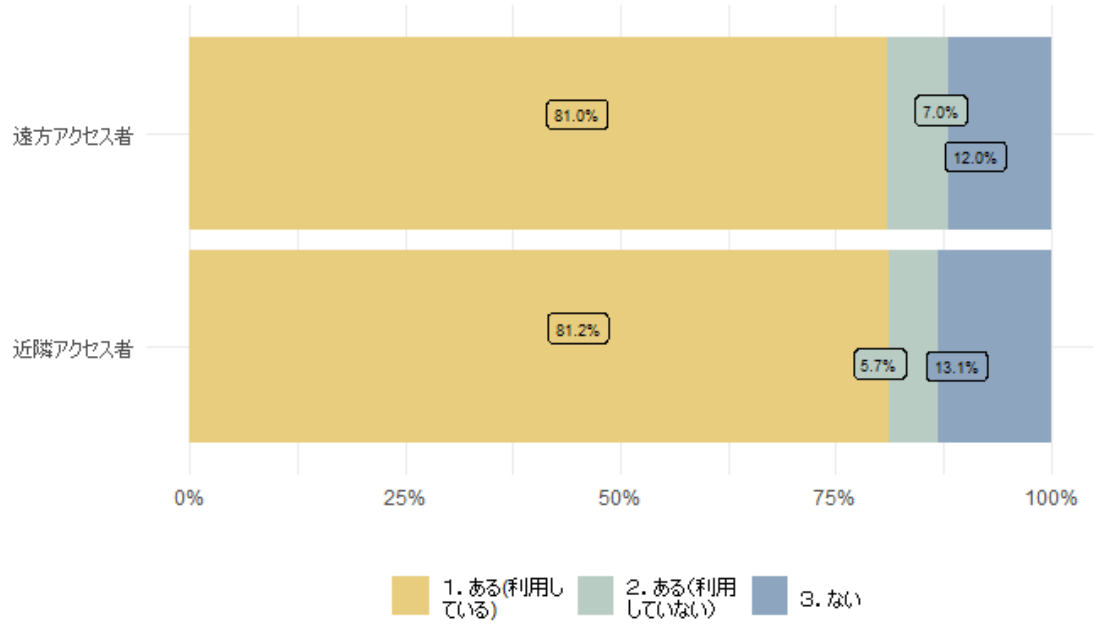
（3）農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

傾向については、北海道、北海道以外ともに同じである。



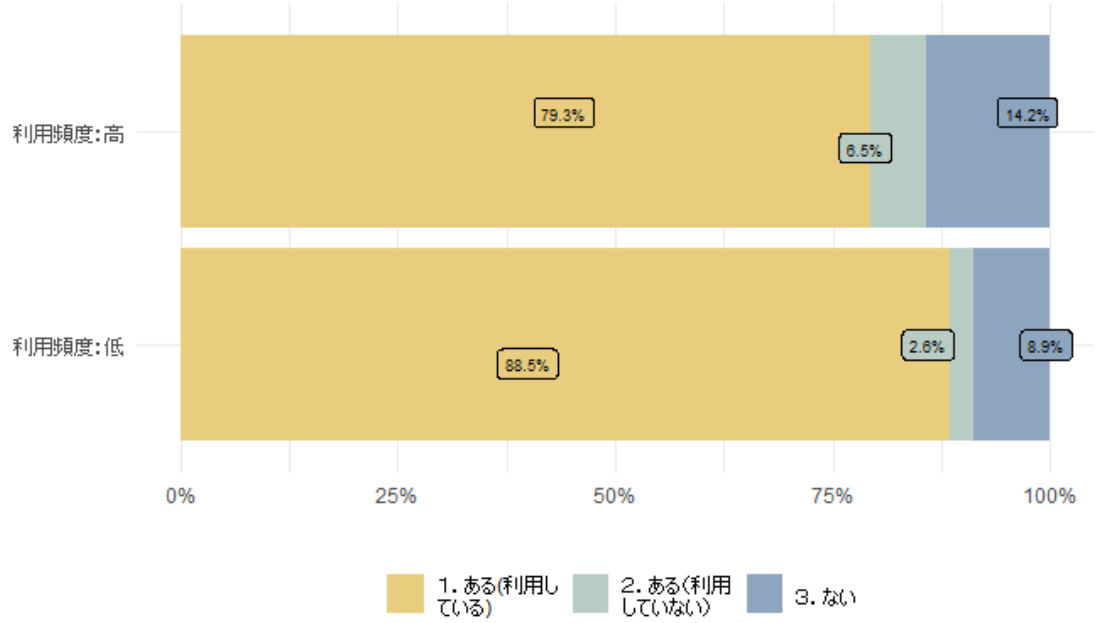
（4）アクセス状況別

アクセス状況別に大きな違いは見られない。



（5）利用頻度別

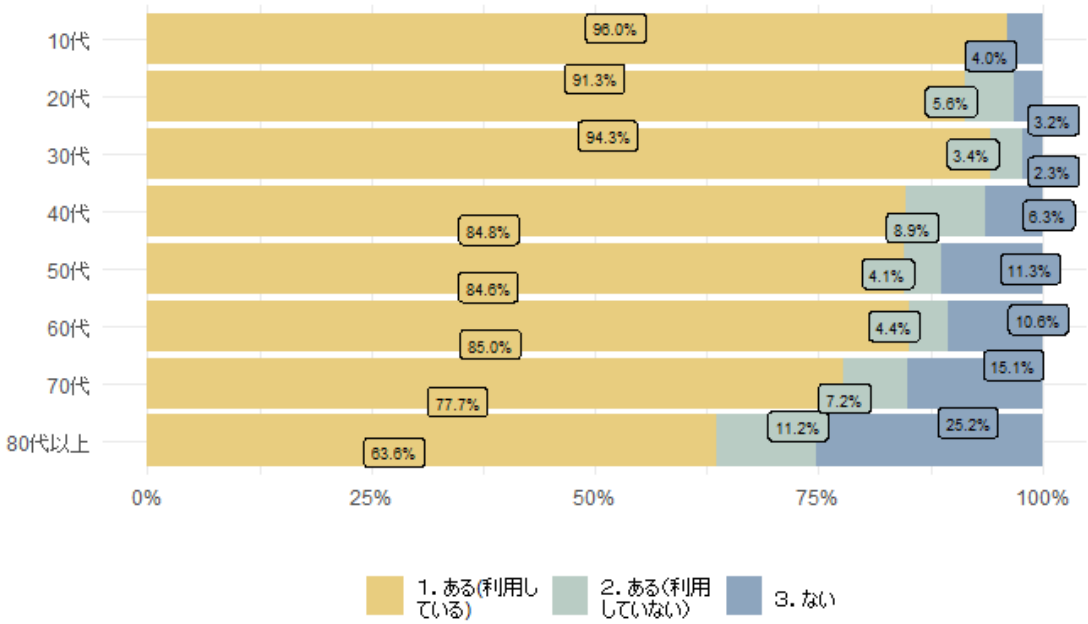
利用頻度が高い人の方が他の店がないと回答している割合が若干高い。



（6）年齢層別

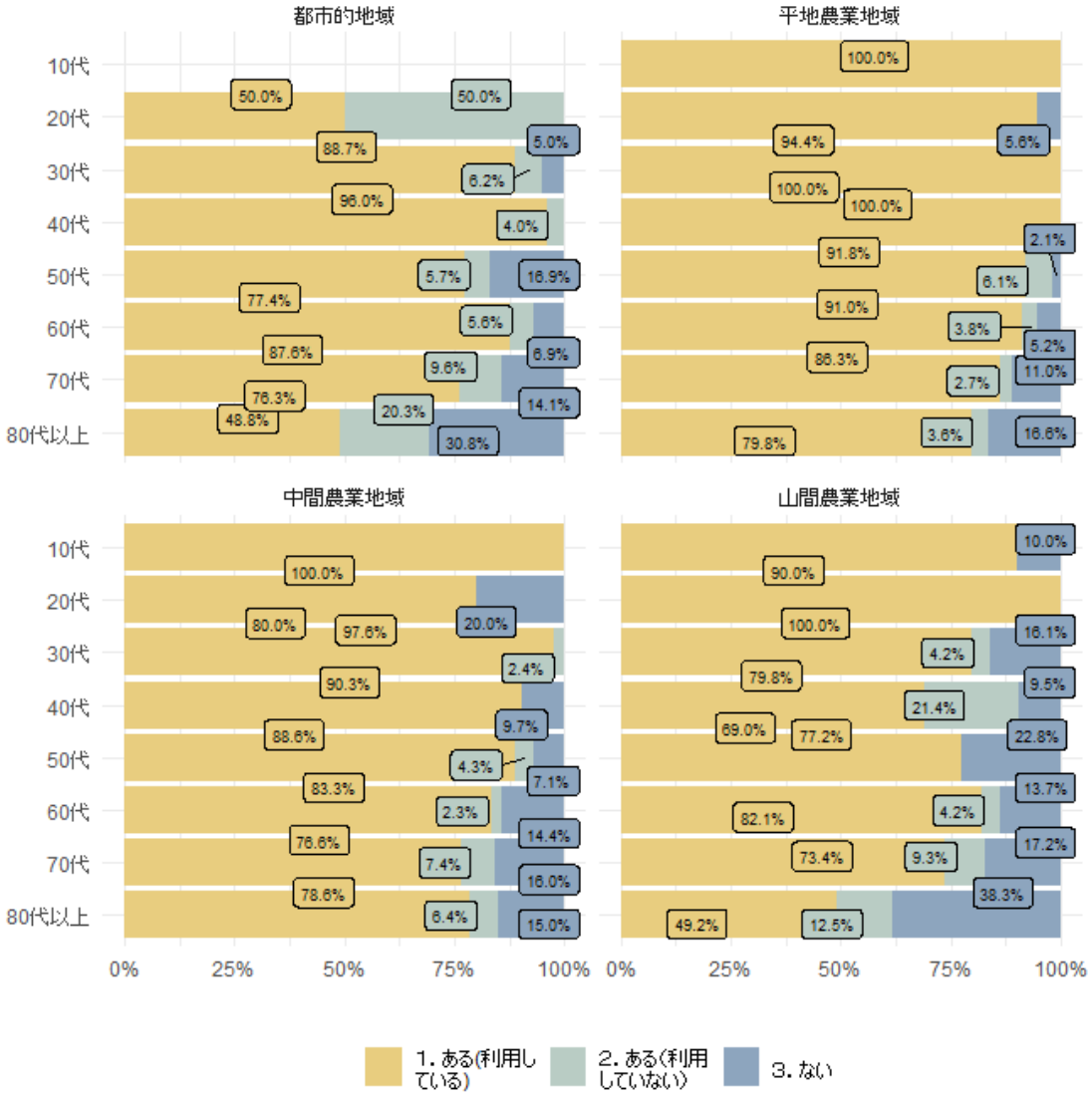
①全体

年齢が高くなるにつれ、他の施設がないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

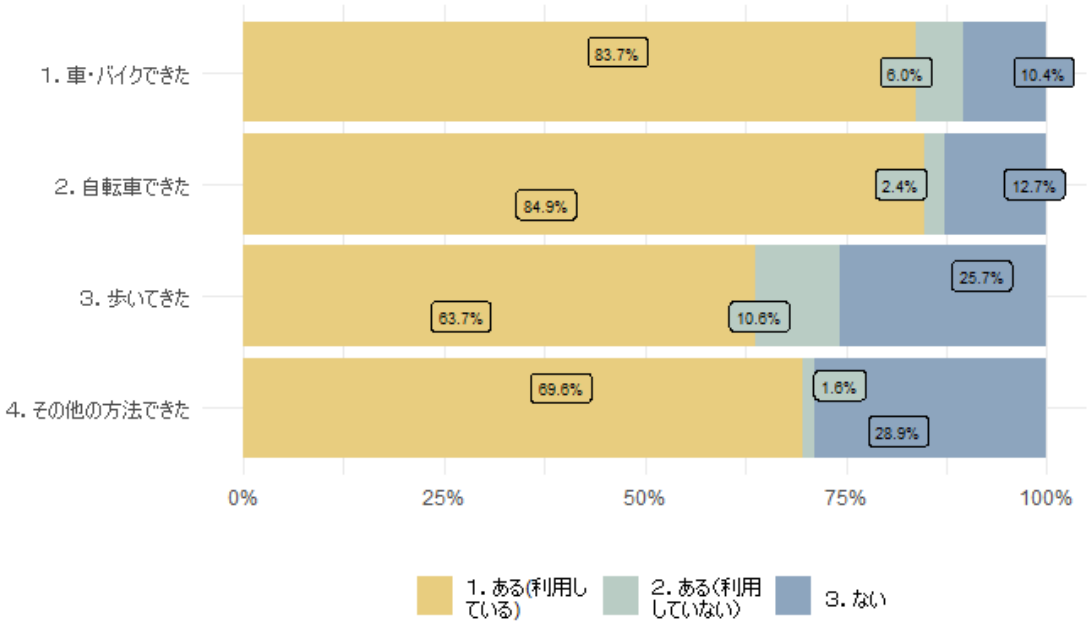
全体として、年齢が高くなるにつれ、他の施設がないと回答する割合が高くなるが、中間農業地域は傾向が異なっている。



（7）移動手段別

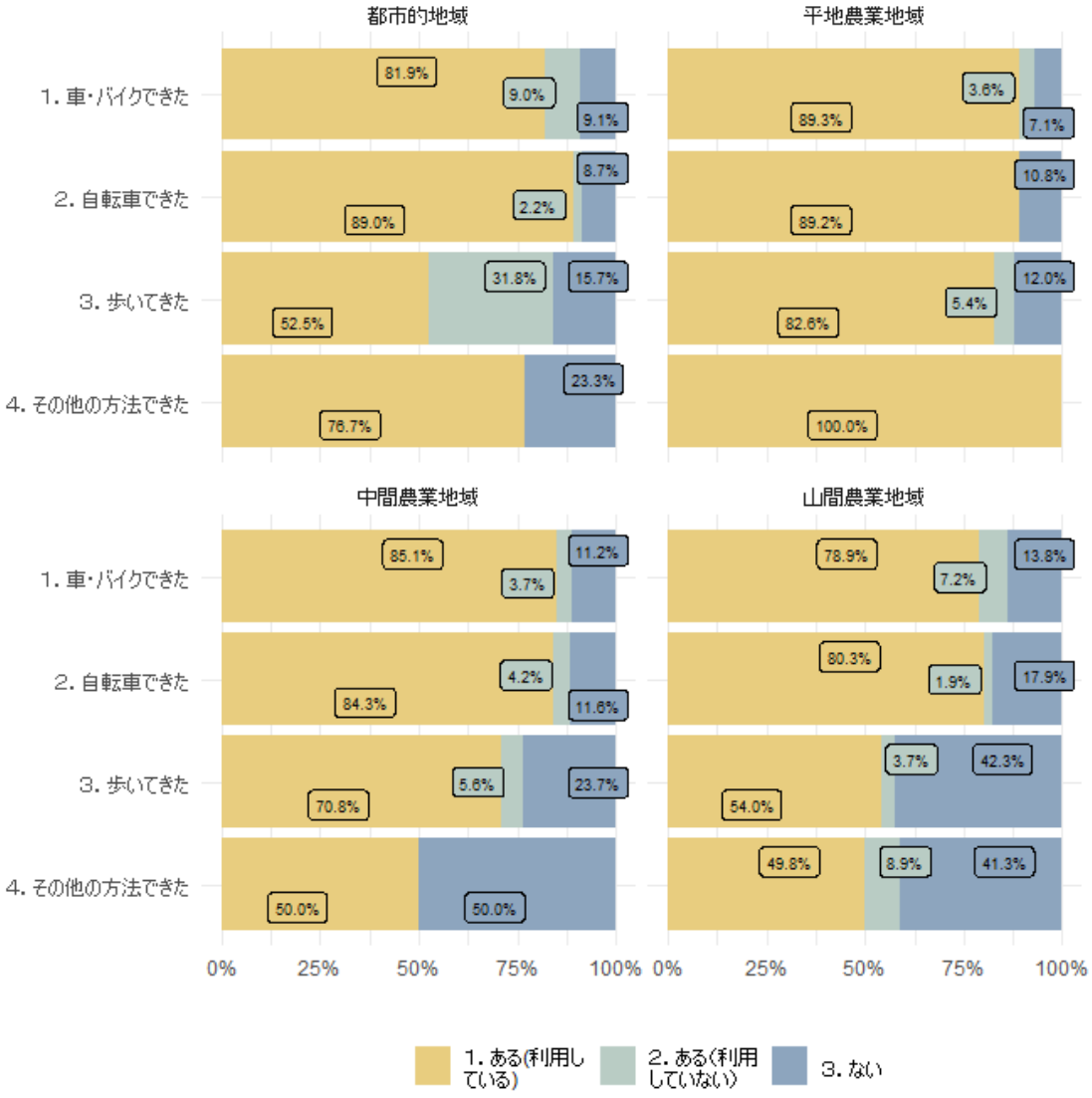
①全体

移動手段が歩き、その他（主に公共交通機関）であるほうが、他に利用できる施設がないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

「その他の方法できた」という回答は少ないため、若干結果はばらついているが傾向は同様である。

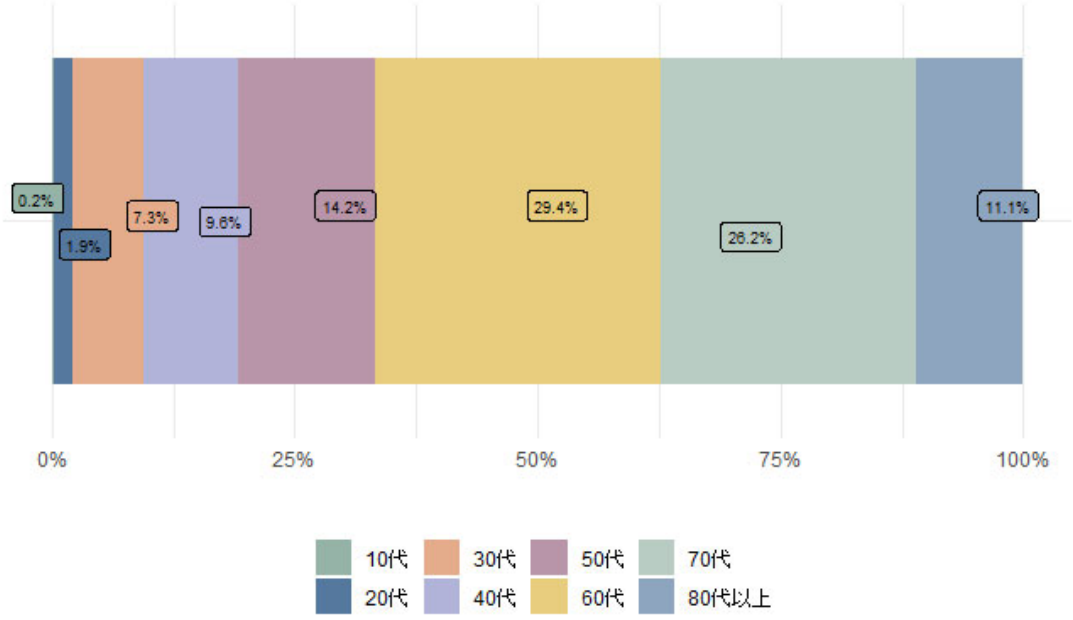


5.3. 金融サービス

5.3.1. 回答者の年代

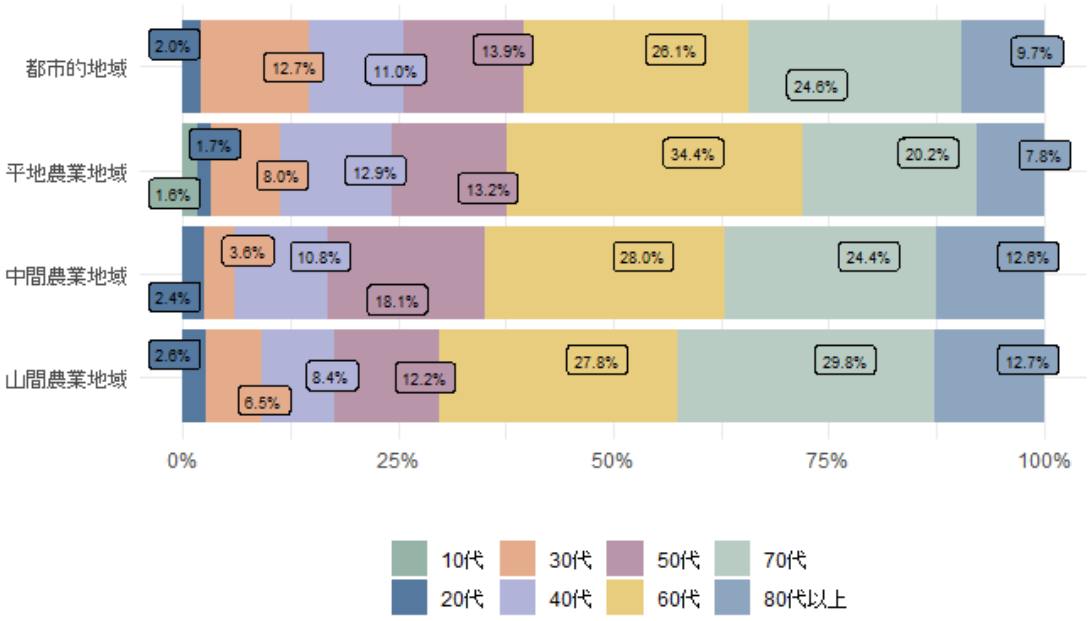
（1）全体

回答者の年代を見ると 6 割以上が 60 歳以上となっている。



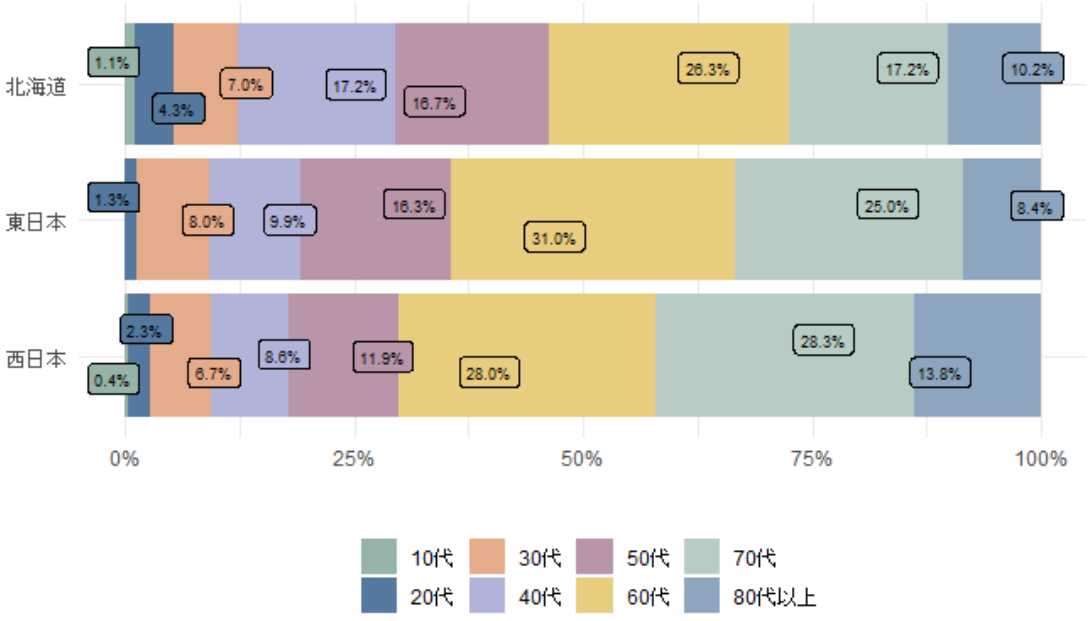
（2）農業地域類型別

中間、山間農業地域での高齢者比率が若干高い。



（3）地域別

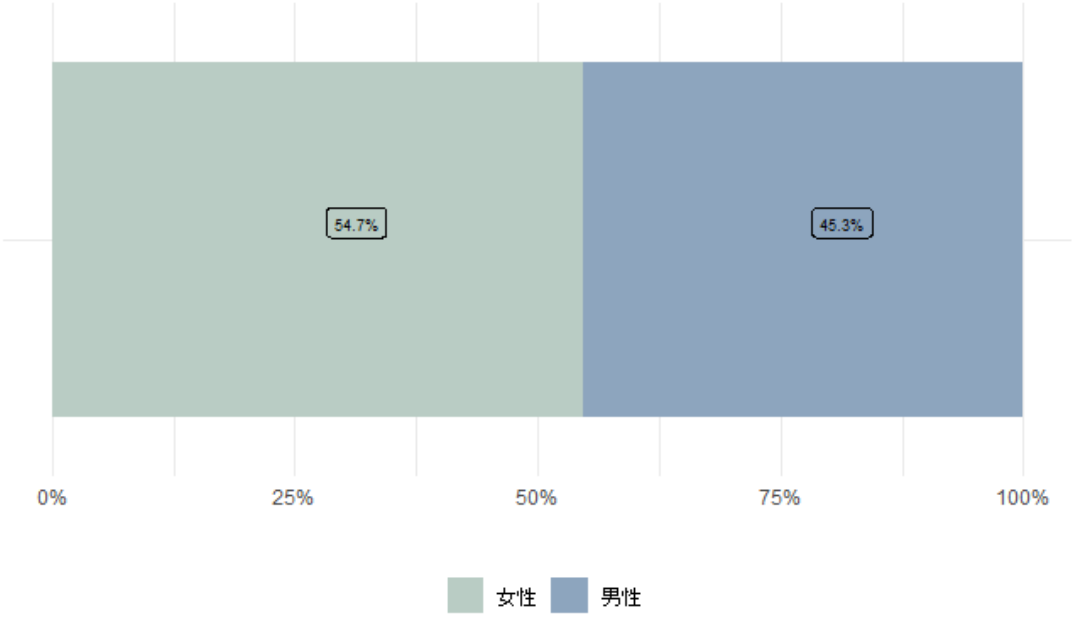
北海道の高齢化率が低く、西日本で高い。



5.3.2. 回答者の性別

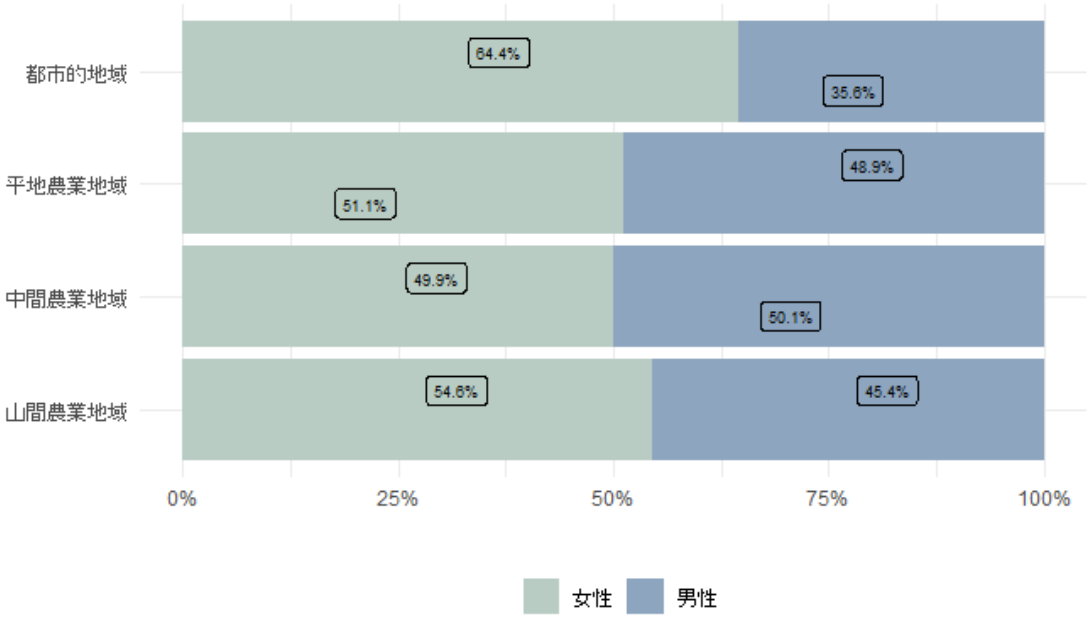
（1）全体

男女比率は購買サービスとは大きく異なり、男性比率が５割近くになっている。



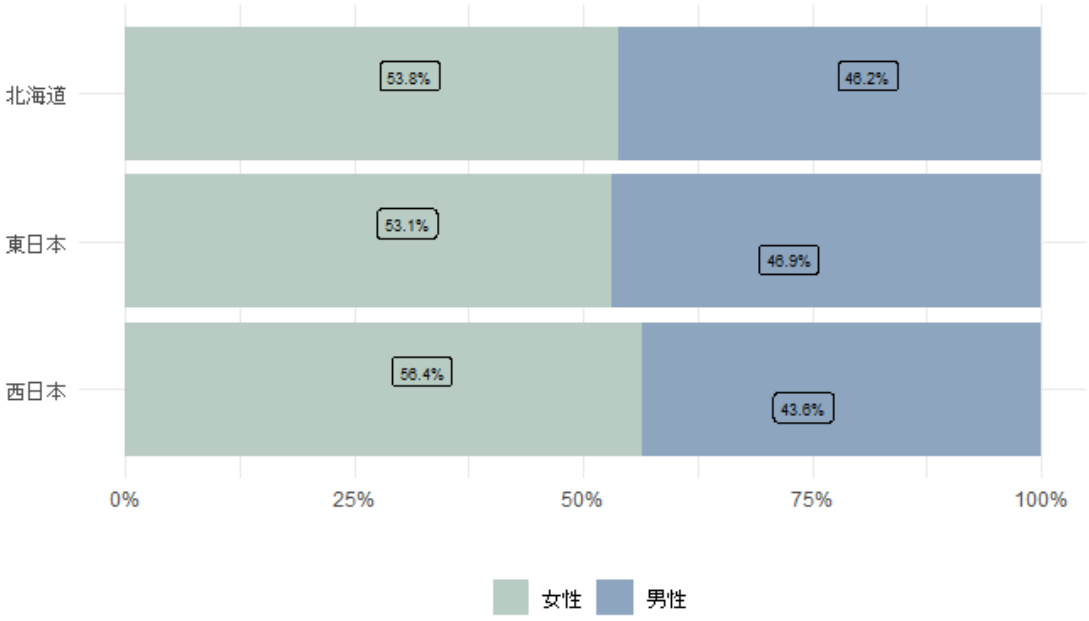
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に大きな違いは見られないが、都市的地域で女性の割合が若干高くなっている。



（3）地域別

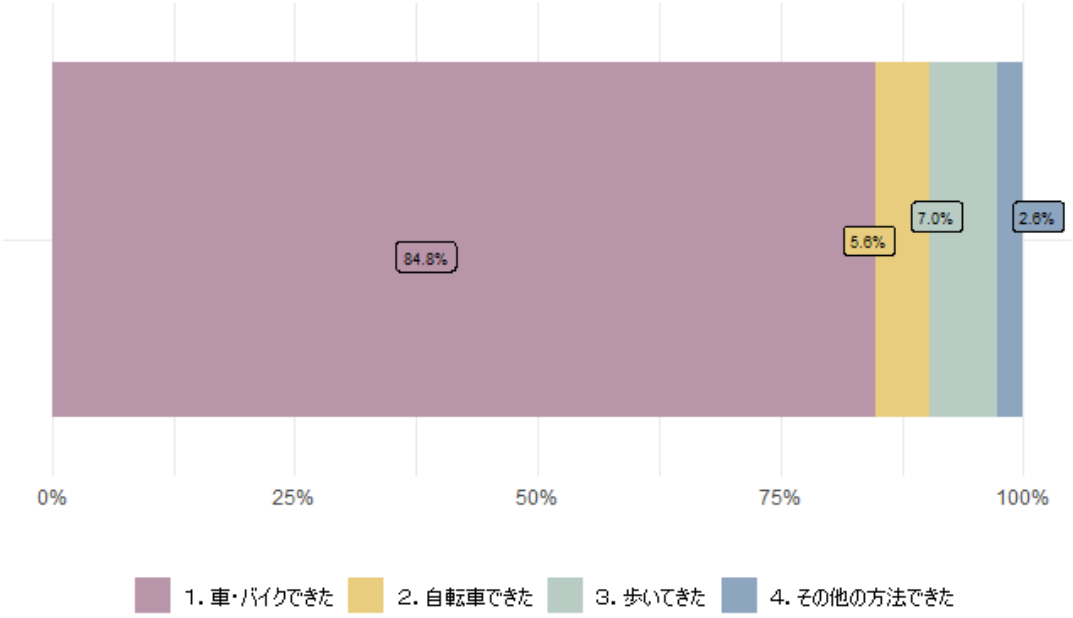
地域別には大きな差は無い。



5.3.3. 来場の方法

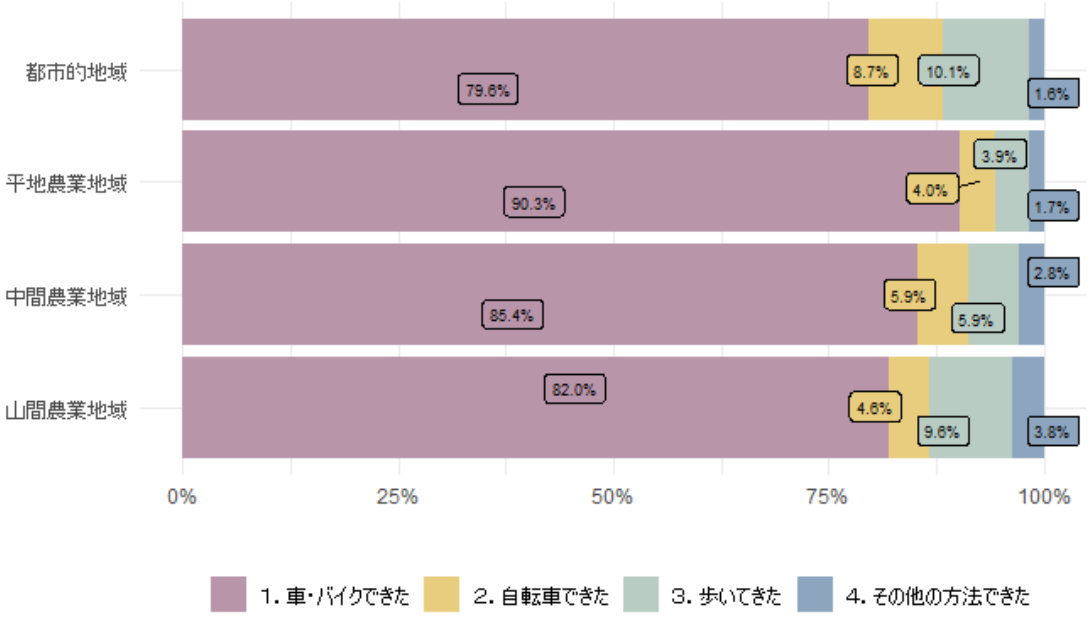
（1）全体

全体の８割強が車・バイクで来場している。



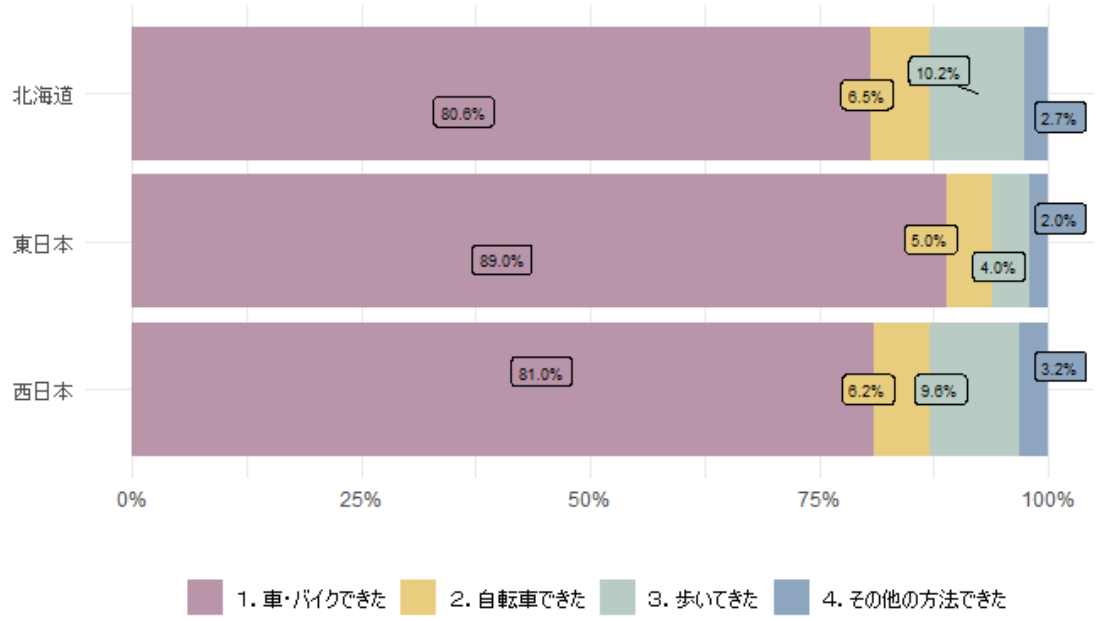
（2）農業地域類型別

車・バイクを利用する割合は平地農業地域で高い。



（3）地域別

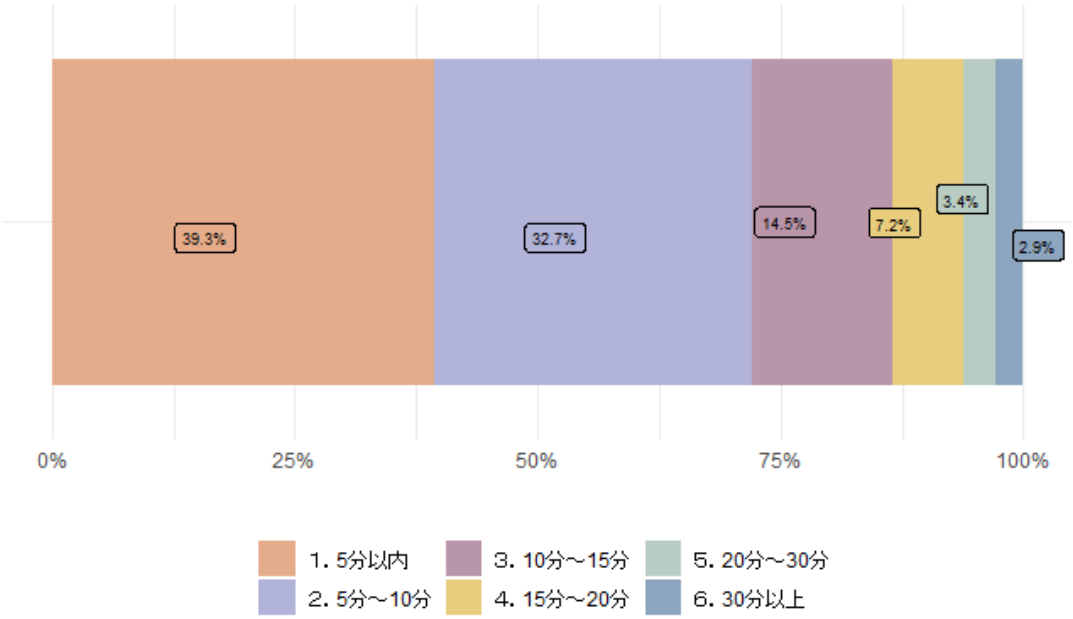
地域別で見ると東日本において、車・バイクを利用している比率が高い。



5.3.4. 所要時間

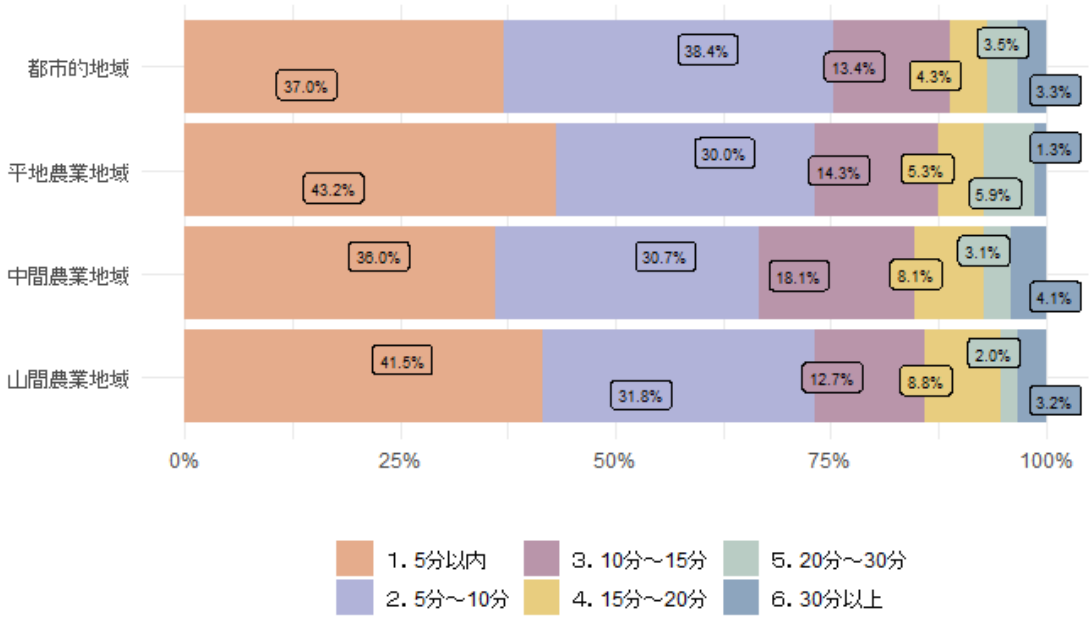
（1）全体

所要時間については、全体の約 7 割が 10 分未満であった。なお、30 分以上かけて来場する人の割合は 3 %程度である。



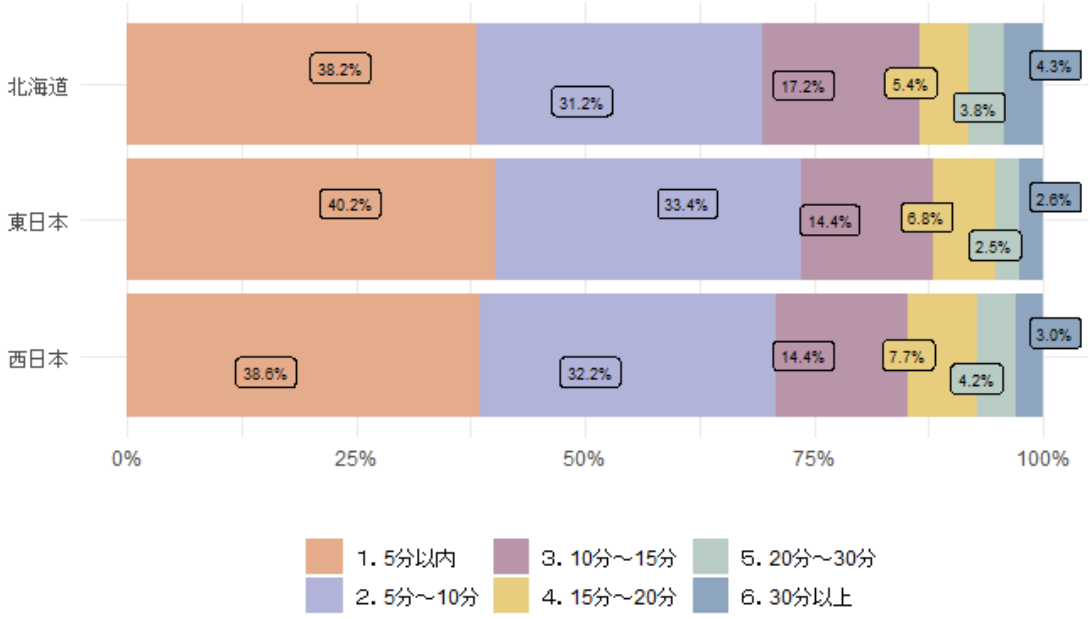
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に大きな違いは見られない。



（3）地域別

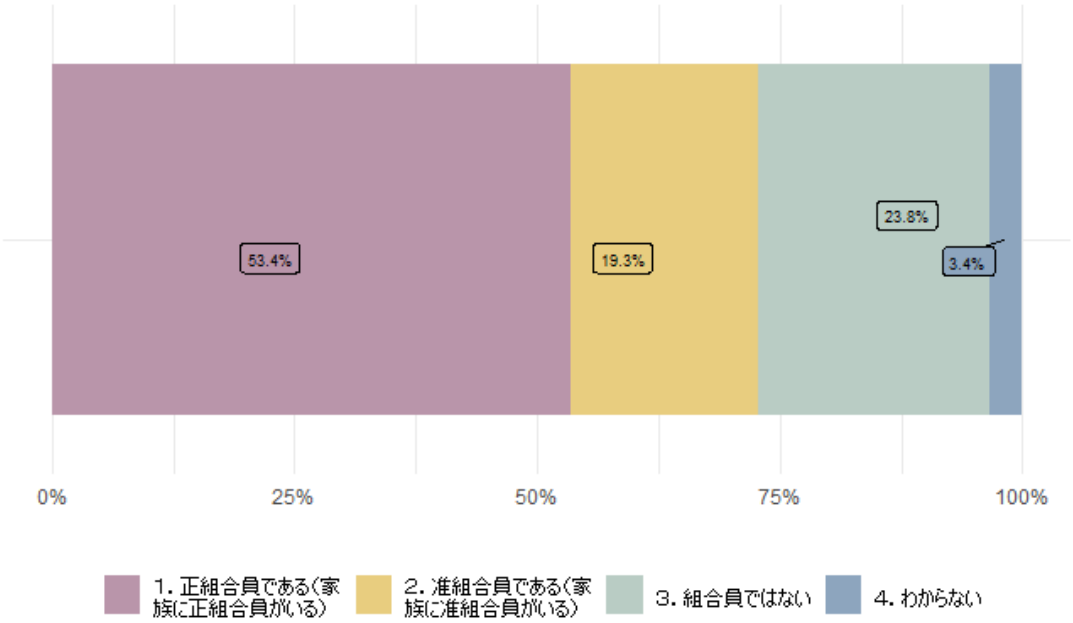
地域別には大きな違いは見られない。



5.3.5. JA への加入状況

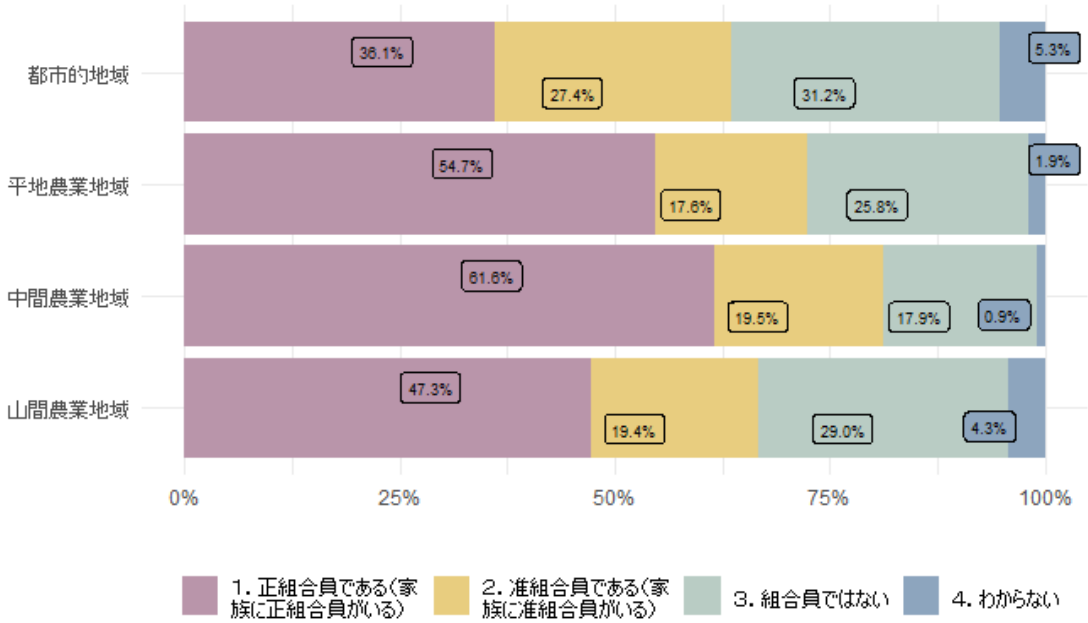
（1）全体

回答者の半分近くが正組合員である。なお、令和元年度調査には「わからない」という選択肢はなかった。



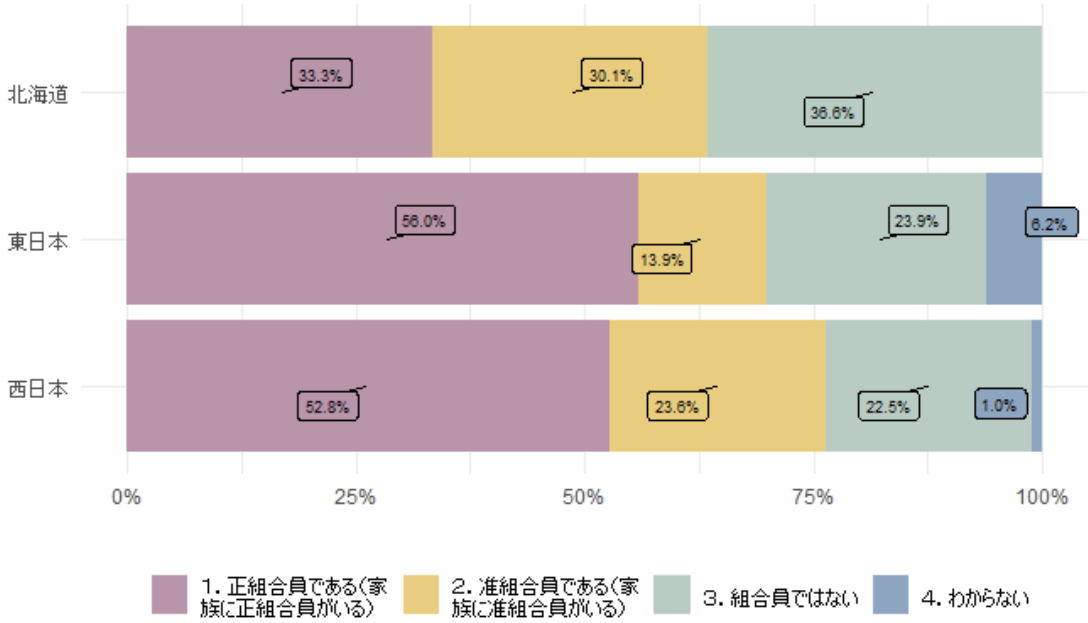
（2）農業地域類型別

都市的地域において正組合員の割合が低い。次に低いのが山間農業地域である。



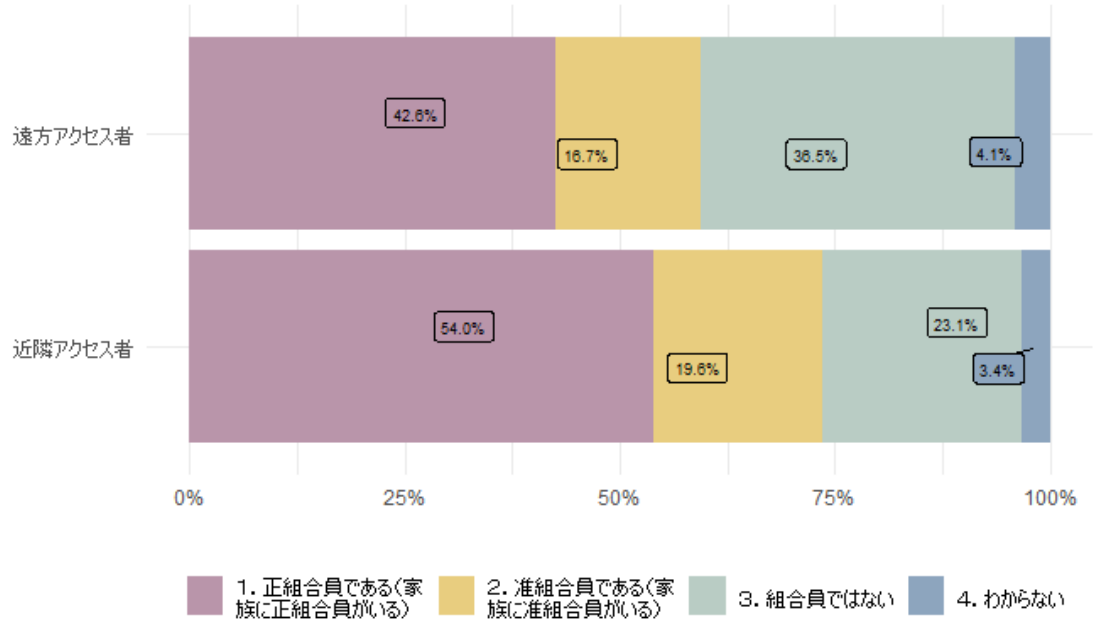
（3）地域別

地域別に見ると北海道の組合員率が低い。



（4）アクセス状況別

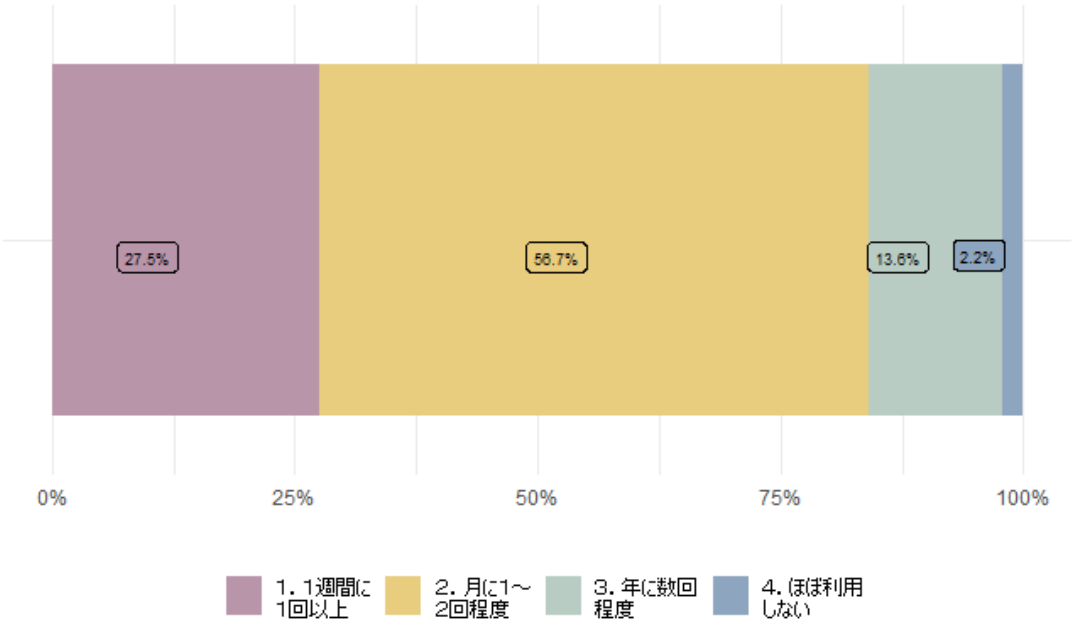
遠方からアクセスしている人の正組合員比率は低い。



5.3.6. 利用頻度

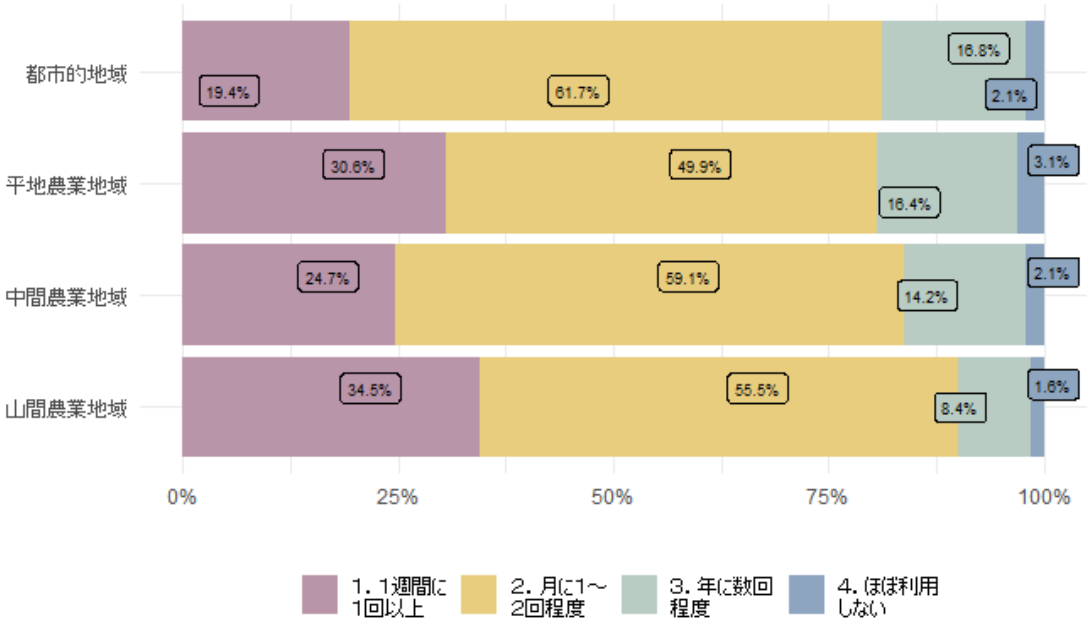
（1）全体

「１週間に１回以上」という回答が３割弱程度、「月に１～２回程度」が６割弱程度あり、両者を併せると８割以上が月に１回以上利用している。



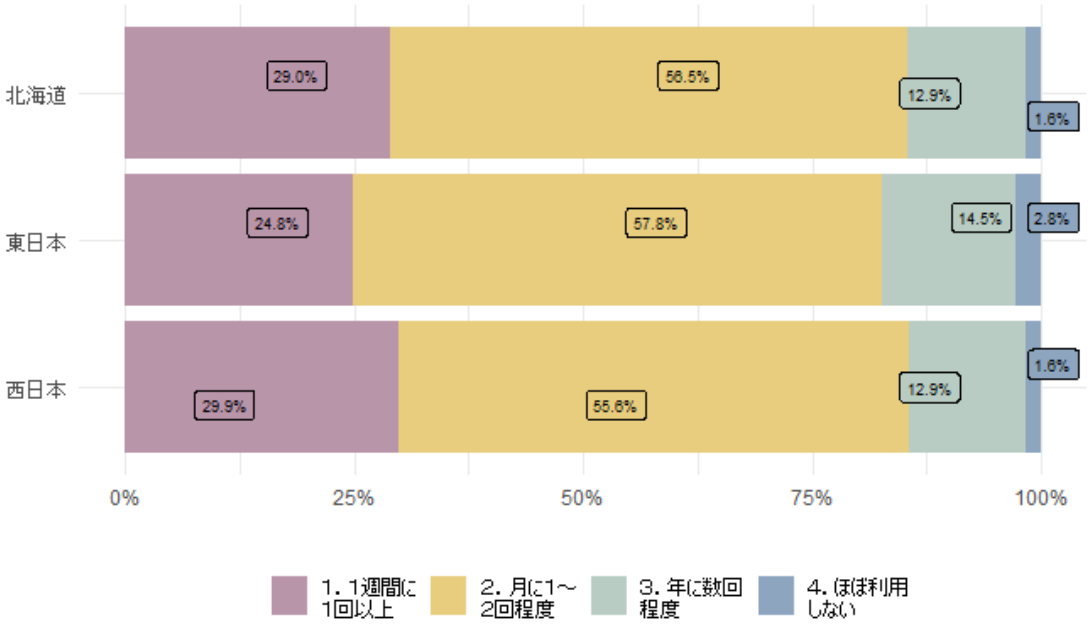
（2）農業地域類型別

「１週間に１回以上」利用する割合は都市的地位で低い。月に１度以上利用する割合は、中間農業地域、山間農業地域で若干高い。



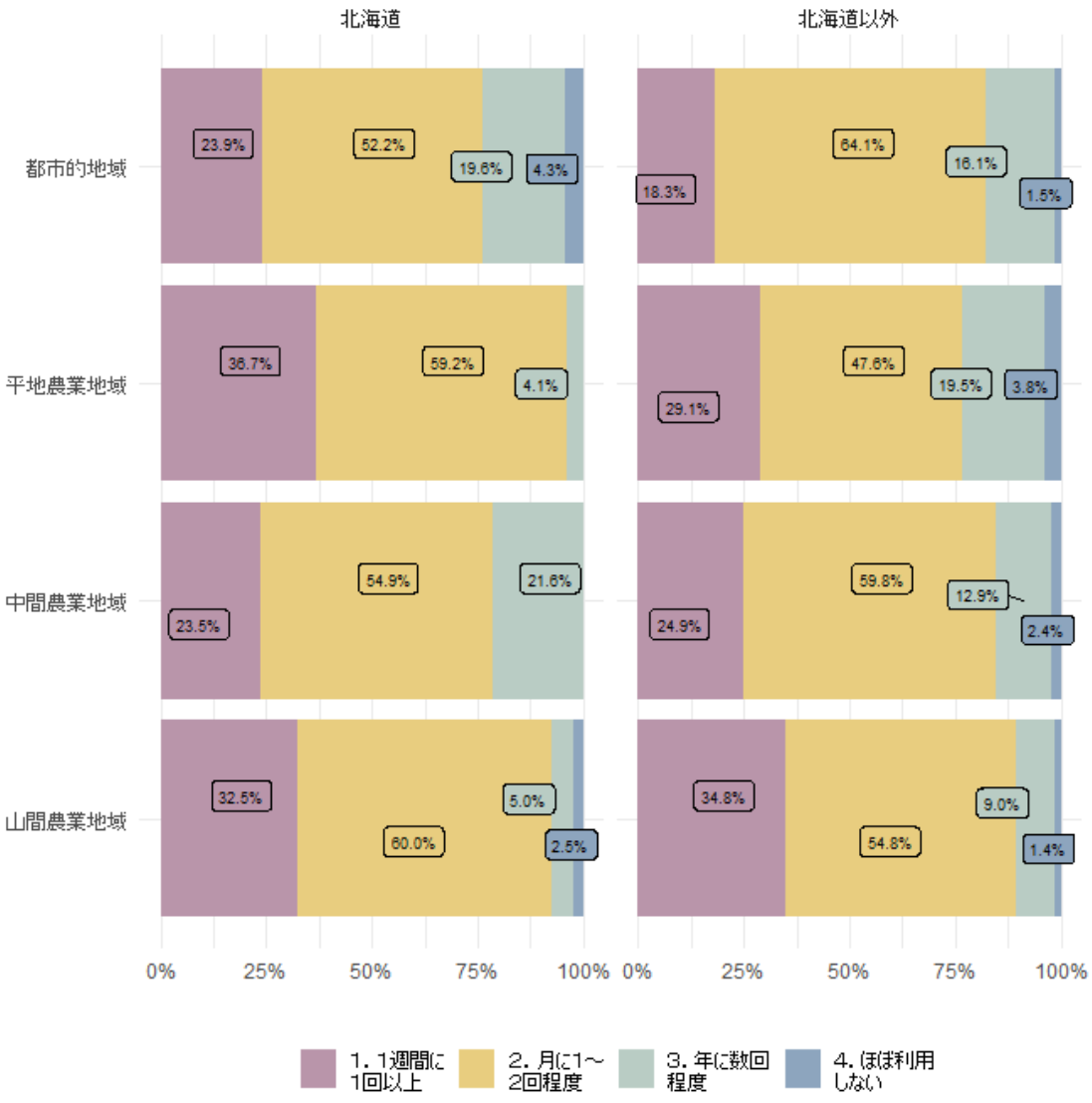
（3）地域別

地域別に大きな差は見られない。



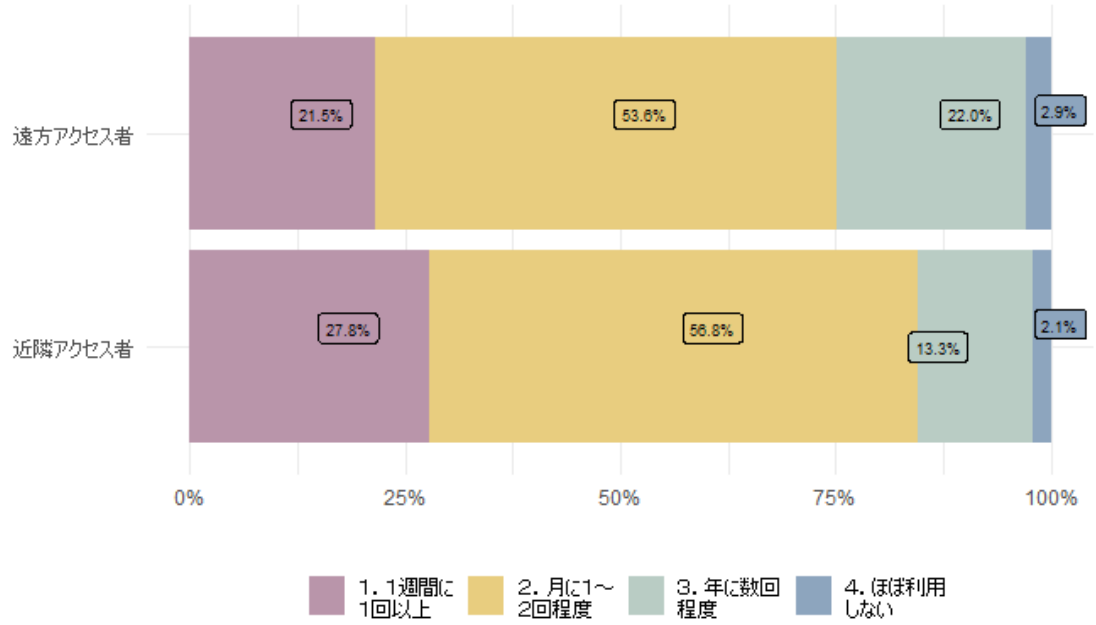
（4）農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

北海道、北海道以外ともに平地農業地域、山間農業地域において利用頻度が高い。



（5）アクセス状況別

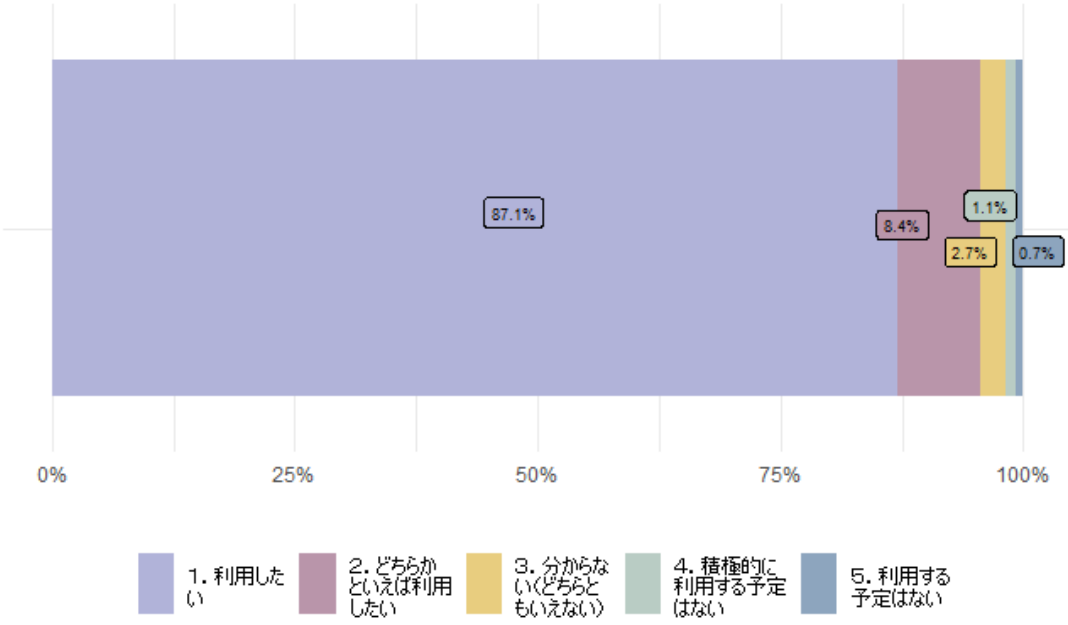
遠方からアクセスする人の費用頻度は低い。



5.3.7. JA 施設の利用意向

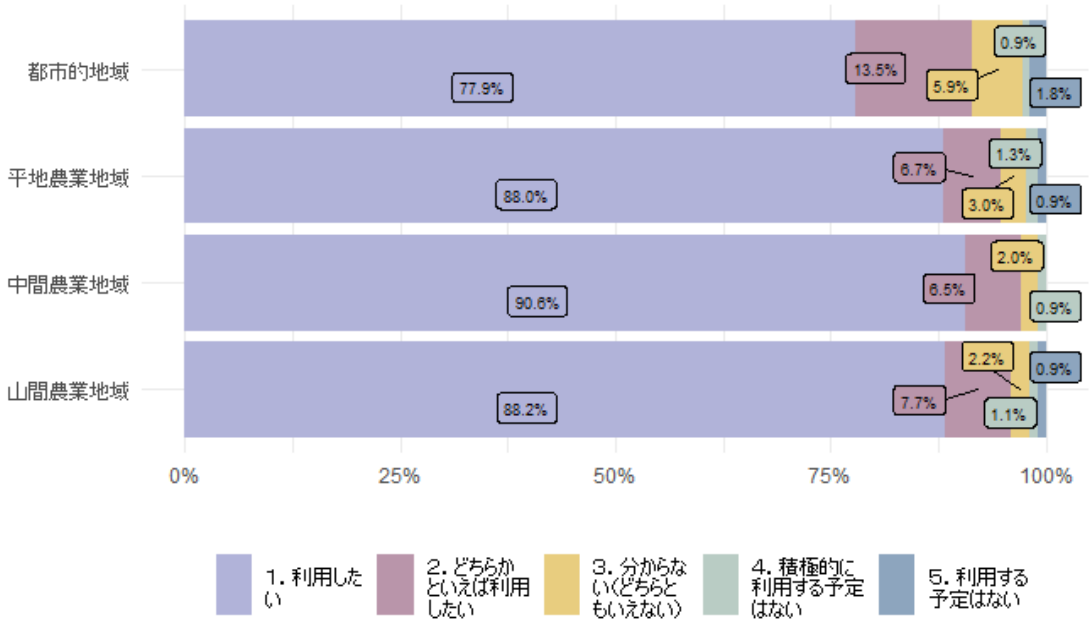
（1）全体

全体の９割近くが今後も「利用したい」と回答している。



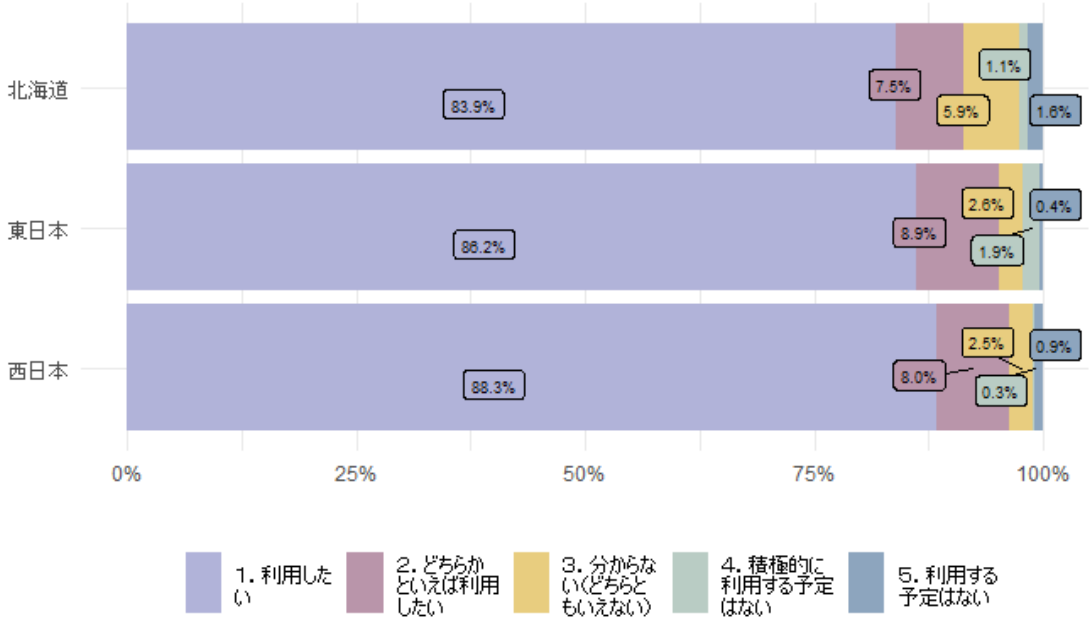
（2）農業地域類型別

都市的地域の利用意向は若干低い。



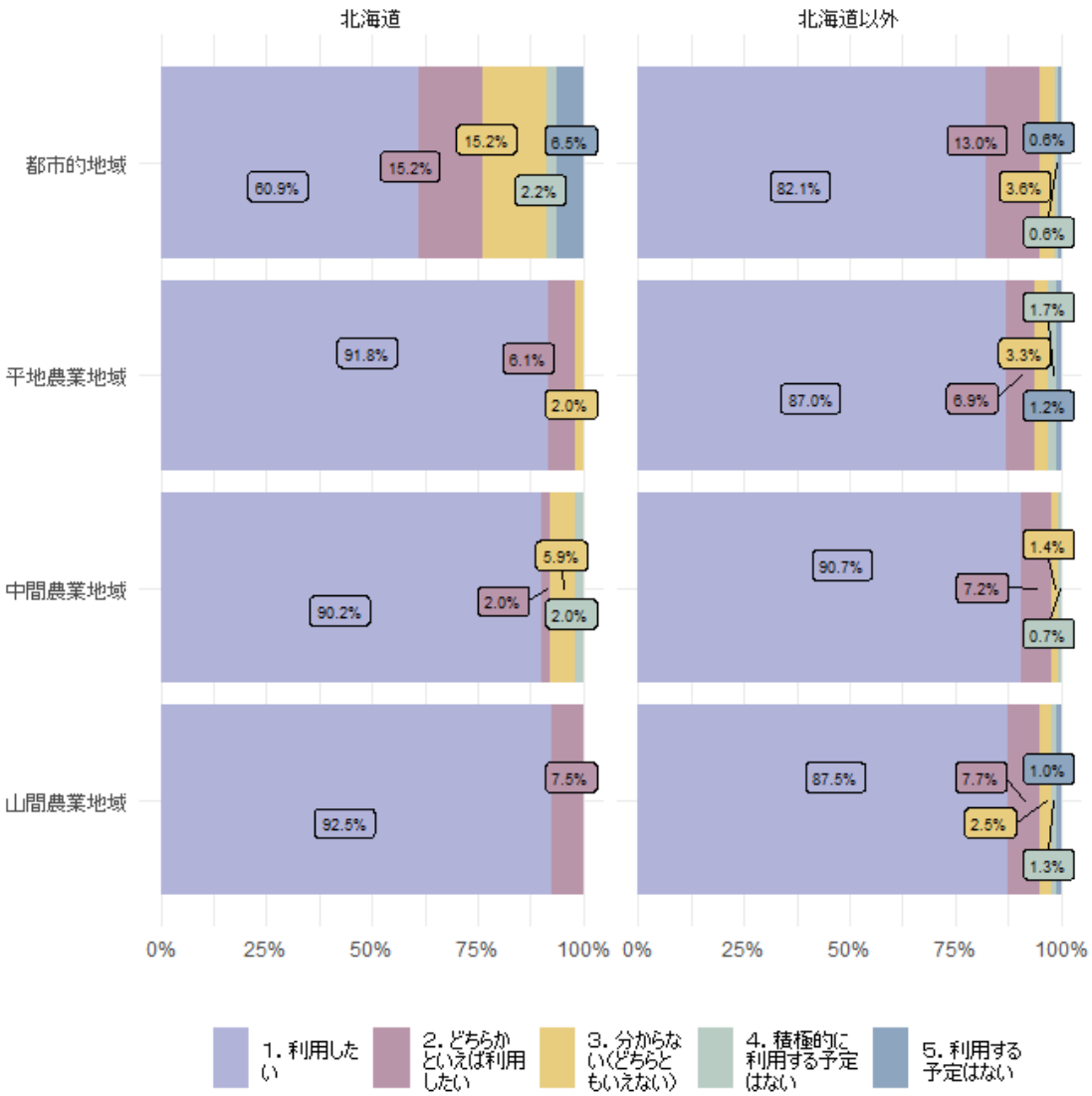
（3）地域別

地域別の利用意向に大きな違いはない。



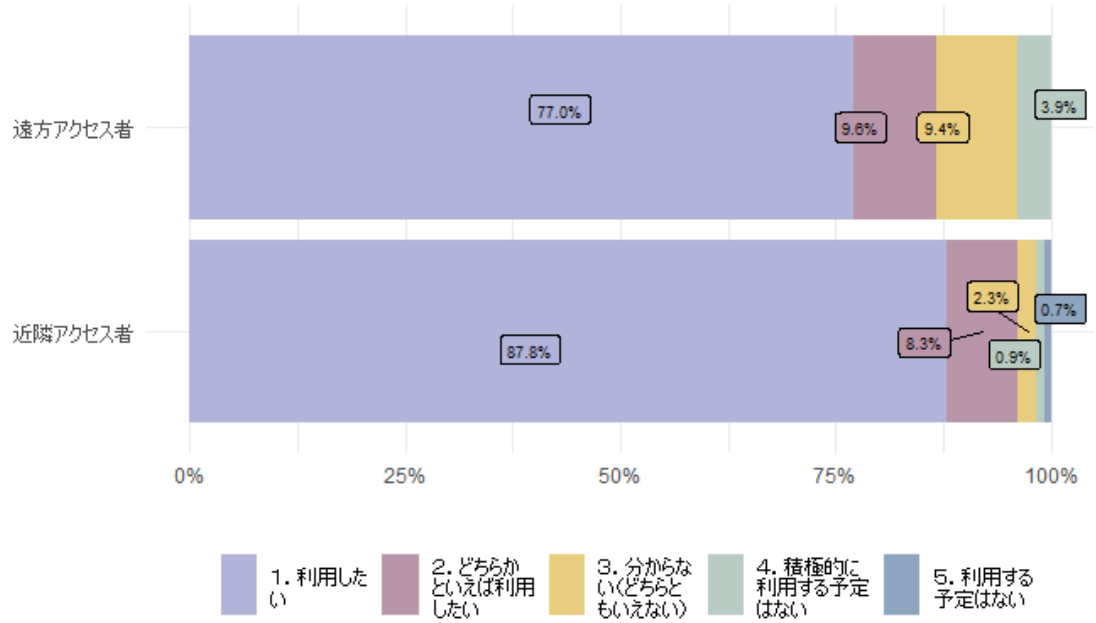
（4）農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

北海道の都市的地域において、特に利用意向が低くなっている。



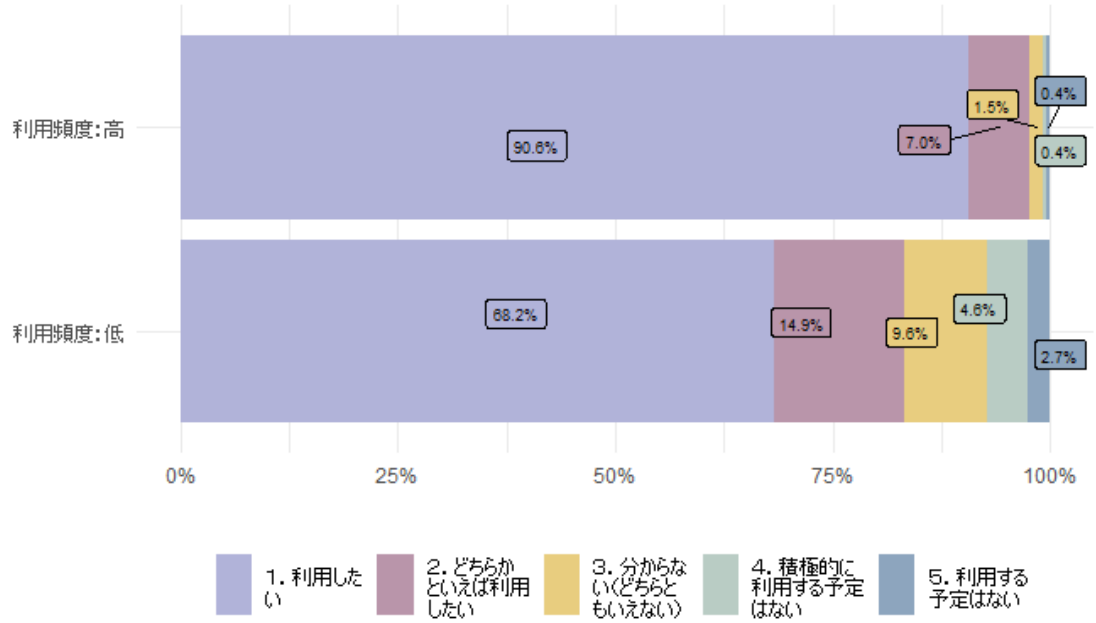
（5）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人の利用意向は若干低い。



（6）利用頻度別

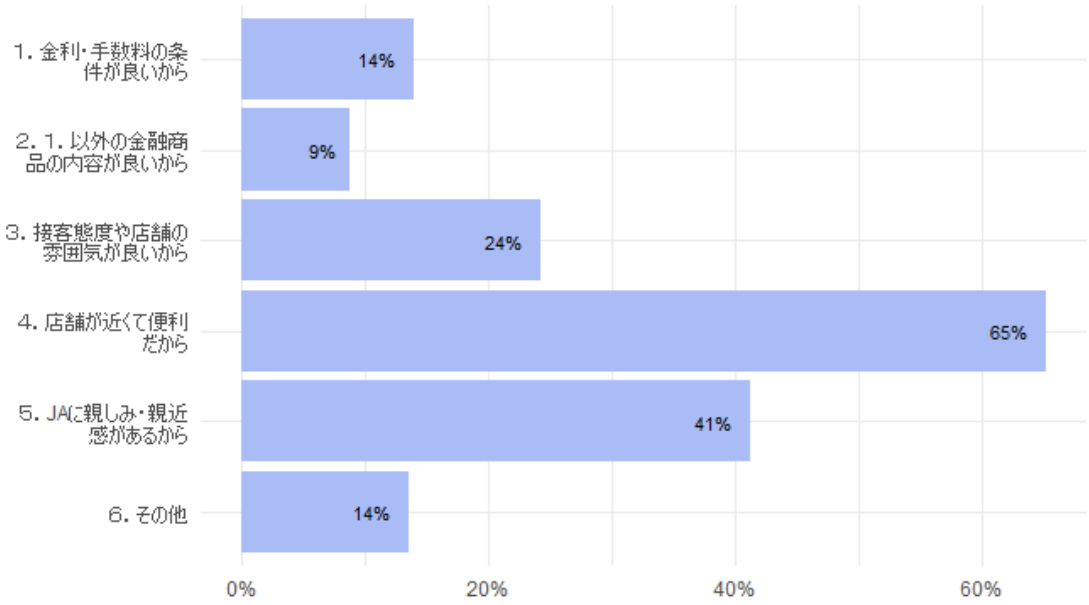
利用頻度が低い回答者の利用意向は低い。



5.3.8. 今後も利用したい理由

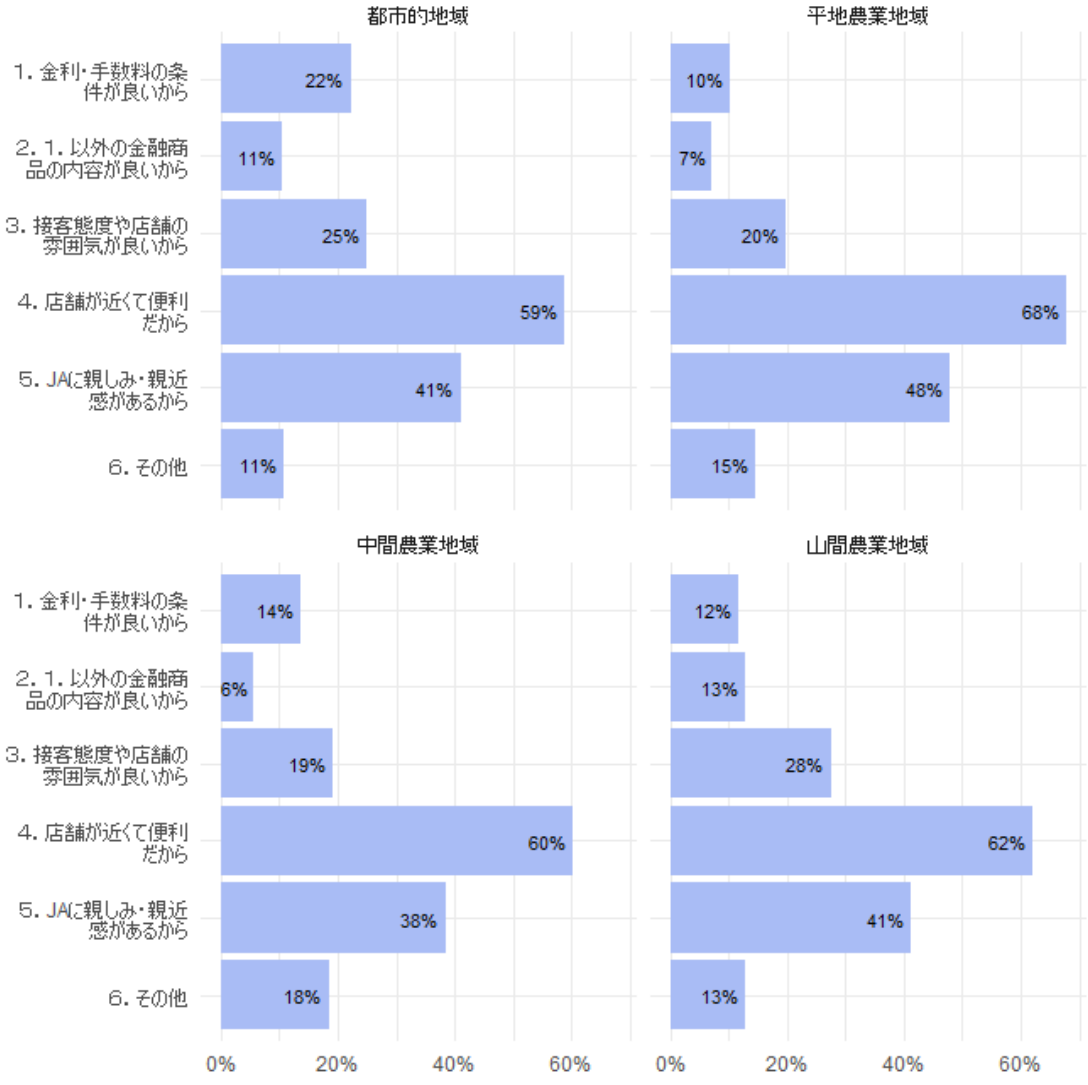
（1）全体

今後も利用したい理由として「店舗が近くて便利だから」が最も多く、「JA に親しみ・親近感があるから」がそれにつづいている。



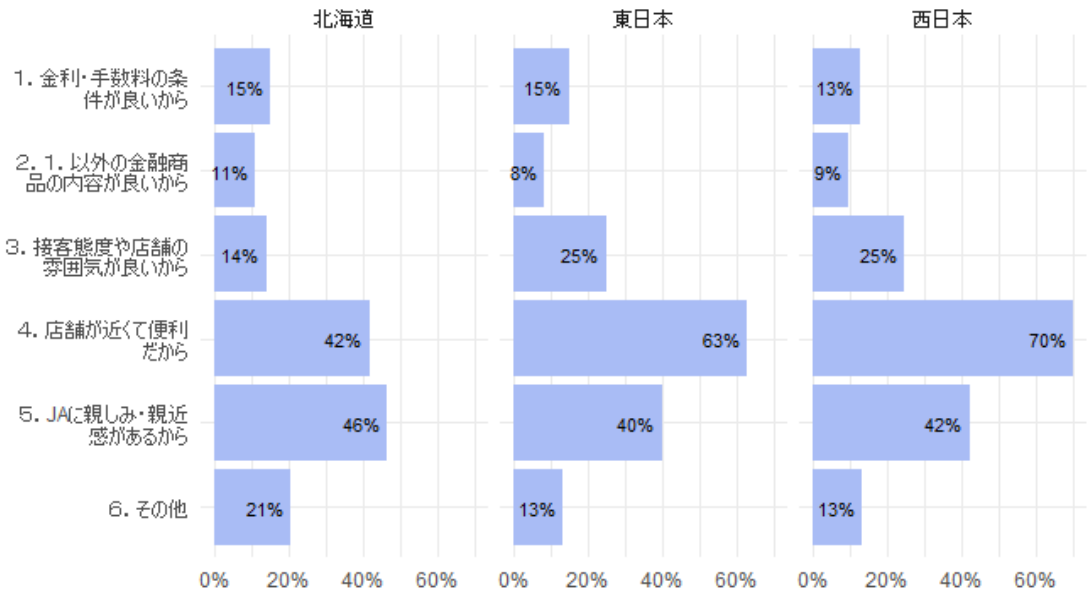
（2）農業地域類型別

農業地域類型別に見ても傾向は変わらないが、都市的地域において金利・手数料の条件が評価されている。



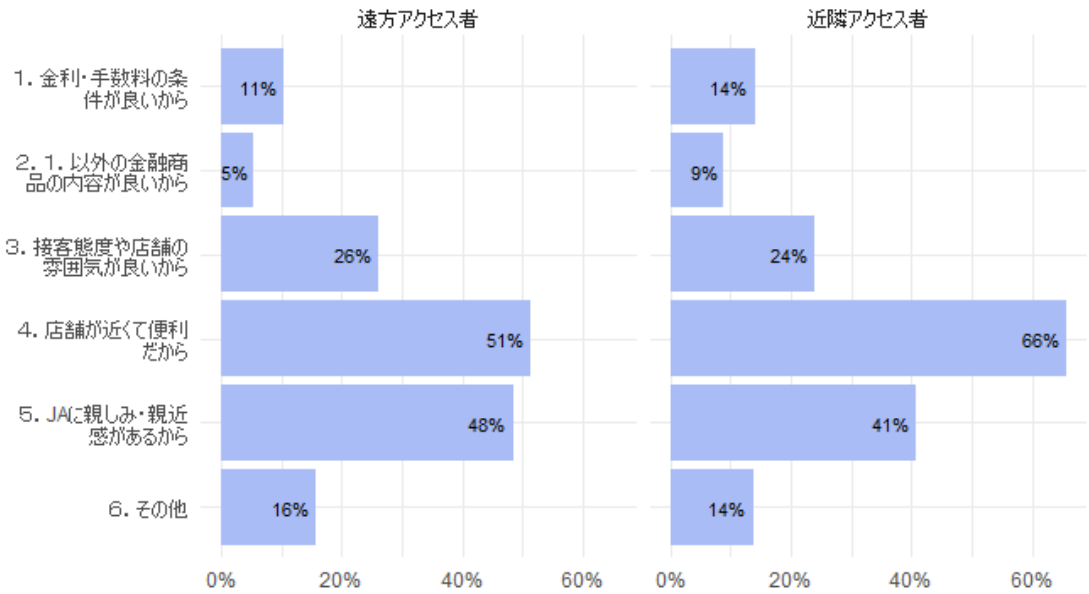
（3）地域別

地域別に大きな差は無いが、西日本は「店舗が近くて便利だから」の比率が高い。



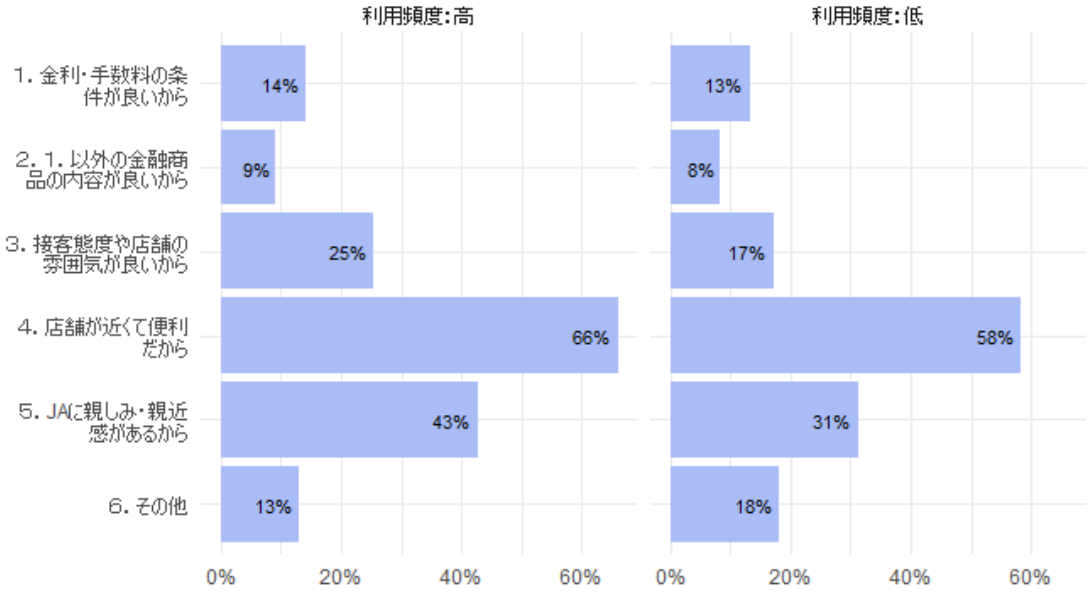
（4）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人の場合、「JA に親しみ・親近感がある」の割合がやや高い。



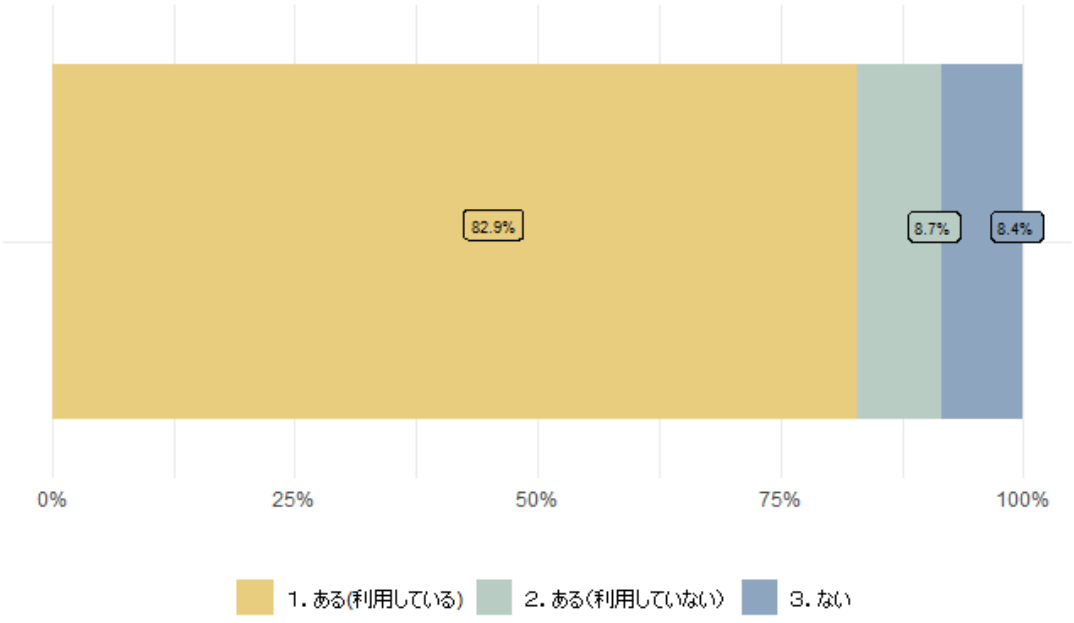
（5）利用頻度別

利用頻度が高い回答者の方が、「店舗が近くて便利」「JA に親しみ・親近感がある」の割合が高い。



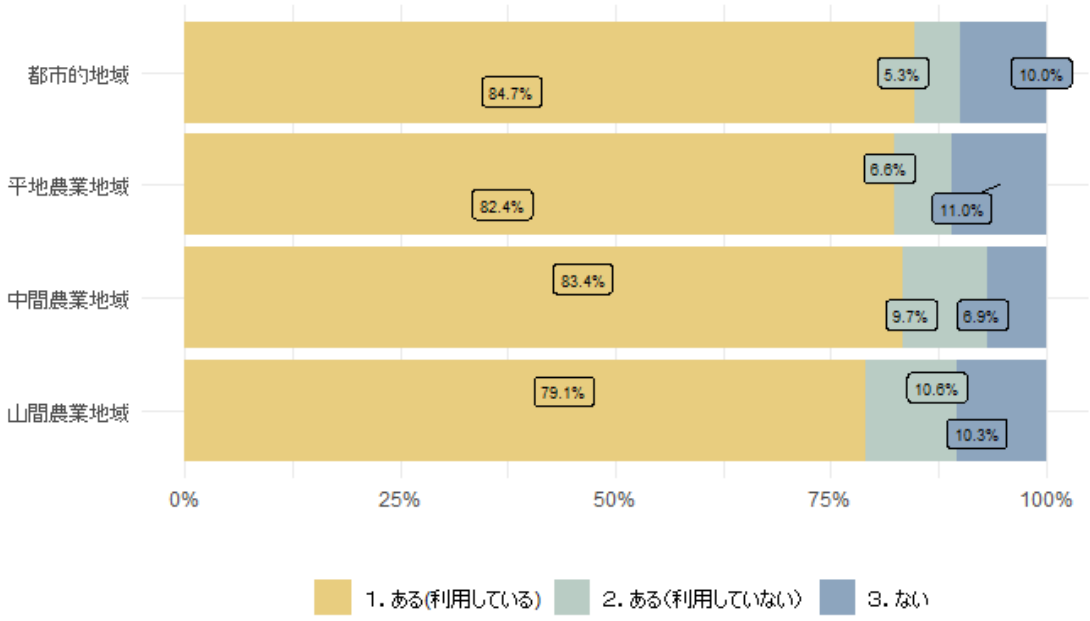
5.3.9. JA 施設以外の利用可能性

8 割の人が JA 施設以外の施設も利用していると回答している。



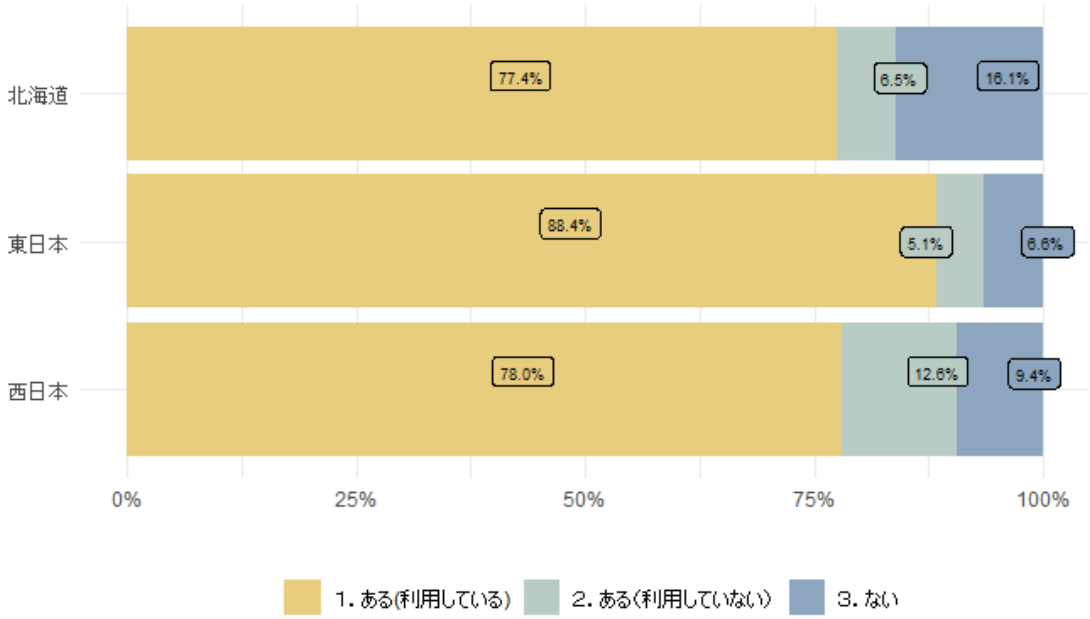
（1）農業地域類型別

山間農業地域においては、JA 以外の施設を利用している割合が若干高い。



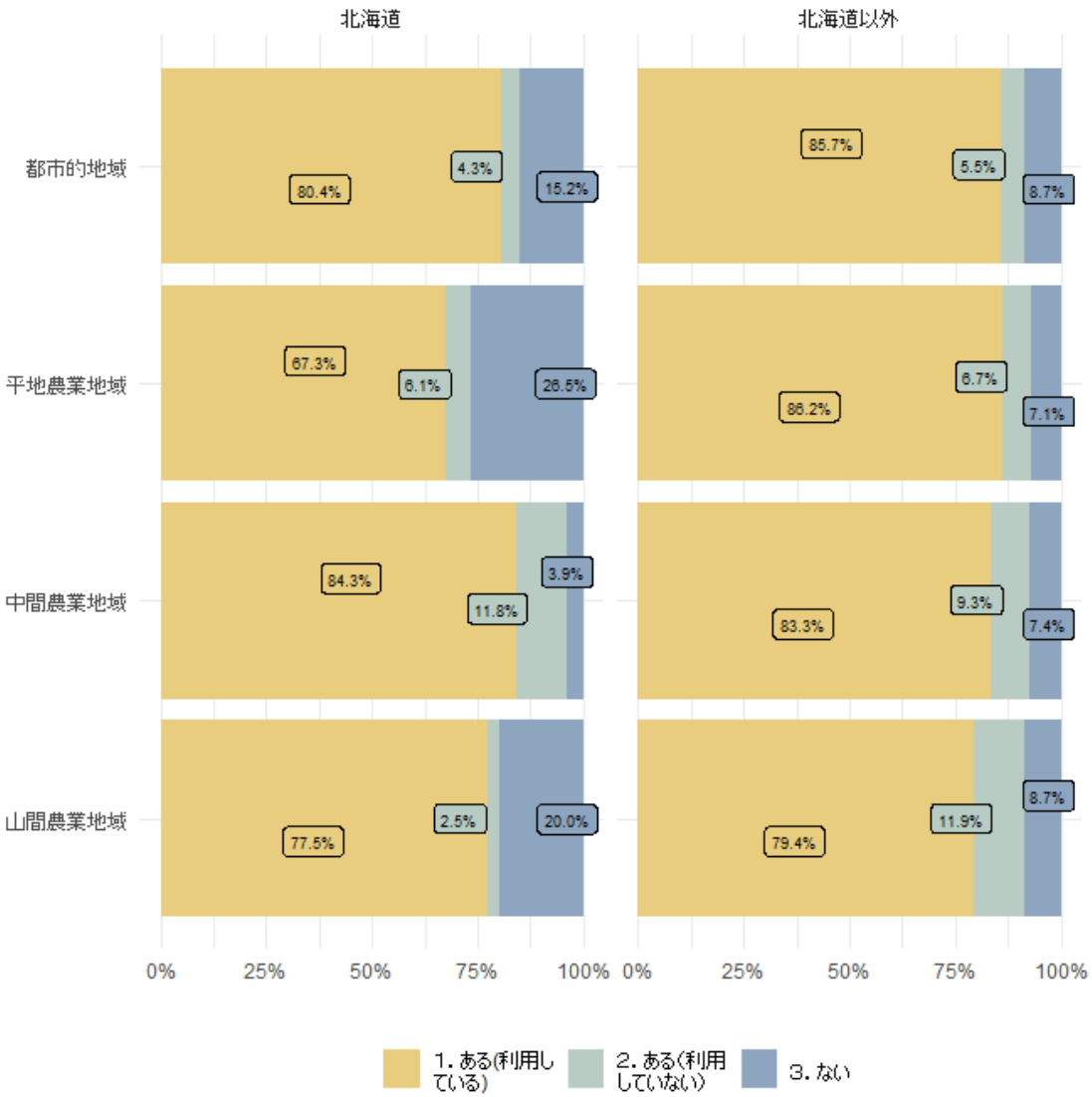
（2）地域別

北海道において店舗がないと回答している割合が高い。



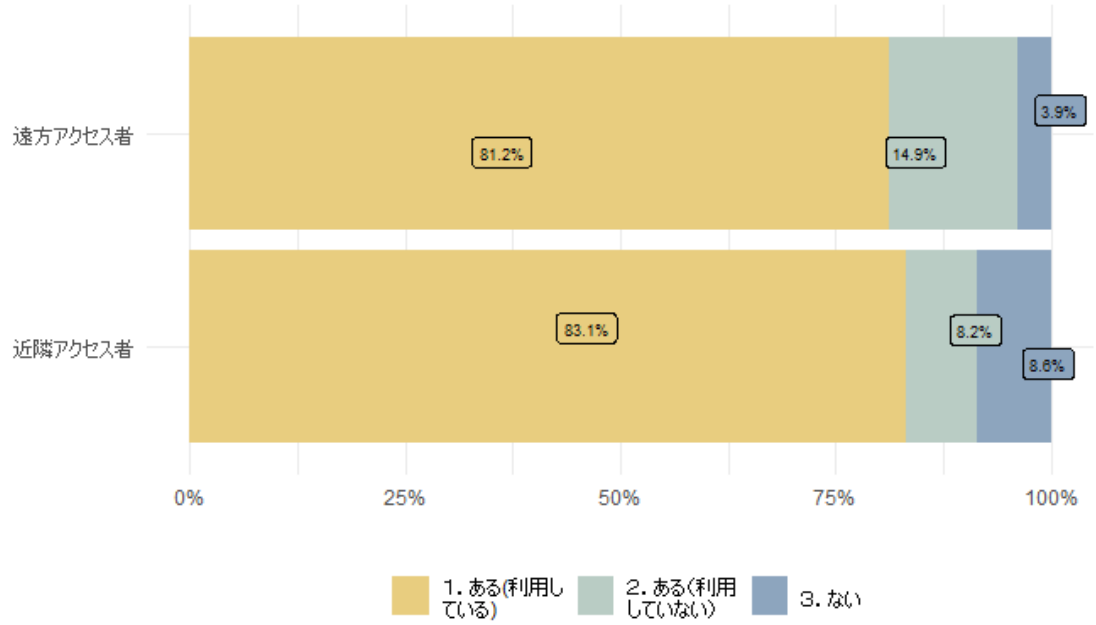
（3）農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

特に北海道以外の方が、店舗がない割合が高い。



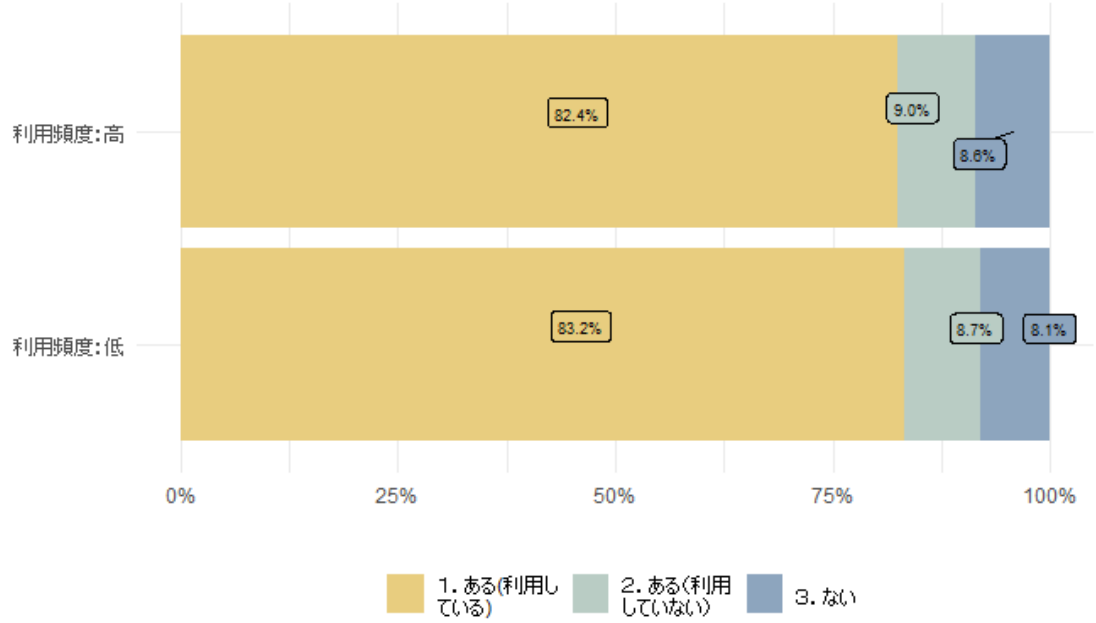
（4）アクセス状況別

近隣アクセス者の方が他に利用できる施設がないと回答する割合が高い。



（5）利用頻度別

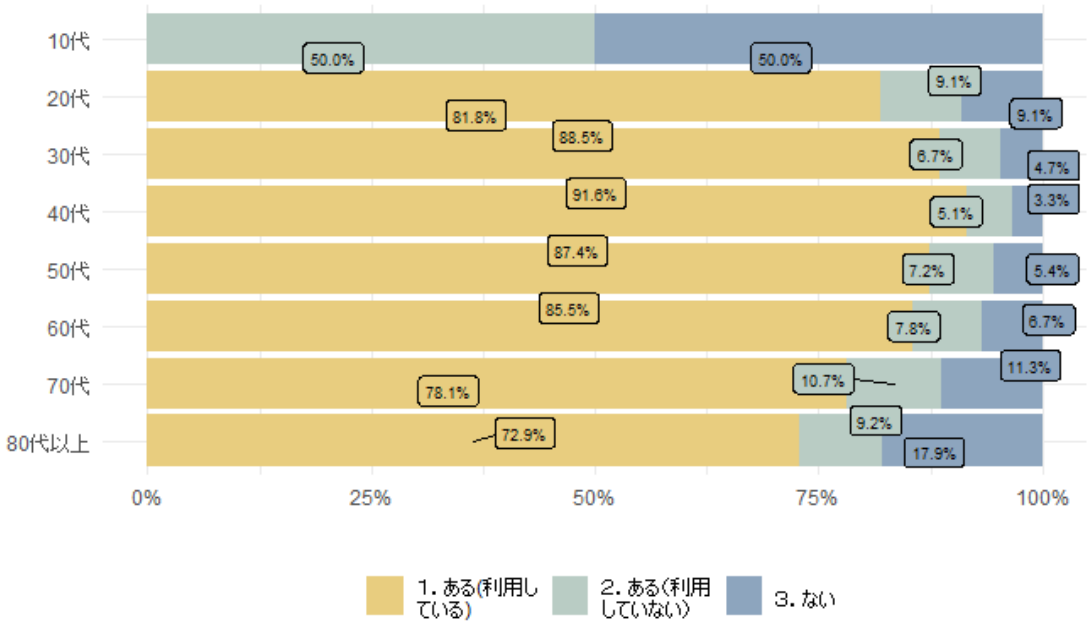
利用頻度による大きな違いは見られない。



（6）年齢層別

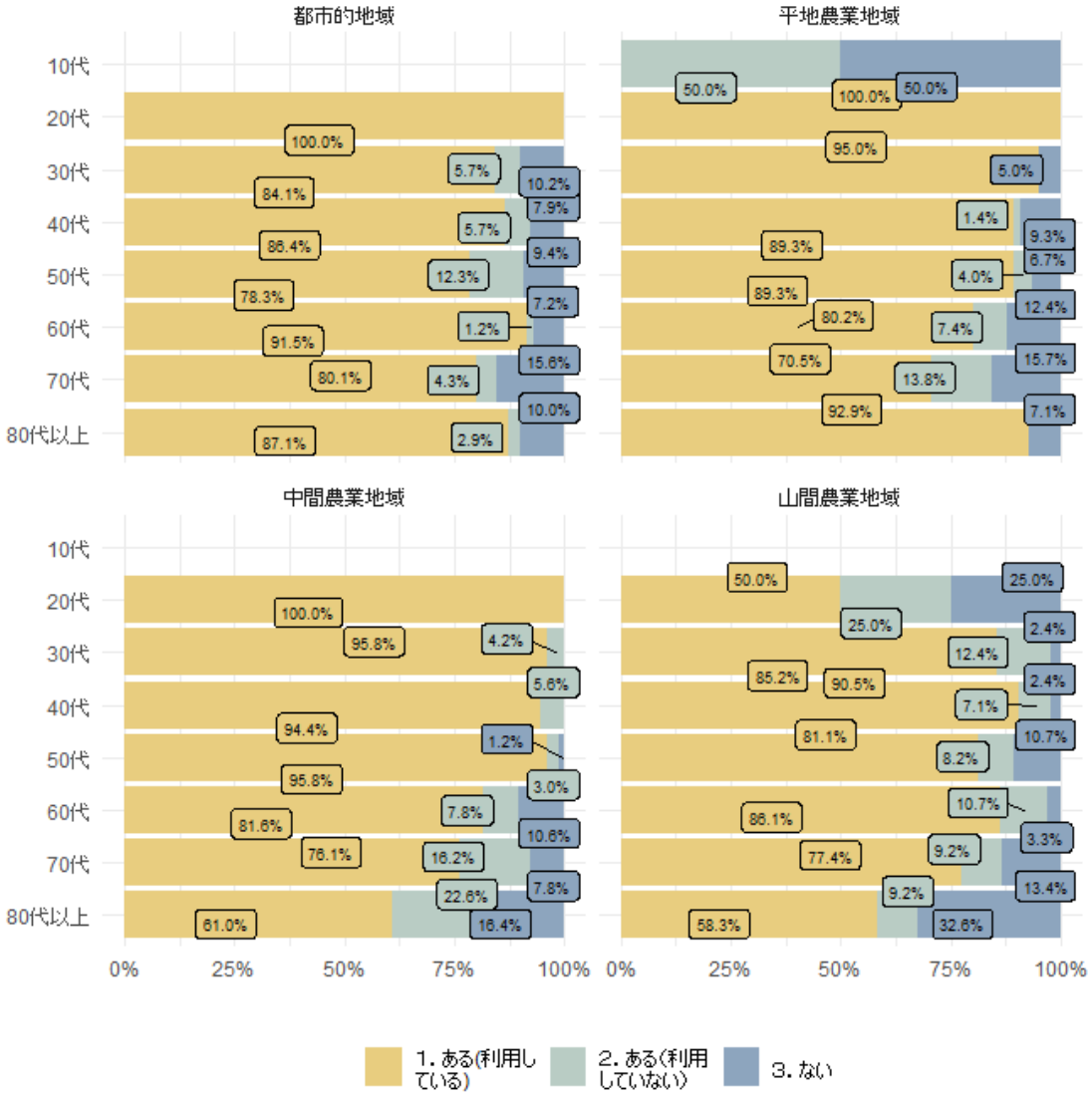
①全体

年齢が高くなるほど、JA 施設以外に利用できる施設がないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

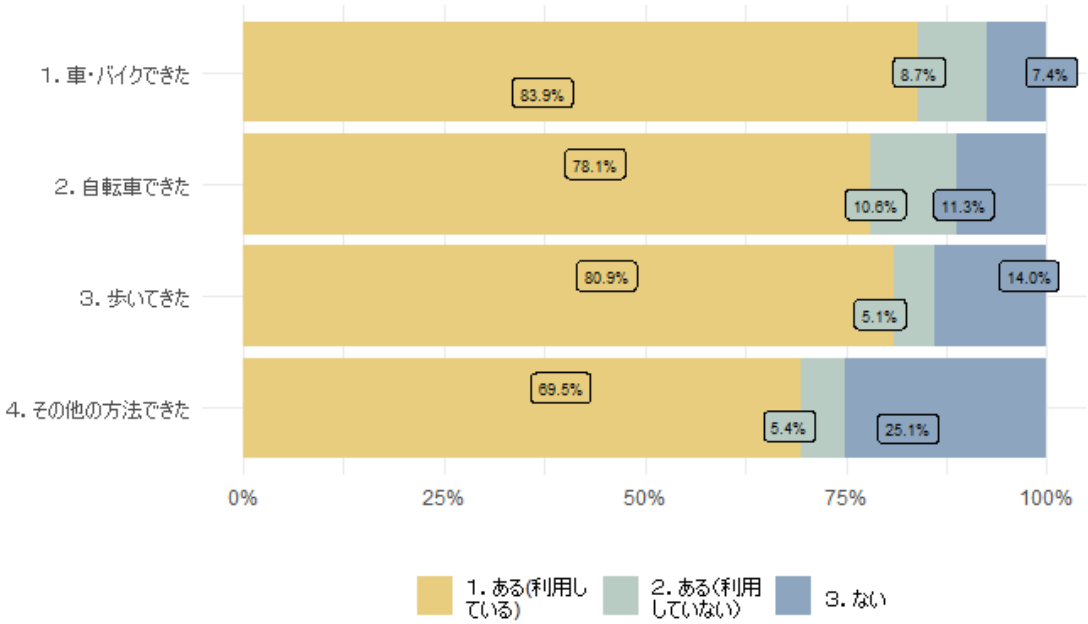
特に、中間農業地域、山間農業地域で、80 代が他の施設を利用しないと回答する割合が高くなる。



（7）移動手段別

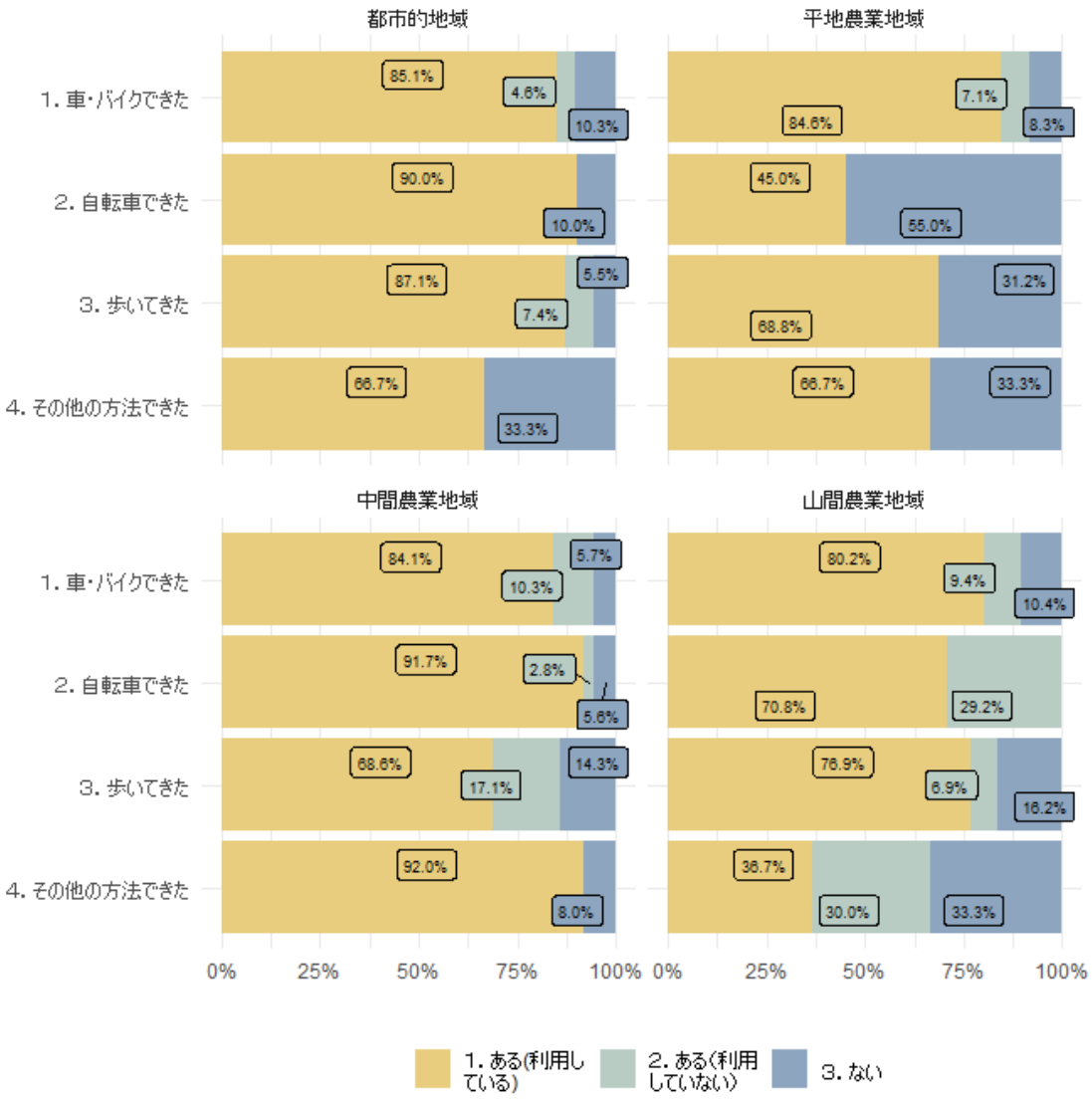
①全体

移動手段が自転車、もしくは歩き、その他の方法（主に公共交通機関）であるほうが、他の施設がないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

「その他の方法できた」という回答は少ないため、若干結果はばらついている。

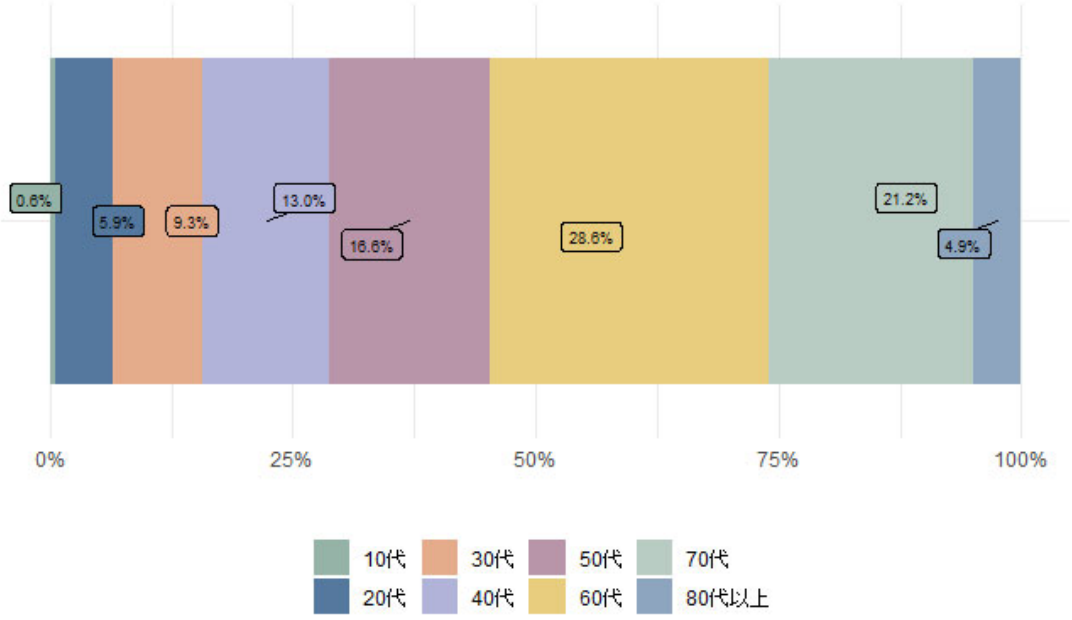


5.4. ガソリン小売サービス

5.4.1. 回答者の年代

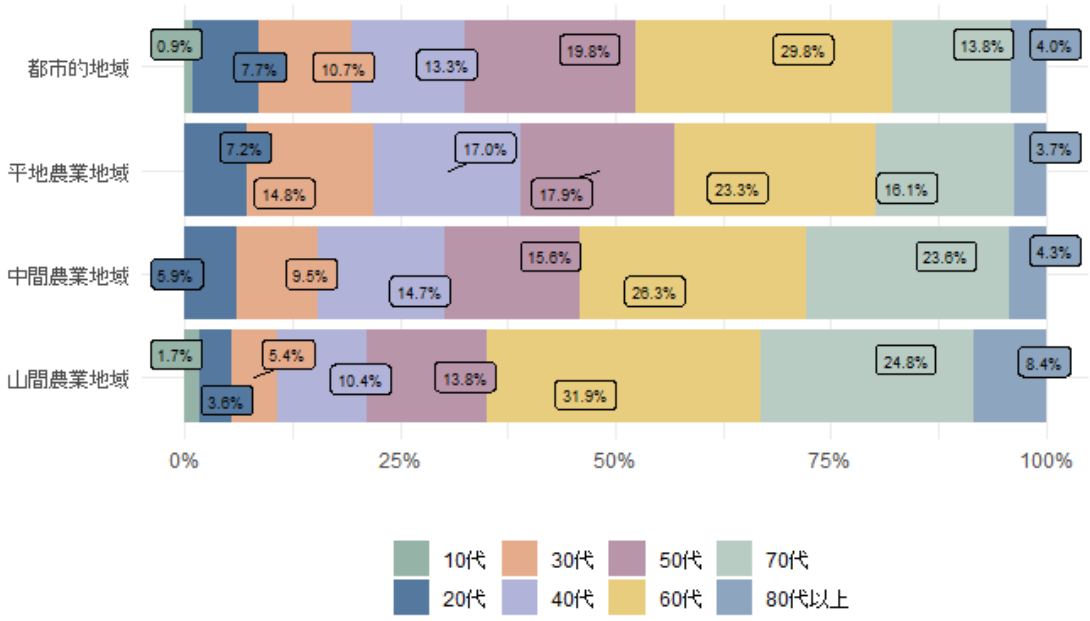
（1）全体

６０歳以上の割合は約半分となっている。



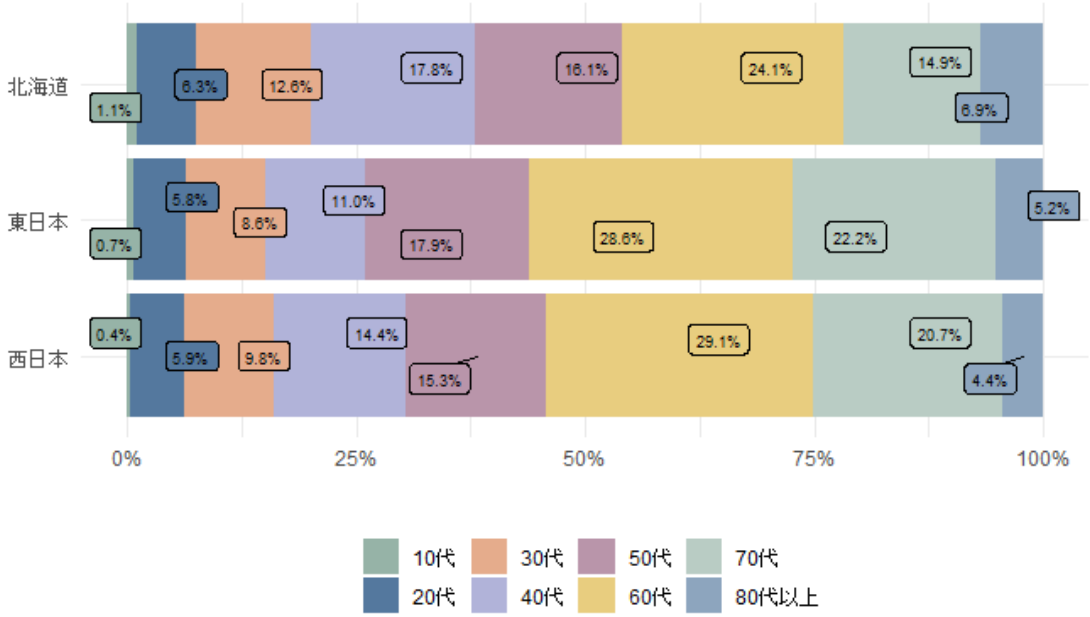
（2）農業地域類型別

平地農業地域において若い世代の利用が若干高い。



（3）地域別

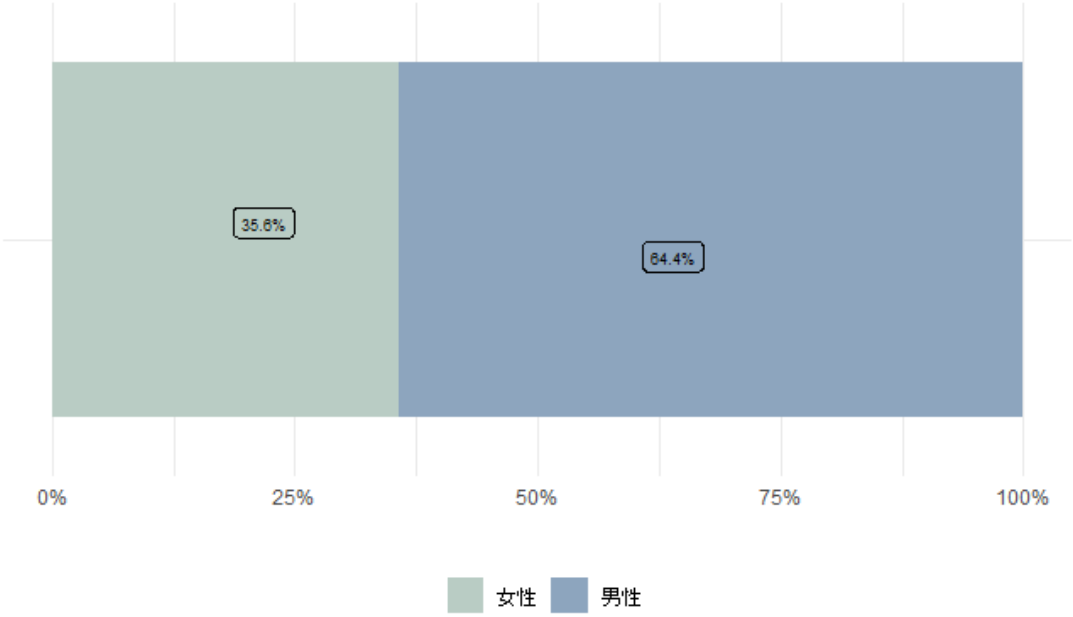
地域別に見ると北海道の高齢者利用率が若干低い。



5.4.2. 回答者の性別

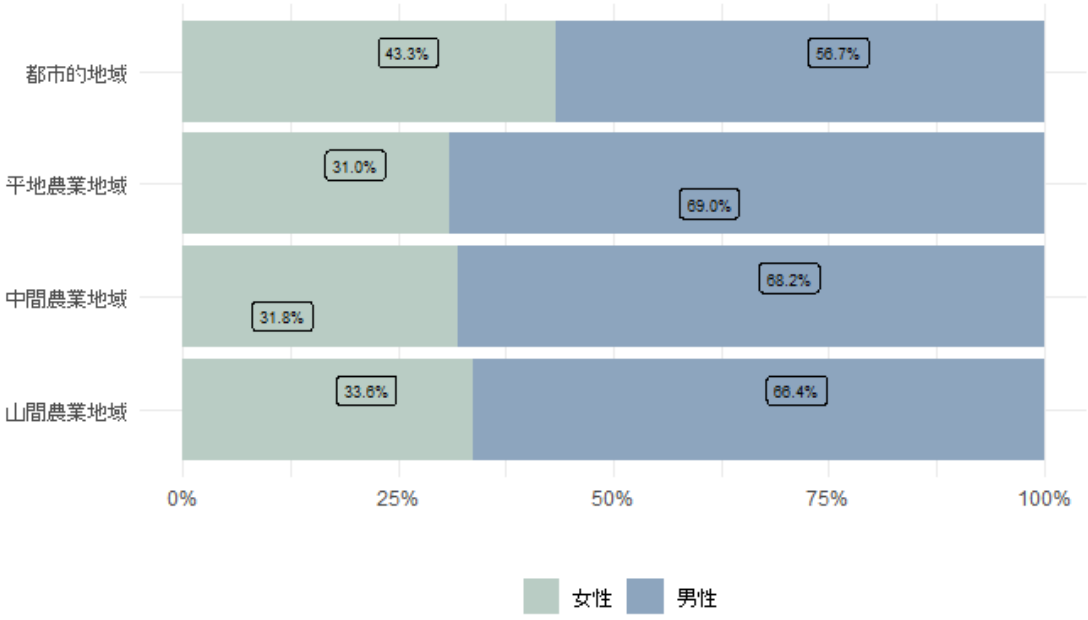
（1）全体

約６割が男性と男性比率が高い。



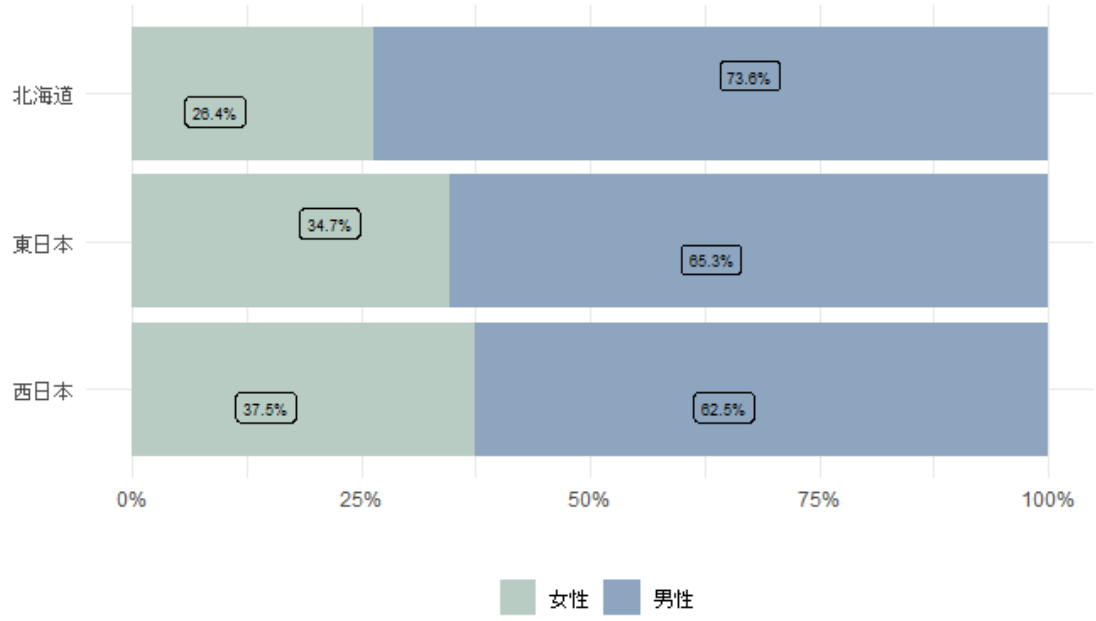
（2）農業地域類型別

都市的地域では、女性の割合が高い。



（3）地域別

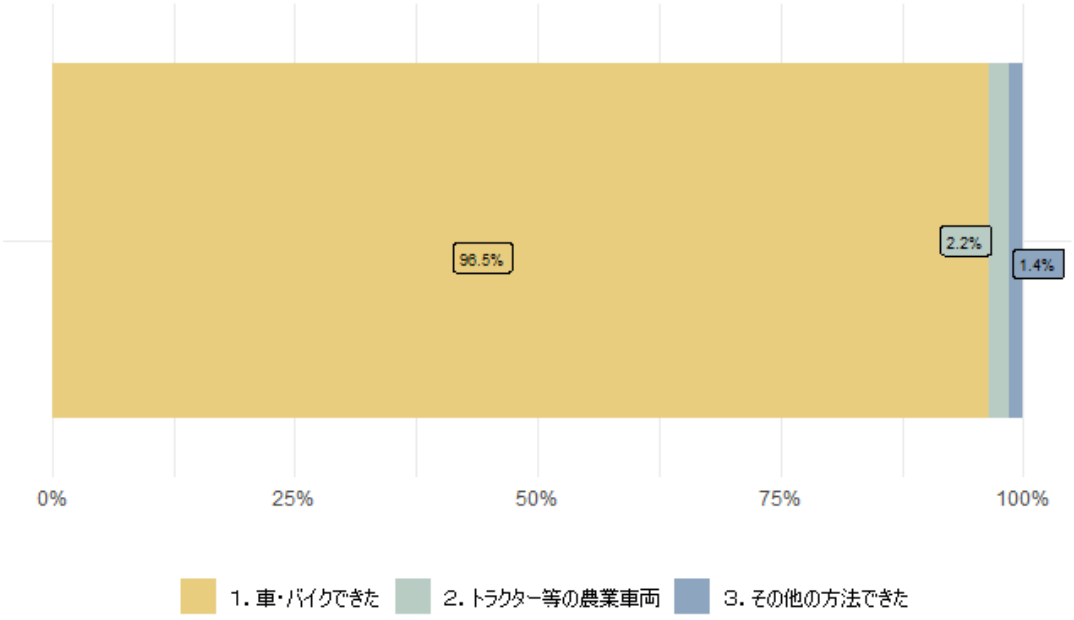
北海道では特に男性の割合が高い。



5.4.3. 来場の方法

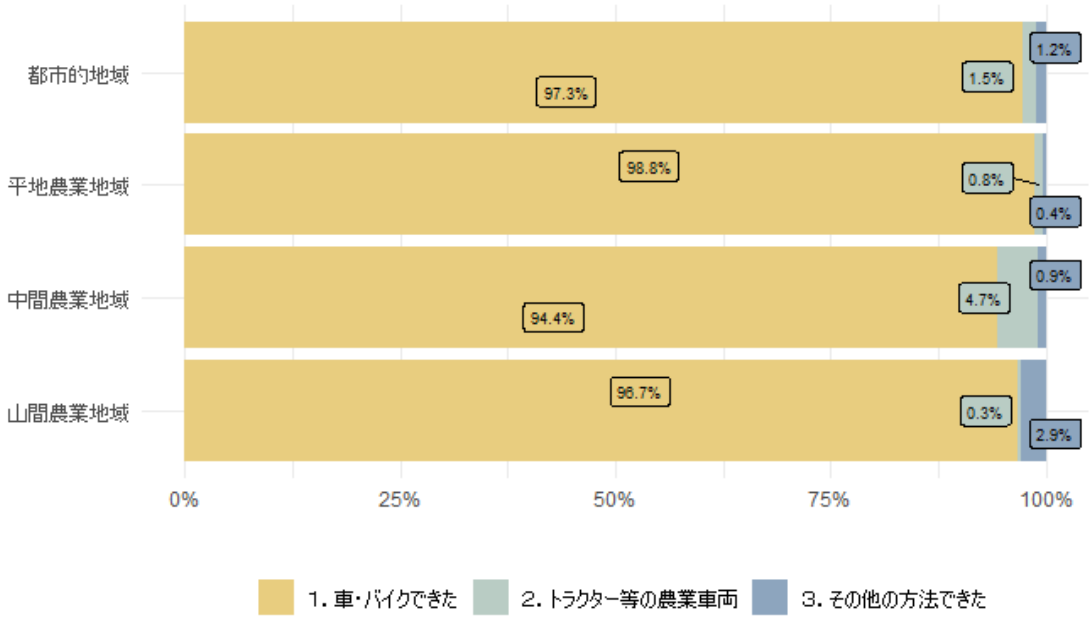
（1）全体

ガソリンスタンドであることからほとんどが車・バイクで来場している。



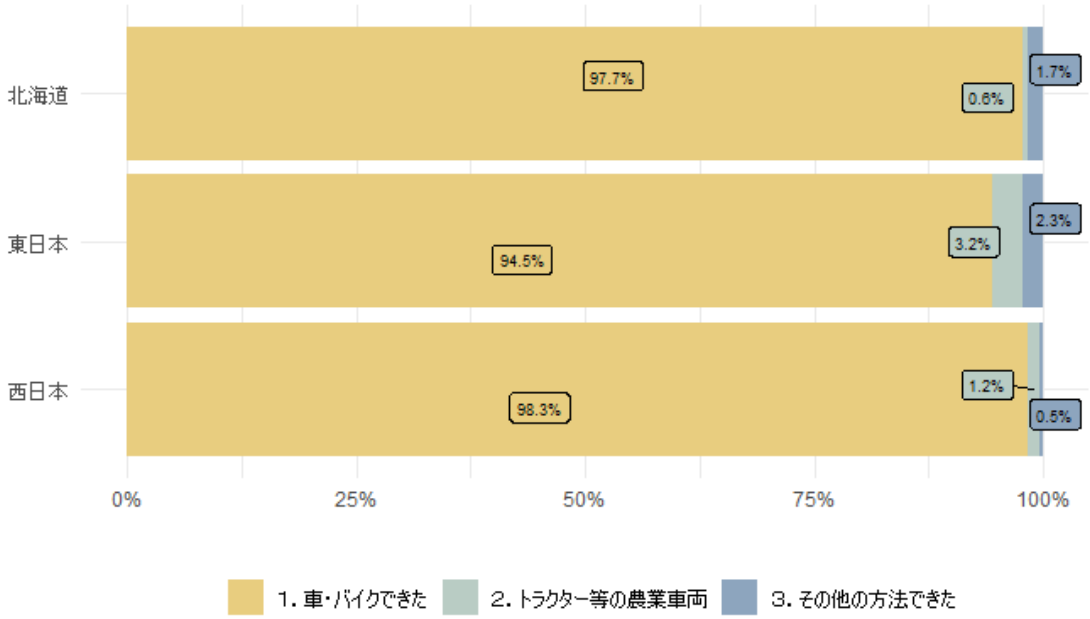
（2）農業地域類型別

農業地域別に見ても大きな違いは見られない。



（3）地域別

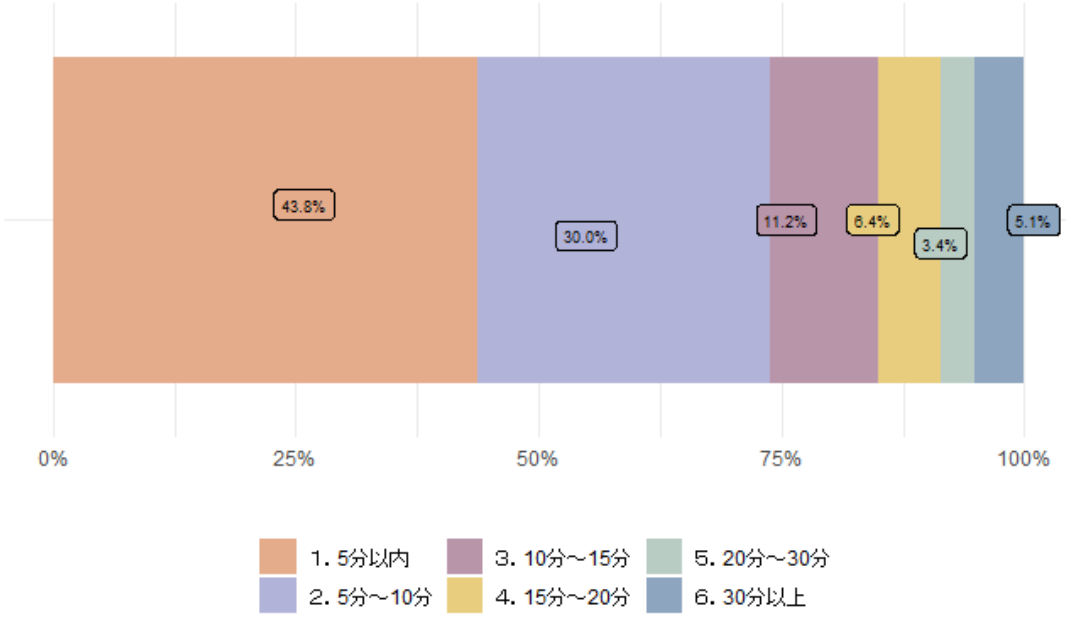
地域別に見ても大きな違いは見られない。



5.4.4. 所要時間

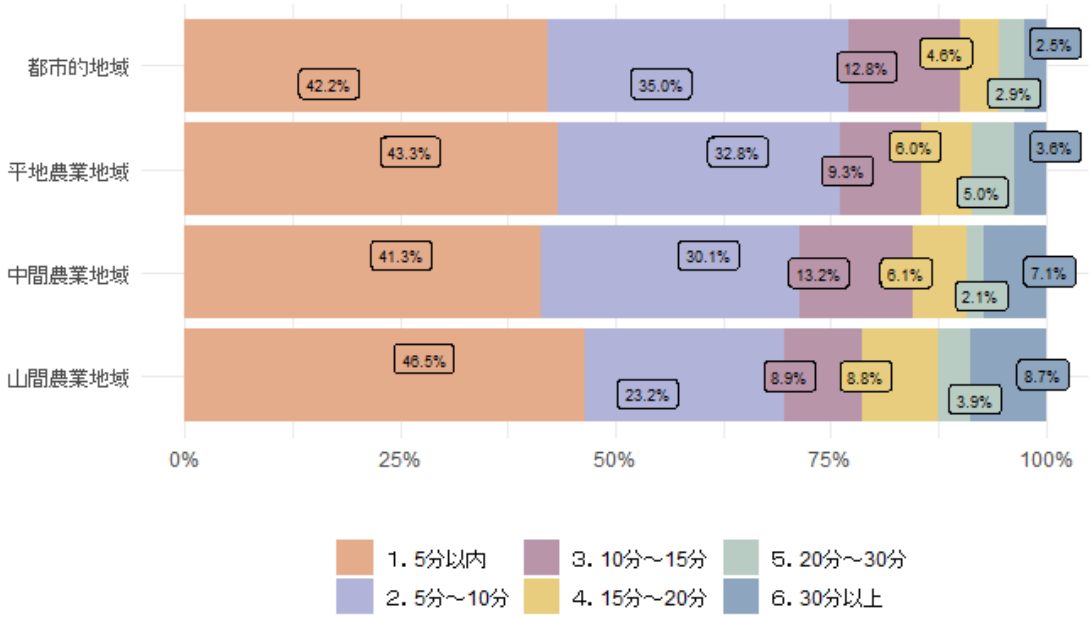
（1）全体

全体の 7 割程度が 10 分以内の場所から来訪している。



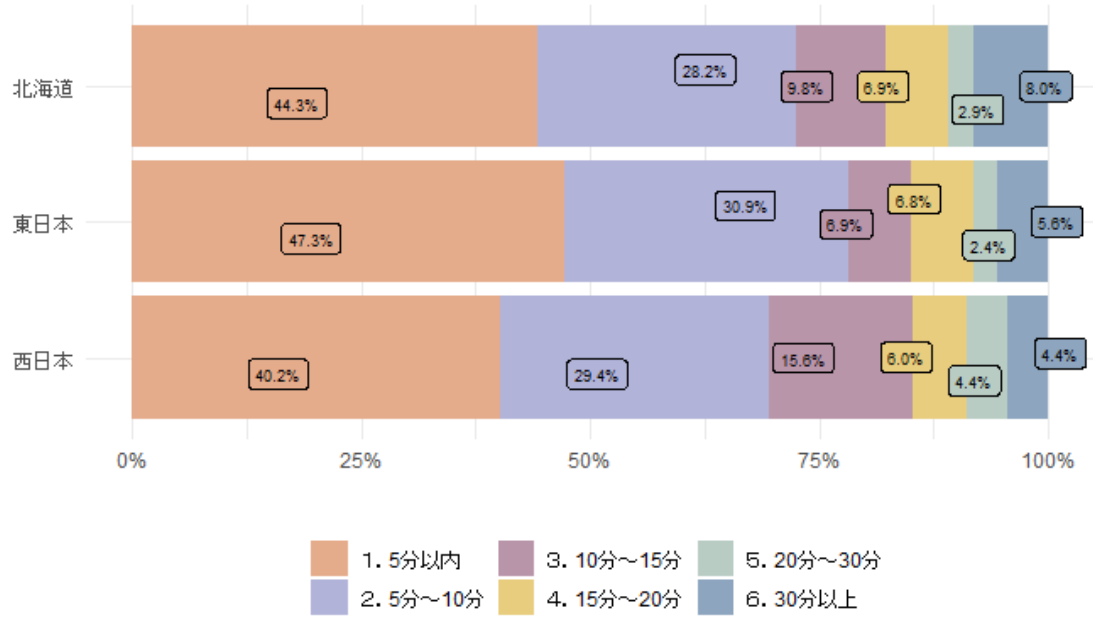
（2）農業地域類型別

中間農業地域、山間農業地域になるに従って遠くからの来訪者割合が若干増加する。



（3）地域別

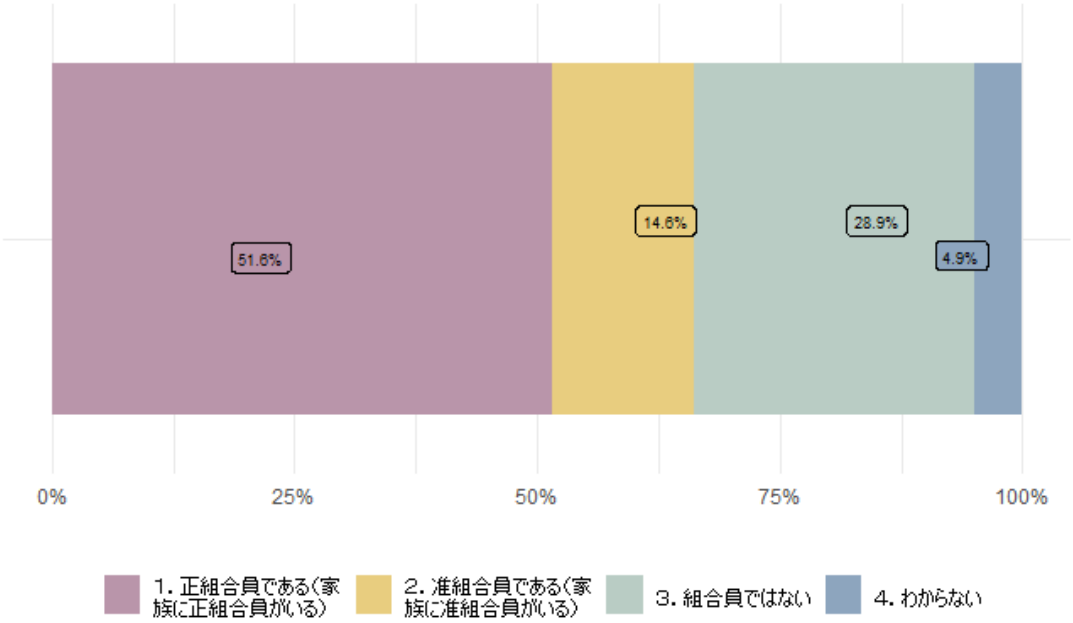
地域別にみると大きくは変わらない。



5.4.5. JA への加入状況

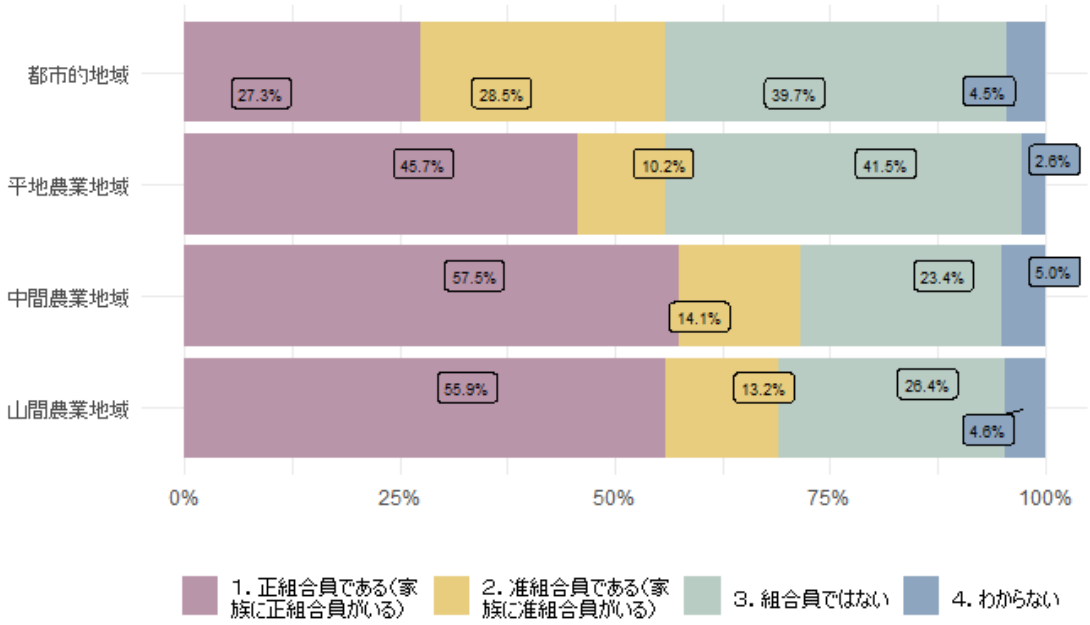
（1）全体

全体の半分が正組合員であり、約３割が組合員ではない。わからないという回答は 5%程度であった。なお、「分からない」という選択肢は令和元年度調査では設定していない。



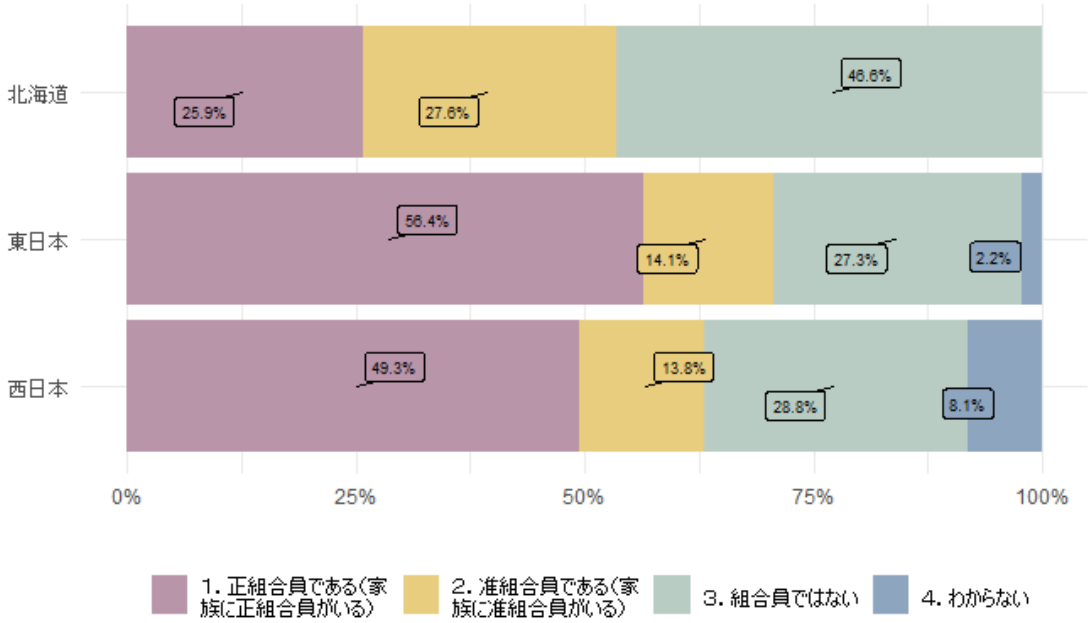
（2）農業地域類型別

平地農業地域及び中間農業地域における正組合員の比率が高く、都市的地域で低い。



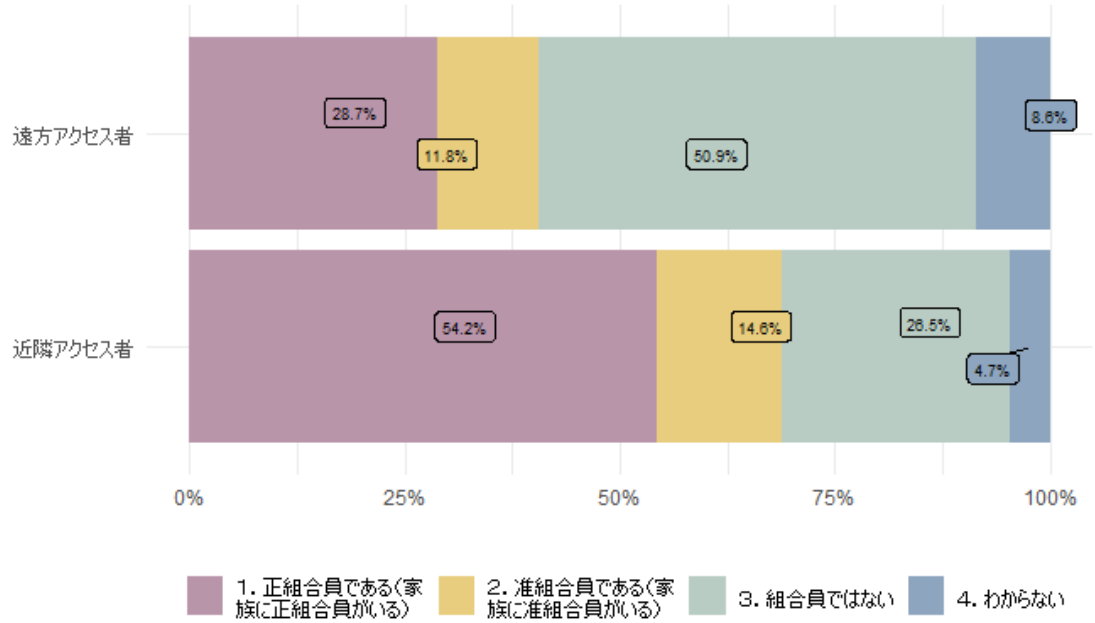
（3）地域別

地域別には北海道において正組合員比率が低い。



（4）アクセス状況別

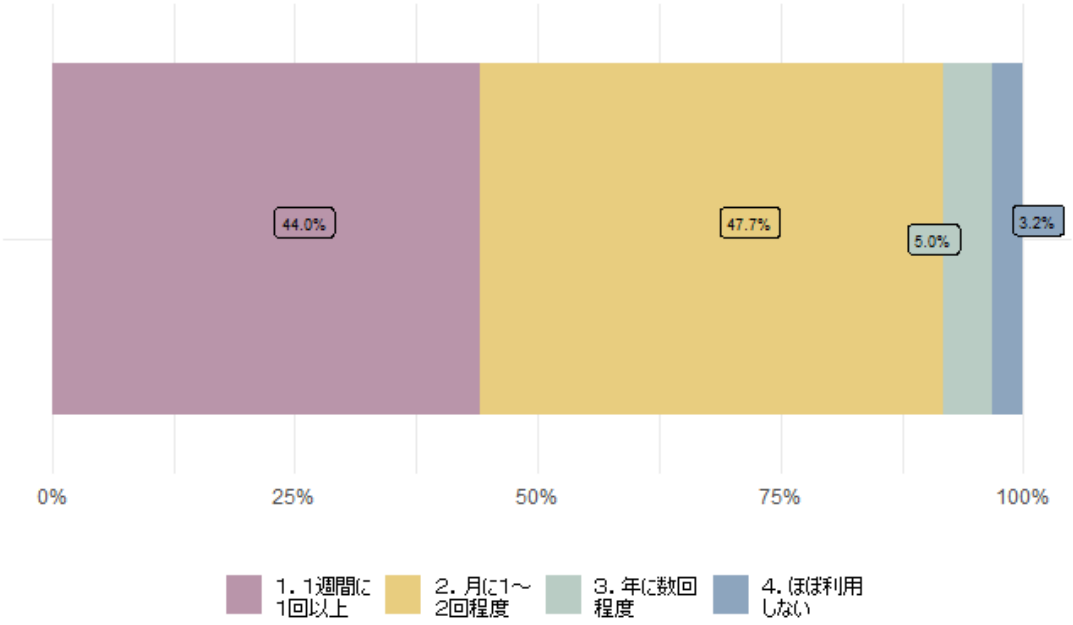
遠方からアクセスしている人の非組合員率は高い。



5.4.6. 利用頻度

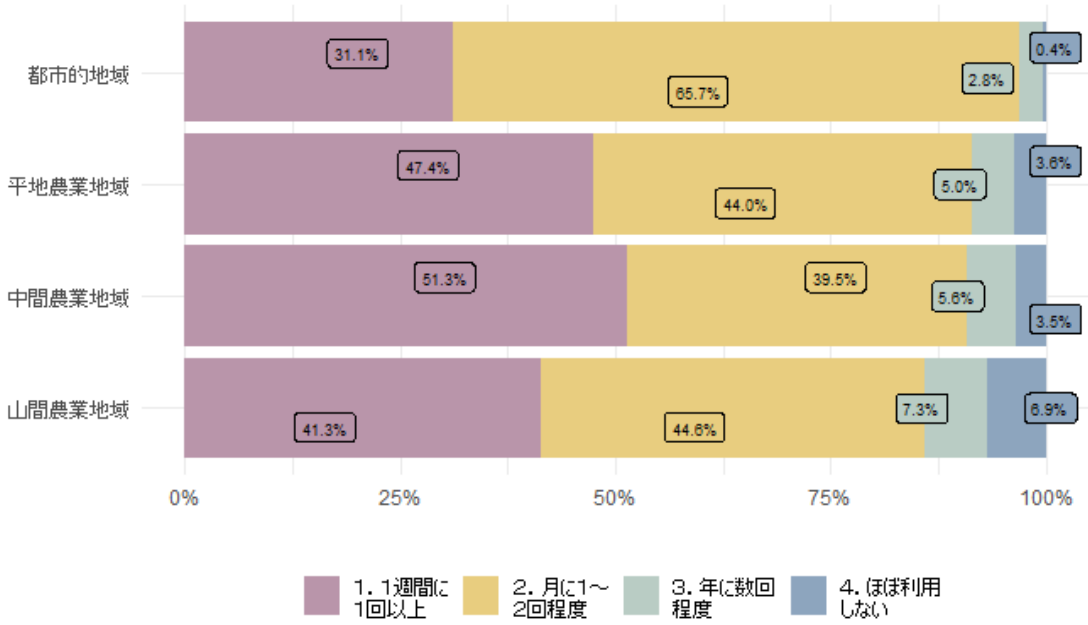
（1）全体

全体の約９割が月に１回以上利用している。



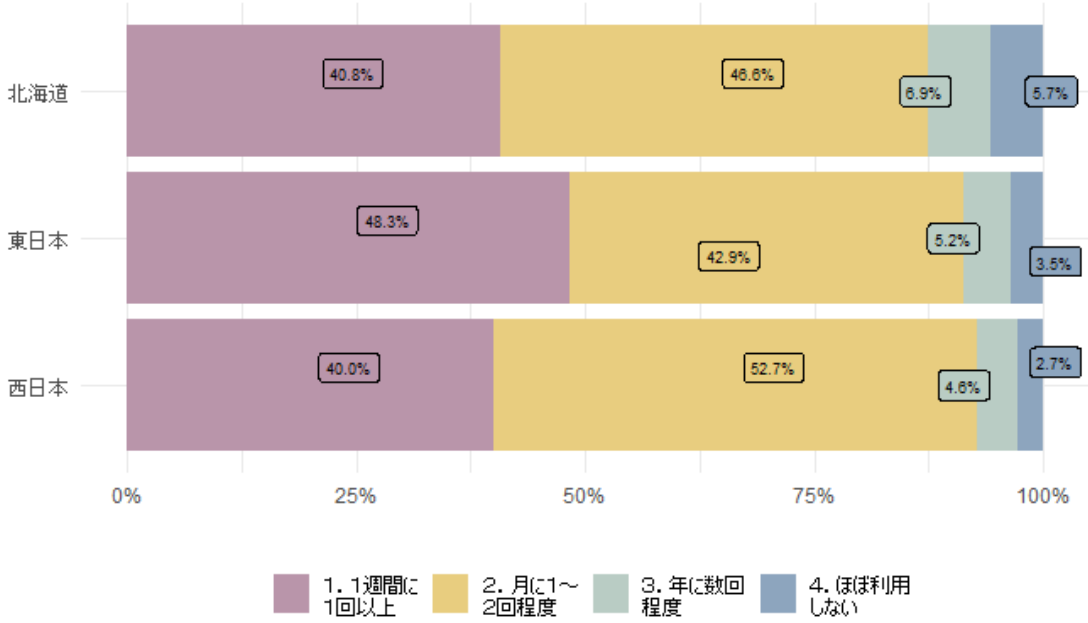
（2）農業地域類型別

山間農業地域での利用頻度が若干低い。



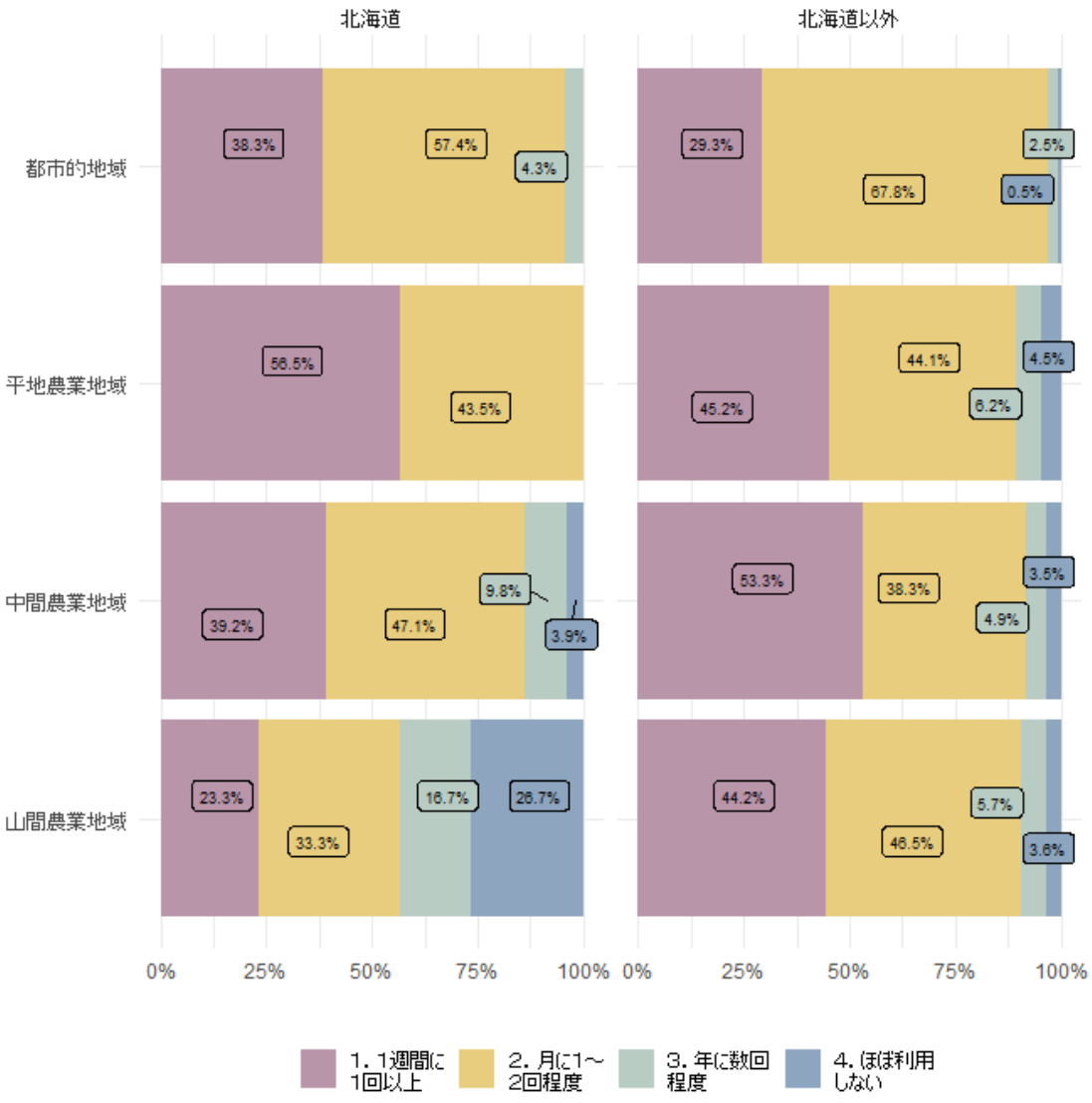
（3）地域別

北海道の利用頻度が若干低いが、大きな違いは無い。



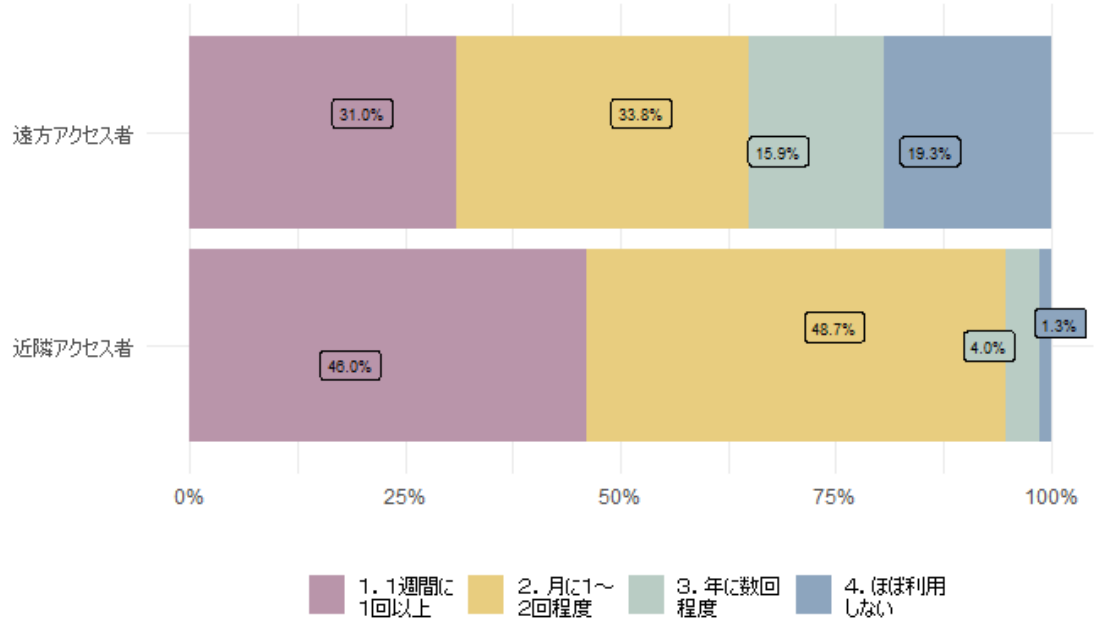
（4）農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

北海道の山間農業地域での費用頻度は特に低い。



（5）アクセス状況別

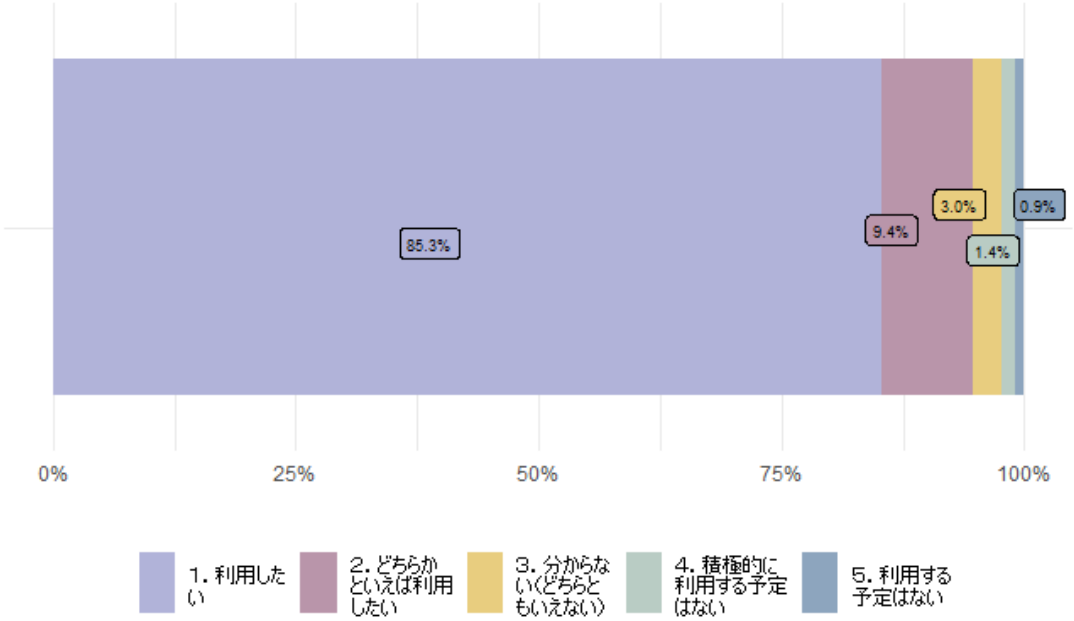
遠方からアクセスしている人の利用頻度は低い。ガソリンスタンドの場合、遠方からの来訪者がたまたま立ち寄るケースが他の施設に比べても多いと考えられる。



5.4.7. JA 施設の利用意向

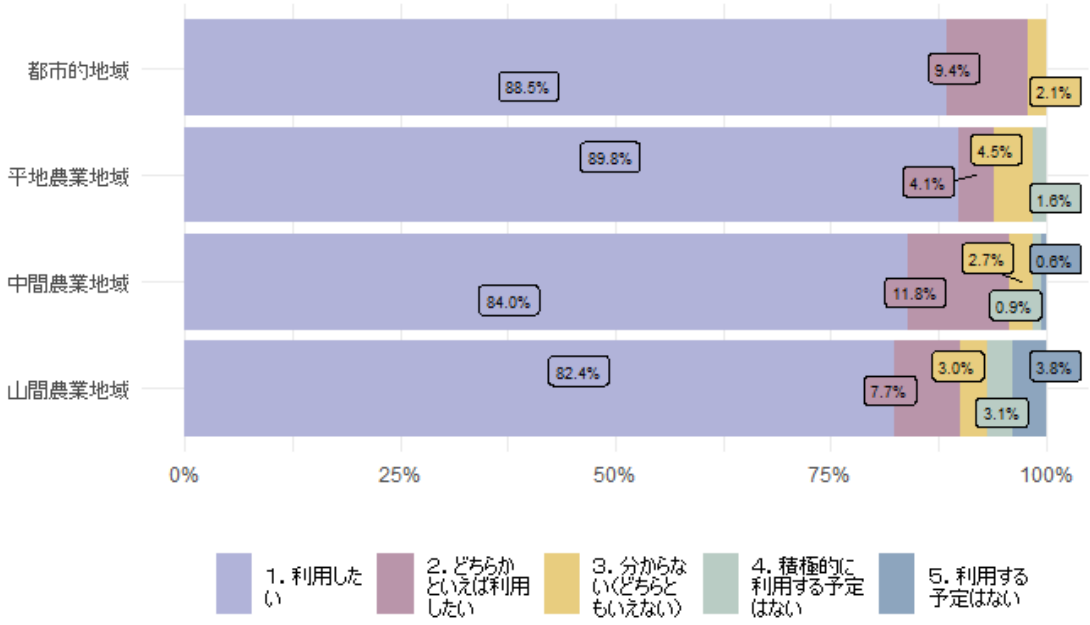
（1）全体

JA 施設の利用意向は約 9 割と高い。



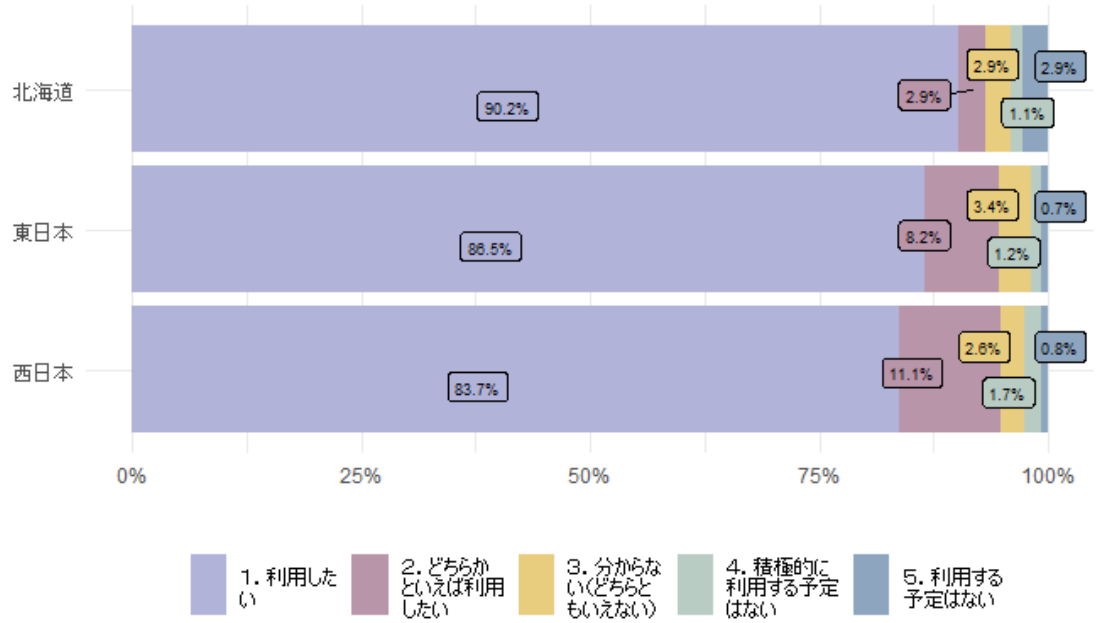
（2）農業地域類型別

中間農業地域、山間農業地域での利用意向が低い。



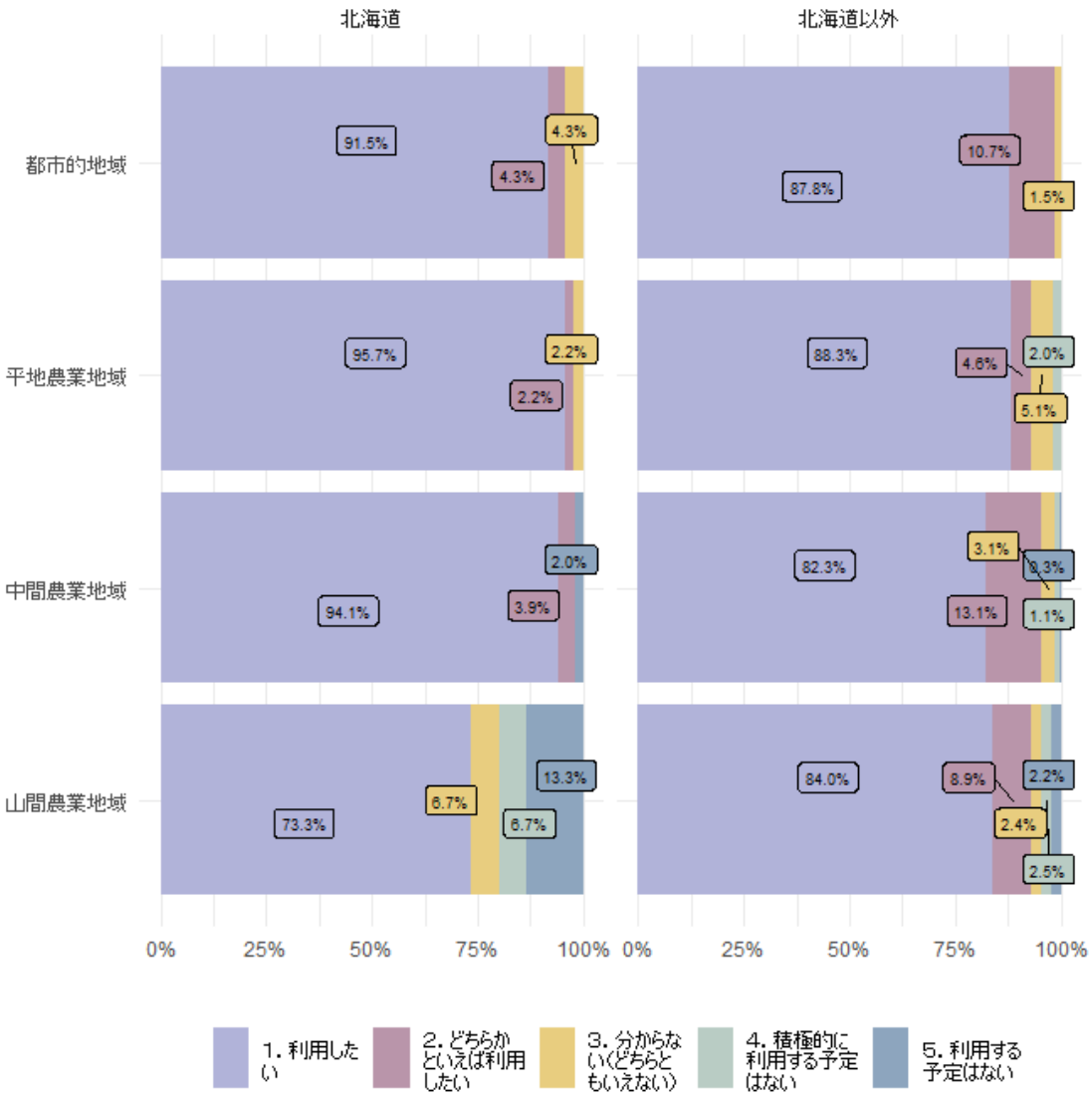
（3）地域別

西日本の利用意向が低い。



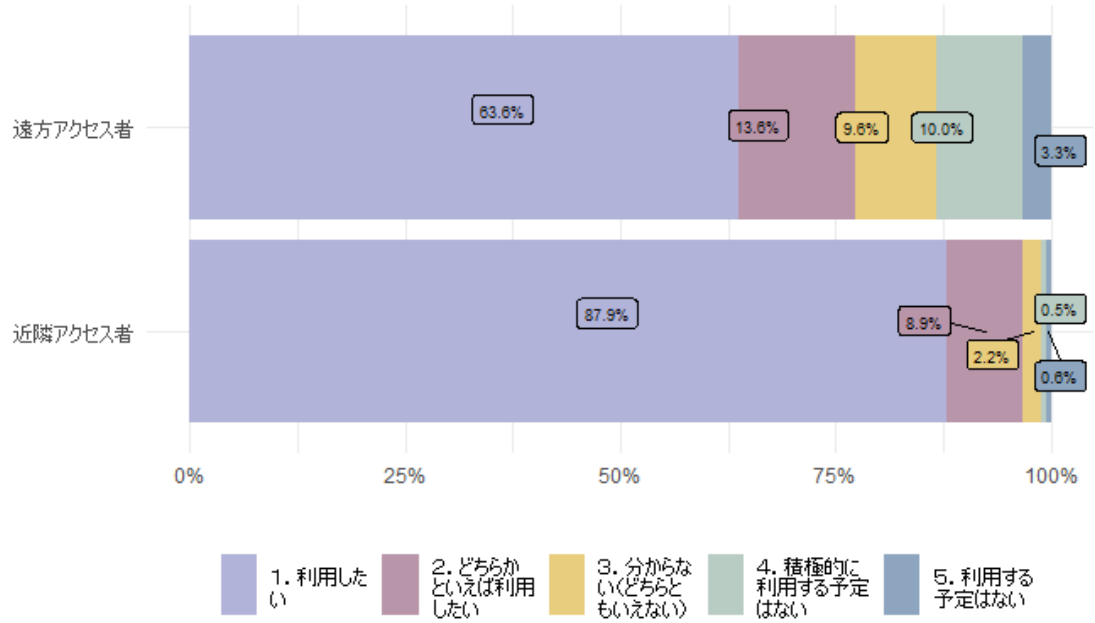
（4）農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

特に北海道の山間農業地域において利用意向が低くなっている。



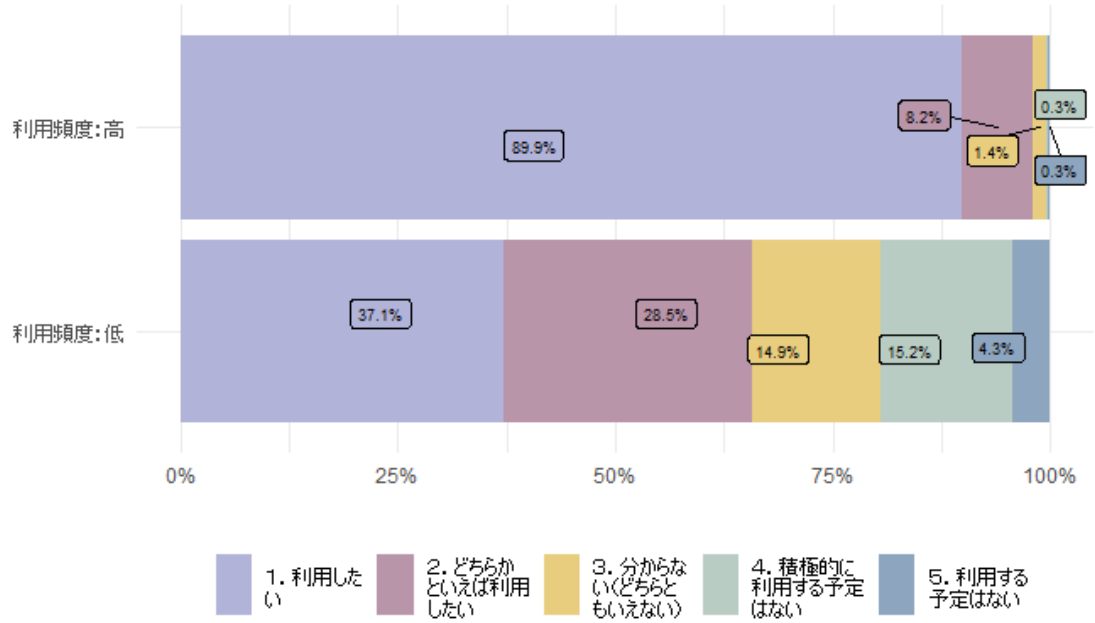
（5）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人の利用意向は低い。



（6）利用頻度別

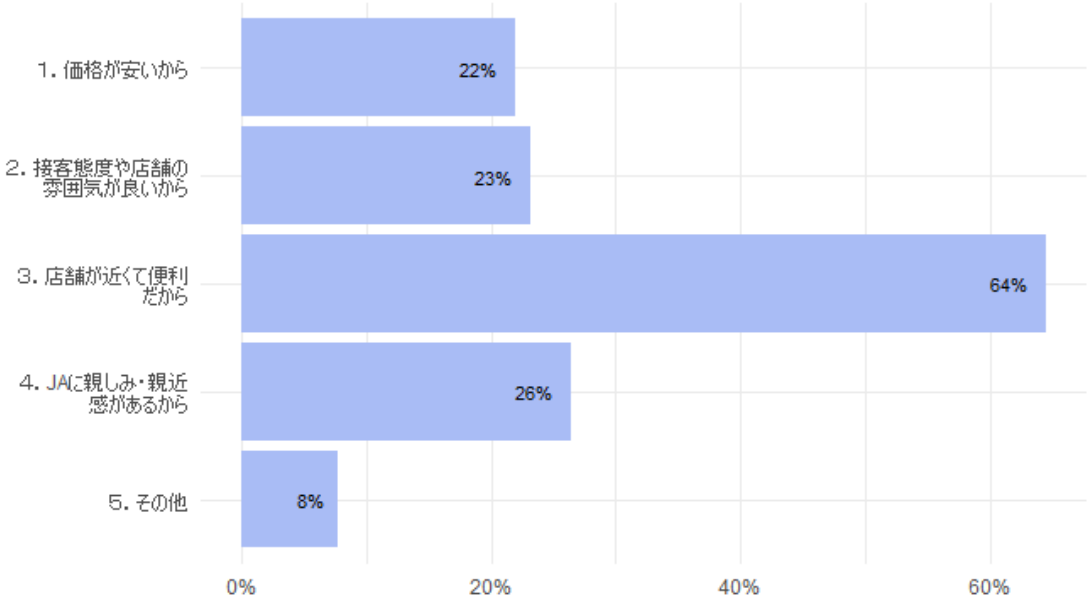
利用頻度が低い回答者の利用意向は低い。



5.4.8. 今後も利用したい理由

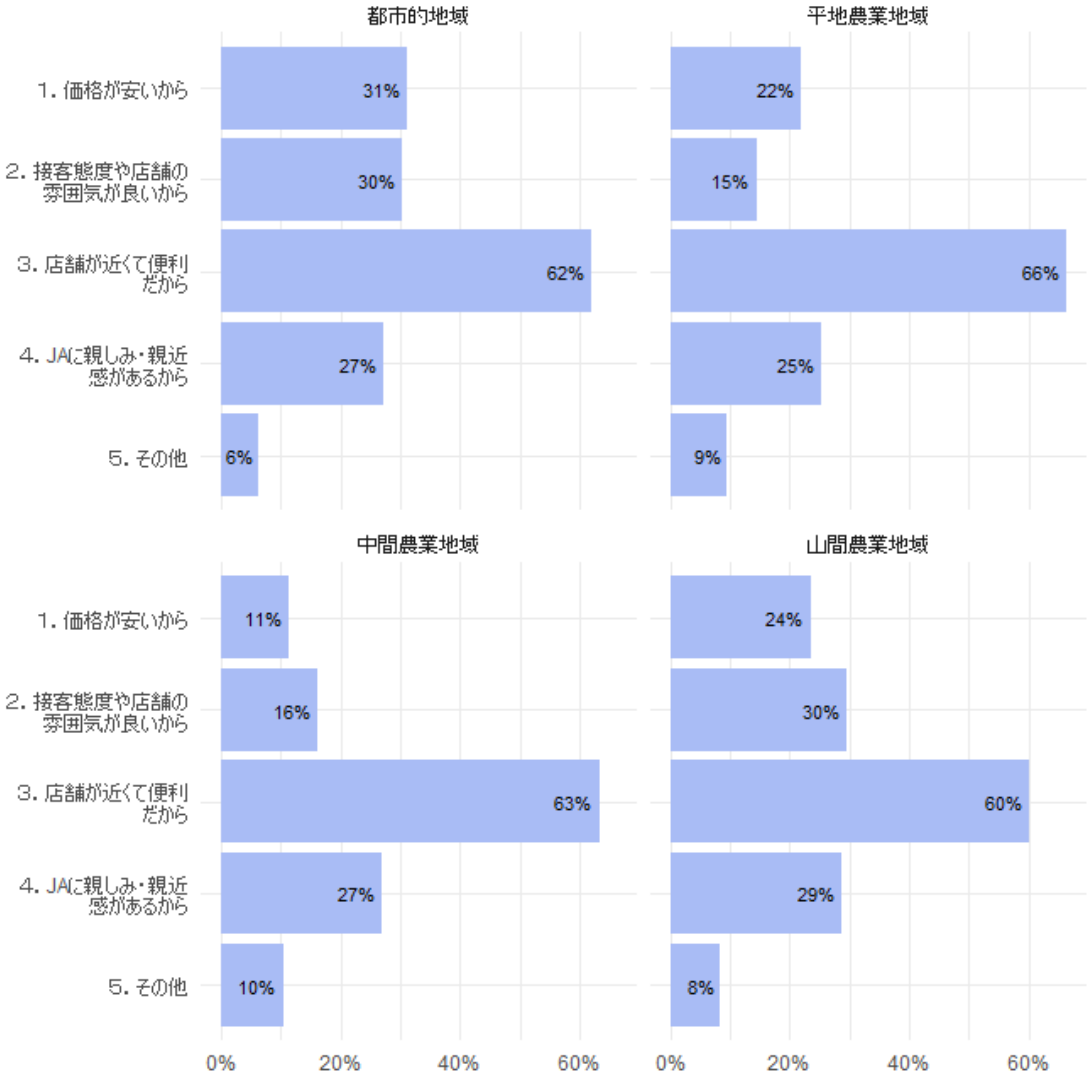
（1）全体

「店舗が近くて便利だから」という回答が最も多かった。



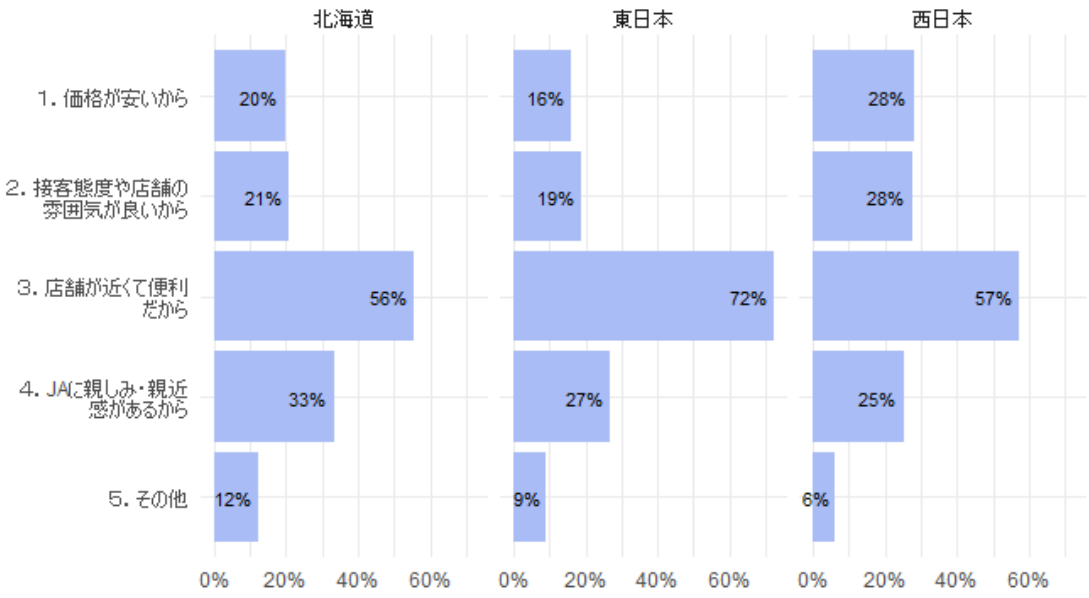
（2）農業地域類型別

傾向としては各類型とも大きな違いはないものの、都市的地域では価格に対する評価が若干高い。また、都市的地域、山間農業地域において、接客や雰囲気に対する評価が高かった。



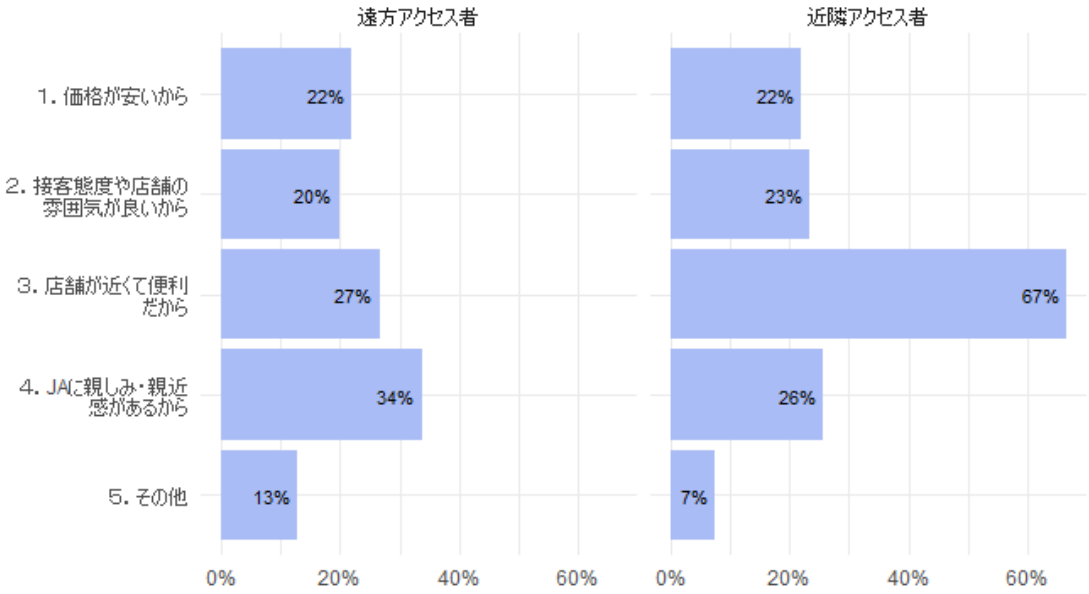
（3）地域別

西日本において「価格が安い」「接客態度や店舗の雰囲気がいい」との回答が多い。



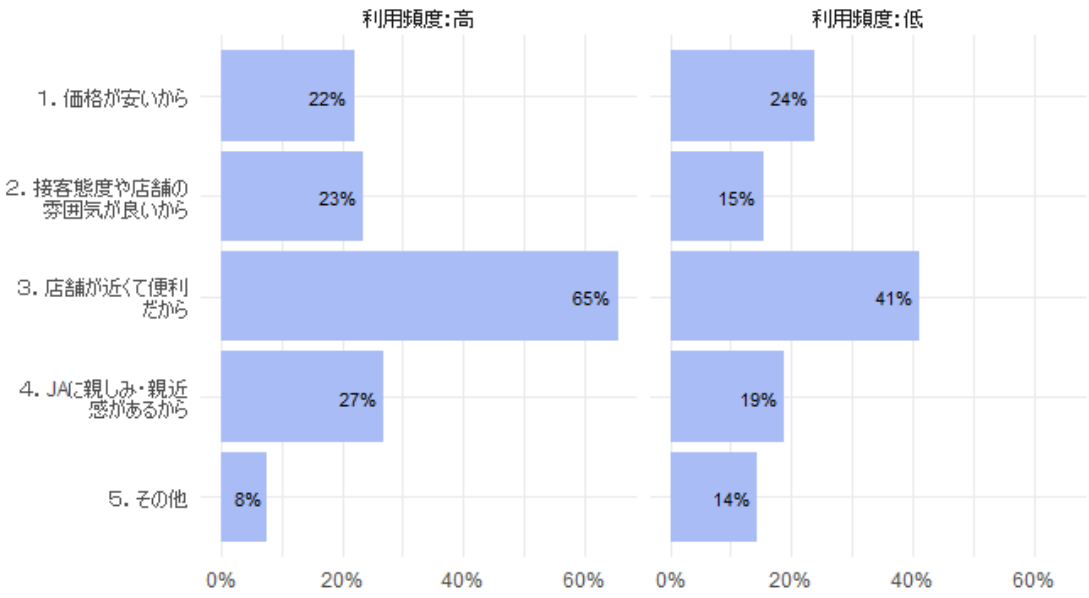
（4）アクセス状況別

遠方からアクセスしている人は、JA に親しみがある割合が高い。



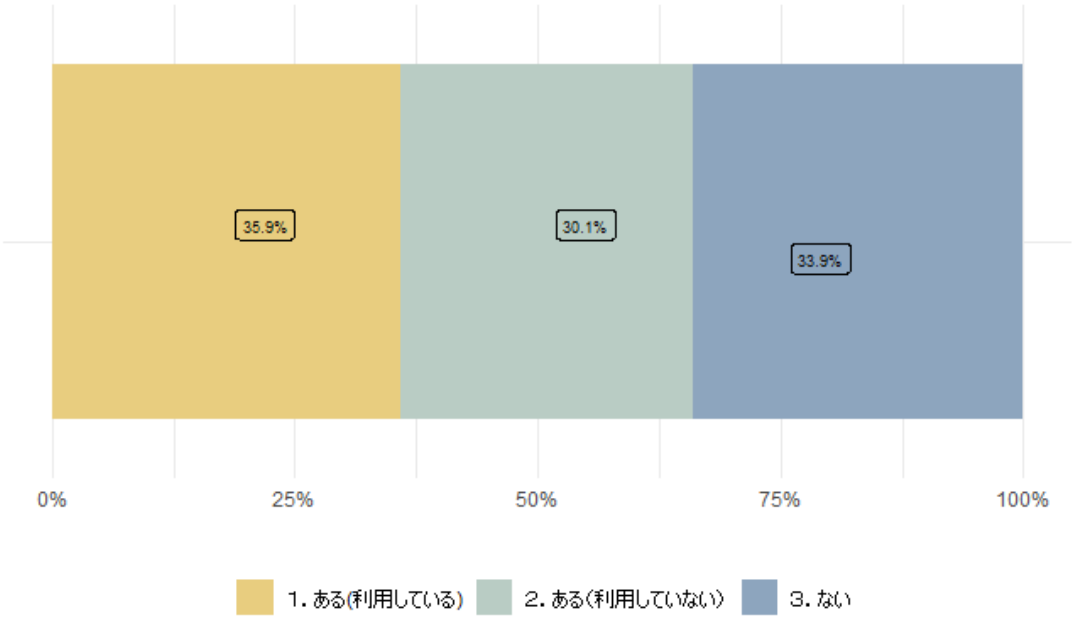
（5）利用頻度別

利用頻度の高い人ほど、全体的に評価が高い。



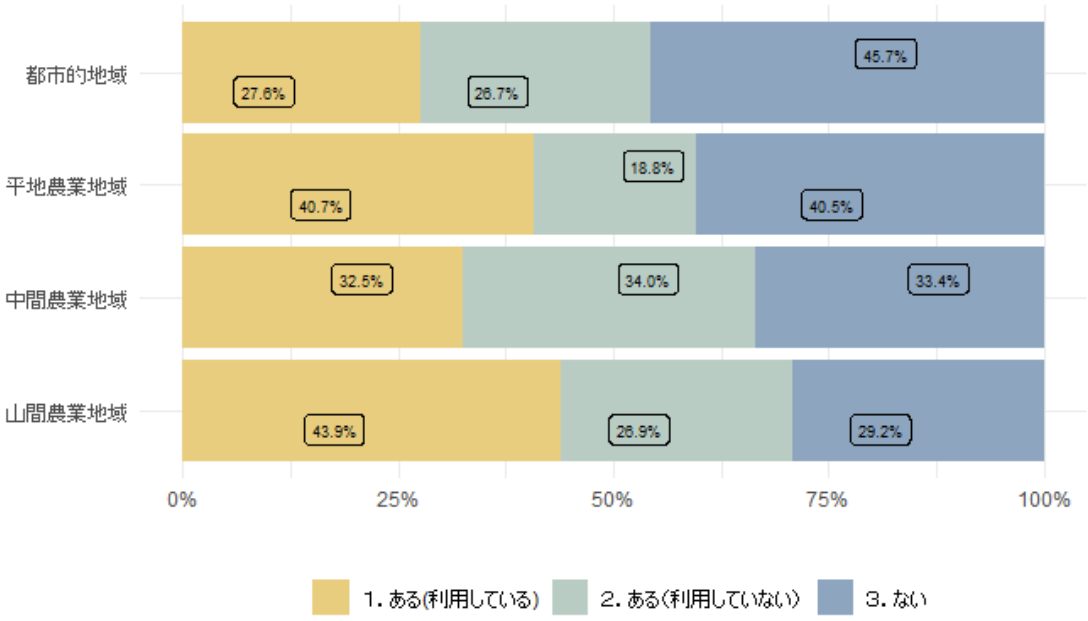
5.4.9. JA 施設以外の利用可能性

３割の人が JA 施設以外に利用できる施設がないと回答しており、他のインフラと比較しても高い水準である。



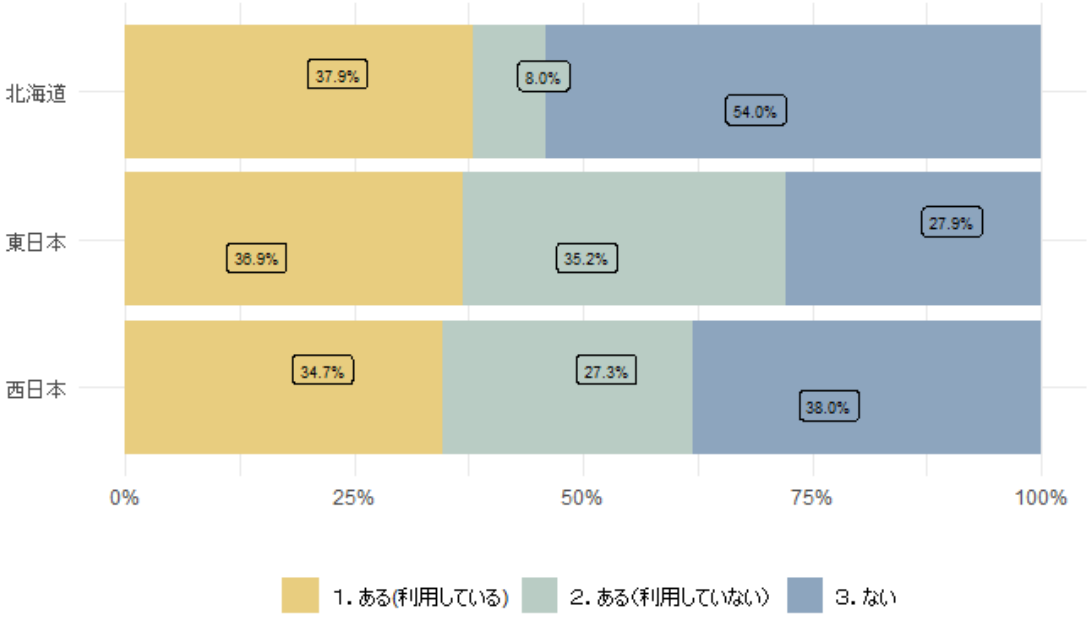
（1）農業地域類型別

都市的地域において、他の施設がないと回答している割合が高い。



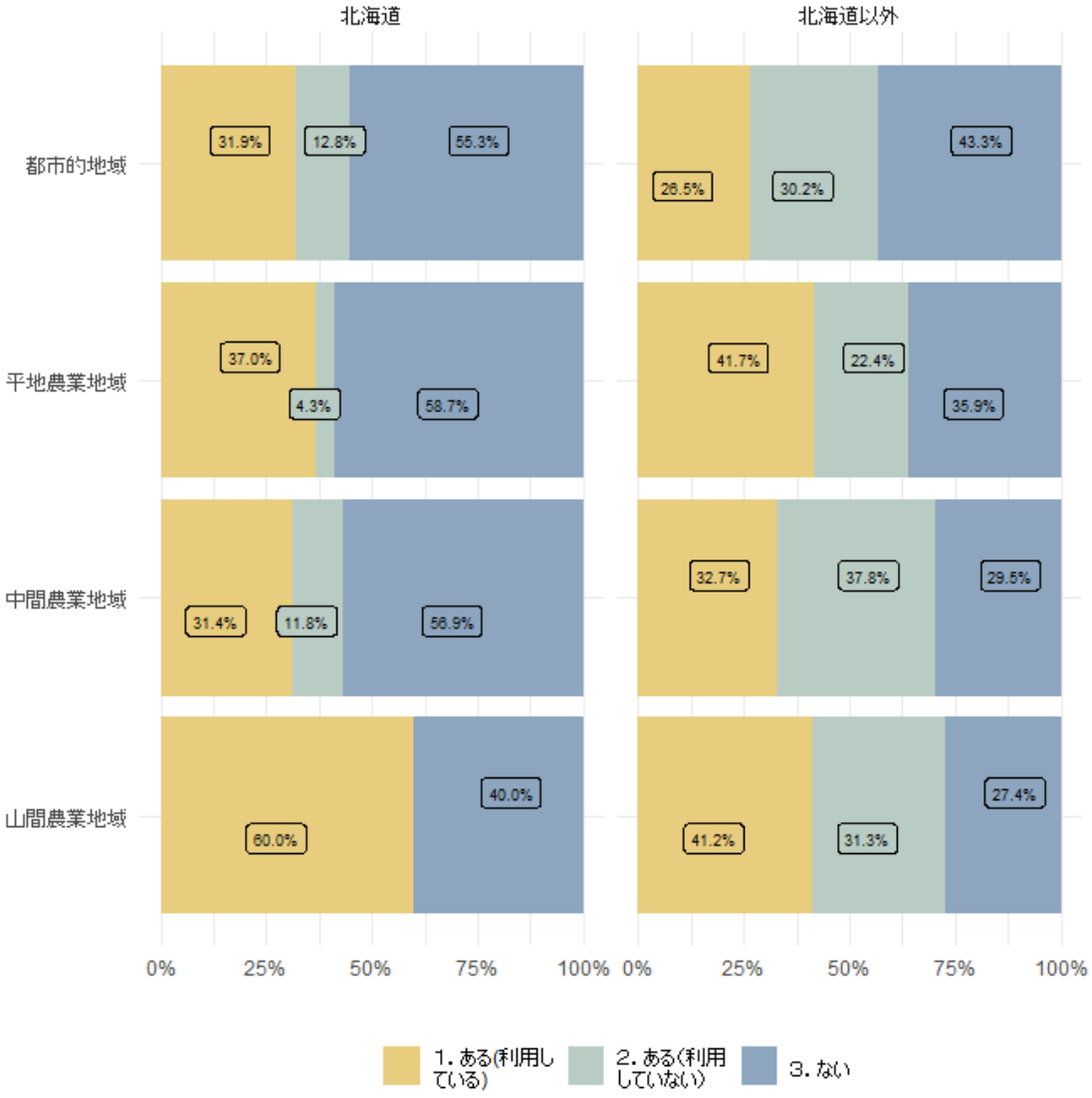
（2）地域別

北海道において他に利用できる施設がない割合が高い。



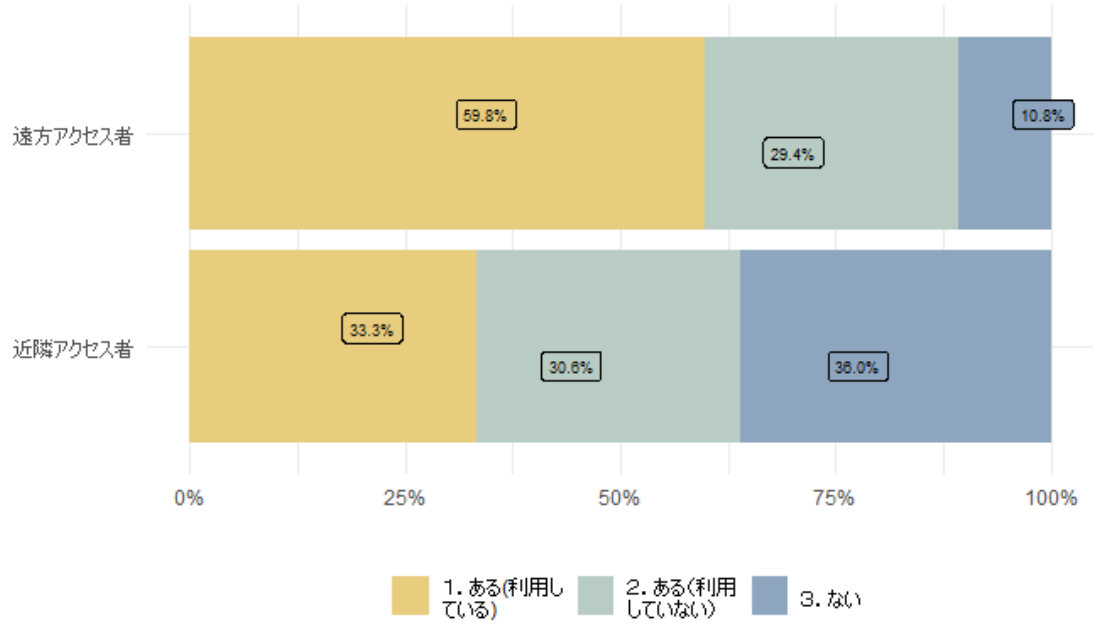
（3）農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

北海道については、いずれの農業地域類型においても他に利用できる施設がない割合が高い。



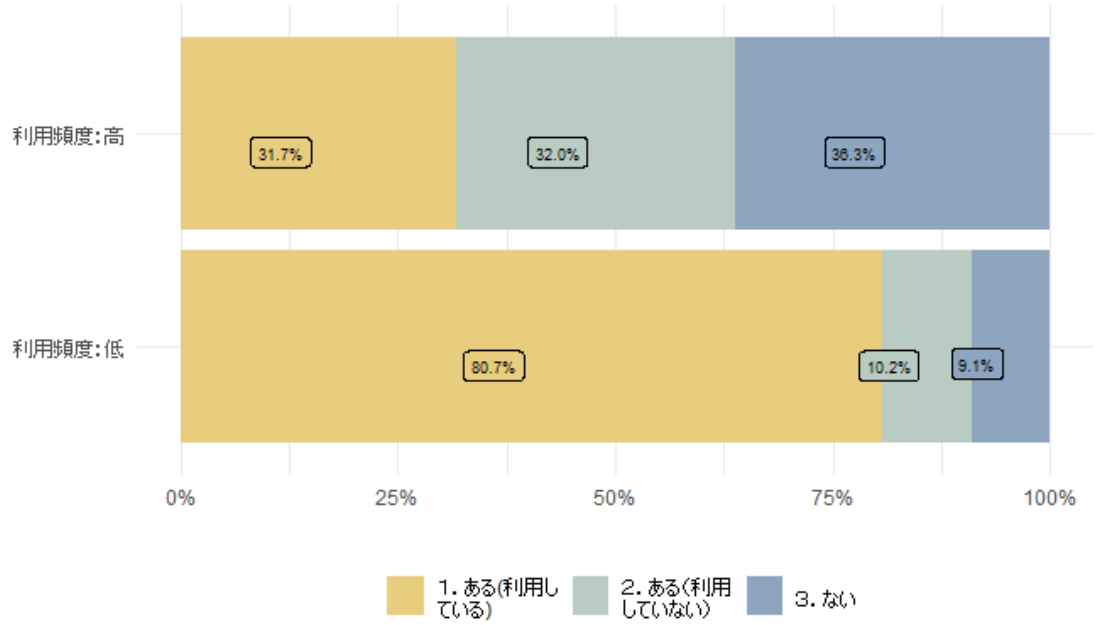
（4）アクセス状況別

遠方アクセス者の方が他の施設を利用する割合が高い。



（5）利用頻度別

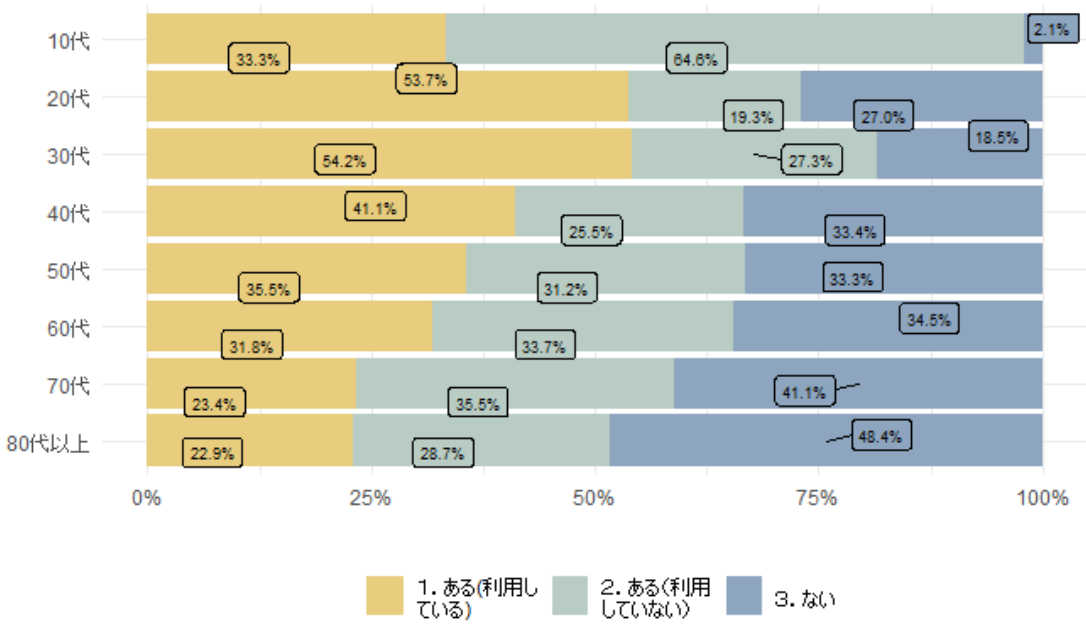
利用頻度が高い人の方が他の店がないと回答している割合が若干高い。



（6）年齢層別

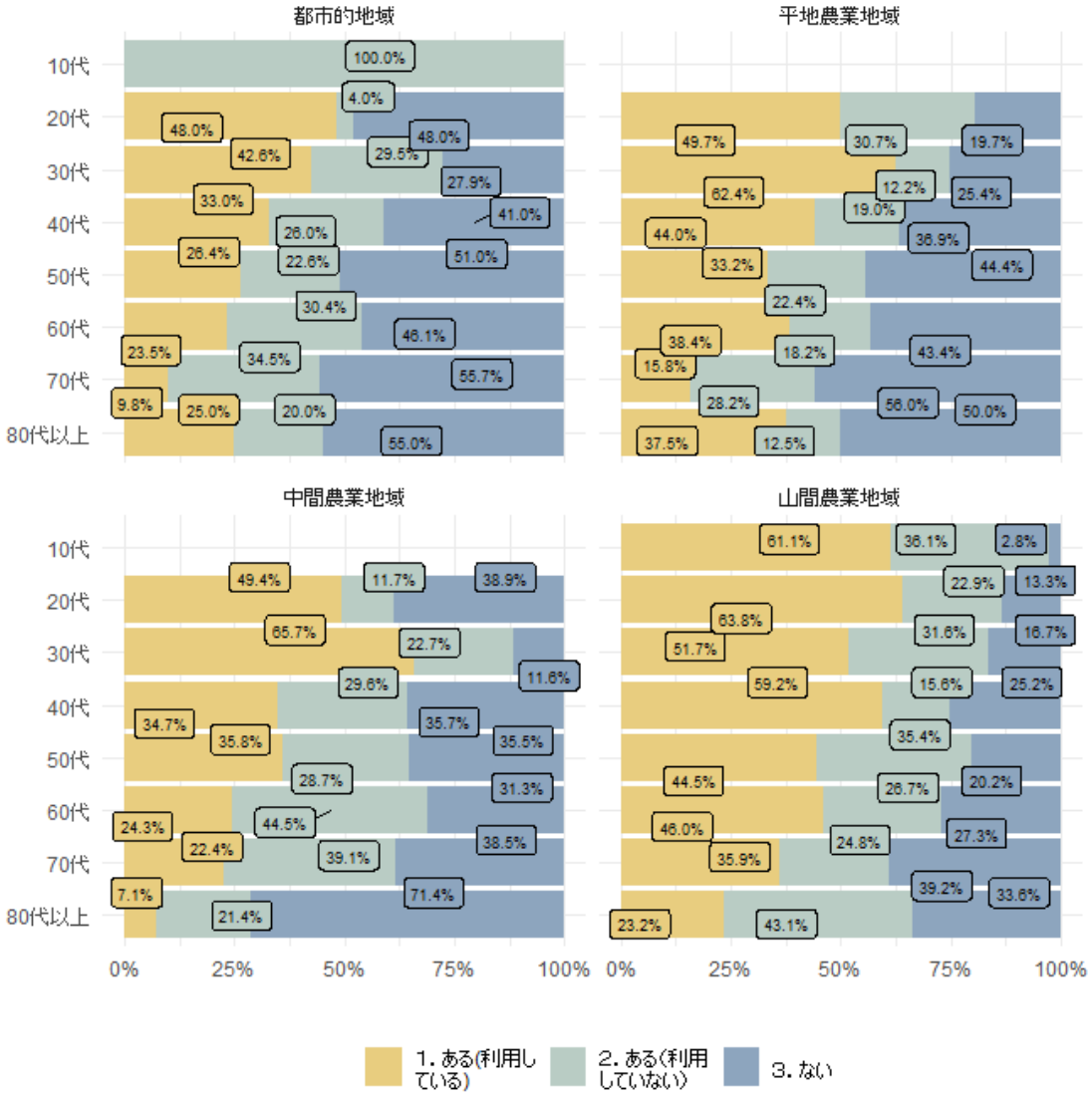
①全体

年齢が高くなるにつれ、他の施設がないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

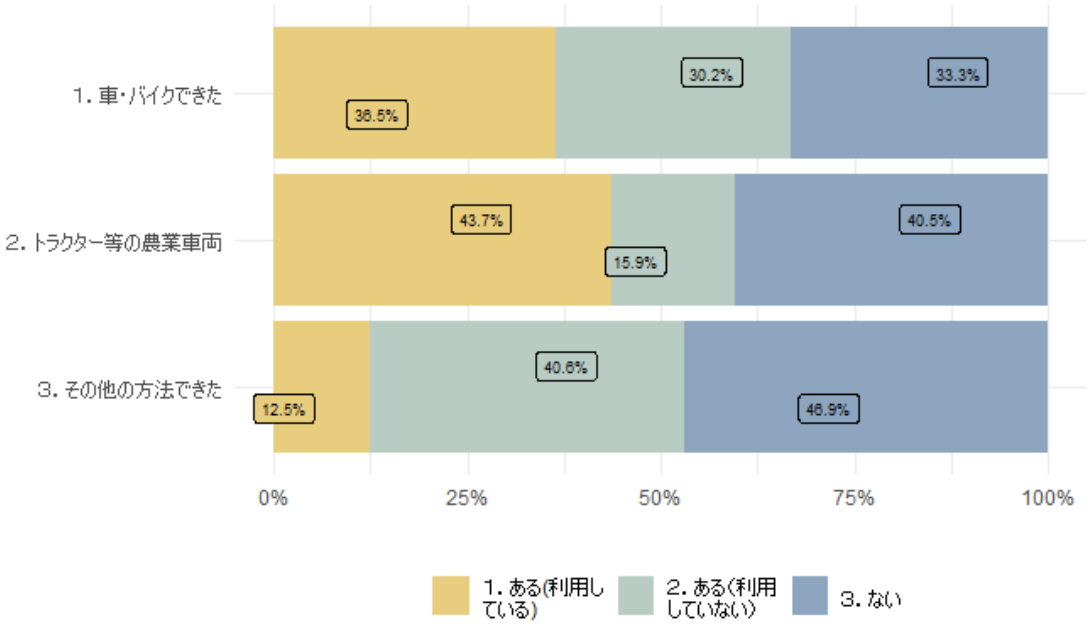
平地農業地域以外は、全体として、年齢が高くなるにつれ、他の施設がないと回答する割合が高くなる。



（7）移動手段別

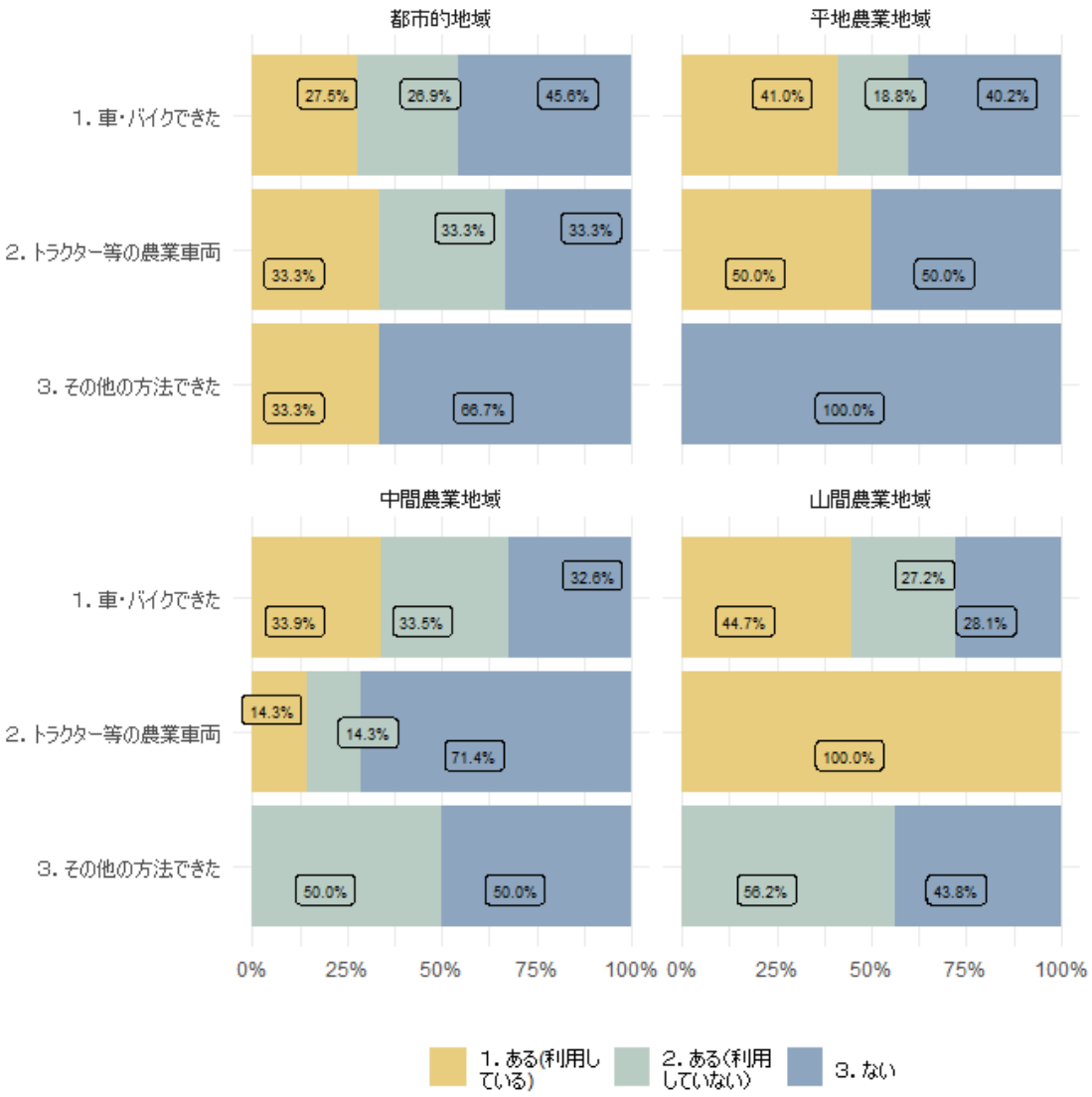
①全体

移動手段が、その他（主に公共交通機関）であるほうが、他の施設を利用しないと回答する割合が高くなっている。



②農業地域類型別

「その他の方法できた」という回答は少ないため、若干結果はばらついている。



6. まとめ

（1）今後の利用意向

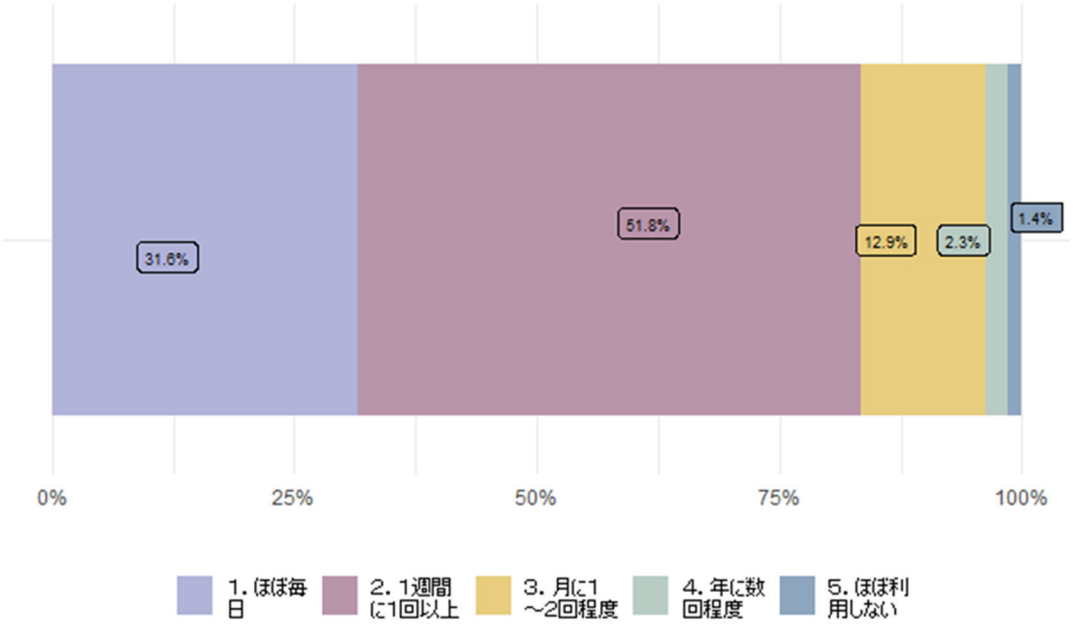
令和元年、令和２年度と農協関連施設のアクセス状況についてアンケート調査に基づく調査を実施した。まず、今後の利用意向については、食品・日用品小売りサービス、金融サービス、ガソリン小売りサービスともに、９割近くが利用したいと回答しており、今後とも地域のインフラとして期待が高いことがわかる。

（2）インフラサービスの利用状況

①食料品･日用品小売りサービス

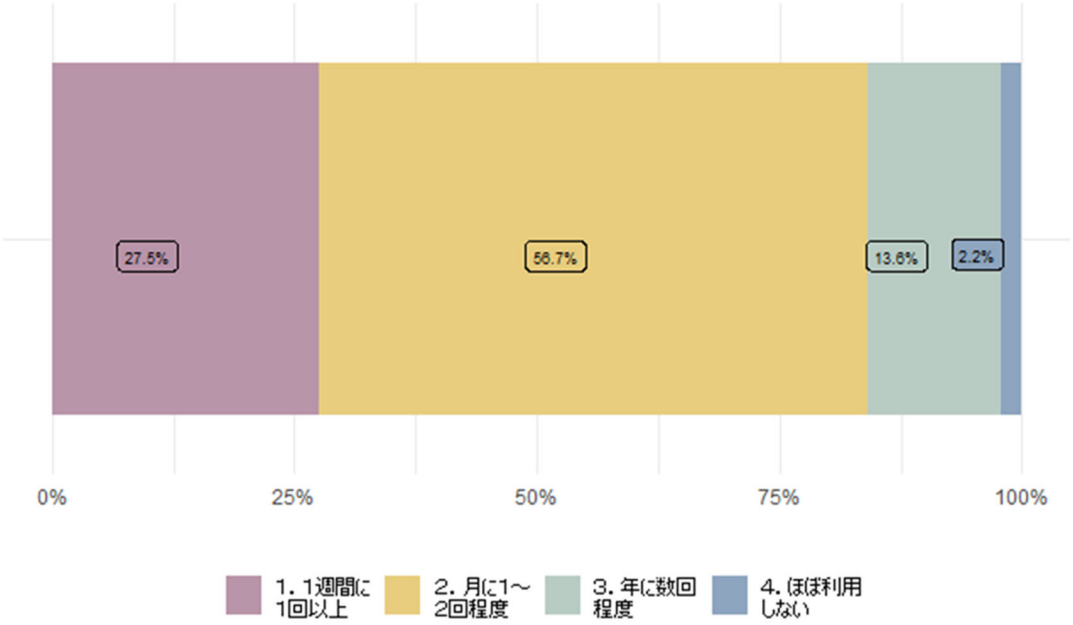
下図は、食料品・日用品小売りサービスの利用頻度を再掲したものであり、週に１回以上利用するとの回答が８割以上を占めている。一般的な食品スーパーマーケットの利用頻度については、いくつかの調査がある。例えば『2021 年度版スーパーマーケット白書』（全国スーパーマーケット協会）では、2020 年１月と 2021 年１月の調査結果が掲載されている。ここで、スーパーマーケットを利用している消費者のうち週に１回以上利用する割合は、2020 年１月で 86%、2021 年１月で 82%とされている（それぞれ「利用しない」との回答を除いた割合）。また、『平成 30 年度 農林水産情報交流ネットワーク事業全国調査買い物と食事に関する意識・意向調査』（農林水産省）では、食料品スーパーマーケットの利用頻度が１週間に１回以上と回答した割合が 96.5%となっている。

これらの調査はいずれもモニターに対する調査であり、店頭でのアンケート調査である本調査と単純に比較することはできないが、値としては概ね同水準であると考えられる。



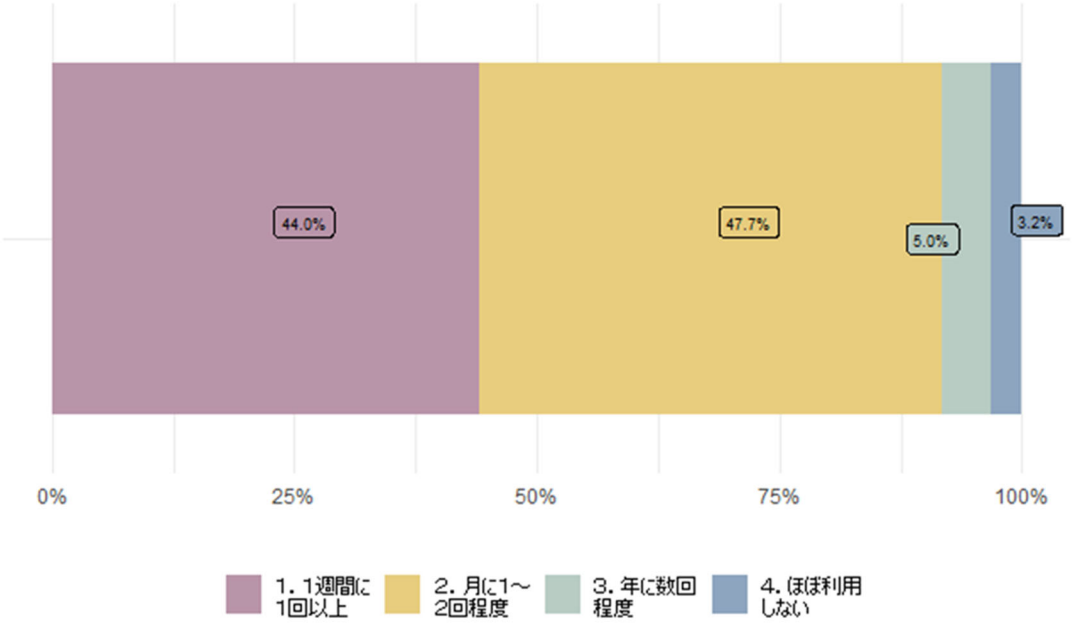
②金融サービス

下図は、金融サービスの利用頻度を再掲したものである。一般的な金融サービスの利用頻度については、『よりよい銀行づくりのためのアンケート（2019 年 2 月）』を参照することができる。本調査によると月に 1 回以上銀行窓口を利用する割合は 27.5%、銀行内 ATM で 63.8%となっている。今回の調査は窓口利用者と ATM 利用者が混在しているが、銀行内 ATM よりも高い値となっており、利用頻度が高いことがわかる。



③ガソリン小売りサービス

下図は、ガソリン小売りサービスにおける利用頻度を示したものである。マイボイスコム株式会社の調査によるとガソリンスタンドを月に 1 度以上利用する割合は 56.9%であった。ただし、本調査についてもインターネットによる調査であり、店頭での調査ではない。また、対象には免許や車を所有していない人まで含まれている。逆に対象を車の免許保有かつ普段ガソリンスタンドを 3 ヶ月に 1 回以上利用する人に絞ったアンケート調査もあり（株式会社アスマーク『ガソリンスタンドに関するアンケート調査』（2006））、その調査では月に 1 度以上利用する割合は 96.3%となっていた。



（3）遠方からのアクセス状況

下表は、食品・日用品小売りサービス、金融サービス、ガソリン小売りサービスについて、遠方アクセス者の割合を算定したものである。ここで、遠方アクセス者とは、徒歩で15分以上、車で20分以上の場所から来訪している割合である。全体的に割合が高いのが食品・日用品小売りサービスである。

都道府県	市町村	食品・日用品	金融	ガソリン
北海道	岩見沢市	13.6%	8%	4%
北海道	帯広市	9.1%	5.9%	2%
北海道	当麻町	8.9%	1.9%	7.7%
北海道	北見市	7.5%	12.2%	43.3%
山形県	鶴岡市	7.7%	0%	2.9%
福島県	福島市	4%	6%	10%
群馬県	嬬恋村	12%	6%	10%
茨城県	城里町	14.5%	3.6%	3.3%
新潟県	魚沼市	6%	0%	8%
石川県	小松市	4.7%	6.2%	0%
長野県	南牧村	14%	2.9%	16%
愛知県	豊橋市	0%	5.5%	7.5%
愛媛県	伊予市	12.7%	14.3%	6%
三重県	南伊勢町	11.1%	7%	11.5%
兵庫県	姫路市	5%	2.4%	1.7%
鳥取県	米子市	12.5%	6.8%	20%
島根県	美郷町	22%	5.6%	0%
広島県	安芸高田市	14%	4%	10%
高知県	香美市	15.4%	11.3%	12%
長崎県	新上五島町	18.8%	0%	16.2%
宮崎県	延岡市	5.9%	7.8%	12%
宮城県	亘理町	23.3%	6%	10%
鹿児島県	霧島市	18.6%	4%	9.8%
沖縄県	南城市	9.6%	12%	5.6%

（4） 他のインフラの利用可能性

一方で、これらのインフラ以外に利用できるインフラがあるかどうか、という点から見ると、食品・日用品サービスで 13%、金融サービスで 8%、ガソリン小売りサービスで 34%が「ない」と回答している。ガソリン小売りサービスでは「ない」と回答した割合は、都市的地域の方が高かったが、中山間地域においては、中心地区（食品・日用品小売りサービス、金融サービス、ガソリン小売りサービスが同じ旧市町村内に存在する地区）よりも、非中心地区（食品・日用品小売りサービス、金融サービス、ガソリン小売りサービスがそれぞれ別の旧市町村内に存在する地区）の方が、「ない」と回答した割合が高かった。中山間地域でもこれらの地域ではよりインフラサービスが脆弱になっていると思われる。実際にこれらの地区でアンケートをした際も、20km 走れば利用できるガソリンスタンドはあると言っていた回答者もいた。

今回の調査は、インフラサービスの利用者に対して実施したものである。従って、遠いところから来ている人は訪問の頻度が低く、調査対象となる確率が低くなっている可能性が高い（例えば、週に 1 回訪問する人は、週に 7 回訪問する人に比べて、調査対象となる確率が 1/7 となる）。これは拠点ベースで調査する際の限界であり、アクセスの状況について把握するためには、居住地ベースの調査についてもあわせて行うことが望ましい。